通信教育実施計画

3DAY スタイル・5DAY スタイル

※キャンパスごとに開講科目が異なります。詳細は各キャンパスにお問い合わせください。

学校法人 三幸学園
飛鳥未来高等学校

《通信教育実施計画》

科目名	現代の国語	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を用いて、実社会における国語によるあらゆる活動に必要な資質・能力を身につけることを目標とする。言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、日本の言語文化に関する事項を話す・聞く、書く、読むといった言語活動を通して学ぶ。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1．実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2．論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3．言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編現代の国語」（現国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Google Classroomで共有する。	–	–	–
	2	1	5	こそそめスープ	6～11	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	・漢字の読み書き、語句・語彙の意味を調べる際の辞書の活用方法を確認する。 ・指示語の役割・読み取り方について確認する。（レポート第1回目一〔三〕） ・自分の体験について、Google Classroom　にて共有してもよい。（レポート第1回目四〔一〕）	○	○	◎
	3			ルリボシカミキリの青	12～17	・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	・Google Classroomにて共有してもよい。（レポート第1回目四〔二〕〔三〕）	○	○	◎
	4	—	—	気になるニュースについて話そう	18	・情報を整理し、内容や構成に注意して話す。	・予めニュースの選定などを課題としてもよい。 ・適宜デジタルコンテンツ(以下、デジタルコンテンツとはDマイスターを指す）を利用するとよい。 ・「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。（Googleフォームの活用も可）	○	◎	○
	5					・情報を整理し、まとめた内容を共有する。		○	○	◎
	6	2	6	・未来をつくる創造力 ・メディアとの付き合い方	24～32	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	・メディアの受信者として気を付けていることについて意見交換する。（Google Classroomの活用も可）	○	◎	○
	7					・さまざまなメディアの特長を知り、受信者としても送信者としても適切な判断のもと、使い分ける。		○	◎	○
	8			・水の東西 ・評論の読み方 ・文章の要旨をまとめてみよう	33～43	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	・鹿おどしや日本文化についてなどインターネットを活用し、調べる活動を行い、MetaMojiやワークシート等にまとめる。 ・まとめた内容を授業内で共有したり、調べて感じたことを全体に向けて発表する機会を設ける。	○	◎	○
	9					・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・要旨をまとめ、文章の要点を把握する。		○	◎	○
	10	3	7	スキマが育む都市の緑と生命のつながり	68～77	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	・接続語の役割、読み取り方について確認する。	○	◎	○
	11			無彩の色	78～86	・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	・Google Classroomにて共有してもよい。（レポート第3回目四）	○	◎	○
	12	—	—	集めた情報の内容を検討して意見文を書こう	44～49	・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・要旨をまとめ、文章の要点を把握する。	・適宜デジタルコンテンツを利用するとよい。 ・完成した意見文をGoogle Classroomを活用し共有し、互いの意見文を読み合い、文章構成や表現の仕方について意見交換を図る。 ・「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。（Googleフォームの活用も可）	◎	○	○
	13					・集めた情報の内容について、意見文に必要な情報を詳しく検討し、精査する。 ・集めた情報と自分の意見をメモにまとめる。		○	◎	○
	14					・文章の構成を考え、序論・本論・結論の三段型などで構成メモを作る。 ・「読みやすい文章表現のポイント」に留意して、分かりやすい文章表現を心がける。		○	◎	○
	15					・書いた文章を読み返して、「推敲の観点」をもとに推敲をする。 ・推敲した文章を清書する。班の中で互いの意見文を読み合い、文章構成や表現の仕方について意見交流を図る。		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	鍋洗いの日々	94～99	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	・レポート第4回目四〔一〕〔二〕を題材に意見交換を行う。（Google Classroomの活用も可）	○	◎	○
	17			森で染める人	100～109	・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。	・筆者の思いを踏まえたうえで、仕事や生活に対する姿勢について、考えたことを発表する。発表はGoogle ClassroomやMetaMoJiを利用した発表でも良い。	○	◎	○
	18					・筆者の思いを踏まえたうえで、仕事や生活に対する姿勢について、考えたことを発表する。		○	○	◎
	19			・真夏のひしこ漁 ・働くとは？	110～122	・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。 ・読書を通じて将来の職業や働き方を考える。	・働くことの意義や仕事のやりがいについて自分の言葉で表現する。（レポート第4回目四活用）	○	○	◎
	20	5	11	美しさの発見	142～149	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	・季語・季節の知識について確認する。（レポート第5回目一〔一〕）	○	◎	○
	21					・「同じ一つの心の働き」について考え、「『美しさ』を知る」ために必要なことを話し合う。		○	○	◎
	22			りんごのほっぺ	150～158	・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	・戦時下の人々の状況について理解を深めるため、調べてまとめるとよい。（Google Classroomの活用も可）	○	◎	○
	23	6	12	・不思議な拍手 ・推論の仕方	166～178	・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。	・推論には「演繹」と「推測」があり、その違いについてまとめる。例題を作成するなど、推論方法を実践・共有できるとよい。（Google Classroomの活用も可）	◎	○	○
	24					・推論の仕方を理解し、日常で使えるようになる。		○	◎	○
	25			真の自立とは	179～187	・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	・学習内容をふまえ、「自立」について他者と話し合いをしたうえで、自分の考えをまとめてもよい。（レポート第6回目四〔三〕）	○	◎	○
	26	—	—	読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	159～165	・「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。 ・「自分の学校」について情報を集めて紹介文を書いた例を参考に、学習の進め方を理解する。 ・「課題」から一つを選び、紹介する対象を決める。 ・紹介する対象について、集めたい情報を書き出したうえ、情報の収集方法を考える。	・適宜デジタルコンテンツを利用するとよい。 ・情報収集において、インターネットの活用を行ってもよい。情報の選び方・取り扱いに注意する。出典記入についても指導する。 ・書いた文章は数人で読み合い、意見交換を行う。その際、「評価表の項目の例」を参考に評価表を作り、良い点や改善点を助言し合うようにする。 ・「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。（Google Classroomの活用も可）	◎	○	○
	27					・資料を調べ、情報を収集する。 ・集めた情報を取捨選択し、紹介文に使用する情報を選び出す。		○	◎	○
	28					・文章の構成を考え、序論・本論・結論の三段型などで構成メモを作る。 ・構成に沿って、紹介文を書く。		○	◎	○
	29					・書いた文章を、数人で互いに読み合い、意見交換を行う。良い点や改善点を助言し合う。		○	◎	○
	30					・読み手の助言をもとに、文章を推敲し、清書する。		○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	言語文化	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	昔から近現代に受け継がれてきたわが国の言語文化への理解を深めることを目標とする。古典だけでなく、日本の伝統と文化や古典に関する近代以降の文章などを扱い、日本の言語文化への理解を深めていく。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編言語文化」（言文701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
学期	週						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	―	―	オリエンテーション（学習の進め方）	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	―	―	―
	2	1	5	読む さくらさくらさくら 言語活動 「花」といえば「桜」？	10～17	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	◎	○	○
	3					・日本の伝統的な表現を知る。	◎	○	○
	4			読む とんかつ	24～35	・小説を読む楽しさや意義について理解する。	◎	○	○
	5					・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	◎	○	○
	6	2	6	読む 柳あをめる【短歌】	50～53	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。	◎	○	○
	7			読む 雪の深さを【俳句】	54～57	・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	◎	○	○
	8			読む 冬が来た 言語活動 歌詞の意味や表現技法について考えよう 詩の読み方	58～59 66～70	・比喩とリフレーンの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。	◎	○	○
	9					・日頃耳にする歌謡曲の歌詞にも見られる表現技法について知り、散文への理解を深める。	○	○	◎
	10	3	7	読む 羅生門	72～92	・小説の叙述に即して各場面における人物の心情を読み取り、その推移を追う。	○	◎	○
	11					・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	○	◎	○
	12					・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分なりの考えをもつ。	○	◎	○
	13			読む 夢十夜	94～106	・多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。	○	◎	○
	14					・一つ一つの言葉に注意を払い、作品世界をイメージしながら通読する。	○	◎	○
	15					・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
学期	週						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	古文に親しむ 古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い	118～121	・それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。 ・歴史的仮名遣いについて理解し、歴史的仮名遣いで書かれた文章を読むことができる。	◎	○	○
	17			古文学習のしるべ2 古語を調べるために 古文学習のしるべ3 用言の活用／係り結び／仮定条件と確定条件	128～129 134～136	・文語の品詞について理解し、文節ごとに区切り品詞を教科書を見ながら識別ができる。古語辞典を引くことができる。 ・文語の活用について理解し、品詞・活用の種類を教科書を見ながら識別ができる。	◎	○	○
	18			徒然草 枕草子	138～145 146～147	・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	◎	○	○
	19			折々のうた	154～168	・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	◎	○	○
	20	―	―	古文学習のしるべ4 助動詞 古文学習のしるべ5 和歌	150～152 154～168	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	◎	○	○
	21	5	11	伊勢物語	170～177	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。	◎	○	○
	22			平家物語 古文学習のしるべ6 敬語	179～188	・軍記物語特有の表現に注意しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。	◎	○	○
	23			奥の細道	190～195	・構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	◎	○	○
	24	6	12	読む 訓読の基本 言語活動 漢字の読みと意味―漢和辞典を活用しよう	210～219	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。	◎	○	○
	25					・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。	◎	○	○
	26			読む 故事成語―三編〔言語〕 漢文の窓1 名前の表し方	220～226	・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	◎	○	○
	27					・漢文中に登場するさまざまな「名前」について理解する。	◎	○	○
	28			読む 絶句と律詩―七首 【春望】	228～233	・漢詩の詩形ときまりを理解し、漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。	◎	○	○
	29			読む 論語―八章	238～246	・孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。	◎	○	○
	30					・論語の注釈を読んで自分の考えをまとめ、伝え合う。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	文学国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし，主として「思考力，判断力，表現力等」の感性・情緒の側面の力を伸ばす科目として，深く共感したり豊かに想像したりして，書いたり読んだりする資質・能力を養う。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。						
	1　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2　深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「文学国語」（文国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	ー	ー	オリエンテーション（学習の進め方）	ー	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方や使用ツールを確認する。	・Google classroom及びMetaMoJiへの入室（招待）を実施し、学習内容・目標・進め方をまとめた資料を確認させる。	ー	ー	ー
	1	1	5	光の窓	8～14	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・「光の窓」というタイトルがついた意味を考える。 ・大人になって実物の絵を見たとき、印象が変わった理由を本文から読み取り、考える。	・実際にタブレットやPCで調べさせて、それぞれMetaMoJiにまとめさせても良い。また、なぜ好んでいたかという理由を考えさせる際には「子ども向けに書かれていた本」の特徴を挙げさせ、比較して検討させても良い。	○	◎	○
	2					・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・筆者の絵の見方について、幼年期と大人になってからでは、どのように変わったかを読み取り、理解する。 ・自分の好きな絵を選び、その絵の魅力を自分自身の感覚と関連付けながら他者に向けて発表する。	・幼年期と大人で見方が変化したことが分かるように教科書に色を分けて線引きしたり、Google classroomにワークシートなどを共有してグループ毎に役割分担をして考えさせても良い。 ・グループでの共有かクラス全体での共有を行う。紹介文を作成してClassroomで共有することも可。	○	○	◎
				雨月物語	15～18	・筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。 ・『怪談』や『雨月物語』がどのような作品か確認し、筆者がなぜ好んで読んでいたか理由を考え、理解する。	・実際にタブレットやPCで調べさせて、それぞれMetaMoJiにまとめさせても良い。また、なぜ好んでいたかという理由を考えさせる際には「子ども向けに書かれていた本」の特徴を挙げさせ、比較して検討させても良い。	◎	○	○
	3					・筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。 ・筆者がどのようなことを「これ以上ない希望だった」と述べているか、読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかをMetaMoJiにまとめさせ、発表させ合っても良い。 ・自分の考えをまとめる際はMetaMoJiを使用して、全体共有しやすいように準備させる。	◎	○	○
	4	2	5	窓	34～38	・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・「短編小説」の語る内容と「僕」との関係を考え、読み取る。 ・「ね、人は誰でもページ数を知りようのない、一編の小説なんですよ。」とはどのようなことを表しているか読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合っても良い。	○	◎	○
						・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・窓から外の風景を見ている「僕」の心情を読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合っても良い。	○	◎	○
						・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・自分自身の記憶の風景を思い出し、文章を書く。	・レポートで出題されているが、それぞれの文章をGoogleClassroomやMetamoJiで共有することも可。	○	○	◎
	5			言葉を生きる	44～49	・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取る。 ・悲しむことへの「励まし」を筆者はどのように考えているかを読み取る。	・筆者の考えが書かれいている箇所を教科書に線引きしたり、Google classroomにワークシートなどを共有してグループ毎に役割分担をして考えさせても良い。	○	◎	○
						・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・「悲しみの経験」について筆者の捉え方を理解し、グループで話し合う。	・ただの共有とならないよう事前に筆者の「悲しみ」の捉え方・「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めた上で臨ませる。	○	○	◎
	6	3	6	山椒魚	58～70	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・山椒魚の状況や岩屋の内外の動植物の様子についてまとめ、それぞれに対する山椒魚の気持ちを整理する。	・GoogleスライドやMetamoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。 ・事前にあらすじをまとめたものをGoogle Classroomへ挙げ、活用しても良い。	○	◎	○
						・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・この作品に込められた寓意について考え、理解する。	・作品に込められた寓意をグループや隣同士で話合わせて、MetaMoJiに資料としてまとめさせ、発表させても良い。（最後に教員から一般的な見解を必ず示す）	○	◎	○
	7			沖縄の手記から	71～91	・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。 ・本文を通読し、あらすじを整理するとともに、語句の意味、漢字の読みを確認する。 ・太平洋戦争、殊に沖縄戦に関する知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。	・Googleスライド、MetaMoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に向けて共有できるように工夫する。	◎	○	○
						・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。 ・感想共有をし、議論を深める。 ・主題について話し合いを行い、考えを深める。	・感想共有はClassroomに打ち込ませ共有しても良いが、クラスの状況、生徒の状況によっては Google formを活用し、匿名での感想共有でも構わない。 ・グループでの共有かクラス全体での意見交換を行い、教員がファシリテーターを担う。	○	○	◎
	8	4	6	永訣の朝	98～103	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・表現やリズムに留意して、情景や心情を味わいながら音読する。	・Googleスライド、MetaMoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。 ・音読して詩のリズム・表現・仮名遣いを確認する。	◎	○	○
						・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら全体を四つに分ける。 ・作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考える。 ・妹の置かれた状態を表す比喩などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめる。	・筆者の考えが書かれている箇所を教科書に線引きしたり、Google classroomにワークシートなどを共有してグループ毎に役割分担をして考えさせても良い。 ・まとめる際の資料はGoogleスライドやMetamoJiを利用して、全体共有しやすいように準備させる。	○	◎	○
	9			「硝子の駒」	104～107	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ・レポートに出題されている短歌を一首ずつ、それぞれの歌の表現に着目し、リズムを味わいながら音読する。 ・それぞれの歌について、どのような情景や心情を読み取ったか各自でまとめ、グループで話し合う。	・短歌の基本的な構成を確認した後、実際に声に出して音読する。理解を深めるためにClassroomに事前に作者や時代背景についてまとめた資料を挙げておくのも良い。 ・句切れを確認し、その後再度句切れに注意をしながら再度音読をさせる。 ・まとめる際は事前に資料をMetamoJiにあげ、それぞれの個人の意見をまとめさせ、グループ討論の際はそれを活用する。	○	○	◎
				モードの変遷	108～113	・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。 ・本文中に取り上げられている短歌とそれらが詠まれた「時代性」の関係に注意しながら本文を通読する。 ・筆者が、近代以降に関して、短歌のモードはどのような変化をしてきたと捉えているかを読み取る。	・に関しては読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合っても良い。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	10	5	7	こころ	116～148	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・「こころ」についての概説と、本教材に至るあらすじを読み、登場人物の関係を理解する。	・GoogleスライドやMetamoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。 ・事前にあらすじ・登場人物の関係について分かる資料を作成し、Classroomにアップしても良い。	◎	○	○
						・本文を通読し、登場人物の言動（「私」から見たKの性格、「私」の性格など）を挙げる。 ・本文を話の展開にしたがって、五つの意味段落に分け、それぞれの内容を大まかに把握することを目標に、簡潔に要約する。	・本文を通読する際、語句の意味、漢字の読みを適宜確認しながら進める。 ・要約した上でさらに小見出しを各自に考えさせ、共有するのも良い。 (MetaMoJi推奨)	◎	○	○
	11					・Kの「覚悟」を「私」はどう解釈したのか、「私」が「最後の決断」に至る経緯について考える。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。	・登場人物の性格、言動と関連させて考えさせる。	○	◎	○
						・この小説の主題（例えばエゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。	・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておく。 ・短い時間の中でも作品の大枠をつかめるような教材があると良い。	○	○	◎
	12	6	7	文学のふるさと	150～160	・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・具体例の三作品とそこから導かれている筆者の考えに注意しながら本文を通読する。 ・具体例の三作品（赤頭巾、狂言、伊勢物語）とそこから導かれている筆者の考えを読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。 ・具体例の三作品についてさらに理解を深めさせるために、調べ学習などを追加しても良い。	◎	○	○
				文学の未来	161～170	・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。 ・四つの意味段落で述べられている筆者の考えを、事柄の関係性に注意しながら押さえ、本文を通読する。 ・文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の考える、文学作品を読むことについての意義についてまとめる。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。 ・まとめる際は事前に資料をMetamoJiにあげ、それぞれの個人の意見をまとめさせ、必要に応じてグループ討論に活用する。	◎	○	○
	13			鞄	172～179	・寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・話の展開と雰のせりふかに注意しながら、本文を通読する。 ・教科書の作者紹介などを参考に、作者について確認する。必要に応じてさらに調べ、確認する。	・教科書に色を分けて線引きしたり、Google classroomにワークシートなどを共有してグループ毎に役割分担をして考えさせても良い。 ・GoogleスライドやMetamoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。	◎	○	○
						・寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・この小説の舞台設定を確認し、青年の行動に対する「私」の印象を読み取る。 ・鞄の象徴するものを手がかりに、作品の主題について考える。	・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 ・話し合い後はクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	14	―	―	【言語活動】 共同で詩を創作する	114	・共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。 ・本文を読み、活動の進め方を確認し、グループで詩を創作する。	・教員側からテーマの指定があると作りやすいが、本来は指定が無いため、テーマの指定はしなくても良い。 ・感想共有は発言でなくとも、Google formなど（匿名）で解答させ、Classroomに残す形でも共有も可。	○	◎	○
						・新たに出来た詩を発表する。 ・他のグループの詩について、よいところや工夫されているところを伝え合う。		○	◎	○
	15					・作り手として楽しかった点や苦労した点について感想を伝え合う。 ・再度、新たなグループで詩を創作する。		○	◎	○
						・新たに出来た詩を発表する。 ・他のグループの詩について、よいところや工夫されているところを伝え合う。 ・二回の活動を通して，自分が詩のどのような要素に価値を感じているかを考え，まとめる。		○	○	◎
	16	7	10	国語から旅立って	190～198	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わりに注意しながら、本文を通読する。 ・筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように捉えているかを読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合っても良い。	○	◎	○
						・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・筆者が「国語から旅立って」というタイトルを付けた理由を考えまとめる。 ・筆者の主張を踏まえ、言葉と自分との関係について、自分自身を振り返りながら考えをまとめる。	・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 話し合い後はクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。 ・MetaMoJiなどを活用して、即座に全体共有ができるように工夫する。	○	○	◎
	17			棒線	206～216	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「棒線」の持つ意味について考える。 ・作者の経歴やその他の作品について概略を知る。 ・本文を通読し、「えたいの知れない不吉な塊」によってもたらされた「私」の心理状態を捉える。	・GoogleスライドやMetaMoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。	◎	○	○
						・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「棒線」の持つ意味について考える。 ・棒線を買ってからの「私」の心情を理解する。 ・作中の棒線の役割（の変化）を捉える。	・筆者の考えが書かれいている箇所を教科書に線引きしたり、Google classroomにワークシートなどを共有してグループ毎に役割分担をして考えさせても良い。	○	◎	○
	18	8	10	コンビニの母	217～222	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・和也の言動と心情に注意しながら、本文を通読する。 ・福平さんが、和也の考えるコンビニ店員と違ったところはどこか読み取る。 ・福平さんと和也が最初に接したとき、福平さんがどのような態度をしていて、和也はそれについてどう感じたか読み取る。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。 ・生徒自身の考えるコンビニ店員像とも照らし合わせながら考えても良い。	○	◎	○
						・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・筆者が「コンビニの母」というタイトルを付けた理由を考え、まとめる。 ・年齢や立場の違うさまざまな状況にある人々を想定し、「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めるか考えをまとめ、グループで話し合う。	・まとめる際はMetamoJiを使用し、必要に応じて、グループ討論などに活用する。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 ・話し合い後はクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	19			小諸なる古城のほとり	230～231	・文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・文語の響きや五七調のリズムに注意しながら音読し、この詩の形式や表現の特徴をまとめる。 ・作者の経歴と、この詩が発表された時代を確認する。 ・この詩の各連に描かれている情景を読み取り、どのような情景かを思い浮かべる。	・実際に声に出して音読をする。教員の判読の場合は、五七調のリズムに注意をして判読する。 ・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておく。 ・短い時間の中でも語句の意味を調べさせる。	◎	○	○
						・文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・第一連の「雲白く遊子悲しむ」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。 ・第三連の「意枕しばし慰む」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。 ・この詩において、用いられている否定表現を全て指摘し、否定表現を使うことでどのような表現効果が生まれているかについて考えをまとめる。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。 ・まとめる際はMetamoJiを使用し、必要に応じて、グループ討論などに活用する。	○	◎	○
	20	9	11	空っぽの瓶	248～254	・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・日本語の一人称、二人称、三人称をできるだけ挙げる。英語の人称もできるだけ挙げ、言語によって特徴があることを理解する。 ・一人称についての筆者の考えに注目しながら、本文を通読する。 ・筆者が子供の頃、日本語の人称を使わないようにしていた理由を読み取る。	・必要に応じて追加で別の言語の人称なども調べさせても良い。 ・読み取ってほしい内容を投げかけた上で本文を実際に通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。	◎	○	○
						・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取る。 ・「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」という表現で、筆者は何をたとえているか、また、筆者がそう感じるのはなぜかを読み取り、まとめる。 ・人称について筆者の考えをもとに、言葉と存在の関わりについて、自分の考えをまとめる。	・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。 ・まとめる際はClassroom、MetaMoJiを使用し、共有することも可。	○	◎	○
	21			クレールという女	255～264	・長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・過去に読んだ書物で現在も印象に残っているものを挙げ、その理由を考える。 ・本文を通読し、『人間のしるし』のあらすじと登場人物の関係をまとめる。	・通読する前に生徒自身の読書体験について振り返らせる。 ・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておいても良い。	○	◎	○
						・長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方とその変化をまとめる。 ・筆者の『人間のしるし』についての考えから、人間の生き方について自分の考えをまとめる。	・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておく。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 ・話し合い後はクラス全体での共有を行う。ClassroomやMetaMoJiで共有することも可。	○	○	◎
	22	10	11	舞姫	292～327	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。 ・作者や作品が発表された時代について確認する。	・GoogleスライドやMetamoJiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。 ・本文通読には相当時間がかかる為、第一時から始め、第二時まで時間をかけて通読する。 ・適宜、難しい語句に関しては調べたり、語句の意味を共有しながら進めていく。事前に解説をまとめてClassroomにアップしておいても良い。 ・事前にあらすじ・登場人物の関係について分かる資料を作成し、Classroomにアップしても良い。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。	◎	○	○
						・場面に沿って出来事を確認しながら本文を通読する。		◎	○	○
	23					・小説の中心となるのが豊太郎の心情であることを確認した上でそれぞれの主な出来事や作品の概要を大まかにつかむ。 ・豊太郎が、欧米の先進国から学ぶため、東洋の発展途上国であった日本より派遣された国費留学の官費であるという点から、作品全体を把握する。		○	◎	○
						・太田豊太郎の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	24	11	12	演技する「私」	330～334	・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・取り上げられている作品や作者の例から筆者が導いていることに注意しながら、本文を通読する。 ・取り上げられている作品と作者について、確認する。 ・筆者は、小説表現の面白さをより深く味わうために、どうすることを提案しているか読み取る。 ・「小説」と「事実」の関係について、筆者はどのように捉え、小説とはどのようなものだと述べているか読み取る。 ・本文の内容を踏まえて、これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて「『私』と「作者その人」の関係を考え、文章にまとめる。	・確認した上でさらに時間があれば、実際にタブレットやPCで深く調べさせて、それぞれClassroomやMetaMojiでまとめさせても良い。 ・読み取ってほしい内容を投げかけた上で重要箇所を改めて通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。 ・まとめる際はClassroomやMetaMoji、Googleスライドを活用し、即座に全体共有できるようにすると良い。	◎	○	○
	25							○	◎	○
								○	○	◎
	25	12	12	葉桜と魔笛	348～361	・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・太宰治の作品で既読のものがあれば発表するとともに、作者紹介欄を読み、作者とこの作品について確認する。 ・全文を通読し、三つの段に分けられる構成の大枠を把握する。 ・登場人物を確認し、まとめる。	・必要に応じて、作者・作品についてさらに追加で調べ、確認しても良い。	◎	○	○
	26					・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・第一段により作品の全体の語りの場が設定されていることを意識するとともに、第二段におけるく回想>部分の前提となる「時」「場所」「人」の状況がどのようなものであるかを確認する。 ・第二段を読んで七つの節に分けたうえで、回想される出来事の時間的経過に注意しながら内容を整理する。	・前時の振り返りとして事前にあらすじをまとめたものをClassroomへ挙げ、活用しても良い。 ・読み取ってほしい内容を投げかけた上で読み取る上での重要箇所を改めて通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。	○	◎	○
						・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・登場人物である「私」、妹、父の三者が、「魔笛」を巡ってそれぞどのような思いを抱いたかについて考える。 ・「葉桜と魔笛」という題名について検討し、感じたことを話し合う。	・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておく。 ・まずは一人ひとりの考えをMetaMojiにまとめさせる。まとめた資料を全体で共有し、それぞれの考え方について話し合う。	○	○	◎
	27			蠅	362～371	・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。 ・表現の特徴に気を付けながら、本文を通読する。 ・登場人物のそれぞれの境遇や気持ちをまとめる。 ・「一」における「蠅」の動きをまとめる。	・実際に声に出して音読させる。 ・事前に空欄補充形式のワークシートなどを作成し、Classroomにアップしておく。役割分担してグループワーク形式にしても良い。	○	◎	○
						・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。 ・「蠅頭」がどのような役割を果たしているかを考える。 ・馬車が転落し、「蠅」が飛び去る結末から読み取れることを考える。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で読み取る上での重要箇所を改めて通読し、グループ内でどのように読み取ったかを口頭で発表させ合ってもよい。	○	○	◎
	28	―	―	【言語活動】 さまざまな資料を調べて発表する	373	・作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べて発表し、作品の解釈を深める。 ・本文を読んで、文学作品に関する資料を調べる意義と手順を理解する。	・全体を通して、個人活動でも良いがグループで分担して実施をしても良い。 ・発表資料はGoogleスライドなどオンライン上で共有できるもので実施すると良い。	○	◎	○
						・教科書に掲載されている作品から一つ選び、作品に描かれている時代について、年表や百科事典などで調べる。 ・作者の伝記や文学辞典から、作者がどのような人物であったか、作品が成立した時代がどのような時代であったかを調べる。		○	◎	○
	29					・同時代に書かれたほかの作品や、同じ作者のほかの作品を調べる。		○	◎	○
						・作品がどう読まれてきたかについて、書籍の後書きや解説、作品に関する専門書などから調べる。		○	◎	○
	30					・調べたことから分かったことをまとめる。		○	◎	○
						・作品を読み直して気付いたことをまとめ、発表する。		○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	論理国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるため、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる力を養う。						
学習の到達目標	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編論理国語」（論国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日								評価の観点		
学期	週	レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Google Classroomで共有する。	－	－	－
	1	1	5	対話とは何か	8～14	【学習目標】対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ・「対話」と「おしゃべり」の違いを本文の論旨をもとにまとめ、「対話成立のポイント」が何かを理解する。 ・「他者不在の言語活動」とはどのようなことかを読み取り、まとめる。 ・本文で使われている接続表現を挙げ、その中から「逆説」「根拠」の接続表現に当たるものをまとめる。（論理の力）	・声に出して音読させ、内容の理解を深めるとよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・Googleスライド、MetaMojiなどを活用して調べたものを即座に全体に共有できるように工夫する。	◎	○	○
	2					【学習目標】対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ・「他者存在としての相手の領域に大きく踏み込む行為」とはどのような行為かを読み取り、まとめる。 ・筆者は「対話」の意義をどのように捉えているか、本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。 ・普段の生活の中でどんなときに「おしゃべり」をし、どんなときに「対話」をしているかを振り返り、話し合う。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	3			世界を作り替えるために	15～22	【学習目標】学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。 ・「論理的」とはどういうことか、文章の論理的構造を捉えるために必要なことは何かを理解する。 ・比喩表現の意味を理解し、論の起点となる内容を読み取る。 ・筆者の考えを理解するうえでよくわからなかった部分について質問を考えまとめる。 ・筆者の主張する「学ぶことの段階」について、具体的に読み取り、まとめる。	・本文を通読し、ペアやグループ内でどのように読み取ったか共有するとよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。 ・学ぶことの第一歩である「好き嫌いの感覚から距離を置くこと」の意味について読み取り、まとめる。 ・「学ぶためのもう一つのポイント」である「思考の基本」について、読み取り、まとめる。 ・自分の中にある、学ぶことに関する「種」について、話し合う。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	4	2	5	少女たちの「ひろしま」	26～36	【学習目標】戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ・三つに分かれたそれぞれの部分の話題に注意しながら、本文を通読する。 ・筆者が衝撃を受けたと感じた石内都の写真集の特徴と「肝腐たち」に対する視点を捉え、まとめる。 ・筆者の認識の変化が最もよく示されている部分を捉え、指摘する。	・実際に音読し、本文を理解させるとよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ・被爆死した女性たちと筆者を繋ぐ「回路」の意味を捉える。	・理解を深めるためにGoogle Classroomに事前に作者や時代背景についてまとめた資料を挙げておくのもよい。	○	◎	○
	5			「ふしぎ」ということ	37～43	【学習目標】挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。 ・本文を通読し、子供の頃「ふしぎ」に思ったことを発表する。 ・具体例を挙げて説明している部分を指摘する。 ・本文の三つの部分で取り上げている事柄や問題についてまとめる。 ・「あたりまえ」と感じている「ふしぎ」と受け止める事の意義について理解する。	・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。 ・教科書に線引きさせたり、Google Classroomにワークシートを共有して記載させてもよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。 ・子供の説明が「物語」に直結しているということについて理解する。 ・「自然科学」の方法と「物語」の違いについて理解する。 ・「慣用句の意味」を通読し、慣用句の意味について確認する。	・本文を通読し、ペアやグループ内でどのように読み取ったか共有する。 ・自分の知っている「慣用句」の本来の意味を調べる。Google Classroomに練習問題のワークシートをアップしておき、取り組ませるのもよい。	○	◎	○
	6	3	6	学ぶことと人間の知恵	56～65	【学習目標】文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ・本文の中心的な「問い」を端的に表現している一文と、その問いを詳しく表現し直している一文をそれぞれ指摘する。 ・「忘却」という人間特有の能力の長所と短所を読み取り、確認する。 ・勉強しても忘れてしまうにも関わらず、筆者が「学ぶことは、結果として無駄にはならない」と述べる理由を読み取り、まとめる。 ・人間の脳のみが持っている「ゆとり」とは、頭脳のどのような状態のことをいうのかを読み取り、まとめる。 ・人間の頭脳にある「寛容性」とはどのようなものであるかを読み取り、まとめる。	・教科書に線引きをさせるなどするとよい。 ・本文を通読し、ペアやグループ内でどのように読み取ったか共有するとよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ・「知恵」の「広さ」「深さ」「強さ」それぞれについて整理し、まとめる。 ・学ぶことの意義における筆者の主張のまとめを読み取る。 ・「コンピューター」と「人間」の違いについて、関連する他の文書を読むなどして、考えたことを話し合う。	・本文を通読し、ペアやグループ内でどのように読み取ったか共有するとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。 話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	7			ラップトップを抱えた「石器人」	66～72	【学習目標】事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ・筆者が「ヒューマンエラー」に対する筆者の考えを読み取る。 ・第三段から、脳の進化と文明の発展についての筆者の考えを読み取り、タイトルの意味を理解する。 ・「私たちは、ラップトップを抱えた『石器人』でもある」といえる根拠を本文から探しまとめる。 ・「学ぶことと人間の知恵」と「ラップトップ抱えた『石器人』」を読み比べ、「人間の脳の特性」について自分はどのように受け止めるか、自分の知識や体験なども関連付けながら考えをまとめる。	・読み取ってほしい内容を投げかけた上で、本文を通読させるとよい。 ・事前にGoogle Classroomにワークシートをアップし、「昔」と「今日」の状況の違いをまとめさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ・「ヒューマンエラー」に対する筆者の考えを読み取る。 ・第三段から、脳の進化と文明の発展についての筆者の考えを読み取り、タイトルの意味を理解する。 ・「私たちは、ラップトップを抱えた『石器人』でもある」といえる根拠を本文から探しまとめる。 ・「学ぶことと人間の知恵」と「ラップトップ抱えた『石器人』」を読み比べ、「人間の脳の特性」について自分はどのように受け止めるか、自分の知識や体験なども関連付けながら考えをまとめる。	・本文を通読し、ペアやグループ内でどのように読み取ったか共有するとよい。 ・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。	○	○	◎
	8	4	6	思考の肺活量	76～82	【学習目標】比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ・論の展開に注意しながら、本文を通読する。 ・「思考」のために必要な「肺活量」とはどういうものか理解する。 ・本文の主張について、「例示」の役割を持っている段落がどこか、指摘する。（論理の力）	・実際に声に出して音読し、本文を理解させるとよい。 ・教科書に線引きをさせるなどするとよい。	◎	○	○
						【学習目標】比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ・第二段における三つの例示について理解する。 ・「思考の原型」について理解する。 ・筆者が述べる、「思考」において「だいじなこと」を理解する。	・実際に声に出して音読し、本文を理解させるとよい。	○	◎	○
	9	4	6	安心について	83～91	【学習目標】文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。 ・第二段を音読し、シュルツの半生を筆者本に手まとめる。 ・第一段の漫画の内容とシュルツの半生との関わりを理解する。 ・シュルツや『ピーナッツ』について知っていることを挙げる。 ・筆者の考えを理解するうえでよくわからなかった部分について、質問を考える。（論理の力） ・子供にとっての「安心」とは何かをまとめる。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	◎	○	○
						【学習目標】文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。 ・第三段を音読し、世界の現状を踏まえ、「安心」が、全ての子供に行きわたっているわけではないことを理解する。 ・第四段を音読し、老人にとっての「安心」とは何かをまとめる。 ・全体を読み直し、これまでの内容を振り返り、「安心」というものを筆者がどのように捉えているか考える。 ・「母の苦しみはだんだんひどくなっていった。かわいそうなお母さん、ボクらは何もしてあげることができない。」には、どのような表現の工夫が見られるか各自で考え、グループで話し合う。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	10	5	7	弱肉強食は自然の摂理か	102～113	【学習目標】筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ・生き物の「強さ」の意味に注意しながら、本文を通読する。 ・この文章における筆者の問題提起とそれに対する主張が書かれている部分を把握し、文章の構成を理解する。 ・「（弱肉強食論）には大きな疑問が横たわっています。」とは、どのようなことか、読み取る。 ・「食う者・食われる者の関係は力の強さとは別の話」（104・7）と筆者が述べる理由を読み取る。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。	◎	○	○
						【学習目標】筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ・「統一的な強さの尺度」とは、どのようなことか読み取る。 ・ハフェーカーの実験の目的は何かを読み取る。 ・「生態学における強さの概念」（111・2）とは何かを読み取る。 ・「弱い者の肉が強い者の食料となることだけを想定する弱肉強食は、自然の摂理ではない」とあるが、なぜそのようにいえるのか読み取る。 ・ハフェーカーの実験結果のグラフから、どのようなことが読み取れるか、話し合う。	・読み取ってほしい内容を提示したうえで、本文を通読させ、グループ内で発表しあってもよい。Google Classroomにワークシートをアップすることも可。	○	○	◎
	11			複数の「わたし」	114～121	【学習目標】文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。 ・「私たちは、常に複数の役割を持って生きています。」とは、どのようなことか読み取る。 ・「誰とも関係を結ばない『わたし』が、本当の『わたし』といえるのか」（115・10）という筆者の問いに対して、ここまで読み取ったことを踏まえて自分の考えをまとめる。 ・「近代の個人主義的な人間観」とは、どのようなものか、読み取る。 ・「小説家の平野啓一郎」（116・3）と「英語の『個人individual』」（116・7）の例によって示される「分人」（116・5）の概念について理解する。 ・「ハーゲンの人々の人格」とは、どのようなものか読み取る。	・読み取ってほしい内容を提示したうえで、本文を通読させ、グループ内で発表しあってもよい。Google Classroomにワークシートをアップすることも可。 ・MetaMojiなどを使用し、自分の考えをまとめ、まとめたものは全体共有するとよい。	◎	○	○
						【学習目標】文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。 ・「ブタを飼育した女性の労働に目を向けてこなかった」という批判に対して、ストラザーンはどのように反論しているか、「根拠」の接続表現を用いてまとめる。（論理の力） ・「別の『わたし』」が「他者によって引き出される」とは、どのようなことか、読み取る。 ・「そう捉えると、少し気が楽になりませんか。」とあるが、筆者がその様に言うのはなぜか読み取り、まとめる。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。 ・読み取ってほしい内容を提示したうえで、本文を通読させ、グループ内で発表しあってもよい。Google Classroomにワークシートをアップすることも可。	◎	○	○
	12			はじめに「言葉」がある	124～131	【学習目標】筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・「服というものは『生鮮品』にたとえられる」とは、どのようなことか読み取る。 ・「本当に『今』をつまみ食いすることだけが、新しいことだろうか。」とあるが、筆者はこの問いに対してどのように考えているのかを読み取る。 ・「これらに共通する」（127・10）「この文章論」（127・12）について、指示語が指すものを読み取り、筆者が決めた「ある年の秋をコレクションのテーマ」（126・9）で何を表現したかったのかを理解する。 ・「ふきよせ」という言葉で、筆者はどのようなイメージを表したのか理解する。	・読み取ってほしい内容を提示したうえで、本文を通読させ、グループ内で発表しあってもよい。Google Classroomにワークシートをアップすることも可。	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	12	6	7	はじめに「言葉」がある	124～131	【学習目標】筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・筆者は「ある年の秋冬コレクションの"テーマ"」をどのように決定したのか、「根拠」の接続表現を用いてまとめる。（論理の力） ・筆者がコレクションのために言葉を「探していた」（129・7）のはなぜか、読み取る。 ・「そのムの向かい方」とは、どのようなことか読み取る。 ・読み取ったことを手がかりに、「働くこと」と「言葉」の関わりについて考えたことを話し合う。	・事前にワークシートなどを作成し、Google Classroomにアップしておき、まとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。話し合い後はクラス全体での共有を行う。Google Classroomで共有することも可。 ・MetaMoJi等に自分の考えをまとめ、その後ペアやグループ内で個人の考えを共有するとよい。	○	○	◎
				楽に働くこと、楽しく働くこと	132～137	【学習目標】楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。 ・本文に述べられている「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」の違いに注目しながら、本文を通読する。 ・本文について、「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考える。	・「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」の違いを個人で考え、自分の意見をまとめる（MetaMoJi等を使うとよい）。ペアやグループ内で共有できるとよい。 ・MetaMoJiを使用して、考えた質問を共有できるとよい。	◎	○	○
	13					【学習目標】楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。 ・「工場のものづくり」がどのようなものかを理解し、近代工場での労働の「楽さ」と「楽しさ」についてまとめる。 ・内山節と白鷹幸伯の著作について書かれた内容を整理し、筆者がこの二冊を薦める理由を理解する。 ・本文を読んで、「働くよろこび」について考えたことを話し合う。（言語活動）	・内容をより深く理解するために、「近代工場」について調べてみるのもよい。 ・事前に「内山節」「白鷹幸伯」についての概要と著作の内容をまとめておき、生徒に提示でいるとよい（教科書の内容にも記載はあるが、理解を深くするため） ・ペアやグループで自分の考えを発表し合う。	○	◎	○
		–	–	情景の中の労働 鉄、千年のいのち	138～142	【学習目標】文章に取り上げられた事例をもとに、働くことについて理解を深める。 ・筆者の言う「『仕事』の世界が作り出した景色の楽しさ」（140下・3）を理解する。（情景の中の労働） ・筆者の言う鋳治屋の楽しみを理解し、和釘づくりが「歴史への参加」（142上・16）だという考え方を理解する。（鉄、千年のいのち） ・本文を読んで、「仕事」についての自分の考えを文章にまとめる。	・声に出して音読させ、内容の理解を深めさせるとよい。 ・「仕事」についての自分の考えをMetaMoJi等でまとめ、ペアやグループ内で共有できるとよい。	○	◎	○
	14	–	–	【論理の力】論理とは何か／つなげる力	146～153	【学習目標】書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことかを学ぶ。 ・「接続関係」について学び、文章を論理的に理解する力を養う。 ・狭い意味での論理について、【問１】から「演繹」という推論の仕方を理解する。 ・広い意味での論理について、【問１】の文章から考え、「論理的」であることの意味を解説とともに確認する。	・論理的文章において、接続表現を用いることの重要性をとらえながら、P148～P153の問1・2・3・4を解く。	◎	○	○
		–	–	【論理の力】論証する力	154～157	【学習目標】論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。 ・「事実」と「考え」の区分、「推測」と「意見」の違いを理解する。 ・「帰納」と「演繹」、「論証」の違いを捉え、「論証」において根拠を示す重要性を理解する。 ・論証の説得力を検討し、反論する方法について理解を深める。	・「根拠の適切さ」と「導出の適切さ」について、【問6】の文章と解説を通して確認し、論証の説得力についての理解を深める。	◎	○	○
	15	–	–	【論理の力】要約する力	158～161	【学習目標】「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。 ・文章の「幹」（中心的主張）と、「枝葉」（読ませる工夫・分かりやすくする工夫・根拠を示す「太い枝」）という文章の構造を理解する。 ・文章を「根」（問い）と答えの構造を持つものと捉えることを理解する。 ・【問７】の要約作業を通して、文章構造への理解を深める。 ・「要約するための五つのステップ」を読み、長文を要約する手順とポイントの理解を深める。	・事前に要約する文書をいくつか用意しておくとよい。（P158に練習問題あり）	○	◎	○
		–	–	【論理の力】質問する力	162～166	【学習目標】質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ・質問力を鍛える重要性と効能を、「聞く力・聞く力」「書く力・話す力」「議論する力」の三つのポイントとのつながりから理解する。 ・「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」という三種類の質問を理解し、物事に対する姿勢や心がけとの関連性を捉える。また、【問８】の発言に対して、観点を変えた質問を考え、その解説から質問の三つの種類についての理解を深める。 ・質問のよし悪しについて、【問９】の文章から考え、論理的な文章における良い質問とは何かについて理解を深める。	・学んだことの実践として、動画などを視聴して質問を考えさせてもよい。	○	◎	○
後期	16	7	10	最初のペンギン	168～175	【学習目標】タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ・「神ならぬ」（168・1）や「有限の立場」（168・4）などの語句、および「神」と「人間」の対立図式を確認し、第一段の内容を整理する。 ・生きるために、不確実性のもとで決断し、海の中に真っ先に飛び込む「最初のペンギン」（170・15）の行動の意味を確認し、第二段の内容を整理する。 ・「譲歩」を用いて論じている部分を指摘し、その効果を考える。	・自分なりに段落の内容を要約させ、MetaMoJi等にまとめさせるとよい。 ・教科書に線引きするなどして、自分なりに考えさせるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ・「感情」「決断」「直観」等の意味を確認しながら第三段の内容を整理し、不確実性の中での決断の必要性と、感情の技術を磨く必要性を理解する。 ・「未来感覚」（174・13）などの語句を手がかりとして、創造することは未知の世界にジャンプすることだという筆者の主張を捉え、第四段および文章全体の内容を整理する。 ・「不確実な状況」でどう決断して行動するかの意味について考える。	・自分なりに段落の内容を要約させ、MetaMoJi等にまとめさせるとよい。 ・グループでの話し合いもしくはペアでの話し合いで考えさせても可。	○	○	◎
	17			豊かさと生物多様性	176～183	【学習目標】論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・多様な生物によって作られている生態系を大切にする考え方について読み取り、まとめる。 ・生物多様性保全の課題として挙げられている「種北問題」の内容を読み取りまとめる。 ・生物多様性についての「質と量」の問題と、それに対する筆者の考えについて読み取り、まとめる。 ・生物多様性を大切にするうえで必要な発想について、具体的に読み取りまとめる。	・ペアやグループ内で発表しあうとよい。Google Classroomにワークシートをアップしてまとめさせても可	◎	○	○
						【学習目標】論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・筆者の考える、生物多様性を大切にするために必要なことをまとめる。 ・生物多様性を大切にするために必要なことについて考えたことを話し合う。 ・「『真の価値』を求めて」を通読し、「豊かさと生物多様性」の筆者が何に価値を見いだしているのか、本文から読み取りまとめる。（考える楽しみ❷……「『真の価値』を求めて」） ・現代という時代に、何に価値があると思うか、考えたことについてまとめる。	・ペアやグループ内で発表しあうとよい。Google Classroomにワークシートをアップしてまとめさせても可	○	◎	○
	18	8	10	物語の外から	186～192	【学習目標】二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ・二人の「語り」の場面で筆者が感じたことに注意しながら、本文を通読する。 ・第一段の語り部の男性と、第二段の語り部の女性の行動や様子をまとめ、「語り」について理解する。 ・筆者の考える、語り部の男性が「一言も出せなくなり、ただ狼狽して、黙り込んでしまった」理由を読み取り、まとめる。	・本文を通読して、自分なりの に読み取った内容をMetaMoJi等でまとめ、ペアやグループ内で共有できるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ・「物語」と「自己」との関係を理解する。 ・「自己というものはさまざまな物語の寄せ集めである。」について理解する。	・声に出して音読させ、内容の理解を深めさせるとよい。	○	◎	○
	19			カフェの開店準備	193～199	【学習目標】日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・本文を通読して話の流れについて気づいたことを発表する。 ・「行為の習慣化」について、筆者の考えをもとにして考える。 ・第一・二段に書かれている「喫茶店の開店準備」を巡っての筆者の考えを理解する。 ・「現在」（「過去」「未来」も含め）というものについての筆者の考えを理解し、そのことについて話し合う。	・声に出して音読させ、ペアやグループ内で気づいたことを共有する。	◎	○	○
						【学習目標】日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・楽器の演奏に関する考察について理解する。 ・「孤独の残らない行為」に対する筆者の考えを理解し、そのことについてどう思うかを話し合う。 ・日常生活の在り方について考え、四百字程度の文章にまとめ、話し合う。（言語活動） ・「紛らわしい漢字」を通読し、識別の方法を理解した後、間違えやすい熟語や同音異義語の例についても併せて確認する。（言葉の園❷……紛らわしい漢字）	・MetaMoJi等を使用し、自身の文書を最終的には共有できる状態にできるとよい。 ・グループ対抗で「紛らわしい漢字」を探してみるなど実践を入れてもよい。	○	○	◎
	20	9	11	鏡としてのアンドロイド	210～218	【学習目標】アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・「技術開発」にもたらす「新たな要請」とは何かを読み取る。 ・「それは自分の脳でありことは論理的には理解できる」とは、どのようなことか読み取る。 ・「他人は自分を映したが鏡のようなものだ」とは、どのようなことか読み取る。 ・「私の研究は自虐的かもしれない。」とあるが、どのような点が「自虐的」だというのか、読み取る。 ・「乏しい実感」と「止まったアンドロイドのような完全な無実感」とは、どのように違うのか違いをまとめる。	・本文を通読させ、ペアやグループ内で話し合い、まとめるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・「心は自分と他人を取り巻くさまざまな状況の中に分散している」とは、どのようなことか読み取る。 ・「人間についての根本的な疑問」と「創造的な活動」との関係を読み取る。 ・「何かを作りだす」ことについての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の考えを参考にしながら、「何かを作ること」とは、どのようなことであると考えられるか、話し合う。（言語活動）	・本文を声に出して音読させ、内容の理解を図るとよい。 ・ペアやグループにて考えをまとめ、全体発表するとよい。	○	◎	○
	21			ロボットが隣人になるとき	219～227	【学習目標】哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。 ・「意志」「自由」という言葉の意味に注意しながら本文を通読する。 ・「この問いは、単純な技術の問題ではない。」とあるが、なぜそういえるのかを読み取る。 ・「近年のAIの発展はこのイメージを崩しつつある。」とは、どのようなことかを読み取る。 ・「『意志』と『欲求』を比較してみよう。」とあるが、意志と欲求はどのように異なるのか読み取り、まとめる。	・本文を声に出して音読させ、内容の理解を図るとよい。 ・ペアやグループにて考えをまとめ、全体発表するとよい。MetaMoJi等を使用して全体共有してもよい。	◎	○	○
						【学習目標】哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。 ・「『意志』というのは約束に似ている。（223・3）」と筆者が考えるのはなぜか読み取る。 ・「ロボット社会的な存在になれるだろうか。」（223・5）という問いに対する筆者の考えを読み取る。 ・「対等の隣人」とあるが、どのような点で対等なのか筆者の考えを読み取る。 ・「そうはならないだろう。」とあるが、ここで述べられているようなロボットが「自分の意志で自由に行動する」といえないのはなぜか読み取り、まとめる。 ・筆者が考えるような「自分の意志で自由に行動するロボット」が生まれることは望ましいと考えるかどうか、話し合う。（言語活動）	・教科書に線引きをさせたりなど、個人で考えた後、ペアで読み取れた箇所を共有するなどし、考えの幅を広げる。 ・ペアやグループになり考えをまとめる。	○	◎	○
	22	10	11	言葉は「ものの名前」ではない	232～239	【学習目標】言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ・言葉と「もの」の関係に注意しながら、本文を通読する。 ・第一段を読んで、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」がどのようなものなのかを理解する。 ・ソシュールの言語観をまとめる。 ・本文で筆者は言語についてどのような考えに反対しているのか読み取り、まとめる。（論理の力）	・本文を通読させ、MetaMoJiやワークシートなどにまとめさせる。ペアやグループなどで共有しあい、理解を深める。	◎	○	○
						【学習目標】言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ・第二段第一節を読んで、「羊」や「devilfish『悪魔の魚』」の例をもとに、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」の問題点を理解する。 ・第二段第二節を読んで、具体例をもとに、言葉の「意味の幅」がどのように決まるのかを確認し、「もの」と言葉の関係を理解する。 ・日本語と英語の場合について、筆者の考えを表す具体例を本文以外の例で考え、話し合う。（言語活動）	・声に出して音読させ、内容の理解を図るとよい。 ・何点かわかりやすい例を提示してから話し合わせるとよい。	○	◎	○
	23			科学的「発見」とは	240～248	【学習目標】本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・「図１」と「図３」をどう考えながら本文を通読する。 ・「事実を観察するということは、それほど単純ではない。」という筆者の考えを理解する。 ・第一段の「事実を観察するということは、それほど単純ではない。」という考えの根拠を、第二段から理解する。	・ペアで自分の考えを発表させ合ってもよい。 ・事前にワークシート等を作成し、自身の考えを書かせてもよい。	◎	○	○
						【学習目標】本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・第三段から「仮にあたらないという表情から驚きの表情に変わっていく」理由を理解する。 ・「『見ることは解釈することだ』」の意味するところを理解する。	・「その理由」を自分なりに見つけさせ、教科書に線引きをさせるなどするとよい。 ・「意味するとこ」を自分なりに見つけさせ、教科書に線引きなどさせるとよい。	○	◎	○
	24	11	12	知識における作者性と構造性	262～270	【学習目標】インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ・「『情報』と『知識』の決定的な違い」について、筆者はどのように述べているか読み取る。 ・「リンゴが実っている木の幹を見定めたり、そこから出ているいくつもの枝の関係を見極めたりすることができなくなってしまう」とは、どのようなことか理解する。 ・「自力で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力」（266・10）とはどのような能力か、比喩が表しているものを理解し、読み取る。 ・「ネット情報」と「図書館に収蔵されている本」について、筆者の言う「作者性」（263・4）における違いをまとめる。	・声に出して、音読させ本文の理解を深めるとよい。 ・読み取った内容をペアやグループ等で共有するとよい。 ・MetaMoJi等に考えをまとめて、全体共有できるようにするとよい。	◎	○	○
						【学習目標】インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ・「論理の創造的展開」とは、どのようなことか、読み取る。 ・「ネット検索」が「読書」より優れている点として筆者が挙げているものは何か、指摘する。 ・「本」を読むことは、どのような点で「ネット検索」より優れていると筆者は考えているかを読み取りまとめる。 ・インターネット上の情報を、他の情報や知識との関係性の中で捉え直すためにはどうすればよいか、具体的な方法を話し合う。（言語活動）	・声に出して音読させ、内容の理解を図るとよい ・自分なりに見つけさせ、教科書に線引きなどさせるとよい。 ・MetaMoJi等に自身で読み取った内容をまとめ共有等するとよい ・ペアやグループで考えを話し合い、内容をまとめ全体発表させるとよい。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	25	11	12	もう一つの知性	271～279	【学習目標】科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・「血肉になっているような情報」（272・14）「服のポケットにたくさんの紙片を詰め込んでいるような知性」（272・15）などの比喩表現を理解する。 ・「情報化社会」とはどのような社会を言うのか、また、情報化社会で重要なことは何か、意見を述べ合う。 ・第一段の後半部分を音読し、例として挙げられている事項・用語を「情報通」と「知性」の二つのグループに分類する。 ・「この小学生がお父さんより知的な人間とはいえない」という根拠として、本文で述べられていることをまとめる。	・声に出して音読させ、内容の理解を図るとよい。 ・自身で考えをまとめペアやグループで話し合わせるとよい。 ・教科書にマーカー等で分類させる、事前にワークシート等を作成し実施させるなどするとよい。 ・MetaMoJi等ににて考えをまとめさせ、全体共有できるとよい。	◎	○	○
						【学習目標】科学的思考とは異なる思考の在り方を理解、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・アメリカの先住民や医療現場の話を題材に、科学技術の発達とともに知性がどう変化したか、またトルストイの人生論の話は、どのようなことを説明する目的で紹介されているのかを考えてまとめる。 ・第三段を読み、冒頭の一文の役割を確認するとともに、276ページ1行目までを読み「プリコラージュ」的な知とはどのような知の在り方を言うのか読み取る。 ・後半部分を読み、本教材における筆者の主張を理解する。 ・第二段を読み、冒頭部分を中心に、筆者が考える本来の「知性」の在り方をまとめる。 ・筆者の提案する「プリコラージュ」的な知の可能性を、自分たちの生活にどう生かせるか話し合う。（言語活動）	・事前にワークシート等を用意し、まとめさせるとよい。 ・ペアやグループで話合わせるとよい。	○	○	◎
	26	12	12	ホンモノのおカネの作り方	282～290	【学習目標】二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・第一段の内容を確認し、文章全体との関係や構成の型、その効果について理解する。 ・第二段の内容を把握し、佐土原藩の偽造法の説明が持つ意味を確認し、ニセガネの本質を叙述に即して理解する。 ・預かり手形の仕組みと便利さを確認し、「ホンモノの代わり」がホンモノに代わる過程を理解する。 ・語義の確認を含めてここで言う「逆説」（286・8）の内容とそれが発生する理由を理解する。 ・貨幣の本質、電子マネーの仕組み、円安・円高など、経済や貨幣に関する話題を適宜取り上げ、互いの知識や考えを発表し合う。	・本文を越えに出して音読し、内容の理解を深めるとよい。おカネについて、学習用端末等を使用し調べ学習をしてから始めてもよい。	◎	○	○
						【学習目標】二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・「金銀」「金銀の塊」「金貨鋳貨」「銀行券」などの語句に注意しながら、整理する。 ・「ホンモノのおカネ」を作るのに必要な条件を確認する。 ・「その時々のホンモノ」（287・8）「ホンモノの形而上学」（287・15）などの語句に注意して、筆者の結論の妥当性を確認し、更にその結論を通して、筆者は何を言おうとしているのかを考える。 ・経済の仕組みについて他教科で学習したことを整理してまとめ、本文の内容との関連について話し合う。（言語活動）	・学習用端末等で単語の意味の理解を深めてから始めるとよい。 ・ペアやグループにて話し合い、考えをまとめ全体共有できるとよい。	○	○	◎
	27	12	12	未来のありか	291～301	【学習目標】小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・「未来の事物」「未来の時間」について考えたことを、具体的に挙げる。 ・未来の事物の予期や予想や想像が個々の意識の中に生まれ、社会生活の中で共有されていく過程について読み取り、まとめる。 ・「未来らしさを支えるもの」について、論の展開と構成を踏まえて、箇条書きでまとめる。	・事前にワークシート等を用意し、まとめさせてもよい。	◎	○	○
						【学習目標】小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・「未来」が事前に想像されるものであることを、万国博覧会の例をもとに読み取る。 ・「未来のありか」についての筆者の考えを、私たちの生き方と関連づけてまとめる。 ・本文の内容を踏まえて、「未来」について考えたことを話し合う。 ・要約するための五つのステップを意識して、本文の内容を二百字程度で要約する。（論理の力）	・事前にワークシート等を用意し、まとめさせるとよい。ペアやグループで共有できるとよい。	○	◎	○
	28	－	－	書く　短い論文を書いて読み合おう	203～208	【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ・「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。 ・資料を読んで自分の考えを短い論文にまとめ、読み合った例を参考に、学習の進め方を理解する。 ・「課題」（P208）の中から話題を一つ選び、実際にその話題に関する論説文や関連資料を収集する。 ・収集した資料を読み、自分の問題意識に根差しているかなど、論じる視点を考えて、適切な資料を選び情報収集をする。	・2つの課題以外に、もっと身近な話題に変更も可。 ・事前にワークシート等を用意するとよい。	○	○	◎
		－	－			【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ・資料に基づいてまとめた意見をもとに、「活動のポイント」２も参考にして、論文の構成や展開を考え、構成メモを作る。 ・構成メモをもとに、八百字程度の短い論文を書く。 ・文章の構成や論理の展開、表現において、自分の意見が的確に伝わるかなどの視点から、書いた文章を読み返し、推敲し発表の準備をする。	・事前に構成メモのワークシートを用意するとよい。 ・MetaMoJiやGoogle Classroom等に記載をさせなど、全体共有させることを見越したツールを使用するとよい。 ・ペアで相手の文書構成を確認し合うなどしてもよい。	○	○	◎
	29	－	－			【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ・グループに分かれ、書いた論文を発表し合う。聞き手はチェックシート（P208）などを用いて、論文に対する意見を記す。 ・それぞれが書いた論文に対する意見を交換する。 ・交換した意見や、チェックシートの内容を踏まえ、自分の論文を読み返し、課題を捉え直したうえで、論文を書き直し、よりよいものに仕上げる。 ・「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、課題について各項目が達成できているかを確認する。	・事前に聞き手側のチェックシートを作成しておくとよい。 ・グループ等で意見交換するとよい。	○	○	◎
		－	－	書く　図表の読み取り方	249～252	【学習目標】図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・「図表の読み取り方」の①②を読み、現象を把握する具体的方法を理解する。 ・「図表の読み取り方」の③を読み、複数の図表を関連づけて分析する具体的方法を理解する。	・「練習」（P250）課題に取り組ませるとよい。 ・「練習」「応用」（P252）課題に取り組ませるとよい。 ※関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。	○	○	◎
	30	－	－	書く　資料を活用して論述しよう	253～260	【学習目標】資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ・「活動のポイント」１を読み、論題設定の方法を理解する。 ・「課題」（P260）を踏まえ、「SDGs」の17項目（P254・255）と身近な話題や具体例、自分の興味・関心を関連させ、開発目標から各自が一つを選んでテーマを決定する。 ・テーマに沿った資料を収集し、観点を決めて整理する。「情報整理のポイント」（P47）や「論点整理表」（P53）を活用して資料を視覚化したり、思考ツール・発想の方法（P310・311）を使ったりして考察を行う。 ・資料の考察から「問い」のかたちで論題の候補を箇条書きにする。その中から自分の意見をまとめられそうなものを焦点化していく。	・事前にSDgｓについての資料を準備しておくとよい。生徒に調べさせても可。 ・事前に「まとめ方」についてのワークシート等を用意しておくとよい。	○	○	◎
		－	－			【学習目標】資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ・資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ・四～六人のグループに分かれて、各自の考察や論題を持ち寄り、意見交換を行い論題の再検討を行う。資料の偏りや不足に気づいた場合は、随時資料収集を行い、再度考察を行う。	・グループディスカッションについては、時間の都合がつくようであれば実施でも可。	○	○	◎

備　考	
	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。 ・1時間目：内容の学習／2時間目：1時間目での学習を踏まえた上で、言語活動（ディスカッションやワーク）の時間としている。

《通信教育実施計画》

科目名	地理総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	世界の生活文化の多様性や、自然環境と防災、地域や地球的課題（地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題など）について学ぶ。また地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する情報をまとめて多面的に考察・表現することで、諸課題を主体的に解決しようとする姿勢と、国土に対する愛情、世界の多様な文化を尊重する態度を養う。						
学習の到達目標	①題理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						
	②題理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	③題理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「地理総合」（地総701）□						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。	－	－	－
	3	1	5	第1編第1章　私たちが暮らす世界 1　緯度・経度 2　地球儀と世界地図	8～11	・地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。 ・地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。 ・地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。 ・地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。	・世界各地における、太陽高度や昼夜の時間の季節変化と、標準時を確認し、緯度や経度との関係について考える。 ・時差を利用したグローバルな活動の例を把握する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	4			3　日本の位置と領域 第1編第2章 地図や地理情報システムの役割 4　地図の種類	12～13 22～23	・日本の位置と領域について理解する。 ・排他的経済水域について理解し、その重要性について考える。 ・私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。 ・多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考える。	・領土問題発生の背景が国益の衝突にあることをふまえ、問題を平和的に解決するための方法について考える。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	5			5　地形図のルール 6　主題図の種類と読み取り	24～27	・地形図から読み取れることについて理解する。 ・地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察する。 ・主題図にはさまざまな表現方法があることを理解する。 ・主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。	・地形図を用いて土地利用、距離、面積など基礎的事項について読み取る。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	6			7　地理情報システムと地図 【地図の可能性は、まだまだ広がる。】	28～29	・地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解する。 ・GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考える。	・ICT機器を用いるなど地理情報システム（GIS）の活用例を確認する。 ・ICT機器を用いるなど今昔マップon the webを操作することで、地理情報システムの特徴を把握する。	◎	○	○
	7	2	6	第1編第3章 資料から読み取る現代世界 8　交通の発達 9　情報通信の発達	40～43	・交通手段の多様性とその長所・短所について理解する。 ・交通手段の発達による生活の変化を考える。 ・通信情報技術（ICT）の発達について理解する。 ・通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。	・情報通信技術（ICT）の普及状況の推移や地域的な傾向を読み取ったうえで、情報通信技術の普及にともなう利点と課題を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	8			10　国境をこえる人々の移動 11　拡大する貿易	44～47	・国境をこえる人々の動きについて理解する。 ・どのような理由で人々がどこからどこへ移動するかを考える。 ・世界の貿易とさまざまな地域貿易圏について理解する。 ・国際分業と産業の変化について考える。	・主題図や統計資料を読み取り、国際移動の現況を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・主題図や統計資料を読み取り、観光客の国際移動の特徴、観光客数の増加の社会的背景と課題について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	9			12　つながる世界、多極化する世界 第2編第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 13　文化の地域性と多様性	48～49 58～59	・国家間の結び付きとその役割について理解する。 ・多極化する世界の変化について考える。 ・地域によって文化が異なる理由について理解する。 ・文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解する。	・主題図を用いて、国家群・地域圏の変遷や課題を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・グローバル化の具体的な事象を通して、利点と課題を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	10			14　宗教と人々の暮らし 【宗教に根ざした、習慣や文化がある。】	60～61	・世界の宗教の分布について理解する。 ・宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解する。	・ICT機器を用いるなど写真を用いて、さまざまな宗教のもつ特徴を把握する。 ・地図を用いて、世界の宗教分布について歴史的背景を含めて理解する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	11	3	7	15　山地の暮らし 16　平野の暮らし	68～71	・山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解する。 ・山地における自然的、文化的なめぐみに気づき、その利用について理解する。 ・河川がつくる平野の小地形について理解する。 ・宅地化による土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解する。	・ICT機器を用いるなど写真や地図を用いて、河川のつくる地形とその利用について理解する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	12			17　海岸の暮らし 18　多様な気候とその分布	72～73 78～79	・さまざまな海岸の地形とその利用について理解する。 ・海岸の地形が自然的、人為的要因によって変化していることを理解する。 ・大気の大循環によって生じる気圧帯について理解する。 ・気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。	・地図を用いて、気温の高い/低い地域や降水量の多い/少ない地域の分布をとらえる。 ・ICT機器を用いるなど写真を用いて、地域による気候の多様性を理解する。	◎	○	○
	13			19　熱帯の人々の暮らし 20　乾燥帯の人々の暮らし	80～83	・熱帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ・熱帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。 ・乾燥帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ・乾燥帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	・雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解する。 ・ICT機器を用いるなど写真や模式図を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握する。気候区ごとの特徴を理解する。	◎	○	○
	14			21　温帯の人々の暮らし	84～85	・温帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ・温帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	・雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解する。 ・ICT機器を用いるなど写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握する。	◎	○	○
	15			22　亜寒帯・寒帯の人々の暮らし	86～87	・亜寒帯・寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ・亜寒帯・寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	・雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解する。 ・ICT機器を用いるなど写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握する。	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	23　食生活と農業の分布 24　工場立地の変化	92～93 96～97	・自然環境の面から、食生活の地域差について理解する。 ・社会環境の面から、農業形態の地域差について理解する。 ・食文化に多様性が生じる理由について理解する。 ・工業立地について理解する。 ・労働集約的な工業の立地が移動する理由を理解する。 ・新興工業国と先進国との工業に違いが生じる理由について理解する。	・ICT機器を用いるなど写真を用いて、さまざまな工業の特徴を把握する。 ・主題図を用い、国や地域ごとの工業の違いと、その要因を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	17			25　商業立地と人々の生活 26　情報産業の発達と生活文化の変化	100～103	・商業の立地の違いについて理解する。 ・インターネットの普及により、商業にどのような変化が生じたのかを理解する。 ・通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解する。 ・情報化社会における働き方について考える。	・ICT機器を用いるなど写真や図を用いて、情報技術がさまざまな産業の情報化に寄与していることを把握する。	◎	○	○
	18			第2編第2章 27　地球環境問題(1)	124～125	・地球規模の環境問題が、人間の活動によって引き起こされていることを理解する。 ・生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決法を考える。	・主題図を用いて地球環境問題の現状について視覚的に捉える。 ・統計から地球温暖化の現状を把握し、その背景・要因とそれがもたらす問題について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	19			28　地球環境問題(2)	126～127	・森林の減少や砂漠化の進行について理解する。 ・森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考える。	・熱帯林破壊や砂漠化によってもたらされた問題をふまえ、問題解決のあり方について追究する。 ・ICT機器を用いるなど写真を用いて森林減少の現状を理解し、模式図を用いて砂漠化のメカニズムを考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	20			29　資源・エネルギーの偏在 30　化石燃料から再生可能エネルギーへ	130～133	・資源・エネルギーの生産地と消費地は地理的に離れていることを理解する。 ・新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源を巡る対立が生じる要因を考える。 ・エネルギー資源の種類について理解する。 ・再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。	・ICT機器を用いるなど写真やグラフを用いて、地球社会の持続可能性という観点から望ましいエネルギー政策について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	21	5	11	31　発展途上国の人口問題 32　先進国の人口問題	136～139	・18世紀後半以降から現在にかけての世界の人口推移とその背景を理解する。 ・発展途上国が抱える人口問題を理解し、その要因・影響を考える。 ・先進国において少子高齢化が進む背景とその影響について理解する。 ・少子高齢化対策として先進国で行われる取り組みを理解し、その成果や課題を考える。	・人口ピラミッドの作成や統計の読み取りを通じて、先進国の抱える人口問題とそれへの対策について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	22			33　食料需給をめぐる問題 34　発展途上国の居住・都市問題	142～143 146～147	・食料問題が生じる背景について理解する。 ・食の安全に関する問題について知り、その対策について理解する。 ・発展途上国で進む都市人口の増加の背景を理解する。 ・発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。	・都市問題発生の要因を、都市化の過程との関わりから考察するとともに、問題解決へ向けての具体的な取り組みを把握する。	◎	○	○
	23			35　先進国の居住・都市問題 36　民族問題・難民問題	148～151	・先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解する。 ・先進国の居住・都市問題を郊外化や都市再開発から考える。 ・難民と民族問題について理解する。 ・民族問題の背景について考える。	・難民が発生する地域と難民を受け入れる地域の地理的関係を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・民族問題の歴史的背景について、具体的な事例をあげて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	24			37　地球的課題と国際協力 第3編第1章 38　日本の地形の特色 39　日本の気候の特色	154～155 176～181	・地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解する。 ・先進国と発展途上国の対立など、さまざまな課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。 ・日本の地形の特徴について理解する。 ・日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。 ・日本の春夏秋冬それぞれの季節を特徴づける天候・気候の要因を理解する。 ・日本各地の地域ごとの気候の特徴を理解する。	・日本列島の地帯構造とプレートの境目の主題図を用いて、日本の地形の特性について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・地形の特性と自然災害との関係性について、主題図や衛星画像などを用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。・地形の特性と人々の生活との関係性について、主題図や衛星画像などを用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	25			40　地震災害・津波災害(1) 41　地震災害・津波災害(2) 42　火山の災害とめぐみ	182～187	・プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解する。 ・震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害にも違いがあることを理解する。 ・過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解する。 ・ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取る。 ・日本列島において火山活動が活発な理由を理解する。 ・火山活動にともなう災害の種類を理解する。 ・火山活動が関係するさまざまなめぐみを理解する。	・火山災害がもたらす人命に及ぼす被害について具体例をあげながら考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・火山災害のメカニズムについて、図やICT機器を用いるなど写真を用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・火山のもたらす恩恵について具体例をあげながら考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	26	6	12	43　気象災害(1)　寒さ・暑さと台風 44　気象災害(2)　大雨と洪水・土砂災害	188～191	・それぞれの季節で発生しやすい気象災害とその特徴について理解する。 ・それぞれの季節で発生しやすい気象災害の要因・影響を考える。 ・大雨や集中豪雨によって発生する洪水災害は、どのように発生するのか、その原因を理解する。 ・土砂災害の発生のメカニズムを理解し、どこで被害を受けやすいかを考える。	・大雨がもたらす各種災害とそれらのメカニズムについて、模式図を用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・大雨がもたらす各種自然災害の被害の状況について、地形図を用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・大雨がもたらす各種自然災害の軽減に向けた対応策について、ICT機器を用いるなど写真やハザードマップを用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	27			45　都市と自然災害 46　防災・減災と復旧・復興	192～193 204～205	・都市型災害にはどのようなものがあるかを理解する。 ・そのうえで、都市型災害の要因・影響を考え、都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考える。 ・大規模災害の対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解する。 ・これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助において、どのような対策を講じていくべきかを考える。	・防災・減災へ向けた各地域における取り組みについて、自助・共助・公助の観点からICT機器を用いるなど写真を用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・防災・減災へ向けた公助の取り組みには限界があり、自助・共助の観点から意識を高める必要性があることを、さまざまな取り組みを概観することで考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
	28			第3編第2章　47　調査テーマの設定 48　地域調査１（資料調査）	206～207	・身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。 ・身近な地域の課題に対して異なるスケールを織り交ぜて考察し、調査テーマを設定する。 ・身近な地域の情報を得るためのさまざまな手段と注意点を理解する。 ・身近な地域で生じている課題の要因をさまざまな角度から分析し、仮説を設定する。	・身近な地域の調査に必要な資料収集の方法について習得する。グループでの共有かクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。 ・身近な地域の課題の解決に必要な仮説の設定・検証の方法について、資料調査を通して習得する。グループでの共有かクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。	◎	○	○
	29			49　地域調査２（野外調査） 【どこを歩いて誰に聞くか。計画が大切だ。】	208～209	・野外調査の目的に応じた方法を理解する。 ・野外調査を計画し、実施する。	・身近な地域の調査に必要な野外調査の方法について習得する。グループでの共有かクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。 ・身近な地域の課題の解決に必要な仮説の設定・検証の方法について、野外調査を通して習得する。グループでの共有かクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	30			50　まとめと発表 【地域のこれからを、皆で考えていくために。】	210～211	・地域調査のまとめ方について理解する。 ・調査結果に応じた、まとめ方や発表形式を選択し、身近な地域の課題解決に向けた発表を行う。	・身近な地域における調査で得た結果を分析する視点について習得する。グループでの共有かクラス全体での共有を行う。Classroomで共有することも可。 ・調査内容の分析結果を的確にまとめる方法について習得し、まとめを行う。 ・身近な地域における調査の成果を校内もしくは校外で発表する方法について習得し、クラス内もしくは校内で発表する。 ・身近な地域における調査で明らかとなった地域の抱える課題をふまえ、持続可能な地域社会のあり方とその実現に向けた社会参画の意義について認識する。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	歴史総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代の諸課題に関わる近現代の歴史について、世界と日本の相互的な視点から学ぶ。近現代の歴史の変化（歴史的出来事の意味や意義、特色など）や現代とのつながりに注目することで、よりよい社会の実現に向けて課題を解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する感情や、他国・他国の文化を尊重することの大切さについて学ぶ。						
学習の到達目標	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、ICT機器を用いるなど、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新選歴史総合」（歴総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。	－	－	－
	2	1	5	第2章2節「結び付く世界と日本の開国」 1　18世紀の東アジア 2　結び付くアジア諸地域	28～35	・18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築いていったのかについて理解する。 ・18世紀のアジア諸地域はどのように結びついていたのかについて理解する。	・18世紀のアジア諸地域にどのような文明があり、それぞれがどのような関係を形成していたのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	◎	○	○
	3			3　18世紀のヨーロッパとアジア 4　産業革命のはじまり	36～43	・18世紀のヨーロッパとアジアとの交易にはどのような変化が見られたのかについて理解する。 ・産業革命が社会にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。	・工業化と世界市場の形成に対する問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・イギリスで起こった産業革命と、産業革命後の資本主義の確立について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	4			5　世界市場の形成 6　東アジア国際関係の変化と日本の開国	44～47	・産業革命を経て、世界各地の経済がどのように変化したのかについて理解する。 ・19世紀の東アジアが、西欧諸国とどのような関わりをもったのかについて理解する。	・19世紀の東アジアが、不平等条約の締結によって、西欧諸国とどのように関わり、どのように変化していったのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	◎	○	
	5			7　世界経済の変化と日本の産業革命	48～49	・イギリスではじまった産業革命が、どのように世界に広まったのかについて理解する。	・産業革命の拡大が日本をはじめとした国々にもたらした工業化や、その結果変化した世界経済の結びつきについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・工業化と世界市場の形成に対する問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	◎	○
	6	2	6	第2章3節　「国民国家と明治維新」 1　市民革命と近代社会 2　自由主義とナショナリズム	52～55	・市民革命はどのような社会のしくみを生み出したのかについて理解する。 ・19世紀の欧米諸国では、どのような国家形態が模索されたのかについて理解する。	・19世紀の欧米で広まった自由主義とナショナリズムの運動によって生み出された国民国家について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	7			3　アジアの諸国家とその変容 4　明治維新と東アジアの国際関係	56～59	・19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的変化が生じたのかについて理解する。 ・明治維新は、どのような国際環境のなかで起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。	・日本で明治政府が行ったさまざまな改革や、その当時の東アジアの国際関係について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	◎	○	
	8			5　立憲制の広まり 6　帝国主義と植民地	62～65	・19世紀後半の立憲制国家は、それぞれどのような特徴をもっていたのかについて理解する。 ・帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのようにくり広げられたのかについて理解する。	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に対する問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・帝国主義が起こった原因や、帝国主義国による世界分割の進行と世界秩序の変容について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	9			7　日清戦争と華夷秩序の解体 8　帝国主義諸国の競合と国際関係	68～71	・日清戦争が東アジアの国際秩序にどのような影響を与えたのかについて理解する。 ・帝国主義国どうしがどのような関係を築いたのかについて理解する。	・帝国主義諸国間の対立や効力、日本とロシアの対立などの国際関係について、ICT機器を用いるなど諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	◎	○	
	10			9　植民地支配と植民地の近代 10　20世紀はじめの世界	72～75	・植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 ・20世紀はじめ、帝国主義に対して世界各地の人々はどのような態度を示したのかについて理解する。	・20世紀はじめの帝国主義に対する批判の動きや、その当時の国際関係の再編について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に対する問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	◎	○	
	11	3	7	第3章2節　「第一次世界大戦と大衆社会」 1　大衆社会の時代 2　第一次世界大戦の展開	92～95	・大衆化とは何かを理解する。 ・第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。	・第一次世界大戦において出現した総力戦体制とはどのようなものだったのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	12			3　国際協調体制の形成 4　ソヴィエト連邦の成立と社会主義	96～99	・第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。 ・ソヴィエト連邦の成立と、社会主義運動の拡大について理解する。	・ソヴィエト連邦がどのような経緯のもとに成立し、社会主義国家の成立が世界にどのような影響を与えたのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	13			5　アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6　アジアの経済成長と移動する人々	100～102	・アメリカ合衆国の台頭と大衆文化の広がりについて理解する。 ・アジアの経済成長とそれぞれの地域の結びつきについて理解する。	・アメリカ合衆国の台頭と大量生産・大量消費社会の到来が、世界の人々にどのような影響を与えたのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	14			7　反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8　民主主義の拡大と社会変革の動き	106～109	・反植民地主義の高揚と国際秩序の変容について理解する。 ・世界における民主主義の進展と、日本での展開について理解する。	・民主主義がどのように世界に広がり、日本で大正デモクラシーと呼ばれる風潮を引き起こすことになったのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	15			9　マスメディアの発達と日常生活	110～111	・マスメディアの発達と人々の日常生活の変化について理解する。	・マスメディアの発達と、その影響を受けた人々の日常生活の変化、大衆社会の成立について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	第3章3節　「経済危機と第二次世界大戦」 1　世界恐慌 2　アジア・アフリカと大衆社会	112～117	・世界恐慌が発生した原因とそれに対する各国の対応について理解する。 ・動揺しつつある国際協調体制下での、アジア・アフリカ諸国の人々の対応について理解する。	・国際協調体制の動揺のなかで、アジア・アフリカ諸国の人々がどのように自立化を模索し、大衆運動を活発化させていったのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	17			3　国際協調体制の崩壊 4　日中戦争と深刻化する世界の危機	118～121	・第一次世界大戦後の国際協調体制の崩壊について理解する。 ・日中戦争やファシズムの膨張による世界の危機について理解する。	・日本がどのような経緯で日中戦争をはじめ、また、それがヨーロッパの動きとどのように関わり合っていたかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・国際協調体制の動揺についての問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	◎	
	18			5　第二次世界大戦の勃発 6　第二次世界大戦における連合国と戦後構想	122～125	・第二次世界大戦の勃発とその拡大、および日中戦争との結びつきについて理解する。 ・第二次世界大戦の終結と戦後の国際秩序の形成について理解する。	・イタリアとドイツがどのように無条件降伏をしたか、また、戦後にどのような国際秩序が目指されたのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	19			7　アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8　連合国の占領政策と冷戦	126～129	・アジア太平洋戦争の展開と、日本の敗戦について理解する。 ・連合国の占領政策と冷戦のはじまりについて理解する。	・アジア太平洋戦争下の人々の生活はどのようなものだったのか、また、戦争がどのように展開していくなかで日本が降伏したのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	20			9　再編されるアジアと冷戦	132～133	・冷戦下に再編されたアジア諸地域の動きについて理解する。	・冷戦下にアジアの諸地域で起こったナショナリズムの動きが、世界にどのような影響を与えたのかについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰についての問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	○	◎
	21	5	11	1　冷戦の拡大と第三勢力 2　キューバ危機と核兵器の管理	150～153	・冷戦の拡大と第三勢力の台頭について理解する。 ・冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、および核兵器管理への方針転換について理解する。	・米ソ両国の核開発競争と宇宙開発競争の展開と、キューバ危機をきっかけとした核兵器管理体制への転換について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	22			3　脱植民地化の進展と地域紛争 4　計画経済と開発	154～159	・アジア・アフリカにおける脱植民地化の動きと、それらの地域で起こった地域紛争について理解する。 ・自由主義国、社会主義国、開発途上国の経済政策について理解する。	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・社会主義国の計画経済と西側先進国の福祉国家化、および開発途上国の経済政策と先進国の開発援助について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	23			5　冷戦下の日本とアジア 6　日本と欧米先進国の経済成長	160～163	・冷戦下の日本の国内政治とアジア外交について理解する。 ・欧米先進国と日本の経済成長とそれに伴う社会の変容について理解する。	・欧米先進国や日本の経済成長の特徴と、経済成長がもたらした社会の変容や環境問題について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	24			7　地域連携の拡大	166～167	・ヨーロッパやアジアにおける地域連携の動きについて理解する。	・ヨーロッパで進んだ地域連携の動きやアジアにおける地域連携の特徴について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	25			8　ベトナム戦争と冷戦構造の変容	168～169	・ベトナム戦争と冷戦構造の変容について理解する。	・ベトナム戦争や中ソの対立が世界に与えた影響について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	◎	
	26	6	12	第4章3節　「世界秩序の変容と日本」 1　問い直される近代 2　石油危機と経済の自由化	170～171 174～175	・先進諸国において、近代的な価値観を問い直す動きが現れ、価値観の変容が生じたことについて理解する。 ・石油危機と経済の自由化について理解する。	・ブレトン・ウッズ体制の崩壊や石油危機に対する先進国の対応、その後の日本の経済大国化について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	○
	27			3　アジアの経済発展と日本 4　冷戦の終結と世界	176～179	・東アジア・東南アジア諸国・地域の経済発展について理解する。 ・冷戦の終結と東アジアの分断状況について理解する。	・冷戦終結後の国際政治の変容と課題についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・冷戦の終結に向かったアメリカとソ連、およびヨーロッパ諸国の動きと、東アジアにおける分断状況の継続について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	○	◎
	28			5　拡散する地域紛争 6　民主化の進展	180～181 184～185	・冷戦終結後に世界各地で起きた地域紛争や、それらに対する国際社会の動きについて理解する。 ・世界各国で進んだ民主化の動きと、日本の政権交代について理解する。	・世界各国で進んだ民主化の動きと冷戦の終結の関係や、日本で起こった55年体制の崩壊と政権交代について、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	29			7　グローバル化と地域統合	186～187	・冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。	・冷戦終結後にさまざまなものが国境を越えるようになり、グローバル化が進んだだけでなく、地域統合が進展したことについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	○	◎	
	30			8　岐路に立つ世界と日本	188～189	・グローバル化や地域統合、民主主義が抱えた問題点について理解する。	・グローバル化の進展によって世界が抱えた問題点や、その解決に向けての取り組みについて、ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・冷戦終結後の国際政治の変容と課題についての問いを踏まえて、Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	日本史探究	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	原始・古代～近現代までの日本史について、地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら深く学習する。日本の歴史の流れや歴史的事象のみならず、文化や伝統についても理解し、歴史と現代とのつながりに着目しながら学ぶ。						
学習の到達目標	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。						
	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「日本史探究」（日探701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日								評価の観点		
学期	週	レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。	－	－	－
	1	1	5	第1章　先史社会の生活と文化 1　旧石器時代の日本	8～9	・人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。	・人類の出現や旧石器時代の日本列島に暮らす人々の生活に関する資料を基に、「旧石器時代の日本列島の人々は、いつごろから、どのような環境のもとで、どのような生活を送っていたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、旧石器時代の日本について考察し、表現する。 ・ICT機器を用いるなど、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。Classroomで共有することも可。	◎	○	
	2			2　縄文文化 3　弥生文化と小国家の形成	8～11 14～17	・縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。 ・弥生文化の特色と小国家の形成について理解する。 ・先史社会の展開から古代への時代の転換に着目して、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	・弥生時代の人々の生活に関する資料を基に、「日本列島において、水稲耕作はどのように広まり、その後の社会にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、弥生文化の特色と小国家の形成の関係について考察し、表現する。Classroomで共有することも可。 ・時代の転換について着目し、黎明期の日本列島や先史社会の特色についての考察などをふまえ、時代を通観する問いを表現する。Metamoji上で問題を配布するなど、小単元の学習を振り返る。	○	◎	○
	2			第2章　歴史資料と先史・古代の展望 1　先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 3　木簡が語る律令国家の実態	18～19 22～23	・先史・古代の歴史を組み立てる資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、先史・古代の歴史を組み立てる資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の資料の特質について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ・木簡から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、木簡を通して読み取れる情報から、古代国家の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・木簡から、古代国家の特色を示す情報を読み取る。 ・木簡から読み取った情報をふまえ、「木簡は、律令国家の解明にどのような役割をはたす上でなってきたのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	◎	○	○
	3			第3章　古代社会の形成と展開 1節　律令国家の形成と古代文化の展開 1　大和王権と古墳文化 2　飛鳥の朝廷と文化	24～33	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「大和王権と古墳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、古墳時代の政治と文化について理解する。 ・主題を基に、2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、飛鳥時代の政治と文化について理解する。	・2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『日本書紀』や現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、飛鳥時代の政治と文化について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
	3	2		3　律令国家の形成と白鳳文化 4　平城京と天平文化	34～39 41～47	・主題を基に、3項「律令国家の形成と白鳳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、律令国家の形成過程と律令制の特徴について理解する。 ・主題を基に、4項「平城京と天平文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、奈良時代の政治と文化について理解する。 ・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	・4項「平城京と天平文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『続日本紀』や絵図、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、奈良時代の政治と文化について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	◎	○
	4			2節　摂関政治と貴族文化 1　平安遷都と唐風文化 2　貴族社会と摂関政治	50～58	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「摂関政治と貴族文化」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「平安遷都と唐風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、平安時代初期の政治と文化について理解する。 ・主題を基に、2項「貴族社会と摂関政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、藤原氏の台頭と武士の出現について理解する。	・2項「貴族社会と摂関政治」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、公家の日記や絵図などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、藤原氏の台頭と武士の出現について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	◎	○	○
	4			3　国風文化	60～63	・主題を基に、3項「国風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、国風文化の特色について理解する。 ・2節「摂関政治と貴族文化」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。	・3項「国風文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の日記や編纂物、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、国風文化の特色について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2節「摂関政治と貴族文化」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。 ・第１編「先史・古代の日本と東アジア」の学習を振り返り、次の学習へのつながりについて考察し、ワークシート等に表現する。	○	◎	○
	5			第2編　中世の日本と世界 第1章　中世社会の成立 1　朝廷政治の変容 2　武士の政治進出	66～73	・院政の開始と展開、土地支配の変容について理解する。 ・武士の社会進出と平氏政権の誕生、およびその時代の外交と文化の特色について理解する。 ・古代から中世への時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	・武士の政治進出に関する資料を基に、「朝廷の政治のなかで、武士はどのようにして力をもつようになったのだろうか」などの課題（問い）を設定し、武家政権の誕生や、同時代の外交・文化の特色について考察し、表現する。 ・第１章での学習や、中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして、古代から中世への時代の転換を示す指標や事象について考察する。 ・時代の転換について着目し、中世の特色についての考察などをふまえ、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	○
	5			第2章　歴史資料と中世の展望 1　武家権力による日本社会の変容 2　厳しい自然環境での人々の生存戦略	74～77	・武家権力による日本社会の変容に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、武家権力による日本社会の変容に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ・厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する	・厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から、中世の特色を示す情報を読み取る。 ・厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から読み取った情報をふまえ、「中世の人々の暮らしはどのようなものだったのだろうか」「人々にとって、荘園領主たちはどのような存在だったのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○
	6		6	3　中世日本の国際交流	78～79	・中世日本の国際交流に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・中世日本の国際交流に関する資料から、中世の特色を示す情報を読み取る。 ・中世日本の国際交流に関する資料から読み取った情報をふまえ、「中世の日本をとりまく国際交流にはどのような特徴がみられるだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○
	6			第3章　中世社会の展開 1節　武家政権の成立と朝廷 1　鎌倉幕府の誕生 2　執権による政治	80～84 86～89	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「鎌倉幕府の誕生」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の支配のしくみについて理解する。 ・主題を基に、2項「執権による政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、執権政治の特色について理解する。	・2項「執権による政治」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『吾妻鏡』や絵図などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、執権政治の特色について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	◎	○	○
	7			3　モンゴル襲来と社会の変貌 4　鎌倉の仏教と文化	90～96	・主題を基に、3項「モンゴル襲来と社会の変貌」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、モンゴル襲来と鎌倉時代の社会の変化について理解する。 ・主題を基に、4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉時代の仏教と文化について理解する。 ・1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。	・4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の書物や絵画、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、鎌倉時代の仏教と文化について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・1節「武家政権の成立と朝廷」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	◎	○

面接指導実施日								評価の観点		
学期	週	レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期		3		2節　武家支配の広がりと国際交流 1　南北朝の動乱と室町幕府の成立 2　倭寇と東アジア国際交流	98～105	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「武家支配の広がりと国際交流」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。 ・主題を基に、2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の対外関係について理解する。	・2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、絵画や遺物などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、室町時代の対外関係について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
	8			3　室町時代の社会と経済活動 4　自立する戦国大名	106～108 110～114	・主題を基に、3項「室町時代の社会と経済活動」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の社会について理解する。 ・主題を基に、4項「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、戦国大名の分国支配と都市の発達について理解する。	・4項「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の記録や分国法などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、戦国大名の分国支配と都市の発達について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
				5　室町文化	116～120	・主題を基に、5項「室町文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町文化の特色について理解する。 ・2節「武家支配の広がりと国際交流」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。	・5項「室町文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の記録や現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、室町文化の特色について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2節「武家支配の広がりと国際交流」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。 ・第２編「中世の日本と世界」の学習を振り返り、次の学習へのつながりについて考察し、ワークシート等に表現する。	○	◎	○
	9	3	6	第3編　近世の日本と世界 第1章　近世社会の形成 1　地球的世界の形成と日本	124～126	・アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が日本に及ぼした影響について理解する。	・アジア各地やヨーロッパ諸国と日本の交流に関する資料を基に、「鉄砲やキリスト教が日本に伝わることで、どのような変化が生じたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の社会の変容について考察し、表現する。	○	◎	
				2　織豊政権による全国統一 3　桃山文化	128～133	・織豊政権による全国統一と、その政策の目的や意義について理解する。 ・桃山文化の特色について理解する。 ・中世から近世への時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	・桃山文化に関する資料を基に、「桃山文化の新しさには、どのようなものがあげられるだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の文化の変容について考察し、表現する。 ・第１章での学習や、中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして、中世から近世への時代の転換を示す指標や事象について考察する。 ・時代の転換について着目し、近世の特色についての考察などをふまえ、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	
	10			第2章　歴史資料と近世の展望 1　参勤交代と幕藩体制	134～135	・参勤交代と幕藩体制に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、参勤交代と幕藩体制に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・参勤交代と幕藩体制に関する資料から、近世の特色を示す情報を読み取る。 ・参勤交代と幕藩体制に関する資料から読み取った情報をふまえ、「近世の武士がつくりあげた支配のしくみは、どのようなものだったのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○
				2　百姓たちの生活世界 3　江戸時代の対外関係	136～139	・百姓たちの生活世界に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、百姓たちの生活世界に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ・江戸時代の対外関係に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、江戸時代の対外関係に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・江戸時代の対外関係に関する資料から、近世の特色を示す情報を読み取る。 ・江戸時代の対外関係に関する資料から読み取った情報をふまえ、「近世の日本は、海外とどのように接点を持っていたのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○
	11	4	7	第3章　近世社会の展開 1節　幕藩体制の確立 1　江戸幕府と大名・朝廷 2　近世の身分と人々の暮らし	140～147	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「幕藩体制の確立」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「江戸幕府と大名・朝廷」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の支配のしくみについて理解する。 ・主題を基に、2項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、近世の身分と村や町での生活について理解する。	・2項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の人々を描いた絵画などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、近世の身分と村や町での生活について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
				3　アジアのなかの幕藩体制 4　武断政治から文治政治へ	150～154 156～157	・主題を基に、3項「アジアのなかの幕藩体制」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の対外政策について理解する。 ・主題を基に、4項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、幕府政治の転換について理解する。	・4項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の幕府の政策に関する資料などから読み取る。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、幕府政治の転換について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
	12			5　幕藩体制下の社会の発展	158～159	・主題を基に、5項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、産業の発達と文化の興隆について理解する。 ・1節「幕藩体制の確立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。	・5項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の絵画や出版物、現存する文化財などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、産業の発達と文化の興隆について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・1節「幕藩体制の確立」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	◎	○
				2節　近世社会の成熟と幕藩体制の動揺 1　享保の改革と経済の発展 2　近世社会の成熟と危機の始まり	166～168 170～174	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「享保の改革と経済の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、享保の改革と経済の発展について理解する。 ・主題を基に、2項「近世社会の成熟と聞きの始まり」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀中後期の政治・社会・文化について理解する。	・2項「近世社会の成熟と危機の始まり」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、18世紀中後期の文化や飢饉・一揆に関する資料などから読み取る。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、18世紀中後期の政治・社会・文化について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
	13			3　幕藩体制の立て直し 4　幕藩体制の動揺	175～185	・主題を基に、3項「幕藩体制の立て直し」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀末～19世紀初頭の政治・社会・文化について理解する。 ・主題を基に、4項「幕藩体制の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、19世紀前半の政治・社会・文化について理解する。 ・2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色を理解する。 ・時代を通観する問い、仮説をふまえて、近世の特色および近代へのつながりについて多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近世の日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	・4項「幕藩体制の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、幕府や藩の政策や当時の絵画などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、19世紀前半の政治・社会・文化について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。 ・第３編「近世の日本と世界」の学習を振り返り、歴史総合の学習をふまえ、近代につながる諸要素について考察し、ワークシート等に表現する。	○	◎	
		5		第4編　近現代の地域・日本と世界 第1章　近代社会の幕開け 1　開国と開港 2　幕府の崩壊と明治維新	188～197	・開国と開港による日本のさまざまな変化について理解する。 ・江戸幕府の崩壊から明治維新に至る過程について理解する。 ・近世から近代への時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	・幕府の崩壊から明治維新に関する資料を基に、「どのように江戸幕府は倒れ、新政府が成立したのだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の政治の変容について考察し、表現する。 ・第１章での学習や、「歴史総合」における学習の成果を活用するなどして、近世から近代への時代の転換を示す指標や事象について考察する。 ・時代の転換について着目し、近代の特色についての考察などをふまえ、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	
	14			第2章　歴史資料と近現代の展望 1　資本主義の発展と生活 2　国民国家と政治参加	198～201	・資本主義の発展と生活に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、資本主義の発展と生活に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ・国民国家と政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、国民国家と政治参加に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・国民国家と政治参加に関する資料から、近現代の特色を示す情報を読み取る。 ・国民国家と政治参加に関する資料から読み取った情報をふまえ、「近現代日本の人々はどのようにして国家の一員としての意識を持つようになったのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○
				3　世界のなかの近現代日本	202～203	・世界のなかの近現代日本に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・第１章で立てた時代を通観する問いをふまえ、世界のなかの近現代日本に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	・世界のなかの近現代日本に関する資料から、近現代の特色を示す情報を読み取る。 ・世界のなかの近現代日本に関する資料から読み取った情報をふまえ、「近現代の日本は、世界とどのようにつながっていたのだろうか」「また、これまでの時代からどのように変化したのだろうか」などの教師の問いかけを基に、第１章で立てた時代を通観する問いに対する仮説を表現する。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	15			第3章　近現代社会の展開 1節　近代的制度の導入と新しい国際関係 1　制度改革と殖産興業政策 2　文明開化と教育制度の整備	204～209	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「制度改革と殖産興業政策」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の諸政策とその意義について理解する。 ・主題を基に、2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の文化・教育の進展について理解する。	・2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の出版物や絵画などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、明治初期の文化・教育の進展について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
				3　東アジア世界のなかの明治政府 4　政府専制への批判	210～217	・主題を基に、3項「東アジア世界のなかの明治政府」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の対外政策について理解する。 ・主題を基に、4項「政府専制への批判」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、自由民権運動の展開について理解する。 ・1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との国際関係を理解する。	・4項「政府専制への批判」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、法令の条文や風刺画などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、自由民権運動の展開について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	◎	○
	16			2節　国民国家と資本主義の成立 1　立憲政治の成立	218～220	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「立憲政治の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、立憲制の確立について理解する。	・2節「国民国家と資本主義の成立」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「立憲政治の成立」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、大日本帝国憲法や諸法典の条文などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、立憲制の確立について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
				2　対外関係の変容と日清戦争	222～225	・主題を基に、2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、条約改正交渉と日清戦争の経緯について理解する。	・2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、結ばれた条約などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、条約改正交渉と日清戦争の経緯について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
	17	6		3　産業革命と資本主義の定着	226～228	・主題を基に、3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。	・3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真やグラフなどの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
				4　教育制度の整備と新しい文化	230～233	・主題を基に、4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、教育の普及と文化の発展について理解する。	・4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、出版物や絵画などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、教育の普及と文化の発展について多面的・多角的に考察し、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
	18			5　日露戦争と帝国日本	234～237	・主題を基に、5項「日露戦争と帝国日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日露戦争の経過と日本の帝国主義の進展について理解する。	・5項「日露戦争と帝国日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、外交文書や写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、日露戦争の経過と日本の帝国主義の進展について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
				6　日露戦争後の社会と政治	238～239	・主題を基に、6項「日露戦争後の社会と政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀初頭の政治と社会について理解する。 ・2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解する。	・6項「日露戦争後の社会と政治」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事や写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、20世紀初頭の政治と社会について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2節「国民国家と資本主義の成立」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	◎	○
	19		10	3節　両大戦間期の日本 1　都市化・重工業化と生活の変化	240～244	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、3節「両大戦間期の日本」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第一次世界大戦と当時の産業や文化の発展について理解する。	・3節「両大戦間期の日本」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、出版物や写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、第一次世界大戦と当時の産業や文化の発展について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
				2　政党政治とデモクラシー	246～249	・主題を基に、2項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の政治と社会運動の高まりについて理解する。	・2項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、法令や出版物、写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、大正期の政治と社会運動の高まりについて多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
	20	7		3　国際社会のなかの日本	250～253	・主題を基に、3項「国際社会のなかの日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の日本の対外政策について理解する。 ・3節「両大戦間期の日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。	・3項「国際社会のなかの日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、条約や新聞記事などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、大正期の日本の対外政策について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・3節「両大戦間期の日本」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	○	◎
				4節　第二次世界大戦と日本 1　昭和恐慌と立憲政治の動揺	254～257	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、4節「第二次世界大戦と日本」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、昭和恐慌前後の経済政策と立憲政治の動揺について理解する。	・4節「第二次世界大戦と日本」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事や写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、昭和恐慌前後の経済政策と立憲政治の動揺について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
	21			2　中国侵略と戦時体制への移行	258～261	・主題を基に、2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、満洲事変と日中戦争について理解する。	・2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事や写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、満洲事変と日中戦争について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	
				3　戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開	262～268	・主題を基に、3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第二次世界大戦とアジア太平洋戦争について理解する。 ・4節「第二次世界大戦と日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	・3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の国際関係や政策などに関する資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、第二次世界大戦とアジア太平洋戦争について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・4節「第二次世界大戦と日本」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	○	◎
	22			5節　占領と改革 1　占領と日本国憲法の成立	270～275	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、5節「占領と改革」の学習について見通しを持つ。 ・占領統治の始まりから日本国憲法の制定の全体像を理解する。	・5節「占領と改革」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「占領と改革」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や憲法などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、占領下の政治と日本国憲法の成立について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
		8	11			・主題を基に、1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	・1項「日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や憲法などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、占領下の政治と日本国憲法の成立について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	23			2　冷戦の開始と経済復興	276～279	・主題を基に、2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、冷戦の開始と経済復興について理解する。	・2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や政策に関する資料などから読み取る。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、冷戦の開始と日本の復興について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
						・5節「占領と改革」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	・特に経済復興に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や政策に関する資料などから読み取る。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、冷戦の開始と日本の復興について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・5節「占領と改革」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	○	◎
	24	8	11	6節　国際社会への復帰と高度経済成長 1　国際社会への復帰と対米協調	280～285	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について見通しを持つ。	・6節「国際社会への復帰と高度経済成長」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・特に、日本の主権回復とその後の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
						・主題を基に、1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日本の主権回復とその後の政治について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	・1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、さまざまな条約の条文などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、日本の主権回復とその後の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
	25			2　高度経済成長	286～289	・主題を基に、2項「高度経済成長」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長とその影響について理解する。	・6節「国際社会への復帰と高度経済成長」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・特に高度経済成長に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、さまざまな条約の条文などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、日本の主権回復とその後の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
						・6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	・6節「国際社会への復帰と高度経済成長」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・特に「国際社会への復帰」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、さまざまな条約の条文などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、日本の主権回復とその後の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
	26	9	12	7節　アジア情勢の変化と経済大国日本 1　1970年代の国際社会と日本	292～293	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について見通しを持つ。	・「アジア情勢の変化と経済大国日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、対外政策に関するや写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、1970年代の世界と日本の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
						・主題を基に、1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、1970年代の世界と日本の政治について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	・1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、対外政策に関するや写真などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、1970年代の世界と日本の政治について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
	27			2　安定成長への転換	294～298	・主題を基に、2項「安定成長への転換」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長後の政治と経済について理解する。 ・7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組みを理解する。	・2項「安定成長への転換」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事やグラフなどの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、高度経済成長後の政治と経済について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。	○	○	◎
	28			8節　新しい国際秩序と日本の課題 1　激変する世界と日本	300～303	・時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について見通しを持つ。 ・主題を基に、1項「激変する世界と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀末の世界と日本の動きについて理解する。	・8節「新しい国際秩序と日本の課題」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「激変する世界と日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真やグラフなどの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、20世紀末の世界と日本の動きについて多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
				2　21世紀の日本	304～306	・主題を基に、2項「21世紀の日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、21世紀の政治と経済について理解する。 ・8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。	・2項「21世紀の日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真や新聞記事などの資料から読み取る。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・課題（問い）について生徒相互で話し合うなどして、21世紀の政治と経済について多面的・多角的に考察し、その結果をICT機器を用いり、metamojiを活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・「新しい国際秩序と日本の課題」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。 ・第４編「近現代の地域・日本と世界」の学習を振り返り、近現代を通した歴史の	○	○	◎
						・時代を通観する問い、仮説をふまえて、近現代の特色および現代の日本の課題について多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近現代の地域・日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	・「新しい国際秩序と日本の課題」の学習内容を振り返り、自分が立てた主題について諸資料を活用して考察し、その結果や画期についてワークシート等に表現する。 ・第４編「近現代の地域・日本と世界」の学習を振り返り、近現代を通した歴史の画期を考察し、ワークシート等に表現する。	○	○	◎
	29			4章　現代の日本の課題の探究 1　社会や集団と個人	308～309	・「社会や集団と個人」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	・「社会や集団と個人」をテーマに、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「人はどのようなつながりのなかで生きているのだろうか」などの主題を設定し、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。その結果を、論文やレポートなどにまとめ、プレゼンテーション等をおこなう。	○	○	◎
	30			2　世界のなかの日本	310～311	・「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して自分の意見を持つ。	・「世界のなかの日本」をテーマに、持続可能な社会の実現を視野に入れ、、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。その結果を、論文やレポートなどにまとめ、プレゼンテーション等をおこなう。	○	○	◎
						・「世界のなかの日本」をテーマに、日本の国際協力はどうあるべきか、について、これまでの知識などを活かし、自分の意見をまとめ、表現することができる。	・「世界のなかの日本」をテーマに、「日本の国際協力はどうあるべきだろうか」などの主題を設定し、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。その結果を、論文やレポートなどにまとめ、プレゼンテーション等をおこなう。	○	○	◎
				3　伝統や文化の継承と創造	312～313	・「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	・「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「伝統文化はなぜ大切なのか」などの主題を設定し、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。その結果を、論文やレポートなどにまとめ、プレゼンテーション等をおこなう。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	公共	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	法律や消費者の権利、社会参画等について学習する。現代に起きている様々な問題を解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きるために必要な資質・能力を学ぶ。						
学習の到達目標	1、現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 2、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを 議論する力を養う。 3、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2　東書　公共701　公共」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。			
	2	1	5	青年期の自己形成の課題 自己形成と社会への参画	P10～13	・青年期の特徴や発達課題の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について調べて考える。 ・現代社会で生きる上で、何が課題なのか、現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義について理解する。 ・キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について知る。	・『青年期の特徴』に関しては、自身の経験や特徴・捉え方とも重ね合わせながら、自己理解にも繋がるように考えさせられると良い。	○	◎	○
	3	1	5	個人として尊重される人間 社会的な存在としての人間 伝統・文化のなかの人間	P14～21	・自由についてのカントの道徳法則、J.S.ミルの自由についての考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に調べて考える。 ・アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の思想の理解を手がかりに、社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について調べて考える。 ・丸山真男の考え方、「公」と「私」の捉え方などを手がかりに、ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し、そこにおける課題を調べて考える。	・『丸山真男の考え方』に関しては、Classroomを使用しながら意見を共有すると良い。また、必要に応じてグループワークなども活用し、意見をまとめさせると尚良い。	◎	○	○
	4	1	5	功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理	P22～25	・行為選択の理由づけについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ・目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解する。 ・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。 ・義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解する。 ・社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方を理解する。 ・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	・『先人の思想』に関しては、功利主義と幸福の原理、義務論と公正の原理などのそれぞれの思想から、課題解決を個人で考えさせる。その後、ICTツールを活用して、自らの考えを他者と共有しながら議論を進められると良い。	○	○	◎
	5	1	5	活用　生命倫理について考える 活用　環境倫理について考える	P26～35	・生命科学の進歩がもたらしたエンハンスメントとその倫理的課題について理解する。 ・功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスメントについて、考察し議論する。 ・人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題にかかわる思想や環境倫理について理解する。 ・功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境についての倫理的課題について、考察し議論する。	・『功利主義と義務論』では学んだ考え方を元に、自分の意見を考えられるような促しができると良い。その上でMetamoji等を利用しながら、全体で課題について書き出したり、共有できると尚良い。	○	○	◎
	6	2	6	公共的な空間における協働とは 民主主義とは	P36～41	・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題ついて理解する。 ・社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する。	・それぞれの課題について理解を深めるために、要点をまとめた資料をClassRoomやMetamojiで共有しながら考えさせると良い。	○	◎	○
	7	2	6	立憲主義とは 人権保障の意義と展開	P42～55	・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景も踏まえながら理解する。 ・立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について調べて考える。 ・公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。	・人間の尊厳と平等についての考え方がどのように変化してきたのかを考えさせる声かけがあると良い。時系列の考え方の変化をMetamojiやGoogleスライド等を使用し、個人でまとめさせると尚良い。	○	◎	○
	8	2	6	民意を反映した政治を実現するには？ 私たちの民主政治	P56～61	・民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解する。 ・国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に調べて考える。 ・政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。	・国民投票のメリット・デメリットに関しては、Metamojiを使用しながら、タイムリーに共有すると良い。	○	◎	○
	9	2	6	地方自治のしくみと役割 国会のしくみと役割	P62～69	・民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解する。 ・国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に調べて考える。 ・政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。	・学んだ内容を踏まえて、政治運営の現状と課題をMetamojiやGoogleスライド等を活用して、まとめさせると良い。	○	◎	○
	10	2	6	内閣のしくみと役割 政治参加と選挙	P70～75	・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について調べて考える。 ・政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について調べて考える。	・行政権が肥大化した原因や現在の課題を調べて考え、共有を促すと良い。 ・日本の選挙制度が有権者の意思をよりよく反映されるものであるのか、どうなのか？またもっと良くするにはなどを考えさせると良い。グループワークを通して考えや意見が深められると尚良い。	○	◎	○
	11	2	6	政党と利益集団 メディアと世論	P76～83	・民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解する。 ・民主政治における政党や利益集団の役割、政治資金にかかわる課題について調べて考える。 ・民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解する。 ・世論形成に及ぼすメディアの役割、正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について調べて考える。	・『民主政治』・『世論形成』に関しては、グループワークをして、Metamoji等で情報をタイムリーに共有できると良い。グループごとで項目を分けて詳しく調べさせても良い。	○	◎	○
	12	3	7	法は私たちの生活にどのようにかかわるのか？ 法と社会規範の役割 法の成立と適用	P84～91	・法や規範の意義や役割を考えるために、「観光地での食べ歩き」に関する法規制の事例や海外の事例を理解する。 ・観光地での食べ歩きの法規制について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解する。 ・法の性格や役割、法の分類、法がその成立の歴史や対象などによって区分されることについて調べて考える。 ・法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解する。 ・民事裁判、刑事裁判の手続きの特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について調べて考える。	・『法や規範の意義や役割』に関しては、まずは”食べ歩きにおけるトラブル”について考えさせても良い。個人で考えさせた後にMetamojiを使用し、意見を共有すると尚良い。それぞれ問題意識から食べ歩きの法規制などを考えさせられると、理解が深まる。	○	◎	○
	13	3	7	現代の市民生活における私法の役割と意義は何か？ 市民生活と法	P92～95	・市民生活における私法の役割と意義に関連して、インターネットによる契約の特性や転売について理解する。 ・転売仲介サイトで不正なチケットが届いた場合の対処について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解する。 ・私法の三つの原則の意義、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について調べて考える。	・私法に関しては、身近な例を具体的に挙げて考えられると良い。例えば、隣の家の柿を食べていいのか？など取り組みやすい課題を提示し、Metamojiで意見を共有すると良い。	○	◎	○
	14	3	7	多様な契約 消費者の権利と責任	P96～101	・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ・契約の種類とその特色、契約自由の修正が必要な理由について考察する。 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解する。 ・消費者契約や消費者法制が、消費者の権利とその尊重、自立の支援を目指していることについて具体的な例を調べて考える。	・契約や消費者の権利は、Classroomで課題の小テストを実施すると良い。一番身近な知識として定着できるように促してあげられると良い。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	15	3	7	国民が司法に参加するうえで 考えるべきことは何か？ 司法としくみと役割 刑事司法と司法参加の意義	P102～111	・裁判員と死刑制度、死刑制度の合憲性と世論、国際社会における死刑制度について理解する。 ・裁判員として死刑の判断を下すことの是非について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解する。 ・司法権の独立、三審制、違憲審査権の意義について調べて考える。 ・刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解する。 ・刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について調べて考える。	・『裁判員』に関しては、実際に裁判員として、自分だったらどのように考えるのかを考え、それをグループワークで議論や考えを深められると良い。	○	◎	○
後期	16	4	10	公正で自由な経済活動のために 政府の役割はどうあるべきか？ 私たちの経済 市場経済のしくみ	P112～121	・市場を公正で効率的に働かせるための規制に関連して、タクシー事業の現状について理解する。 ・タクシー事業の規制のあり方について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・経済循環については、「家計」を中心にして、「政府」「企業」との関係を理解する。 ・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることとの関係について調べて考える。	・『市場メカニズム』に関しては、MetamojiやGoogleスライド等を使いながら個人で学習内容をまとめさせると良い。市場のメカニズムや政府の役割がわかるように絵に描いて関係性などを見える化してあげられると尚良い。	○	◎	○
	17	4	10	国民所得と経済成長 金融はどのような役割をになっているのだろうか？	P122～127	・経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・景気変動や物価の変動、インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか調べて考える。 ・起業家にとっての資金調達と直接金融、間接金融、クラウドファンディングなどの新たな資金調達について理解する。 ・起業家は資金提供者に対してどのような情報を発信すべきか、多面的・多角的に考察し議論する。	・『起業家』に関しては、自分が起業するとしたら…という視点で意見を考えさせると良い。必要な情報をMetamojiを使いながら全体で共有すると良い。	○	○	◎
	18	4	10	金融のしくみ 中央銀行の役割と金融環境の変化	P128～133	・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付く。 ・中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・金融政策の近年の動向、金融の自由化と金融商品の多様化に伴ってどのような課題があるか調べて考える。	・『金融と金融システム』に関しては、身近な金融サービスを考えさせる。自分が知っているサービスが生活にどのように関わっているかを考えさせてあげられると良い。	◎	○	○
	19	4	10	「持続可能な財政」を実現するためにどうするべきだろうか？ 財政の働き	P134～137	・諸外国と比べた日本の財政規模、財政危機の原因について、資料を手がかりに理解する。 ・財政の課題を解決し持続可能な財政とするために、多面的・多角的に考察し議論する。 ・財政の三つの機能、財政政策、財政のしくみや租税法律主義などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・財政と財政政策を通じて、経済政策や福祉政策その他の政策が行われていることを理解する。	・『諸外国と比べた日本』に関しては、現在の財政状況を根拠に基づいてまとめさせる。根拠に関しては図や数値を利用し、MetamojiやGoogleスライド等でまとめさせると良い。	○	◎	○
	20	4	10	財政の課題 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから	P138～145	・租税の分類、課税の原則、国債の役割、財政問題と財政危機について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・財政問題については、資料を読み取りながら問題解決の方向性について調べて考える。 ・社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度について、実生活とのかかわりも含めて理解する。 ・社会保障制度の意義について、多面的・多角的に調べて考える。 ・少子高齢化の進む日本の現状、社会保障の財源確保、社会保障と経済の活性化とのかかわりなどについて理解する。 ・少子高齢化の進展の中で、今後の社会保障制度をどのように展望するか諸外国の例も参考に考える。	・『社会保障』に関しては、現在の社会保障制度を踏まえ、今後どのような対策が必要か？自分ならどうするか？等を考え、発表や全体議論ができると良い。	○	◎	○
	21	5	11	これからの時代の職業選択をどのように考えればよいのだろうか？ 働くということ 多様な職業選択	P146～151	・産業革命の変遷と日本が目指す新しい社会「Society5.0」について理解する。 ・技術革新が進むなかでの職業選択について、多面的・多角的に考える。 ・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ・技術革新の進展のなかで、今後の職業や労働がどのように変化していくのか、そこにおける課題について調べて考える。 ・職業選択のポイント、多様化するキャリア選択、キャリア形成の課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。	・『技術革新』に関しては、働き方の変化について”技術革新”がきっかけになっていることに気づかせる声かけをする。技術革新によって今後どのような変化が起こるのか？を考えさせてあげられると良い。	○	◎	○
	22	5	11	望ましい労働環境を実現するために 必要な取り組みは何か？ 労働者の権利 現代の雇用・労働問題	P152～157	・労働条件の最低基準を定める法令が存在するものの、「過労死」や「ブラック企業」が問題になっている状況を理解する。 ・「過労死」をなくす対策について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・資本主義社会における労働契約の特性、労働者の権利と労働三法の内容、労働条件改善に向けた課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ・労働契約の特性を踏まえて、労働者の権利保障が必要であることについて調べて考える。 ・雇用環境の変化、現代のさまざまな労働問題、働きやすい労働環境について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ・仕事と家庭生活の両立、男女格差の解消、安定した雇用などにかかわる課題とその解決の方向性について調べて考える。	・『労働条件』に関しては、なぜ？このような状況なことが起こるのか？を深掘りして考えさせてあげられると尚良い。	○	◎	○
	23	5	11	国際社会の課題を解決するためにどのようなルールが必要か？ 国際社会の成り立ち	P158～163	・有限な資源を将来にわたってどのようなルールの下で維持・管理するのか、漁業をめぐる国際社会の課題を理解する。 ・漁業資源の国際的な管理のあり方について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・国家間の利害が錯綜する課題解決としてのルールや国際協力を第５章で学ぶ他の課題についても生かせるようにする。 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ・国際社会において国家間のさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に調べて考える。	・『国際社会』に関しては、国際社会に目を向け、広い視点でルールを考えられるようにする。具体的な例を取り上げながら、国家間でのルールを考えられると尚良い。	○	◎	○
	24	5	11	国際連合の役割 国際社会の平和と安全を実現するには？	P164～167	・集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ・世界の平和と安全に国連の果たす意義と課題について調べて考える。 ・核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約の採択と批准、INF全廃条約の失効などから理解する。 ・核軍縮が進まない理由を、多面的・多角的に考察し議論する。	・『核軍縮』に関しては、日本だけでなく諸外国も含めて世界規模の全体で考える。Metamojiで情報をタイムリーに共有しながら、全体で議論ができると良い。	○	○	◎
	25	5	11	日本の平和主義と冷戦 冷戦後の世界と日本	P168～173	・平和主義と日本国憲法第９条、自衛隊と日米安全保障、戦後日本の防衛政策について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊の海外派遣などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに、今後の安全保障の課題について追究する。	・『日本の安全保障政策』に関しては、これからの安全保障政策についてそうしていけばいいのか？という視点でClassroom等で課題を配布する。取り組んだ課題に対して、教員はフィードバックを行う。	○	◎	○
	26	6	12	国際社会における責任ある行動とは何か？ 現代の紛争とその影響	P174～177	・主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について、ルワンダ内戦、コソボ紛争を例に理解する。 ・人権保護のための他国や国際機関の武力介入について、多面的・多角的に考察し議論する。 ・現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。 ・紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やＮＧＯなどの取り組みが求められていることを理解する。	・『人権保護』に関しては、他国や国際機関の武力介入についてどのように思うのかをグループで話し合い、意見をMetamoji等でまとめさせると良い。武力介入以外は？など、その他の解決方法なども考えさせられると尚良い。	○	◎	○
	27	6	12	平和な国際社会に向けて 経済のグローバル化は現代社会にどのような影響をもたらしたか？	P178～183	・平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論する。 ・拡大するサービス貿易、「プラットフォーマー」の国境をこえた展開を例に、経済のグローバル化の現状と課題について理解する。 ④「プラットフォーマー」の進出に伴う課題について、多面的・多角的に考察し議論する。	・『平和憲法』に関しては、国際平和に向けて日本が行うべきことを考えさせてあげられると良い。 Metamojiで全体で情報を共有しながら議論ができると尚良い。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	28	6	12	貿易のしくみ 国際金融のしくみと動向	P184～189	・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも 関連させながら理解する。 ・リカードの比較生産費説の概要、国際収支統計から分かる経済取引の状況について理解する。 ・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・為替相場の変動が貿易取引や金融の動きにも影響を及ぼすことを理解する。	・『為替相場』に関しては、グループで為替相場の変動によってどのような影響があるかをまとめさせると良い。Metamojiなどで情報を共有できると尚良い。	○	◎	○
	29	6	12	グローバル化と今日の国際経済 国際経済の諸課題	P190～197	・現在の国際経済秩序とその動き、地域統合の歴史と現在、台頭する新興国の動きなどについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・国際経済の秩序や動きは、経済だけでなく政治的な要因も含めて、さまざまな関係の中で展開していることを理解する。 ・南北問題の背景と推移、人口・食料問題、格差の是正に向けた取り組みについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・構造的な問題としての南北問題、人口・食料問題の解決には、どのような取り組みが考えられるか考察し議論する。	・『構造的な問題』に関しては、「国際的なマクロな視点」と「自分にできることのミクロな視点」の両視点で考えられるよう促すと良い。グループで考えさせ、Metamojiで情報を共有すると尚良い。	○	○	◎
	30	―	―	探究のイメージをつかもう 探究プロセス	P198～211	・現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり、 調べたりして考える。 ・探究の結果や自分の主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりする。	・グループに分かれ、テーマを設定しMetamojiやClassroomを使用して発表させる。教員はその発表に対して、学習が深まるようフィードバックを行うと尚良い。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	政治・経済	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	政治や経済活動、税金の意義等を学習する。正解が一つではない社会課題を把握し、解決するための学習態度を身に付けながら、自立し主体的に生きる力や他者の意見をまとめる力を学ぶ。						
学習の到達目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得する。						
	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論を活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握する力や説明する力、身に付けた判断基準を根拠に構想する力、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。						
	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 政経」(701 政治経済)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や、政治経済を学ぶうえでの到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、生徒にclassroomなどを通じて配布する	－	－	－
	2	1	5	民主政治の基本原理	P6～25	・政治の役割や、民主政治において権力分立がなぜ重要か理解する。 ・議院内閣制と大統領制の違いや各国の政治体制を理解し、よりよい民主政治のあり方について考える。	・『議院内閣制と大統領制』においては、国ごとの特色などをグループワークでICTツールを活用してまとめ、共有・発表等の活動に繋げられると良い。	○	◎	○
	3	1	5	18歳からの社会参加① 18歳になるとできること	P14	・成年年齢が変更された背景について理解する。 ・青年をむかえたらどのような点に留意するべきか考える。	・『青年』においては、classroomなどを活用し、他者との意見交換や、他者の意見を知る機会をつくられると良い。	○	◎	○
	4	1	5	日本国憲法の制定と基本原理 平和主義	P26～47	・大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解する。 ・憲法改正に関する議論について考える。 ・憲法9条をめぐる意見の対立や、日本の安全保障体制の変化について理解する。 ・平和主義の下、今後の日本の安全保障はどうあるべきか考える。	・『平和主義』においては、沖縄の歴史や米軍基地にまつわる現状なども扱いながら、自分の考えを深められると良い。	○	◎	○
	5	1	5	基本的人権の保障	P31～41	・基本的人権と自分の生活との関係、新しい人権の確立が求められている背景について理解する。 ・「公共の福祉」という考え方は、どのような場合に適用されるべきか考える。	・「ネット社会とプライバシーの権利」「性の多様性と平等権」等の人権が対立する場面を想定させ、自己の考えを発表することで、他者の意見について知る機会があると良い。	○	◎	○
	6	1	5	国会と立法 内閣と行政	P48～51 P52～55	・国会の権限や組織、運営について理解する。 ・日本の国会の課題を学び、課題の解決方法について考える。 ・内閣の権限、内閣と国会の関係について理解する。 ・日本の行政の課題を学び、課題の解決方法について考える。	・『国会』においては、日本の国会の課題である男女平等をどのように解決するとよいか、グループで話し合いの活動ができると良い。	◎	○	○
	7	1	5	裁判所と司法 地方自治	P56～61 P62～65	・司法権の独立の必要性、裁判のしくみ、裁判員裁判について理解する。 ・日本の司法の課題を理解し、どのように解決するか考える。 ・地方自治の規定や住民の権利について理解する。 ・日本の地方自治の課題を理し、どのように解決するか考える。	・『司法権の独立』においては、裁判員制度を取り上げ、裁判員に選ばれた場合についてシュミレーション等ができると良い。	○	◎	○
	8	2	6	戦後政治と政党 選挙と政治意識	P66～73	・議会制民主主義において、政党が必要な理由や戦後日本の変化について理解し、現代の課題について考える。 ・日本の選挙制度の特徴や課題を学び、日本の選挙における低投票率を改善するにはどうすればよいか考える。	・『日本の選挙制度』においては、日本以外の諸外国の投票率や好事例を調べ、自分の考えを提案としてまとめられると良い。	○	◎	○
	9	2	6	世論と政治参加	P74～77	・世論の形成過程や、NPOやインターネットが政治に与える影響について理解する。 ・日本の政治における争点や政治的意見を踏まえ、自分が賛同する政治的立場について考える。	・『世論の形成過程』においては、マスメディアを活用する際にどのようなことに注意をすればよいか、グループで話し合いを取り入れ、他者の意見を知る機会を設けられると良い。	○	◎	○
	10	2	6	18歳からの社会参加② 選挙権の行使に向けて	P78～79	・選挙権年齢引き下げの背景を理解する。 ・選挙権の行使に向け、政党や候補者の主張をどのように検討すべきか考える。	・『選挙権の行使』においては、クラス内で模擬投票を実施し、生徒に実体験としての学びの機会を提供できると良い。	○	○	◎
	11	3	6	経済活動の意義 資本主義経済の発展と変容	P82～89	・希少性やトレードオフなど経済活動の基本原理について理解し、経済体制について学ぶ。 ・資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解し、資本主義経済の課題について考える。	・『希少性やトレードオフ』においては、フリマアプリなど生徒の身近な経済活動について言及できると良い。	○	◎	○
	12	3	7	経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業	P90～95	・家計と企業の経済活動や、経済循環について学ぶ。 ・企業の活動や、株式会社の特徴について理解し、現代の企業に求められているもとは何か考える。	・『家計と企業』においては、これからの企業がどうあるべきかという視点で企業を調べた上で自らの考えをまとめ、よい取り組みの発表等につなげられると良い。	○	◎	○
	13	3	7	市場経済の機能と限界 国民所得と経済成長	P101～104	・市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解する。 ・経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動が起こる理由について理解する。 ・インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるかを考える。	・『インフレデフレ』においては、物価変動と私たちの暮らしで、損をする場合、得をする場合を考えさせると実生活に結びついた学びとなる。	○	◎	○
	14	3	7	金融のしくみと機能 財政のしくみと機能	P105～111 P114～118	・金融の役割や、金融政策の手段について理解し、金融の自由化がすすめられ、日本経済にどのような影響を与えたかを考える。 ・財政の役割や、公平な税制のあり方について理解し、日本の財政の課題や持続可能な租税のあり方について考える。	・『金融の役割』においては、金利の変化が私たちの暮らしの家計に与える影響を考えさせ、金融教育に繋げられると良い。	○	◎	○
	15	3	7	18歳からの社会参加③ ライフプランと金融	P112～113	・自分のライフプランを立て、それをもとにどの時期にどの程度の資金が必要か理解する。 ・金融商品を購入する際に、リスクとリターンのどちらを重視すべきか考える。	・外部企業などをお招きし、消費者契約や投資、ライフプランの作成等の授業を実施できると尚良い。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	戦後日本経済の発展 日本経済の現状 公害と環境保全	P119～130	・戦後復興から高度経済成長の終焉までの変遷と産業構造の変化について理解し、バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考える。 ・2000年代以降に試みられた経済改革が日本社会に与えた影響について理解し、解決するにはどうすればよいか考える。 ・公害問題が発生する理由や、防止する方法について理解する。	・『2000年代以降に試みられた経済改革』においては、所得格差を解消するためには何が重要なのか、グループで話し合う活動を取り入れ、他者の意見を聞く時間を設けられると良い。	○	◎	○
	17	4	10	農業・食糧問題 中小企業の現状と課題 情報化の進展と社会の変化	P131～137	・戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解し、日本の農業と食料はどうあるべきか考える。 ・中小企業の地位や、抱える課題について理解し、日本経済の活性化のために、どのような中小企業政策が必要か考える。 ・情報化が社会にもたらすイノベーションや第4次産業革命が社会生活にもたらす変化について理解する。	・『情報化』においては、デジタル社会においてどのようなことに注意すべきかを考え、問題となっている事例を参考に、実生活に結び付けて考えられると良い。	○	◎	○
	18	4	10	消費者問題 雇用と労働問題 社会保障と福祉	P138～155	・消費者問題の発生理由や、消費者保護のための施策について理解し、消費者にはどのような知識や行動が求められるか考える。 ・労働問題の発生理由や憲法や法律が保障する労働者の権利について理解し、これからの日本の雇用のあり方について考える。 ・社会保障制度の発展・変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解する。	・『社会保障制度』においては、日本の合計特殊出生率が回復しない原因について、諸外国の取り組み等を踏まえて話し合いができると尚良い。	○	◎	○
	19	4	10	18歳からの社会参加⑤ 働き方について考える	P148～149	・自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解する。 ・社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか考える。	・求人票や給与明細などの読解をし、自分はどのような働き方をしたいのか、自身で考え、意見交換ができると良い。	○	◎	○
	20	5	11	少子高齢化における社会保障 地域社会の活性化	P158～161	・日本の子育て支援の現状について理解し、どうあるべきかについて考え、表現する。 ・地域社会の現状について理解し、その独自性を活かしながら活性化を図るにはどうすべきかについて考え、表現する。	・『日本の子育て支援』においては、教科書P159の4つの視点を理解し、自分の意見をまとめられると良い。	○	◎	○
	21	5	11	多様な働き方・生き方の実現 中小企業の意義と諸課題	P162～165	・労働におけるジェンダー平等の現状について理解し、性別にかかわらず働きやすい労働環境はどうすればよいか考察し表現する。 ・日本の中小企業の強みと課題について理解し、強みを活かすにはどうすればよいか考え、表現する。	・『日本の中小企業』においては、教科書P165の4つの視点を理解し、自分の考えを実例をもとにまとめられると良い。	◎	○	○
	22	5	11	日本の財政の健全化 持続可能な食料・農業の実現 防災と安全・安心な社会の実現	P166～171	・日本の財政について理解し、どのような福祉国家をめざすべきか考え、表現する。 ・日本の農業の動向について理解し、農業を魅力ある産業にするにはどうすべきか考え、表現する。 ・日本が直面する災害と対策の現状について理解し、自分がクラス地域の防災・減殺対策について考え、表現する。	・『日本が直面する災害』においては、自分のクラス地域や各キャンパスのハザードマップを調べ、起こりうる災害を読み取る活動を取り入れられると良い。	○	◎	○
	23	5	11	国際政治の特質 国際社会と国際法 国際連合の役割と課題	P174～181	・主権国家と国際社会の形成過程や特徴について理解する。 ・国際社会の秩序維持の要員や、国内法と比較した国際法の特徴について理解し、国際司法機関がどのような役割を果たしているか考える。 ・集団安全保障のしくみが必要とされた背景を理解し、国際連合の取り組みや課題について考える。	・『集団安全保障』においては、国連の関連機関を一つ選び、どのような活動をしているか調べ、Google スライドなどにまとめて、クラスに共有すること等ができると良い。	○	○	◎
	24	5	11	戦後国際関係の展開と日本 冷戦後の国際関係と日本 地域主義の動き	P182～192	・第二次世界大戦後の国際関係や、冷戦体制の変化について理解し、日本がどのようにして国際社会に復帰し、行動してきたか考える。 ・冷戦終結後の国際関係の変化や課題について理解し、日本は国際平和のためにどのように行動していくべきか考える。 ・世界で地域主義が進んでいる理由を理解し、日本はどのようにかかわっていくか考える。	・『世界で地域主義が進んでいる理由』においては、日本は東アジア、東南アジア諸国とどのような関係を築いていくべきか、グループで話し合い、他者の意見を知る機会を設けられると良い。	○	○	◎
	25	6	12	軍縮の動向と課題 紛争・難民・テロリズム 国際社会における日本の役割	P193～203	・核抑止体制の問題点や、軍縮をめぐる現在の動向について理解し、日本は唯一の被爆国として、軍縮にどのように取り組むべきか考える。 ・国境を超えたテロリズムが多発している理由について理解し、地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、日本は難民問題についてどのように向き合うべきかを考える。	・『国境を越えたテロリズム』においては、日本の難民受け入れはどうあるべきか、各自治体の取り組み等を調べ、自身の考えをまとめられると良い。	○	◎	○
	26	6	12	貿易と国際収支 戦後国際経済体制の展開 発展途上国の経済	P206～219	・貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取引について理解し、為替レートがどのような要因によって変動するか考える。 ・国際通貨体制の変遷や、地域経済統合などが自由貿易の進展にどのような影響を与えるか考える。 ・南北問題の解消に向けた取り組みや、新興経済諸国の現状について理解する。	・『貿易の意義』においては、円高・円安のメリット・デメリットについて個人で具体例を含めてまとめさせ、身近な問題として捉えられるよう働き掛けができると良い。	○	◎	○
	27	6	12	グローバル化する世界経済 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口・貧困・感染症	P220～235	・経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解し、どのような課題を抱えているか考える。 ・地球環境問題や、国際社会の利害対立について理解し、持続可能な社会の形成向けて国際社会はどのように取り組むべきか考える。	・『地球の環境問題』においては、貧困の連鎖を解消するにはどうすればよいかをグループで話し合い、発表等を通じて他者の意見を知る機会を設けられると良い。	○	○	◎
	28	6	12	グローバル化にともなう社会変容 地球環境と資源・エネルギー問題 国際的な経済格差の是正 イノベーションの促進と成長市場	P238～245	・日本の多文化共生をめぐる状況について理解し、実現のためにはどうすればいいか考え、表現する。 ・地球温暖化対策の現状について理解し、食い止めるためにはどうすればいいか考え、表現する。 ・貧困と開発援助の現状について理解し、貧困削減にはどのような開発援助が有効か考え、表現する。 ・医療のイノベーション現状について理解し、促すためにはどうすればいいか考え　表現する。	・『日本の多文化共生』においては、P239の4つの視点を理解し、多様性を受け入れる社会の実現に向けて、身近なところから自分にできることを考え、表現できると良い。	○	◎	○
	29	6	12	民族問題と紛争の解決 持続可能な社会の実現	P246～249	・パレスチナ問題の経緯と現状について理解し、解決には何が必要か考える。 ・SDGs達成にむけた取り組みについて理解し、達成にむけて自分たちに何が出来るか考え、表現する。	・『パレスチナ問題』においては、独自の文化であるアイヌ民族や琉球文化などを例に、日本はどれだけ尊重・理解することができているかを身近な視点で考えられると良い。	○	◎	○
	30	－	－	SDGs達成に向けて 自分にできることを考える	－	・政治・経済の授業で理解した知識や情報をもとに、よりよい未来の実現のために何ができるか考え、表現する。	・1年間の学びの集大成として、自分の考えをまとめ、発表する機会を設けると良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	数学Ⅰ	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題についてデータの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「数学Ⅰ」(704)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	―	―	オリエンテーション	4～29	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。	各項の冒頭に「ねらい」の確認をし目的意識を持たせ学習を進め、Googleclassroomで共有する。	－	－	－
		1	5	文字を使った式	32～33	文字を使った式の表し方の約束を確認し，正しく文字式を扱うことができるようにする。	言葉の意味を確認する。 ※P32～「積」「商」「指数」等 KAHOOTを活用し学習の定着を図る。	◎	○	○
	2			多項式と単項式	34～35	単項式，単項式の次数，係数，多項式，項，定数項，同類項，多項式の次数，n次式など，式についての用語の意味を理解し，多項式を整理するなかで，式についての見方を豊かにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施。	◎	○	○
				多項式の計算（１）（２）	36～39	多項式と数のかけ算，多項式の加法・減法の仕組みを理解し，それらの計算ができるようにする。 指数法則，単項式の乗法について理解し，さらに分配法則を用いて多項式を展開することができるようにする。	前時間に作成した作問を、クラス全員で解いて学習の定着を図る。DマイスターPPTを活用も可。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
	3			乗法公式	40～41	乗法公式について理解し，乗法公式が利用できるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	○	◎	○
				因数分解（１）	42～43	分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し，因数分解の公式が利用できるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
	4			因数分解（２）	44～45	x^2の係数が1以外の多項式を因数分解することができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				展開、因数分解の工夫と利用	46～47	式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど，見通しをもって多項式を展開，因数分解することができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	○	◎	○
	5	2	5	平方根	48～49	平方根について理解できるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。	◎	○	○
				根号を含む式の計算	50～53	根号を含む式の基本的な計算をすることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施。	◎	○	○
	6					分母の有理化について理解し，それを活用できるようにする。	前時間に作成した作問を、クラス全員で解いて学習の定着を図る。DマイスターPPTを活用も可。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
				数の分類 分数と少数	54～57	自然数，整数，有理数，無理数の意味を理解して，それらを区別できるようにする。さらに，実数について理解できるようにするとともに，数を拡張することに興味をもつようにする。 有限小数，循環小数について理解し，有限小数になる分数を判断できるようにする。また，循環小数を記号を用いて表すことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
	7			1次方程式	58～59	1次方程式について理解し，1次方程式を解くことができるようにする。また，1次方程式を利用して身近な問題を解決することができるようにする	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				不等式	60～61	不等号の意味を理解し，数量の大小関係を不等式で表すことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	8	3	6	不等式の性質 不等式の解	62～65	不等式を調べることによって，不等式の性質を理解できるようにする。 不等式の解の意味を理解し，不等式の性質を用いて不等式を解くことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				不等式の解の解き方	66～67	不等式の性質を用いて不等式を変形し，解くことができるようにする。また，1次不等式を利用して，文章題を解決することができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	○	○	◎
	9			2次方程式との解き方	68～69	2次方程式について理解し，平方根の考え，因数分解を用いて2次方程式を解くことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				2次方程式の解の公式	70～71	解の公式を用いて2次方程式を解くことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
	10	4		関数 1次関数とグラフ 2次関数とグラフ	74～81	変化する2つの変量の関係を表す方法として，関数の概念を理解できるようにする。 1次関数のグラフをかき，変化の様子を捉えることができるようにする。 具体的な事象から2次関数の概念を理解できるようにする。また，2次関数のグラフの特徴を理解し，2次関数のグラフをかくことができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
				グラフに平行移動	82～85	関数y=（ax）^2のグラフをx軸方向やy軸方向に平行移動したグラフをかくことができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	○	◎
	11			y=（ax）^2+bx+cのグラフ	86～91	2次関数y=（ax）^2+bx+cをy=a(x-p)^2+qの形に変形し，軸と頂点を求めてそのグラフをかくことができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
		5	7	2次関数の最大値・最小値	92～95	2次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し，それらの値を求めることができるようにする。また，それを利用して身近な問題を解決することができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	○	◎
	12			2次関数のグラフと2次方程式	96～97	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し，グラフとx軸の共有点のx座標を求めることができるようにする。また，式の見方を豊かにするとともに，グラフを活用することのよさを認識する。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
				2次関数のグラフと2次不等式	98～99	2次関数のグラフと関連させて，2次不等式を解くことができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	◎	○	○
	13			いろいろな2次不等式	100～101	2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係から2次不等式の解の意味を理解する。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	◎	○	○
						グラフを利用して2次不等式を解くことができるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
	14	—	—	課題学習		身近な問題を解決することに，不等式を活用することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
				課題学習		身近な問題を関数の問題として捉え，2次関数の最大値・最小値を活用して解決することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
	15	—	—	試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎
				試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	6	10	三角形 タンジェント	104～107	相似な三角形の性質を理解し，辺の長さを求めることができるようにする。また，三平方の定理を理解し，直角三角形の辺の長さを求めることができるようにする。 タンジェントの意味を理解し，直角三角形の辺の長さからその値を求めることができるようにする。	実生活（教室）の中で三角比を利用し、物の大きさや高さを調査し、調査報告等をGoogleclassroomで行う。（対話的な活動）	○	○	◎
				サインとコサイン	108～109	サイン，コサインの意味を理解し，直角三角形の辺の長さからその値を求めることができるようにする。また，30°，45°，60°の三角比の値を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	◎	○
	17			三角形の利用	110～113	三角比の表の利用の仕方を学び，三角比の表を活用して三角比の値を求めることができるようにする。また，三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより，三角比の有用性を認識する。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				三角比の相互関係 90°－Aの三角比	114～116	三角比の相互関係について理解し，1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができるようにする。 90°－Aの三角比の値を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
	18	7		三角形の面積 正弦定理	117～119	与えられた辺の長さと角の大きさから，三角形の面積を求めることができるようにする。 正弦定理を理解し，図形の計量の際に有効に活用することができる。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
				余弦定理	120～121	余弦定理を理解し，図形の計量の際に有効に活用することができる。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	◎	○	○
	19			鈍角の三角比 三角比の相互関係	122～125	座標を用いて定めることで0°から180°までの角に対するものに拡張された三角比を理解し，その値を求めることができるようにする。 角が鈍角の場合も三角比の相互関係が成り立つことを理解できるようにする。また，180°－θの三角比の値を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	○	◎	○
				鈍角の三角比の利用	126～127	角が鈍角の場合も正弦定理，余弦定理，三角形の面積の公式が成り立つことを理解し，図形の計量の際に有効に活用することができるようにする。また，三角比を空間図形の計量に活用することができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分けスライド等の機能を使い作問を実施⇒相互シェアを行い解き合う。	○	○	◎
	20	8	11	データにもとづいた問題解決の進め方	130～131	統計的探求プロセスを意識した統計的問題解決の活動について理解できるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	○	○	◎
				データの特徴の調べ方	132～135	データや階級，度数，階級値，度数分布表，累積度数，ヒストグラム，相対度数，累積相対度数の定義や意味を理解し，目的やデータに応じて，度数分布表，ヒストグラムなどに表すことができるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
	21			代表値	136～137	データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し，それを平均値，中央値，最頻値などの代表値で表すことができるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
				四分位数と箱ひげ図	138～139	データの散らばり具合を表す四分位数，四分位範囲の定義や意味を理解できるようにする。また，それを箱ひげ図に表すことができるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
	22			分散と標準偏差	140～141	分散，標準偏差を理解し，それを求めることができるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	○	◎	○
				相関関係	142～143	相関関係について理解できるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
	23			相関係数	144～145	相関関係の強弱を表す相関係数について理解し，相関の強さが表せることの有用性を認識できるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	◎	○	○
				データにもとづく考え方	146～147	仮説検定の考え方を理解できるようにするとともに，不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりすることができるようにする。	生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。 Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用）	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	24	9	12	集合	150～153	部分集合，全体集合，補集合，共通部分，和集合などの集合の表し方，用語，記号を，図を用いて理解し，記号を使って表すことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	◎	○
				命題と集合	154～157	命題の真偽と反例を考えることができるようにする。また，必要条件，十分条件，必要十分条件の意味を知り，さらに図表示による包含関係と関連づけて理解できるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	◎	○	○
	25			命題と証明	158～160	命題の逆、裏、対偶について理解する。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	◎	○	○
						対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。	参考資料のDマイスターPPTを活用し授業を展開。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎
	26	―	―	課題学習		三角比を利用して、条例の基準をみたす傾斜路のこう配について考察することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
				課題学習		三角比を利用して、条例の基準をみたす傾斜路のこう配について考察することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
	27	―	―	課題学習		得点、失点、勝点について、それぞれの相関関係を調べ、上位の成績を得るために有効な闘い方を考察することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
				課題学習		得点、失点、勝点について、それぞれの相関関係を調べ、上位の成績を得るために有効な闘い方を考察することができるようにする。	グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作問シェアなどを授業で行う。また、グループごとに発表を行い、表現力を養う。	○	○	◎
	28	―	―	レポート修正		提出したレポート修正を行う。	デジタルレポートで間違えた箇所をMetaMoJiで配るプリントに解きなおしをする。	○	○	◎
				レポート修正		提出したレポート修正を行う。	デジタルレポートで間違えた箇所をMetaMoJiで配るプリントに解きなおしをする。	○	○	◎
	29	―	―	試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎
				試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎
	30	―	―	試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎
				試験対策		復習プリントで学習を進める	Dマイスターの10分テスト等をMetaMoJiで配布。 KAHOOTを活用し、学習の定着を図る。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	数学A	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「数学A」(704)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	ー	ー	オリエンテーション		学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する		－	－	－
	2	1	5	①集合 ②集合の要素と個数	4～7	・部分集合，全体集合，補集合，共通部分，和集合などの集合の表し方，用語，記号を，図を用いて理解し，記号を使って表すことができる。 ・補集合，和集合について，集合の要素の個数を求めることができる。	クラスメイトとMetaMoji上に身近な例（交通手段・通学方法等）を共同で記入できるシートを展開し、共同学習モードを使用して、集合について理解する	◎	○	○
	3			①個数の数え方 ②和の法則と積の法則	8～11	・具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。 ・和の法則や積の法則など数え上げの原則について具体例を用いて理解し，場合の数を効率よく求めることができる。	クラスメイトとMetaMoji上に身近な例（服の組み合わせ等）を共同で記入できるシートを展開し、グループワークを使用して、積の法則について理解する	◎	○	○
	4			①順列 ②順列の利用	12～15	・樹形図を利用して順列の意味を理解し，その総数を求めることができる。 ・順列の考え方をいろいろな場面に利用して，条件のついた順列の総数を求めることができる	クラスメイトとMetaMoji上に身近な例（座席の座り方等）を共同で記入できるシートを展開し、協働学習モードを使用して、順列について理解する	○	◎	○
	5			①いろいろな順列 ②組み合わせ	16～19	・重複順列，円順列の意味を理解し，その総数を求めることができる。 ・組合せの意味や性質を理解し，その総数を求めることができる。	クラスメイトとGoogle Workspace上に身近な例（円形に並べる等）を共同で記入できるシートをを使用して、身近な例（円形に並べる等）を使用して、重複順列・円順列、組み合わせについて理解する	○	◎	○
	6			組み合わせの利用	20～21	組合せの考え方をいろいろな場面に利用して，組合せの総数を求めることができる	クラスメイトとMetaMoji上に身近な例（円の中の三角形のできる個数等）を共同で記入できるシートを展開し、共同学習モードを使用して、いろいろな場合の数について理解する	○	○	◎
	7	2	6	①事象と確率 ②確率の計算	22～25	・試行と事象，事象の確率について学び，確率の意味を知り，基本的な確率を求めることができる。 ・場合の数をもとに，確率を求めることができる。	クラスメイトとトランプを使用してハートを引く確率を計算して、確率の計算について理解する	○	◎	○
	8			排反事象の確率	26～27	確率の加法定理を理解し，排反事象の確率を求めることができる。	クラスメイトと大小のサイコロを投げ、身近な例（大と小のサイコロを投げる時の確率等）を使用して、排反事象について理解する	◎	○	○
	9			余事象の確率	28～29	余事象の確率を求めることができる。	クラスメイトと身近な例（少なくとも１本は当たる確率等）を使用して、余事象について理解する。また、余事象と一つ一つ出した確率との答えが合っていることを理解させる	◎	○	○
	10	3	7	独立的な試行の確率	30～31	独立な試行の意味を理解し，簡単な独立な試行の確率を求めることができる。	クラスメイトとform等を使用し、くじを戻す時と戻さない時の確率を比較して、独立な試行の確率について理解する	◎	○	○
	11			反復試行の確率	32～33	反復試行について理解し，簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。	クラスメイトとバスケの試合のシュート成功率の統計を取り、反復試行の確率について理解する	◎	○	○
	12			条件つき確率	34～35	条件つき確率の意味を理解する。また，確率の乗法定理を理解し，活用できる。	クラスメイトとformでアンケートを取り、電車通学と徒歩の人の人の通学時間の確率を出して、条件つき確率について理解する	○	○	◎
	13			期待値	36～37	期待値を求めることができる。また，期待値を意思決定に活用することができる。	クラスメイトと宝くじの当たる確率を計算し、期待値について理解する	○	○	◎
	14			課題学習		身近な問題を解決するとともに、期待値ができるようになる	P.37の考えてみようで買う側と売る側の立場になって考え、期待値に対しての理解を深める。	○	○	◎
	15			試験対策		レポート復習プリントで学習を進める		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	①直線と角 ②多角形の角 ③三角形の合同と相似	40～45	・平行線と角の関係を理解し，これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ・多角形の内角，外角の性質を理解し，これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ・三角形の合同条件，相似条件を理解し，これらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。	Dマイスターを使用し、視覚的に角度や三角形の合同と相似について理解する	◎	○	○
	17			①基本の作図 ②作図の利用	46～49	・垂直二等分線，垂線，角の二等分線の作図方法を理解し，その作図ができる ・図形の性質を利用した平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し，目的に合った図形を作図することができる。	Dマイスターを使用し、視覚的に作図について理解し、コンパス等を利用し、作図できるようになる。	○	◎	○
	18			①三角形と比 ②三角形の重心	50～53	・三角形と比の性質や中点連結定理を理解し，それを用いて線分の長さを求めることができる。 ・三角形の重心の性質を利用して，線分の長さや角の大きさを求めることができる。	Dマイスターを使用し、三角形の性質について理解する。大きな紙で三角形を作り、重心で支えるとっり合いが取れることを実体験する。	○	○	◎
	19			①三角形の外心・内心 ②角の二等分線と線分の比	54～57	・三角形の外心，内心の性質を利用して，線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し，それらを用いて線分の長さを求めることができる。	Dマイスターを使用し、三角形の外心と内心の性質について理解する。実際に作図や二等分線を作り、視覚的に理解する。	○	◎	○
	20			①円の接線 ②円周角の定理	58～61	・円の接線の性質，接線の長さについて理解し，それらを利用して，接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 ・円周角の定理を理解し，それを利用して角の大きさを求めることができる。また，円周角の定理の逆を理解し，4点が同一円周上にあるかどうか判断することができる。	Dマイスターを使用し、視覚的に円の接線や円周角について理解する。	○	◎	○
	21			①円に内接する四角形 ②接線と弦のつくる角	62～65	・円に内接する四角形の性質を理解し，それを利用して角の大きさを求めることができる。また，四角形が円に内接する条件を利用して，四角形が円に内接するかどうか判断することができる。 ・接線と弦のつくる角の定理を理解し，それを利用して，角の大きさを求めることができる。	Dマイスターを使用し、視覚的に円に内接する四角形や円周角と接戦と弦のつくる角について理解する。また、なぜ公式が成り立つか作図して理解する。	○	◎	○
	22			①方べきの定理 ②２つの円	66～69	・円と・本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し，方べきの定理が成り立つことを理解し，長さを求めることができる。 ・・つの円の位置関係を考察できる。	Dマイスターを使用し、方べきの定理や２つの円について視覚的に理解する。また、なぜ公式が成り立つかグループワークし、答えまで導く。	○	○	◎
	23			①直線や平面の位置関係 ②多面体	70～75	・・直線，・平面，直線と平面の位置関係を理解する。 ・多面体，正多面体を理解し，オイラーの多面体定理に触れ，空間図形に対する見方を豊かにする。	Dマイスターを使用し、直線や平面の位置関係、多面体について視覚的に理解する。また、なぜ公式が成り立つかグループワークし、答えまで導く。	○	◎	○
	24	5	11	①数を表す ②数の表し方のしくみ	78～81	・古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解する。 ・・0進法，・進法の数の表し方のしくみを調べ，法則を見つけることができる。	古代から現代の数の表し方を調べ学習し、Google classroom等で共有する。 また、おはじきを使って、２進数の仕組みについて理解する	◎	○	○
	25			①２進数 ②位置を表す	82～85	・・進法と・0進法の変換を行うことや・進法と・0進法を対比してみることで，記数法に対する理解を深めることができる。また，・進法で表された数の計算ができる。 ・平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。また，その考えを空間内の座標へ拡張し，空間内の点の位置を表すことができる。	Dマイスターを使用し、２進数について理解する。また、身近な例（映画館の座席等）を利用して、位置を表す。	○	○	◎
	26	6	12	①約数と倍数 ②最大公約数と最小公倍数 ③ユークリッドの互除法	86～91	・約数，倍数，素数，素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し，約数，倍数を求めたり，素因数分解したりすることができる。 ・素因数分解を利用して最大公約数，最小公倍数を求めることができる。 ・ユークリッドの互除法を理解し，これを用いて・つの正の整数の最大公約数を求めることができる。	Dマイスターを使用し、約数と倍数、最大公約数と最小公倍数、ユークリッドの互除法について理解する。小学校でのやり方と合っていることも相互で理解する。	○	◎	○
	27			①測る ②量る	92～95	・長さや面積の単位を調べることできる。また，タレスのピラミッドの高さの測量を通して，図形の性質や三角比を用いた測量の方法について考察することできる。 ・体積や重さの単位を調べることできる。	Dマイスターを使用し、身近な例（振り子時計等）を利用して、量る、測るについて理解する。	○	◎	○
	28			①計る ②数で遊ぼう（魔方陣） ③図形で遊ぼう	96～101	・古代の人々の時計や，暦（うるう年）について理解する。また，うるう年を決めた理由を考えることができる。 ・魔方陣のしくみや解き方を筋道立てて考えることができる。また，魔方陣をつくることができる。 ・これまでに学んだことを用いて図形の不思議を解明する。また，新しいパズルをつくることができる。	Dマイスターを使用し、身近な例（うるう年等）を利用して、計るについて理解する。また、魔法陣等の生徒が興味の引く内容で数や図形の仕組みについて理解する。	○	○	◎
	29			①規則性で遊ぼう ②論理で遊ぼう（帽子の色あて） ③和算で遊ぼう（塵劫記）	102～108	・ハノイの塔の問題を解くことで，規則性を考えることのよさを知ることができる。 ・帽子の色あてパズルを解くことで，論理的に考えることのよさを知ることができる。 ・「塵劫記」の問題を通して，数学と文化の人間との関わりについての認識を深めることができる。	生徒の興味の引くような身近な例（帽子の色あて等）を利用して、規則性や論理、和算の仕組みについて理解する。	○	○	◎
	30			試験対策		レポート復習プリントで学習を進める		○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	科学と人間生活	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに影響を与え、どのような役割を果たしてきたかについて学ぶ。「生物」「化学」「物理」「地学」を総合的に学ぶ。						
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「科学と人間生活」（科人701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	―	―	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・端末を授業内でどのように活用していくのか、共通認識をもつ。課題などの提出を課すのであればGoogleClassroomの動作確認と実際の提出までの流れの実演などを実施する。	―	―	―
	2	1	5	1編　生命の科学 1章　微生物とその利用 ・身のまわりの微生物	16～19	・カビは微生物であることを知り、微生物とはどのような生物かに問題を見いだす。 ・身のまわりにさまざまな微生物が存在することを知る。 ・食品中、水中、空気中の微生物を観察し、それぞれの細胞の大きさや形について考察する。 ・細菌、アーキア、原生生物、菌類に属するさまざまな微生物について理解する。 ・実生活において微生物により引き起こされる現象を考えてみる。	・生徒自身が「微生物」と思っている生物を列挙させる、そのうえで各自自分の上げた微生物が生物学上何に分類されているか確認したうえでGoogleClassroomを活用し共有する。教員からは生徒が自ら発見したさた分類を補足しながら部生物の分類や特徴について知識を付け足す。 ・微生物の存在がどのように解明されてきたか【顕微鏡・ウィルス】という言葉を用いてまとめ、提出させる。	◎		○
	3	1		・生態系における微生物のはたらき ・微生物のはたらきと炭素の循環 ・窒素と微生物のはたらき	20～25	・生態系における微生物の役割について考え、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと炭素の循環について理解する。 ・根粒菌が大気中の窒素ガスから窒素化合物を合成していることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。	・図や動画教材を使用して文面だけではイメージしにくい現象も理解する。 ・特に炭素・窒素の循環に関してはP21の図２を活用し、一に当てはまる文言を記入させ何がどのように流れているかを考え、GoogleClassroomを活用し共有する。	◎	○	
	4	1		・水中の微生物のはたらき ・食品と微生物 ・発酵のしくみ	28～35	・微生物を利用して、環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。 ・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 酵母による発酵はどのような反応で、どのような温度条件のときに盛んに行われるかを調べ、酵母によって糖がエタノールと二酸化炭素に分解されることを捉える。 抗生物質以外にも、微生物から有用な医薬品がつくられていることを理解する。	・医薬品以外にも身近に微生物によって生み出され、我々の生活に利益をもたらしているものを考えてみる。 ・GoogleClassroomを活用し、微生物が医薬品の製造にどのように役立っているか【微生物・抗生物質】という言葉を用いてまとめ、提出させる。	○		◎
	5	2	6	1編　生命の科学 2章　ヒトの生命現象 ・視覚とは何か ・光の受容と視覚の成立 ・ヒトの眼球の構造	40～43	・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ・錯覚、錯視について知る。 ・ヒトの眼の構造を理解する ・近くを見るときと遠くを見るときの調節のしくみを理解する。	・教員がモデルになり、デジタル顕微鏡を活用して目の観察をし、視覚についての理解をふかめていく。特に錯覚・錯視などは高騰などの説明にとどまらず実際に体験することにより体感として認知するようにする。 ・可能であれば錯視・錯覚が起きるメカニズムを理解したうえで、自ら錯視・錯覚がおきる図やイラストや立体物を考案し、GoogleClassroomを活用して共有するとなお良い。	○		○
	6	2		・２種類の視細胞 ・血糖とは何か ・血糖濃度の調節、ホルモンによる血糖濃度の調節 ・血糖濃度の調節のしくみ	46～51	・２種類の視細胞のはたらきを理解する。 ・ふだんの食事のメニューを想起し、エネルギー源である炭水化物は体内でどのように利用されているかについて問題を見いだす。 ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・食事の前後の血糖濃度、インスリン濃度、グルカゴン濃度のデータから、それらのはたらきについて考察する。 ・血糖濃度を調節するためのしくみについて理解する。	・実際に血糖値の測定を行いながら知識を深めることにより、自分の体の中で起こっていることにより興味関心を高める。出来れば上腕部に取り付けることにより測定可能な物を準備したい。 参照：Abbott フリースタイルリブレ リーダー 血糖値測定器	○	◎	○
	7	2		・感染症から体を守るしくみ ・免疫のしくみと日常生活	52～57	うがいや手洗いの重要性について考え、病原体から体を守るためのしくみについて問題を見いだす。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・抗原抗体反応のしくみと特徴について理解する。 ・予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防するしくみについて理解する。 ・免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。	・私たちが、体を守る反応や構造にはどのようなものがあるか列挙させGoogleClassroomを活用し互いに共有する。皆で共有した内容に関して、何故それが起きるのか仕組みをそれぞれが調べ発表する。 ・学んだことを基にGoogleClassroomを活用し、【免疫・抗体】という言葉を使用し病原体から体を守る仕組みをまとめ、提出させる。	○	◎	
	8	2		・遺伝子とDNA ・DNAの遺伝情報からタンパク質へ	58～63	・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する ・タンパク質はアミノ酸がつながってできていること、タンパク質によってアミノ酸の並び方は決まっていることを理解する。 ・NAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について考え、理解する	・グループワークを実施し体の中でまったく性質の違うものを探しそれぞれ区分してみる。区分した物が何に構成されているものか次に調べてみる。構成物が体内でどのように作られているか調べてみる。 ・GoogleClassroomを活用し、ヒトのタンパク質の種類や働きを【ホルモン・クリスタリン】という言葉を使用しまとめ、提出させる。	○		◎
	9	3	7	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用 ・金属の性質 ・金属が電気を通すのはなぜだろうか	70～81	・金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。	・金属の性質に関して動画などを活用し、視覚的に性質を捉える。（自由電子など）	◎		
	10	3		・異なる金属の区別 ・性質の違いによる金属の分類 ・金属を区別するにはどのような方法があるだろうか	73～74	・金属の分類について理解する。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べる。 ・実験結果を基に考察し、金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いについて理解する。	・アプリ「BEAKER」を活用しながら金属と溶液の反応を実験し、結果をまとめGoogleClassroomを活用し共有、発表する。実験を実施する金属はレポートにそろえる。 ・結果を基に同じ金属なのに違う反応が起きたのは何故か考察し、お互いに発表し意見を共有する。	○	◎	
	11	3		・プラスチックの性質と分類 ・プラスチックの構造	82～89	・プラスチックの原料について理解する。 ・モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）など、プラスチックの構造について理解する。 ・尿素樹脂を合成する。 ・さまざまな機能をもつプラスチックが開発、利用されていることを知り、それらと人間生活とのかかわりについて考える。	・身近なプラスティックを活用した品を確認し、それらの種類を分類しながら構造や特徴を分類分けし、GoogleClassroomを活用して共有するとなお良い。 ・プラスチックのそれぞれの特性を活かした商品を考案し共有する。	○		◎
	12	3		・プラスチックの再生利用（リサイクル）の基本	90～91	・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。	・学んだことを基にGoogleClassroomを活用し、リサイクルの種類や活用方法をまとめグループで共有する。	○	◎	○
	13	―	―	実験① 自作の顕微鏡を作って観察してみよう	26	・P26のちょこラボを参考に自作の顕微鏡を作り、身の回りの物を観察してみる。	・工夫することにより様々な観察器具も作ることができることを知る。 ・自作の顕微鏡を使用して校内外の様々なものを観察し、記録にまとめ共有する。 資料：https://x.gd/7amTL			◎
	14	―	―	実験② DNA抽出をしてみよう	59	・P59の観察・実験の部分を参考に様々な生物に含まれるDNAを抽出する。実験を通しながら器具の使い方や、理科実験の基礎的な部分、まとめ方などを身に着ける。	・端末のカメラを活用して観察をまとめていく。 書けたレポートはGoogleClassroomを活用してお互いに共有する。	○		◎
	15	―	―	実験③ ペットボトルのマテリアルリサイクル実験	91	・P91のちょこラボを参考にペットボトルより繊維を作ってみる。作った繊維を活用し制作物を作ってみる。	実験参考資料 https://www.chitose.ac.jp/~n-tanio/culb/experiment_fiber.html	○		◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	2章　衣料と食品 繊維の種類と性質 ・繊維の種類	96 102～103	・植物繊維がセルロースから、動物繊維がタンパク質からできていることを理解する。 ・さまざまな天然繊維の特徴と用途について理解し、それぞれがなぜその用途で利用されているのかを考える。 ・合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。また、さまざまな合成繊維のモノマーとポリマー、性質と用途について知る。 ・再生繊維や半合成繊維の原料と用途について理解する。	・自分の来ている服の素材を調べ、天然繊維・合成繊維のどちらに当てはまるのか、またそれを振り分けた理由を自ら書き出し、GoogleClassroomを活用してお互いに共有する。 ・実勢の繊維を見比べながら具体的な違いを体感する。 教材参照 https://www.monotaro.com/g/04471337/?t.q=%E7%90%86%E7%A7%91%20%E5%AE%9F%E9%A8%93%E3%80%80%E7%B9%8A%E7%B6%AD	◎		
	17	4		脂質の性質 ・油脂の構造と性質 ・油脂の分解	108～109	・油脂の構造と性質について理解する。 ・エステルの加水分解と油脂のけん化について理解する。	・台所洗剤とラー油などを使用し可視できる状態でけん化の様子を観察する。 ・学んだことを基にGoogleClassroomを活用し、【免疫・抗体】という言葉を使用し病原体から体を守る仕組みをまとめさせ提出させる。	○		◎
	18	5	11	3編　光や熱の科学 原子や分子の熱運動 ・ブラウン運動と熱運動 ・熱運動による現象 ・温度の表し方	140～141	・温度による水の状態変化を基に、温度による物質の状態変化と原子や分子の動きとの関係について問題を見いだす。 ・原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 ・温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。	・視覚としてとらえにくい部分もあるので動画などの教材を使用し、起きている現象を理解しやすくするよう工夫する。 ・日本と海外での温度の表し方の違いなど、実際の転記用法の映像などを見せながら説明しセ氏温度と絶対温度の違いについて理解する。	◎	○	○
	19	5		・温度の異なる物体間での熱の移動 ・物体の温度変化に必要な熱量	142～145	・熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 ・水と鉄を用いて物質の温まりやすさを調べる。 ・実験結果を基に、物質の種類や質量によって温まりやすさに違いがあることを捉え、比熱について理解する。 ・水の比熱が大きいことと人間生活とのかかわりについての理解を深める。 ・熱量の保存について理解する。	・熱量の計算が煩雑になるので、起きている現象をまずは理解し、それを数値で表現することが計算式の元であることを理解させる。	◎	○	○
	20	5		・温度の異なる物体間での熱の移動 ・物体の温度変化に必要な熱量	142～145	・熱量の保存について理解する。 ・計算演習を何度か実施し、熱量の計算式を身に着ける。また、概念を理解する。	熱量に関する公式を身に着けたいので、問題演習を中心に例題を基に何度か問題を解き、考え方や、式の組み立てを習得する。	◎	○	○
	21	5		・可逆変化と不可逆変化	148～153	・熱現象の可逆変化と不可逆変化について理解する。	・解説ばかりにならないように留意したいので、日常的に使用しているもので可逆変化・不可逆変化に該当するこのを考えさせ、GoogleClassroomを活用してお互いに共有する。 ・可逆変化→水⇔氷・不可逆変化→生卵↔目玉焼き	◎		
	22	5		・エネルギーの有効利用 ・太陽エネルギーの利用	154～155	・エネルギーの有効利用に興味をもち、さまざまな事例を基に理解を深める。 ・太陽エネルギーの特徴について考え、太陽光発電などへの理解を深める。 ・地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について調べ、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	・様々なエネルギーの有効活用の実例を自分たちの住んでいる地域を中心に例を上げさせる。 ・学んだことを基にGoogleClassroomを活用し、エネルギーの【有効利用の例】という言葉を使用しまとめ、提出させる。	○		◎
	23	6	12	4編　宇宙や地球の科学 1章　太陽と地球 ・太陽がつくる1日，そして1年 ・月がつくるひと月	160～165	・同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するのかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 ・地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 ・月の見え方とひと月、暦の関係を理解する。	・デジタル教材やアプリ（太陽の場所と軌跡）を活用し日によっての変化を確認する。アプリケーションはストリートビューと連動しているので実際の景色と見比べても良い。	○		◎
	24	6		・潮の満ち干と月 ・潮位の変動と周期性	160～170	・潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する。 ・潮の満ち干と月の引力との関係について考え、理解する。 ・太陽、地球、月の位置関係と潮位の変動との関係について考え、潮位の変動の周期性について理解する。	・潮位データをアプリ（潮位ナビ）を活用して近隣の潮位の変化に関して観察し、その周期性など気づいた点をGoogleClassroomで共有する。太陽や月の位置関係も同アプリで確認できるので授業を通してアプリを活用し具体化する。 ・参考資料 https://www.kaijipr.or.jp/msmejiten/shizen/shizen_16.html	○	○	◎
	25	6		・太陽のエネルギー源 ・太陽活動の変動 ・大気の構造 ・空気の性質と対流圏	166～171	・既習の内容や生活経験などを基に、太陽が暖かく感じる理由に問題を見いだす。 ・太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る。 ・大気の構造や空気の性質について理解する。 ・緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環を理解する。	・デジタル教材やアプリ（Star Walkなど）を活用して、直接観察することの出来ない太陽の詳細を観察する。 ・大気の流れに関しても視覚的にイメージすることがしにくいので、アプリ（Windy)を活用して説明しイメージを具体化する。	○		◎
	26	6		1年を通じた大気の運動と気象災害 ・地球の公転による四季の変化 ・季節による世界の気圧分布と日本への影響 ・停滞前線のつくる長雨 ・台風	166～171	・地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。 ・気圧分布や大気の流れと各季節の気象との関係を理解する。 ・熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。 ・台風や集中豪雨などによって災害が起こることがあることを理解する。	・日本の四季の違いと、その際の地球の位置関係に視覚的に理解するために、デジタル教材やワークシートを活用する。 ・自分の捉えている内容などは学習用端末を活用して共有しお互いの観点より新たな発見を見出す。		○	◎
	27	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作①	190～205	・台風や低気圧などの大雨によるさまざまな災害について理解する。 ・暴風や雷、大雪などによっても気象災害が起こることを知る。	・教科書を基に地球環境を取り巻く様々な災害に関して知識を深める。あまりショッキングなものは使用せず、Google earth等を活用する。 ・日本で起きている自然災害などを共有し、その土地で顕著なものがあれば意見を出し合いその要因等を調べてお互いに共有する。	◎	○	
	28	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作②	190～205	・ハザードマップと地形図を比較して水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べ、それらが起こりやすい地形の特徴を捉える。 ・気象災害に対する防災・減災のための取り組みや課題について知り、自分たちにできることはあるか考える。 ・学んだことを生かして、身近な地域で起こった気象災害について考える。	・グループで調べるエリアを決めて、実際に現地に赴いても良いので調べ学習を実施する。 ・実際にそのエリアで起きた災害などを調べることにより、その都度先人がどのような工夫をしてきたのか理解する。	○		◎
	29	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作③ 発表	190～205	・自然災害を軽減するために自分たちにできることについて問題を見いだす。 ・気象に関する注意報と警報について理解し、それらが発令された際の行動について考える。 ・自然災害に対する防災・減災のための取り組みへの科学技術の重要性と限界について捉え、自分たちにできることを考える。	・グループごとに共同制作したハザードマップを共有し、自分たちにない観点等新たな発見ができるよう促す。 ・ハザードマップの注意すべきヶ所の近くに存在する実際の科学技術を活用している様々な防災・減災への取り組みを共有する。	○	◎	○
	30	—	—	実験⑧ 課題や仮説の設定，検証計画の立案	210～221	・これまでの学習を振り返り、興味や関心をもったことやもっと調べてみたいことがあるか考える。 ・自然や科学技術と人間生活とのかかわりについて、調べる課題を設定する。 ・設定した課題を基に、仮説や調べる計画を立てる。	・今までの授業を振り返りながら、一人一人が探求したい課題を設定し、授業が終わっても興味関心があることへの探究への導きとする。		◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	化学基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を学ぶ。当科目は「科学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の3つの大項目から構成されている。						
学習の到達目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付 けるようにする。						
	(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（東書702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。 教科書のQRコードから「中学校の復習」を確認する。	－	－	－
	2	1	5	1編2章　1節物質の成分 A純物質と混合物 B混合物の分離と精製	12～17	・身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 ・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。	「教室内にある身近の物が何でできているのか」をペアで話し合った後、話し合いの内容をペア毎に資料にまとめてClassroomやMetaMojiなどのアプリを活用して共有すると良い。	◎		○
	3	1		1編2章　2節物質の構成元素 A元素 B単体と化合物 C元素の確認	18～23	・物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 ・元素の同素体について説明する。	炎色反応の例として花火を上げて。教科書のQRコードから動画を確認すると尚良い。	◎	○	○
	4	1		1編2章　3節物質の三態 A粒子の熱運動 B物質の三態と状態変化	24～27	・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって物質の体積がどのように変化するか確認し、粒子のふるまいと関係について考察する。 ・物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。	説明する際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードから三態と状態変化をアニメーションを確認するように促すと良い。 ClassroomやMetaMojiなどのアプリを活用して、生徒同士のペアで問題を作らせるなど復習対策として活用すると良い。また、時間に余裕があれば1編2章の振り返りを行う。	○	◎	○
	5	2	6	2編1章　1節原子の構造 A原子の構造 B同位体	34～39	・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。	イメージが伝わりにくい場合は、動画サイト（YouTube等）を活用し、原子の構造を確認させると尚良い。	◎	○	○
	6	2		2編1章　2節電子配置と周期表 A原子の電子配置 B元素の周期表	40～45	・原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	全体的に説明した後にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードから電子の収まり方の動画を確認するように促すと良い。 時間に余裕があれば教科書の付録のエレメントカードを活用し、元素の性質の規則性について考察する時間をとる。	○	◎	○
	7	－	－	1編および2編1章2節電子配置と周期表 のまとめ	28～30,46～47	・各章のまとめや章末確認問題を参考に、今までの学習成果を確認する。	MetaMoji上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○		◎
	8	3	7	2編2章　1節イオンとイオン結合 Aイオンの生成 Bイオン化エネルギー	48～51	・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書p.42図10などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・単原子イオンと多原子イオンの違いを説明できる。	起きている現象がわかりづらい単元となるのでデジタル板書もしくは教科書のデータを活用し、起きている事象と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。 イオンの説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからナトリウムイオン・塩化物イオンのアニメーションを確認するように促すと良い。	◎		○
	9	3		2編2章　1節イオンとイオン結合 Cイオン結合とイオン結晶	52～55	・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	MetaMoji上で組成式の問題を取り組ませ、様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 イオン結合・イオン結晶の説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションや動画を確認するように促すと良い。	◎		○
	10	3		2編2章　2節分子と共有結合	56～61	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・身近な高分子化合物の構造について知る。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。	MetaMoji上で構造式や電子式の問題を出題し、取り組ませ、様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 学校内にある道具で何にプラスチックが使われ、なぜそのプラスチック成分が選定されているのかを調べさせるように促す。	◎		
	11	3		2編2章　2節分子と共有結合	62～67	・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	イメージが伝わりにくい場合は、動画サイト（YouTube等）を活用し、極性分子と無極性分子、結晶の違いを確認させると尚良い。 分子模型があれば作製して、分子や共有結合の結晶の立体構造を調べるとともに、分子の極性についても確認させると良い。	○	◎	○
	12	3		2編2章 3節金属と金属結合	68～71	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。	中学校の復習にもなるので、金属結合を説明する前に、生徒自身で金属の性質や特徴にどんなものがあるのかを調べさせ、学習させると尚良い。 学校内にある道具で何に金属が使われ、なぜその金属が選定されているのかを調べさせるように促す。	◎		○
	13	3		2編2章 4節化学結合と物質の分類	72～73	・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。	ClassroomやMetaMojiなどのアプリを活用して、P73を活用し、穴埋め問題を提示し、物質の分類を理解させると良い。		◎	○
	14	－	－	2編2章化学結合 のまとめ	74～77	・各章のまとめや章末確認問題を参考に、今までの学習成果を確認する。	MetaMoji上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○		◎
	15	－	－	実験「氷を使わないアイス作り」 実験「水性サインペンの色素を分離してみよう」	17,194	・実験をする前に、実験を行う際の注意事項などを把握する。	MetaMojiを利用し、実験結果をまとめる。時間があれば、実験結果を予想し、事前の調べ学習を行うと良い。		○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	3編1章　1節原子量・分子量・式量 A原子の相対質量 B原子量 C分子量・式量	82～85	・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・身近な粒の質量測定から相対質量を考える。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	内容理解だけではなく、説明する際に例題を出して、計算方法の仕方を事前にフォローしていくと尚良い。 時間に余裕があれば、相対質量を学ぶ上でp82の「ゴマを基準として米や小豆、大豆の相対質量を求める」という実験をすると尚良い。	◎	○	○
	17	4		3編1章　2節物質量 Aアボガドロ数と物質量	86～87	・粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。	身近の物でも構わないので、教科書の例題の鉛筆の様に比較しながら説明を行うと良い。必要であれば、動画教材を用意しておくと良い。	◎		
	18	4		3編1章　2節物質量 Ｂ１molの気体の体積	88～91	・物質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。	P90の「物質量を中心とした量的関係」では、ClassroomやMetaMojiなどのアプリを活用して、いくつか例題を出し、一旦「物質量」を求める重要性を認識させると良い。必要であれば生徒同士で教え合う機会を設けるのもよい。	◎	○	○
	19	4		3編1章　3節溶液の濃度	92～93	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。	時間に余裕があれば、p93の「質量パーセント濃度とモル濃度の違いを実感しよう」という実験をすると尚良い。	◎	○	○
	20	4		3編1章　4節化学反応の表し方 3編1章　5節化学反応の表す量的関係	94～99	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・反応に関わる物質量の比が化学反応式の係数の比を表していることを見いだして理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	化学反応式の説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションを確認するように促すと良い。 時間が余れば、82～99ページの内容についてまとめを行うと良い。	○	◎	○
	21	5	11	3編2章　1節酸と塩基 A酸と塩基の性質 B酸と塩基の定義 C広い意味の酸・塩基	106～109	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスやブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。	中学校の復習にもなるので、生徒自身で酸と塩基の性質や特徴にどんなものがあるのかを調べさせ、学習させる。また、身近にある調味料や薬品が酸性なのか、塩基なのかを調べさせると尚良い。 酸と塩基の定義の説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションを確認するように促すと良い。	◎	○	○
	22	5		3編2章　1節酸と塩基 D酸と塩基の価数 E酸と塩基の強弱	110～111	・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	内容理解だけではなく、説明する際に例題を出して、計算方法の仕方をフォローしていくと尚良い。 強酸と弱酸の違いを説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションを確認するように促すと良い。	◎	○	○
	23	5		2節　水素イオン濃度とｐH A水素イオン濃度 B水素イオン濃度とｐH CｐH指示薬とｐHの測定	112～119	・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、ｐHでも表せることを理解する。 ・ｐH指示薬と変色域により、水溶液のｐHが測定できることを知る。	指示薬に関する実験が用意できないようであれば、教科書のQRコードから動画を確認すると尚良い。	◎	○	○
	24	5		3節　中和反応と塩の生成	120～125	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。	起きている現象がわかりづらい単元となるのでデジタル板書もしくは教科書のデータを活用し、起きている事象と図のイメージを連動させる。 MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。 中和反応の概念を説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションを確認するように促すと良い。。	○	◎	○
	25	5		4節　中和滴定	124～131	・中和の条件は、酸から生じるH+の物質量と塩基から生じるOH−の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。	中和滴定の実験の実施ができないようであればイメージが伝わりにくい場合は、動画サイト（YouTube等）を活用し、実験映像を確認させると尚良い。	○	◎	○
	26	6	12	1節　酸化と還元	136～139	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	中学校の復習にもなるので、酸化還元を説明する前に、生徒自身で酸化・還元の概念にどんなものがあるのかを調べさせ、学習させると尚良い。	◎	○	○
	27	6		2節　酸化剤と還元剤	140～147	・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。	p141の主な酸化剤・還元剤の表を参考にしながらイオン反応式を作れるように練習させる。	○	◎	○
	28	6		3節　金属の酸化還元反応	148～151	・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	P149の図をMetaMojiに用意して、教科書を見なくても分類できるように穴埋め問題をいくつか出題すると良い。	○	◎	○
	29	6		4節　酸化還元反応の応用	152～161	・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	電池の電池切れの状態はどんな状態なのかを調べさせて。より電池の仕組みを理解するように促すと良い。 時間が余れば、後期の内容のまとめを行うと良い。	○	◎	○
	30	―	―	実験 「ムラサキキャベツ液を使って酸性、塩基性の強弱を調べよう」	119	・実験観察を通して、身近な物質のｐHや希釈した水溶液のｐHの変化を比較し考える。	MetaMojiを利用し、実験結果をまとめる。時間があれば、実験結果を予想し、事前の調べ学習を行うと良い。 時間が余れば、１年間の内容のまとめを行うと良い。		○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	生物基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行って、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「生物基礎」（生基702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	1	5	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	各項の冒頭に「ねらい」の確認をし目的意識を持たせ学習を進め、Googleclassroomで共有する。	－	－	－
	2			1編1章3節　細胞の特徴 A 真核細胞の構造 B 原核細胞の構造 C 細胞の共通性 D さまざまな細胞	22～27	多様な姿の細胞の共通している部分と、種類により異なる部分を理解する。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・原核細胞の構造について理解する。 ・身近な原核生物について知る。 ・原核細胞、動物の真核細胞、植物の真核細胞の構造を比較し、共通性について考える。	図が非常に多い単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	○		◎
	3			1編2章1節　生体とATP A 生命活動とエネルギー B ATPの構造	33～34	・生物がエネルギーを得る方法や受け渡しの仕組みについて理解する。 ・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づく。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・ATPが呼吸や光合成などの生体内でのエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・ATPの構造が、アデニンとリボースが結合したアデノシンに、3つのリン酸が結合した物質であることを理解する。 ・ATPのリン酸どうしの結合に生命活動に利用できるエネルギーが蓄えられていることを理解する。	図が非常に多い単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎	○	
	4			1編2章1節　生体とATP C 代謝 2節　生体内の化学反応 A 酵素	35～37	生体内での化学反応の種類を整理し、理解する。また、生体内での触媒の存在について理解する。 ・生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受にATPが利用されていることを理解する。 ・酵素の基本的な特徴を理解する ・キウイフルーツの基質特異性について観察し、報告書でまとめる。 ・酵素の基質特異性が何によってもたらされているのかについて理解する。	図が非常に多い単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。 意見をまとめるさいや、実験の状況などは共有できるようにGoogleのJamboadを活用し閲覧できるようにする。	○	○	◎
	5			1編2章3節　呼吸と光合成	40～43	代謝の具体例として光合成・呼吸の仕組みを理解する。 ・呼吸におけるグルコースの分解反応の概要とATPの合成について理解する。 ・呼吸と燃焼の違いを理解する。 ・光合成におけるグルコースの合成反応の概要とATPの合成について理解する。 ・真核細胞内では、光合成は葉緑体で行われ、原核細胞では細胞質基質で行われることを理解する。 ・代謝を図で整理する。	図が非常に多い単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎		○
	6	2	6	2編1章1節　生物と遺伝子 A 遺伝情報と形質 B 遺伝情報とゲノム	50～54	・DNAの分子モデルの写真から、DNAがどのような形をしているか、 またDNAの構造にある規則性や特徴に気づく。	図が非常に多い単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。分子モデルに関しては3DCGデータを活用し、それぞれの端末で特徴を確認し、意見を交換しても良い。	○	◎	○
	7			2編1章2節　DNAの構造 DNA模型の作製 A DNAの二重らせん構造 B 塩基の相補性	46～50	・DNAの二重らせん構造の特徴（塩基・リン酸・糖からなるヌクレオチドが繰り返し並んでできている）を理解する。 ・結合する塩基に相補性があることを理解する。	巻末の付録を活用し、模型を製作する。制作し終わったら、各自の模型を基にDNAの構造の特徴について意見交換をする。	○	◎	○
	8			3節　DNAの複製と分配 実習5 DNAが2倍になるしくみ A 塩基の相補性に従ったDNAの複製 B DNAの正確な複製	52～55	・塩基の相補性によりDNAが正確に複製されることを理解する。 ・DNAの複製のしくみ、原核生物、真核生物を問わず、すべての生物で共通していることを理解する。	起きている現象がわかりづらい単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、起きている事象と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎	○	
	9			2編　遺伝子とそのはたらき 2章　遺伝情報とタンパク質 1節　タンパク質 A 生命現象とタンパク質 B アミノ酸とタンパク質の構造	58～61	・生命現象には多種多様なタンパク質が関与していることを理解する。 ・タンパク質はアミノ酸がつながった分子であることを理解する。 ・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。 ・アミノ酸の構造について理解を深める。 ・タンパク質の構造について理解を深める。	デジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎		
	10			2節　DNAとタンパク質の合成 A 遺伝情報の流れ B RNA C 転写の過程 D 翻訳の過程 E 遺伝暗号表	62～65	・DNAの遺伝情報は、まずmRNAに転写された後、アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ（セントラルドグマ）を理解する。 ・RNAとDNAの特徴の違いを理解する。 ・転写の過程について理解する。 ・翻訳の過程について理解する。 ・mRNAの塩基3つの組をトリプレットと呼び、各トリプレットがそれぞれアミノ酸に対応していることを理解する。 ・コドンとアミノ酸の対応をまとめた遺伝暗号表について理解する。 ・転写と翻訳のしくみについて理解を深める。	起きている現象がわかりづらい単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、起きている事象と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎	○	○
	11	3	7	3編　ヒトの体の調節 1章　体内環境と情報 1節　体内環境 A 体内環境とは B フィードバックが支える恒常性 C 情報を伝える神経系と内分泌系	76～79	・体内環境と体液の関係について理解する。 ・消化管や気管は体内にありながら、その内腔が外界との境界であることから体外環境にとして分類されることを理解する。 ・フィードバックによって、体内環境の恒常性が維持されていることを理解する。 ・情報伝達の経路には神経系・循環系・内分泌系があることを知る。	身近にあるものの、把握しにくい単元となるのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMojiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎		
	12			2節　神経系による情報伝達 A 神経系の構成 B 自律神経系による調節 C 脳の構造とおもなはたらき	80～85	・神経系の構成を知る。 ・神経細胞の構造と情報伝達のしくみについて理解を深める。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連付けて理解する。 ・交感神経と副交感神経の違いについて神経伝達物質の違いに着目して理解を深める。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考えて説明する。 ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使って、神経系を図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	○	◎	○
	13			3節　ホルモンによる情報伝達 A ホルモンとその作用 B 内分泌器官としての脳 C ホルモン分泌の調節	86～89	・日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中枢として機能することを理解す・ホルモンが細胞に受容され、機能するしくみについて理解を深める。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使って、内分泌系を図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	○		◎
	14			4節　血糖濃度の調節 A 血糖濃度を調節するしくみ B 血糖濃度の調節の異常	90～94	・身近な商品のパッケージから「血糖値」とは何か考える。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節に関わるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・難消化性デキストリンが食後の血糖濃度の上昇を抑えるしくみを知る。 ・ここまでに学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・生活習慣と血糖濃度の調節に関わるホルモンとの関係について知る。 ・インスリンと糖尿病の関係について理解する。 ・糖尿病とインスリンの濃度変化について考える。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	○	◎	○
	15			葉っぱ図鑑を作ろう	巻末の2ページ	・学校の近くにある公園や街路樹の葉を集めてキャンパスの住変の葉っぱ図鑑を制作することで、身近な生物の世界に興味関心を持つことの意味について考える。	自由生徒に課外活動をさせ、自ら発見、調べるという行為をさせながら、主体的に科学を学ぶ姿勢を養う。 製作できた作品をお互いに見せあえるような機会ができるとなお良い。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	3編　ヒトの体の調節 2章　免疫のはたらき 1節　免疫のしくみ A 自然免疫 B 炎症	100〜102	・風邪の症状を考える。 ・細菌、菌類、線虫、ウイルスが原因となる病気を調べる。 ・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気づく。 ・炎症のしみを理解する。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使ってを免疫のしくみを図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	○	◎	
	17			C 止血と血液凝固 D リンパ球と適応免疫	102〜105	・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使ってを免疫のしくみを図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	◎	○	
	18			2節　免疫記憶 A 記憶細胞と二次応答 B 予防接種とワクチン	106〜111	・予防接種について考える。 ・北里柴三郎や野口英世の感染症治療に関する功績について調べる。 ・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・抗体について構造を学習することで理解を深める。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・乳幼児期に接種するワクチンと感染症について調べる。 ・血清療法のしくみと歴史を知る。 ・天然痘ワクチン発明の経緯や、エピデミックやパンデミックの歴史を知る。	ワクチンなど身近な問題として原理を理解し、自分自身の接種歴などを振り返りながらどのような予防をしてきていたかまとめる。 まとめた内容はGoogleのスライドを活用して発表する。	○	◎	○
	19			3節　免疫とさまざまな疾患 A アレルギー B 自己免疫疾患 C 免疫の機能の低下による疾患	112〜115	・アレルギーについて考える。 ・アレルギーの定義や症状について理解する。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・1型糖尿病などの自己免疫疾患について理解する。 ・免疫について整理する。 ・AIDSを例に免疫機能の低下による疾患について理解する。	実際に身の回りにある実例などを調べさせ、互いに共有する。 まとめた内容はGoogleのスライドを活用して発表するとなお良い	○	○	◎
	20	5	11	4編　生物の多様性と生態系 1章　植生と遷移 1節　植生とその環 A 環境形成作用 B 階層構造 C 土壌	120〜125	・さまざまな環境に多様な植物が生育していることに気づく。 ・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・森林の構造と相対照度のデータから、層ごとの明るさの変化について考える。 ・環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。	用語が非常に多い単元となるので、ここまでに学習した用語を使ってを環境形成作用・階層構造を図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	○	○	◎
	21			2節　植生の遷移 A 植生の遷移 B ギャップ更新 C 二次遷移	126〜131	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・植生の遷移について、モデル的な過程とその要因を理解する。 ・学校の校庭を例に遷移の初期段階を考える。 ・遷移の進行と光合成の関係について理解する。 ・極相林でも起きる植生の変化について、ギャップに着目して理解する。 ・二次遷移について、一次遷移との違いに注目して理解する。 ・極地での遷移など、遷移がモデル的な過程をたどらない例について、理解する。	用語だけではなく、視覚的な情報が有用なのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMoJiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	○	◎	○
	22			3節　遷移とバイオーム A 遷移とバイオーム B 日本のバイオーム	132〜141	・標高が高い所では森林が形成されないことから、環境によって遷移の結果が異なることに気づく。 ・世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。 ・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。 ・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連付けて整理、理解する。	用語だけではなく、視覚的な情報が有用なのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMoJiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	○	○	◎
	23			＜特集＞世界のバイオーム ＜特集＞日本のおもなバイオームと特徴的な樹木	136〜137 140〜141	・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連付けて知る。	ここまでに学習した用語を使ってを世界のバイオーム、日本のバイオームを図で整理する。整理できたものはグループで確認し合うなどするとなお良い。	◎	○	○
	24	6	12	4編　生物の多様性と生態系 2章　生態系と生物の多様性 1節　生態系における生物の多様性 A 環境と生物の関係性 B 種多様性	144〜149	・ビットフォールトラップから、生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・環境によって生息する生物が異なることを理解する。 ・Let's start!で見たちりめんじゃこを例に、生態系内の生物種の多様性を知る。 ・バイオームと種多様性の関係について理解する。 ・生物の多様性について、3つの視点から理解を深める。 ・生物多様性ホットスポットと日本の関係について知る。	ちりめんじゃこを使用し、種別に仕分けることで多様性を知る。その中で気づいた点などをグループで話し合い、共有する。まとめた内容はGoogleのスライドを活用して発表するとなお良い。	○	○	◎
	25			2節　生態系における生物間の関係 A 食物網 B 生態系における種多様性の利点 C キーストーン種 D 生態系エンジニア	150〜153	・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。 ・食物網について理解する。 ・ラッコの減少を例に生態系の変化について知る。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・キーストーン種と生態系のバランスとの関係性について理解する。 ・オオカミの再導入の例から、生態系の回復について知る。 ・生態系エンジニアと生態系の関係について理解する。	用語だけではなく、視覚的な情報が有用なのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMoJiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	○	◎	
	26			3節　生態系と攪乱 A 人為的攪乱 B 自然攪乱 C 生態系の復元力 D 生物種の絶滅	154〜156	・生活排水の河川への流入の例から、人為的撹乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・人為的撹乱について生物の多様性との関係を理解する。 ・マイクロプラスチックの問題について知る。 ・台風や大雨などの自然撹乱について、生物の多様性との関係を理解する。 ・生態系の復元力(レジリエンス)について、生態系のバランスとの関係を理解する。 ・絶滅について、日本における現状とともに理解する。 ・環境省が定めたレッドデータブックについて知る。 ・自然撹乱と生物多様性について知る。	用語だけではなく、視覚的な情報が有用なのでデジタル板書のデータを活用し、用語と図のイメージを連動させる。MetaMoJiに共通のシートを配信し、取り組ませ手元確認をしても良い。	◎	○	
	27			4節　生態系の保全 A 生物多様性の保全 B 生態系サービス C 生物多様性と生態系サービス D 人間活動が生態系に与える影響 E 日々の生活と生態系の保全	158〜163	・商品のパッケージの例から、日々の生活と生態系の保全との関係に気づく。 ・環境アセスメントの具体的な事例をもとに、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。 ・生物多様性の保全にはそれぞれの立場からの努力や協力が必要であることを理解する。 ・生態系サービスについて私たちの生活と関連付けて理解する。 ・生態系サービスの例を調べる。 ・生物多様性と生態系サービスの関係について理解する。 ・生態系とその保全について整理する。 ・生態系サービスと自然資本について知る。 ・人間の活動が生態系に与える影響について、さまざまな例をもとに理解する。 ・琵琶湖における外来生物の影響から、人間による生物の導入が生態系に与える影響を考える。	P159の実習を基にしてそれぞれの意見をまずはまとめ、グループで共有する。まとめた内容はGoogleのスライドを活用して発表するとなお良い。	○	○	◎
	28		1	A 生物の特徴と私たち やってみよう 1. 身のまわりの生物の共通性と多様性を考える 2. 身のまわりのエネルギーを利用している場面を撮影し、タイトルをつける	168〜169	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。	「やってみよう」の記載内容に従って活動を行う。活動の最後にはお互いに活動内容を見せあい、他者の発見や気づきを伝えてあげる。			◎
	29			B 遺伝子のはたらきと私たち やってみよう 1. 遺伝子とまわりのものを関連付ける 2. 「DNAの複製」「DNAのタンパク質の合成」を成長する過程で説明する	170〜171	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。	「やってみよう」の記載内容に従って活動を行う。活動の最後にはお互いに活動内容を見せあい、他者の発見や気づきを伝えてあげる。			◎
	30			C 体内環境と私たち やってみよう 1. 身近なエピソードから体内で起こる変化を説明しよう 2. 体内環境のしくみと健康を関連付けた作品をつくる	172	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。	「やってみよう」の記載内容に従って活動を行う。活動の最後にはお互いに活動内容を見せあい、他者の発見や気づきを伝えてあげる。			◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育①	スクーリング回数	15	レポート回数	3	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代社会における政治や経済、文化などの側面においてスポーツが及ぼす影響は大きくなってきています。そこで体育①では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴、現代スポーツを取り巻く様々な問題について学習します。						
学習の到達目標	スポーツの文化的価値を理解し、幅広い知識と教養を身に付け、心理に求める態度を養い、豊かな情勢と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う。						
	アンチ・ドーピング運動、スポーツにおける環境破壊・環境保護について理解し、生命の尊び、自然に対し環境の保全に寄与する態度を身に付ける。						
	日本生まれのスポーツ、オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることについて理解し、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付ける。						
使用教科書・副教材等	大修館書店「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学種の進め方を理解する。	・新年度がスタートし、今後クラスにて活動すること 意識し、生徒と教員・生徒同士コミュニケーションが取れる場として工夫すると良い	－	－	－
								－	－	－
	2	1	6	スポーツの始まりと発展	136～137	・スポーツがどのように始まったのか説明ができる。	・スポーツがどのように始まったのかを、様々な視点から理解が深まるよう教員がclassroomやバドレットを使用し、資料を生徒と共有(発表・意見交換)すると良い。	◎	○	○
						・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明ができる。	・なぜ、スポーツが世界中に広まったのかを、近代スポーツから国際スポーツへという観点からclassroomやバドレットを使用し共有(発表・意見交換)すると良い。 ・スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて多様に変容してきていること、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることを理解し、考えられると良い。	◎	○	○
	3			世界の民族スポーツについて調べてみよう①	138～139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・P138～139を参考に世界の民族スポ - ツについて調べ、発祥国や競技特性などについて発表会を行い民族固有の文化に対する知識を深める。	◎	○	○
						・民族スポーツをおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。 ・発表会の内容を理解する。		◎	○	○
	4			世界の民族スポーツについて調べてみよう②-1（グループで調べ学習・発表資料にまとめる）	138～139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・世界の民族スポーツについて調べる方法や製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
						・グループごとに民族スポーツをおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。		○	○	◎
	5			世界の民族スポーツについて調べてみよう②-2（グループで調べ学習・発表資料にまとめる・発表練習）	138～139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・世界の民族スポーツについて調べる方法や製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
						・グループごとに民族スポーツをおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。		○	○	◎
	6			世界の民族スポーツについて調べてみよう③（発表会）	138～139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・世界の民族スポーツについて調べる方法や発表資料製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換) すると良い。 ・発表の際は互いに質問をし合うなど、意見交流ができるとよい	○	○	◎
						・班ごとに民族スポーツをおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を発表する		○	○	◎
	7			文化としてのスポーツ	140～141	・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。	・スポーツの文化的内容について、P140 の資料1を用いて理解し、考えられると良い。 ・スポーツには様々なかかわり方があることをP141の資料2,3を用いて理解し、考えられると良い。	◎	○	○
						・多様なかかわり方によるスポーツの文化の変容について例をあげて説明できる。		◎	○	○
	8			日本生まれのスポーツ①	142	・武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調 べ理解する。	・日本生まれのスポーツがあり、海外へ広まったことをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・日本生まれのスポーツについて調べる方法や発表資料製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交 換)すると良い。	◎	○	○
						・PPTにおける発表方法を理解し、制作方法を学ぶ。 ・発表会の内容を理解する。		◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	9			日本生まれのスポーツ②-1 （グループごとに調べ学習、発表資料の作成）	142	・グループごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調べ理解する。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・日本生まれのスポーツがあり、海外へ広まったことをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・日本生まれのスポーツについて調べる方法や発表資料製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交 換)すると良い。 ・グループ内で発表資料の作成担当を分けるなど、全員が作業に関われるように工夫する	○	○	◎
						・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。		○	○	◎
	10			日本生まれのスポーツ②-2 （グループごとに調べ学習、発表資料の作成、発表練習）	142	・班ごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツに ついて調べ理解する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・日本生まれのスポーツがあり、海外へ広まったことをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・日本生まれのスポーツについて調べる方法や発表資料製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交 換)すると良い。	○	○	◎
						・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。		○	○	◎
	11			日本生まれのスポーツ③ （発表会）	142	・班ごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツに ついて調べ理解する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・日本生まれのスポーツがあり、海外へ広まったことをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・日本生まれのスポーツについて調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・発表後、互いに質問をしあうなど意見交流を図ると良い	○	○	◎
						・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。		○	○	◎
	12			競技スポーツのおける競争の意味	143	・競技スポーツにおける競争の意味を理解する。	・一流選手の言葉をヒントに、「競争すること」をどのように受け止めているのかをP143の内容を参考に理解し、考えられると良い。	○	◎	○
						・教科書に掲載している選手以外から競争の意味について考える。		○	◎	○
	13			オリンピックとパラリンピックの意義	144～145	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。	・オリンピズム、オリンピックムーブメント、オリンピックの価値について内容を整理し、classroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	◎	○	○
						・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義 について説明できる。		◎	○	○
	14			オリンピックの課題 パラリンピックの課題	146～147	・オリンピックの課題について理解する。	・オリンピック・パラリンピックの課題 (P146,P147)についてclassroomで共有(発表・意見交換)し、現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、世界平和や国際親善に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していることを理解し、考えられると良い。 ・パラリンピックにおけるドーピング(P147)は、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせることを理解し、考えられると良い。	◎	○	○
						・パラリンピックの課題について理解する。		◎	○	○
	15			スポーツが経済に及ぼす効果	148～149	・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているのかを説明できる。	・スポーツがもたらす経済効果について、P148の資料１，2を用いて理解し、考えられると良い。 ・スポーツ業界の広がりをP149の資料3を用いて理解し、考えられると良い。	◎	○	○
						・スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる。		◎	○	○
	16	2	7	オリンピックの課題・パラリンピックの課題①	146～147	・オリンピックの課題について理解する。	・転入生も入学し、クラスの雰囲気も変わると予想されるため、今後班にて活動すること意識し、生徒と教員・生徒同士コミュニケーションが取れる場として工夫すると良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題をclassroomやパドレットを使用し共有(発表・意見交換)すると良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題について調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	◎	○	○
						・パラリンピックの課題について理解する。 ・発表会の内容について理解する。		◎	○	○
	17			オリンピックの課題・パラリンピックの課題②-1 （個人で調べ学習）	146～147	・オリンピック・パラリンピックの課題について理解する。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題について調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	○	◎	○
						・オリンピック・パラリンピックの巨大化に伴う弊害について調べ理解する。		○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	18	3	12	オリンピックの課題・パラリンピックの課題②-2 （グループで調べ学習・発表資料作成・ 発表練習）	146～147	・オリンピック・パラリンピックの課題について、自身が調べた内容をグループ内で共有する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・オリンピックの課題・パラリンピックの課題について調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	○	◎	○
						・共有した内容を元に発表資料制作に向けて精査する。		○	◎	○
	19			オリンピックの課題・パラリンピックの課題③ （制作物発表会）	146～147	・グループ内で発表資料を制作する。		○	◎	○
						・オリンピック・パラリンピックの課題について、発表することで理解を深める。		○	◎	○
	20			スポーツの高潔さとドーピング	150～151	・スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる。	・スポーツの高潔さを脅かす要因をclassroomで共有(発表・意見交換)し、P150の資料1を用いて理解し、自分の考えを発表できる場を設けると良い。	◎	○	○
						・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。		◎	○	○
	21			スポーツの価値について考えてみよう	152	・スポーツの価値と理念を理解し、体現する。	・スポーツが本来もっている価値についてclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	◎	○	○
						・班ごとに意見交換を行いスポーツの価値について考え、自分以外の考えを理解し共感する。		◎	○	○
	22			なぜ、ドーピングは許されないのか	153	・ドーピングの定義を理解する。	・ドーピングが倫理的に許されない理由を個々で調べ、知識を深めると良い。	○	◎	○
						・班ごとに意見交換を行いスポーツの価値について考え、自分以外の考えを理解し共感する。		○	◎	○
	23			スポーツと環境	154～155	・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。	・スポーツにおける環境問題をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・スポーツにおける環境保護をP155の資料2を用いて、理解し自分が取り組めることを考える場を設けると良い。	○	◎	○
						・スポーツは、環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。		○	◎	○
	24			スポーツとまちづくり①	156	・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりを4つのカテゴリー（健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性）を含め考える。	・理想とするスポーツに特化した街づくりをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりについて調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有すると良い。	○	○	◎
						・PPTにおける発表方法を理解し、制作方法を学ぶ。 ・発表会の内容を理解する。		○	○	◎
	25			スポーツとまちづくり②-1 （班ごとに調べ学習、PPT制作）	156	・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりをclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりについて調べる方法やPPT製作の方法をclassroomで共有すると良い。	○	◎	○
						・理想とするスポーツに特化した街づくりを4つのカテゴリー（健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性）を含め考える。		○	◎	○
	26			日本生まれのスポーツ②-2 （班ごとに調べ学習、PPT制作）	156	・自身の住んでいる地域で行われている内容を調べ理解する。		○	◎	○
						・調べた内容をグループ内で共有し、発表資料の制作に取り掛かる。		○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	27			日本生まれのスポーツ③ (発表会)	156	・グループ内で発表資料を制作する。		○	◎	○
						・スポーツとまちづくりについて、発表することで理解を深める。		○	◎	○
	28			実技(バドミントン)		・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用い、運動中の動作などを撮影し自分の動作を客観的に見たり、友人と意見交換を行い技術の向上を目指す。 ・ユーチューブにあるお手本となる動作動画を用いて、生徒へ共有し技術の向上を目指す。 ・安全面に十分配慮し、レベルに応じた課題を与えると良い。 ・模範的な動作をclassroomを用いて共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
								○	○	◎
	29			実技(バスケットボール)		・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用い、運動中の動作などを撮影し自分の動作を客観的に見たり、友人と意見交換を行い技術の向上を目指す。 ・ユーチューブにあるお手本となる動作動画を用いて、生徒へ共有し技術の向上を目指す。 ・安全面に十分配慮し、レベルに応じた課題を与えると良い。 ・模範的な動作をclassroomを用いて共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
								○	○	◎
	30			実技(バレーボール)		・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用い、運動中の動作などを撮影し自分の動作を客観的に見たり、友人と意見交換を行い技術の向上を目指す。 ・ユーチューブにあるお手本となる動作動画を用いて、生徒へ共有し技術の向上を目指す。 ・安全面に十分配慮し、レベルに応じた課題を与えると良い。 ・模範的な動作をclassroomを用いて共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
								○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育②	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	私たちは運動やスポーツを行うことで、大きな達成感や喜びを味わい心や体を健康にすることができます。そこで体育②では、合理的な動きを理解することや運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	トレーニングの原理を理解し、より効果的なトレーニング方法を学ぶことで、効率よく技能や体力を向上させることが出来るようになる。						
	健康的な体力作りをするためのトレーニング計画・実施・確認・改善までが出来るようになり、目的に応じたメニューを立案し、実践できるようになる。						
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。 ・実技日程などもこの段階で分かっていれば、日程および持ち物などの伝達を含める。 ・アイスブレイクを実施。スタジオなどがあれば、使用しても良い。スタジオなどがない場合は、教室内で出来ること（シナプソロジーなど）を実施すると良い。	－	－	－
	2	1		運動・スポーツにおける技能と体力の関係	158～159	・体力の構成要素を説明できる。 ・エネルギー的体力とサイバネティックス的体力の違を理解する。	①、②では、人間の発達・成長における体力の定義・構造について図などを用いて分かりやすく説明すると良い。MetaMoji等の使用もすると良い。	◎	○	○
		1				・エネルギー的体力とサイバネティックス的体力の違いを理解したうえで、関連する種目について例を挙げられるようになる。 ・技能と体力との関係について説明できる。	②ペアになり、行動力の構成要素とスポーツ種目について、資料２（P158）以外の種目も考え発表する。	◎	○	○
	3	1		練習とトレーニングの原理と原則	159	・トレーニングの基本原理・つを学び、自らの過去の経験と結びつけて考えることで、理解度を深める。 ・トレーニング５原則の名称と違いを説明できる。	①、②ではトレーニングの３原理５原則を理解し、自身の体験から当てはまる経験を考えさせることで理解度を深める。	○	○	◎
		1				・休む時間を惜しんで熱心に練習やトレーニングに打ち込むことの良い面と悪い面を説明できる。	・考えてみようはグループを編成し、発表まで実施。発表時はClassroomで共有する。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
	4	1		スポーツにおける技術と戦術	160～161	・技術と技能の違いを説明できる。 ・クローズドスキルとオープンスキルの違いを説明できる。	①、②では単語が多く出てくるため、ペアで話し合った後、話し合いの内容をペア毎に資料にまとめてClassroomで共有すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	◎	○	○
		1				・戦術・作戦・戦略を理解する。		◎	○	○
	5	1		自分の興味のある集団的球技について、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （個人で調べ学習・まとめ）	161	・集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術を個人で調べることで、競技の理解を深める。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・発表内容をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。	○	○	◎
		1				・集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術を個人で調べたことをまとめる。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）		○	○	◎
	6	1		自分の興味のある集団的球技について、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （班ごとに調べ学習・発表）	161	・集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術を個人でまとめたことをグループ内で共有し、まとめることで理解を深める。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・発表内容をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・班ごとにclassroomを活用し発表すると良い。 （Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		1				・集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術をグループ内でまとめたことを発表することで理解を深める。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）		○	○	◎
	7	1		バスケットボールについて、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （チームごとに調べ学習）	161	・バスケットボールのチーム戦術・グループ戦術・個人戦術を個人で調べることで、理解を深める。	・調べた戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。	○	○	◎
		1				・バスケットボールのチーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べたことをチームで共有し、競技の理解を深め、実践に向けたイメージを持つ。		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	8	1	7	実技（バスケットボール）	-	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート）を学び、実践する。 ・バスケットボールのフリースローの得点数を競う。	③では、フリースローの成功数を生徒ごとに把握して、動画に収めておくと良い。 ・試合前にチームでまとめた戦術を再確認させると良い。 ・ICT端末を用いて試合中の動作を撮影しておくと良い。	○	○	◎
		1				・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。		○	○	◎
	9	1		戦術の振り返り	-	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	・撮影した試合ごとの動画をclassroomにて共有し、視聴できるようにすると良い。	○	○	◎
		1				・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	・確認した戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
	10	1		スポーツルールはなぜ変わるのかメディアとの関係性も含めて考えてみよう （個人ごとに調べ学習・まとめ）	162～163	・個人で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかを調べることで、競技・種目の歴史を学ぶと共にメディアとの関係性も知る。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・現在のルール（種目・人数・場所・道具など）を元に過去にどのような所が変わったのか理由を含めて考えさせると良い。	○	○	◎
		1				・個人で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかを調べたことをまとめる。		○	○	◎
	11	1		スポーツルールはなぜ変わるのかメディアとの関係性も含めて考えてみよう （班ごとに調べ学習・発表）	162～163	・班で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかまとめたことを班の中で共有し、発表資料を作成する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行うと良い。 ・発表内容をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・班ごとにclassroomを活用し発表すると良い。 （Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		1				・班で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかまとめたことを班の中で作成した発表資料を元に、発表することで理解を深める。		○	○	◎
	12	1		技能の上達過程と練習	164～165	・技能の上達過程に見られる3つの段階の違いと停滞現を説明できる。 ・自身の運動経験から、プラトー・スランプの状態を認識する。	①では、技能の上達過程をテニス以外の競技より図や写真などを用いて分かりやすく説明すると良い。	○	○	◎
		1				・2つのフィードバックを説明できる。	・ペアなどになり、学んだ知識をフィードバックすることで理解を深めると良い。	○	○	◎
	13	1		フリースローのフィードバックを通して自身の動作やタイミングを修正し、適切な目標設定をする （チームごとに学習）	165	・フリースローの動画をフィードバックから課題を発見し、修正点を検討することで、適切な目標の設定を行う。	・前回の実技時に撮影したフリースローの動画をclassroomを活用し共有すると良い。 ・チームごとにそれぞれの課題と修正点をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 （Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		1				・戦術の振り返りから再度戦術を確認する。		○	○	◎
	14	1		実技（バスケットボール）	-	・フリースローの練習と成功数の確認 ・フリースローを撮影し、直後に動画を見ることでチーム内でフィードバックを行い、修正点を確認する。	①、②では、ICT端末を使用し、フリースロー動画を撮影し、フィードバック時に活用できるようにすると良い。 ・試合前にはまとめた戦術を確認すると良い	○	○	◎
		1				・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。		○	○	◎
	15	1		フリースローと戦術の確認	-	・フリースロー時の映像を見返して、修正点が無いか確認する。 ・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	①では、撮影したフリースローや試合ごとの動画をclassroomにて共有し、視聴できるようにすると良い。 ②では、確認した映像を元にフリースローの修正点や戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		1				・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。		○	○	◎
	16	2		効果的な動きのメカニズム	168～169	・体の動きについて、どのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。	・転入生や席替えなどもあり、グループが変わっている可能性もあるため、自己紹介から入ると良い。 ・図などを用いて分かりやすく説明すると良い。	◎	○	○
		2				・動きを支える調整力について例をあげて説明できる。	・状況判断力について、試合動画などをみせ、その次に行われるプレーなどをグループにて考えさせ、発表させると良い。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	17	2	12	運動・スポーツと脳 （班ごとに調べ学習）	170	・運動のコントロールにかかわる脳部位の特徴を説明できる。	・班ごとに脳部位の特徴を教科書に記載されている以外の詳しい説明を調べ、classroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・運動のコントロールにかかわる脳部位の特徴を説明できる。	・うつ病以外でも運動時間と健康に関わる内容を調べclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
	18	2		体力トレーニング	172～173	・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。	・PDCAサイクルとも関連させて考えさせていくと良い。	○	○	◎
		2				・筋力を高める具体的な方法をあげることができる	・器具を使用した筋力トレーニングの種類を調べ、classroom内にて提出させると良い。	○	○	◎
	19	2		筋力トレーニング （個人で調べ学習・まとめ）	172～174	・個人で、自重トレーニングを用いた筋力トレーニングメニューを考案する。	・参考動画としていくつかの動画をみせると良い。 ・班編成を行い、班ごとに調べ学習を行うと良い。。	○	○	◎
		2				・個人で、自重トレーニングを用いた筋力トレーニングメニューを考案した内容をまとめる。	・発表内容をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集） ・発表の仕方として、班でトレーニングを撮影し投影すると良い。 ・それぞれメニューごとに何の効果があるのか、注意点などを盛り込むようにすると良い	○	○	◎
	20	2		筋力トレーニング （班ごとに調べ学習・実践）		・個人で、自重トレーニングを用いた筋力トレーニングメニューを班ごとに共有し、発表資料を作成する。		○	○	◎
		2				・個人で、自重トレーニングを用いた筋力トレーニングメニューを班ごとに実践することで、効果を測定する。		○	○	◎
	21	2		筋力トレーニング （班ごとに調べ学習・発表）	172～174	・各班ごとで考えた自重トレーニングを用いた筋力トレーニングを発表することで、様々な種類の筋力トレーニングを知る。	・前回引き続き、班編成にて活動を行い、発表までまとめることが出来ると良い。 ・発表内容に対して、実施しながら出来ると良い。	○	○	◎
		2				・様々な種類の筋力トレーニングを元に実践するメニューを決め、トレーニングを実施することで効果を測定する。		○	○	◎
	22	2		持久力トレーニング 調節力・柔軟性のトレーニング （個人で調べ学習・まとめ）	174～175	・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法を調べ、理解を深める。	・班編成を行い、班ごとに調べ学習を行うと良い。 ・発表内容をclassroomで共有(発表・意見交換)すると良い。 ・発表の仕方として、班でトレーニングを撮影し投影すると良い。 ・それぞれメニューごとに何の効果があるのか、注意点などを盛り込むようにすると良い。	○	○	◎
		2				・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法を調べた内容をまとめる。		○	○	◎
	23	2		持久力トレーニング 調節力・柔軟性のトレーニング （班ごとに調べ学習・発表）	174～175	・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法を調べ、まとめた内容を班で共有し、発表資料を作成する。	・前回引き続き、班編成にて活動を行い、発表までまとめることが出来ると良い。 ・発表内容に対して、実施しながら出来ると良い。	○	○	◎
		2				・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法を調べ、班でまとめた内容を発表することで理解を深める。		○	○	◎
	24	2		実技（フットサル）	－	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート）を学び、実践する。	②では、ICT端末を用い、運動中の動作などを撮影し自分の動作を客観的に見たり、友人と意見交換を行い技術の向上を目指す。 ・安全面に十分配慮し、レベルに応じた課題を与えると良い。 ・模範的な動作をclassroomを用いて共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	25	2		運動やスポーツでの安全の確保 （個人で調べ学習・まとめ）	176～177	・スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。	①では、図などを用いて分かりやすく説明すると良い。 ②では、自身が関心をもっている運動やスポーツを行うときに、ケガが起きない様に注意すべきことを調べて、classroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生の原因と予防方法をまとめる。		○	○	◎
	26	2		運動やスポーツでの安全の確保 （個人で調べ学習・まとめ）		・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生の原因と予防方法を班で共有し、発表資料を作成する。	・前回引き続き、個人で調べ学習とまとめを行うと良い。	○	○	◎
		2				・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生の原因と予防方法を班ごとに発表して。スポーツに応じたケガの予防方法の理解を深める。	・発表内容によっては、実際に行いながら発表すると良い。	○	○	◎
	27	2		スポーツによるさまざまなリスクを考える スポーツ外傷・障害とその原因 （個人で調べ学習・まとめ）	178～179	・スポーツのシーンをあげて、起こりえるケガについて、リスクの例をあげられるようになる。	①、②では、教科書記載の状況以外でも教員がいくつかのシーンを作成しておくと良い。 ・班編成を行い、班ごとに調べ学習を行うと良い。 ・スポーツ外傷について調べて、classroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・自身で決めたスポーツの外傷の例を調べ、まとめる。		○	○	◎
	28	2		スポーツによるさまざまなリスクを考える スポーツ外傷・障害とその原因 （個人で調べ学習・発表）		・自身で決めたスポーツの外傷の例を調べ、まとめた内容を班で共有し、発表資料を作成する。	・前回引き続き、班で調べ学習とまとめを行うと良い。 ・スポーツ外傷について調べて、classroomで共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・自身で決めたスポーツの外傷の例を調べ、まとめた内容を班でごとに発表して、理解を深める。	・前回引き続き、班編成にて活動を行い、発表までまとめることが出来ると良い。	○	○	◎
	29	2		応急処置	－	・スポーツで良く起きる外傷（捻挫・突き指）に対して応急手当ての方法を知る。	・テーピングを人数分用意しておくと良い。 ・テーピングの巻き方に関する動画や資料を準備しておくと良い。 ・ペアを編成し、実際にテーピングをすると良い。	○	○	◎
		2				・スポーツで良く起きる外傷（捻挫・突き指）に対して応急手当てをペアで実施することで、実践できるようになる。		○	○	◎
	30	2		実技（バドミントン）	－	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（ラリー・スマッシュ）を学び、実践する。	①、②では、ICT端末を用い、運動中の動作などを撮影し自分の動作を客観的に見たり、友人と意見交換を行い技術の向上を目指す。 ・安全面に十分配慮し、レベルに応じた課題を与えると良い。 ・模範的な動作をclassroomを用いて共有(発表・意見交換)すると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
		2				・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。		○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育③	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	生涯にわたって健康で豊かな生活を送るには、スポーツと継続的にかかわることが必要であり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計することが重要であるため、生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて学習をする。						
学習の到達目標	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのか、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を理解し、説明することができる。						
	豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解し、現在のスポーツライフの諸条件を整理して、自分にあったスポーツライフを設計することができる。						
	国や自治体が行っているスポーツ推進の施策、企業や地域におけるスポーツの関り方について把握し、これからの豊かなスポーツライフにおける課題について考える力を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション(学習の進め方)	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学種の進め方を理解する。	・新年度がスタートし、今後班にて活動すること意識し、生徒と教員・生徒同士コミュニケーションが取れる場として工夫すると良い。	－	－	－
	2	1	7	社会の変化とスポーツの役割 （社会の変化とレジャー社会の到来）	182	・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。	・MetaMojiで課題を配布し、生徒がレジャー社会におけるスポーツの役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
		1		社会の変化とスポーツの役割 （レジャー社会におけるスポーツの役割）	182	・レジャー社会におけるスポーツの役割、生涯スポーツとしての考え方を理解する。	・MetaMojiで課題を配布し、生涯スポーツとしての役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
	3	1		ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 （「する」から「みる」「支える」「知る」へ）	183	・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。	・MetaMojiで課題を配布し、生徒がレジャー社会におけるスポーツの役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
		1		ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 （各ライフステージの楽しみ方）	183	・各年代ごとにおけるスポーツとのかかわり方を理解し、豊かなスポーツ活動を展開するための知識を深める。	・教員が各年代におけるスポーツとの関わり方についてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、どのような事例があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
	4	1		スポーツ科学について （個別学習）	184	・スポーツ科学の学問分野について調べ、スポーツ科学の理解を深める。	・教員がスポーツ科学についてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、どのような学問があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
		1		スポーツ科学について （グループ活動）		・スポーツ科学を理解し、自分の考えを共有することができる。	・生徒が各自スポーツ科学について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
	5	1		スポーツ科学について （グループ毎に発表）		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ毎にまとめた内容を発表する。	・生徒が各自スポーツにかかわる職業について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
		1		スポーツにかかわる職業について （個別学習）	185	・ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業について調べ、ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業の役割につて理解を深める。	・教員がスポーツ科学についてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、どのような学問があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
	6	1		スポーツにかかわる職業について （グループ活動）		・ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業の役割を理解し、自分の考えを共有することができる。	・生徒が各自スポーツ科学について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
		1		スポーツにかかわる職業について （グループ毎に発表）		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ毎にまとめた内容を発表する。	・生徒が各自スポーツにかかわる職業について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
	7	1		バスケットボールについて、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （チームごとに調べ学習）	－	・バスケットボールのチーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べることで、競技の理解を深め、実践に向けたイメージを持つ。	・バスケットボール実施の反省を行い、自己紹介などを行うと良い。 ・調べた戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。	○	○	◎
		1						○	○	◎
	8	1		実技（バスケットボール）	－	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート・フリースロー）を学び、実践する。	・フリースローの成功数を生徒ごとに把握して、動画に収めておくと良い。 ・試合前にチームでまとめた戦術を再確認させると良い。	○	○	◎
		1				・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用いて試合中の動作を撮影しておくと良い。	○	○	◎
	9	1		戦術の振り返り	－	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	・撮影した試合ごとの動画をclassroomにて共有し、視聴できるようにすると良い。	○	○	◎
		1				・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	・確認した戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。（Googleスライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	10	1		いろいろなスポーツライフ (ライフスタイルとスポーツのかかわり)	186	・「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明ができる。	・では「する」スポーツにはどのようなものがあるのか調べ、自分の考えをGoogleスライドにまとめ授業で共有する。（協働学習）	○	○	◎
		1		いろいろなスポーツライフ (スポーツライフスタイルのタイプ)	186	・自分のライフスタイルに適したスポーツライフを選択するとともに、スポーツに対する多様なかかわり方を理解する。	・MetaMojiで課題を配布し、生徒がレジャー社会におけるスポーツの役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
	11	1		豊かなスポーツライフの設計 (現在のスポーツライフ)	187	・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	・MetaMojiで課題を配布し、P187の資料③を参考に各自スポーツライフを規定している諸条件を考える。（個別学習）	◎	○	○
		1		豊かなスポーツライフの設計 (マイスポーツライフの設計のしかた)	187	・スポーツライフを規定する条件に人的要因、環境的要因があるが具体的にどのようなものなのか理解する。	・「人的要因」「環境的要因」ではどのようなものがあるのかを調べ、自分の考えをGoogleスライドにまとめ授業で共有する。（協働学習）	○	○	◎
	12	1		身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (個別学習)	188	・P188の資料を参考に自分のスポーツライフについて調べ、自分のスポーツライフを理解する。	・教員がスポーツライフについてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、どのような学問があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
		1		身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (ペア活動)		・P188の資料を参考にペアの生徒同士でスポーツライフについてｲﾝﾀﾋﾞｭｰを行い、身のまわりの人に目を向け、どのようなスポーツライフを行っているのか認識する。	・生徒が各自スポーツライフについて調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
	13	1		身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (グループ内で発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・生徒が各自スポーツライフにかかわる職業について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
		1		自分でスポーツライフを設計しよう (個別学習)	189	・P189の資料を参考に自分のスポーツライフを設計し、自分のスポーツライフについて現状の把握をする。	・教員がスポーツライフについてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、各自生徒が調べ、自分のスポーツライフを設計する。（個別学習）	◎	○	○
	14	1		身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (ペア活動)		・P189の資料を参考にペアの生徒同士で自分で設計したスポーツライフについて発表し、身のまわりの人に目を向け、どのようなスポーツライフを設計したのか確認し、自分との違い、良いところについて把握する。	・生徒が各自スポーツライフについて調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
		1		実技(バレーボール)	―	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（オーバートス・アンダートス）を学び、実践する。	・（オーバートス・アンダートス）成功数を生徒ごとに把握して、動画に収めておくと良い。 ・試合前にチームでまとめた戦術を再確認させると良い。	○	○	◎
	15	1			―	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用いて試合中の動作を撮影しておくと良い。	○	○	◎
		1		戦術の振り返り	―	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	・撮影した試合ごとの動画をclassroomにて共有し、視聴できるようにすると良い。	○	○	◎
	16				―	・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	・確認した戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。（Google スライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
				日本のスポーツ推進の歩み (オリンピックとスポーツの推進施策)	190	・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを理解し、説明できる。	・MetaMojiで課題を配布し、スポーツ推進のアクターが担っている役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
	17			日本のスポーツ推進の歩み (さまざまなスポーツ推進のアクター)	190	・スポーツ推進にむけて、国や自治体以外でも様々なかかわり方があることを理解し、それが担っている役割を理解することができる。	・MetaMojiで課題を配布し、スポーツ推進のアクターが担っている役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
				日本のスポーツ推進の歩み (ペア活動)	190	・スポーツ推進における取組みを調べ、どのような活動をおこなったか理解する。	・P190の資料1を参考にペアの生徒同士で、スポーツ推進における取組について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
	18			日本のスポーツ推進の歩み (グループ内で発表)		・スポーツ推進における取組みについてグループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・スポーツ推進における取組みにかかわる職業について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
				地域とスポーツクラブ (地域スポーツの推進)	191	・自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげ、理解する。	・MetaMojiで課題を配布し、地域におけるスポーツ推進の取り組みについて調べる。（個別学習）	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	19	2	12	地域とスポーツクラブ （高校生活と地域のスポーツ環境）	191	・地域のスポーツ環境を調べ、その役割や実際に利用する際のシュミレーションし、共有することができる	・MetaMojiで課題を配布し、地域のスポーツ環境を利用する際に必要なことなどを調べまとめる。（個別学習）	◎	○	○
				地域とスポーツクラブ （ペア活動）	191	・P191の資料2を参考にペアの生徒同士で、地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	・ペアの生徒同士で、地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
	20			地域とスポーツクラブ （グループ内で発表）		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
				諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう （個別学習）	192～193	・欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史を調べ、理解する。	・教員が欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みについてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、どのような学問があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
	21			諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう （グループ活動）	192～193	・欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史について調べたことをグループ内で自分の考えを共有することができる。	・生徒が各自、欧米諸国のスポーツ推進に関する取り組みの歴史について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
				諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう （グループ毎に発表）	192～193	・他の生徒の考えをまとめ、グループ毎にまとめ発表することができる。	・生徒が各自、欧米諸国のスポーツ推進関する取り組みの歴史について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
	22			実技(フットサル)	―	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート）を学び、実践する。	・（パス・ドリブル・シュート）成功数を生徒ごとに把握して、動画に収めておくと良い。 ・試合前にチームでまとめた戦術を再確認させると良い。	○	○	◎
					―	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用いて試合中の動作を撮影しておくと良い。	○	○	◎
	23			戦術の振り返り	―	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	・撮影した試合ごとの動画をclassroomにて共有し、視聴できるようにすると良い。	○	○	◎
					―	・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	・確認した戦術をチーム同士のグループで共有しclassroomを活用し提出させると良い。（Google スライド等でグループ内で共同編集）	○	○	◎
	24			日本のスポーツライフの特徴 （これまでのスポーツライフ）	194	・現在までのスポーツライフについての歴史を理解することができる	・MetaMojiで課題を配布し、地域におけるスポーツライフの歴史について調べる。（個別学習）	◎	○	○
				日本のスポーツライフの特徴 （これからのスポーツライフ）	194	・現在の社会問題(超高齢社会)を理解し、これからのスポーツライフの在り方について理解し共有することができる。	・MetaMojiで課題を配布し、地域のスポーツ環境を利用する際に必要なことなどを調べまとめる。（個別学習）	◎	○	○
	25			日本のスポーツライフの特徴 （ペア活動）	194	・P191の資料2を参考にペアの生徒同士で、地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	・ペアの生徒同士で、地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
				日本のスポーツライフの特徴 （グループ内で発表）		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
	26			豊かなスポーツライフの創造のために （スポーツを文化として楽しむこと）	194	・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について、例をあげて説明ができる。	・MetaMojiで課題を配布し、スポーツ推進のアクターが担っている役割について調べる。（個別学習）	◎	○	○
				豊かなスポーツライフの創造のために （豊かなスポーツライフの課題）	194	・スポーツ文化が社会の中でどのように受け入れられ発展してきたのかを理解し、共有することができる。	・MetaMojiで課題を配布し、地域のスポーツ文化を利用する際に必要なことなどを調べまとめる。（個別学習）	◎	○	○
	27			豊かなスポーツライフの創造のために （ペア活動）	194	・ペアの生徒同士で、スポーツ文化が社会の中でどのように受け入れられ発展してきたのか地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	・ペアの生徒同士で、各地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
				豊かなスポーツライフの創造のために （グループ内で発表）		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・地域におけるスポーツに対する取組について調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	28			適切な救急対応について (救急車の適切な呼び方)	200	・傷病者をなるべく早く救急隊員や医師に引き継ぐために正確な必要事項を伝えるための知識や対応方法を理解する。	・教員がGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて、救急対応の流れを共有し、実際の対応方法を練習する。（個別学習）	◎	○	○
				AEDの使い方について	201	・AEDの使用方法を理解し、設置場所などの理解し緊急時に使用できる知識を身につける。	・教員がGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて、AEDの使用方法を共有し、実際の対応方法を練習する。（個別学習）	◎	○	○
	29			保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (個別学習)	202	・P202の表から職業を1つ選び、その職業はどのような役割があるのか、どのように社会に貢献しているのかを理解する。	・教員がP202の表を使いGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて一例を共有し、選択した職業にはどのような役割があるのかを各自生徒が調べる。（個別学習）	◎	○	○
				保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (グループ活動)	202	・調べたその職業の役割、どのように社会へ貢献しているのかをグループの中で発表し、理解する。	・生徒が各自、選んだ職業にはどのような役割があるのか調べたものを、Googleスライドに書き込み、他者との意見交換を行う。（協働学習）	○	○	◎
	30			保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (グループ毎に発表)	204	・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	・生徒が各自、選んだ職業にはどのような役割があるのか調べたものを、Googleスライドにて発表を行う。（協働学習）	○	○	◎
				実技(ニュースポーツ)	―	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。	・協議特性を生徒ごとに把握して、動画に収めておくと良い。 ・試合前にチームでまとめた戦術を再確認させると良い。	○	○	◎
				実技(ニュースポーツ)	―	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	・ICT端末を用いて試合中の動作を撮影しておくと良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	保健①	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	１．個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	２．健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	３．生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標を伝達。Classroomを作成して今後の資料などを共有する。	－	－	－
	2	1	6	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	6～9	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	①自分の健康の定義を考え、スライドにまとめる。（個別学習） ②気になる現在の健康問題について取り上げ、調べた資料をスライドにまとめ、グループごとにClassroomで共有する。（協働学習）	◎	○	○
	3	1	6	生活習慣病の予防と回復	12～13	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	①スプレッドシートを用いて一週間の生活を振返り、生活習慣病を防ぐ為の生活改善案をClassroomのグループで共有する。（個別→協働） ②グループで共有した①の生活改善案をもとにポスターを作成し、教室に掲示する。	○	◎	○
	4	1	6	がんの原因と予防 がんの治療と回復	14～17	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	①最新のがんの治療方法についてグループで調べ、調べた内容をクラス全員にClassroomのスライドを用いて共有する。（協働学習）	◎	○	○
	5	1	6	運動と健康	20～21	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	①自分の1週間の身体活動量を調べ、スプレッドシートにまとめる。（個別学習） ②まとめた身体活動量のグラフを作成してClassroomのグループで共有することで適切な身体活動量が確保できているか確認する。（協働学習）	○	◎	○
	6	1	6	食事と健康 休養・睡眠と健康	22～25	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。	①学んだことを参考にして自分の睡眠の質を高める為の工夫を考える。また、実践した結果をClassroomのスライドにまとめ、後日、クラス内で発表する。（個別学習）	○	◎	○
	7	1	6	喫煙と健康	28～29	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	①未成年の喫煙を防ぐ為の対策をグループに分かれて考え、1つのGoogleスライドを作成する。（協働学習） ②①のグループで出た意見をもとにクラスで一番効果的だと思う対策をポスターに書き出し、校内に掲示する。	○	○	◎
	8	1	6	飲酒と健康	30～31	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	①アルコールパッチテストを実施し、自分の体質を知る。（任意） ②未成年の飲酒を防ぐ為の対策をグループに分かれて考え、Googleスライドにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	9	1	6	薬物乱用と健康	32～33	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	①P35を参考にして薬物乱用への誘いにどう答えるか3人1組でロールプレイングを実施し、感想をスライドにまとめてクラス内で共有する。（協働学習）	○	◎	○
	10	2	7	精神疾患の特徴	36～37	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	①自分の現在のストレスをドキュメントにまとめる。（個別学習） ②そのストレスに対してどのように対処しているかドキュメントに追記する。（個別学習） ③「私のストレス対処法」可能であれば対処方法を共有する。	○	◎	○
	11	2	7	精神疾患の予防 精神疾患からの回復	38～41	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 ・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	①精神疾患を予防する具体的な方法をグループで考え、スライドにまとめる。グループでまとめた内容をクラスで共有する。（協働学習） ※精神疾患について生徒がネガティブに捉えないように注意する。	○	○	◎
	12	2	7	現代の感染症 感染症の予防	44～47	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。 ・感染症の予防対策について３原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	①新しい型のインフルエンザウイルスはどのようにして生まれるかグループで調べ、ポスターにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	13	2	7	性感染症・エイズとその予防	48～49	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	①エイズ予防の広告をドキュメントを用いてグループで作成し、クラスで共有する。（協働学習）	○	◎	○
	14	2	7	健康に関する意思決定・行動選択	52～53	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	①P53資料4を参考に、健康にとって望ましくない誘いを圧力のある人から受けた時の断り方について3人1組でロールプレイングを実施し、感想をスライドにまとめる。（協働学習）	○	◎	○
	15	2	7	健康に関する環境づくり	54～55	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	①人々が健康になる環境づくりには何が必要か考え、アイデアをスライドにまとめ、グループ内で共有する。（個別→協働）	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	12	事故の現状と発生要因	60～61	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	①過去に自分が起こした自転車事故や危なかった体験とその要因をスプレッドシートにまとめ、グループで共有する。（個別→協働）	○	◎	○
	17	3	12	事故の現状と発生要因	60～61	・あおり運転について考え、他者の価値観を受け入れる。 ・あおり運転が道路交通法の規定に組み込まれた背景を理解する。	①あおり運転について、肯定派と否定派に分かれて討論し、感想を共有する。	○	○	◎
	18	3	12	安全な社会の形成	62～63	・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	①自分が住んでいる地域の安全対策について調べ、ドキュメントにまとめる。（個別学習） ②グループで一番いいと思った安全対策を考え、クラス内で発表する。	◎	○	○
	19	3	12	安全な社会の形成	62～63	・身の回りの安全対策について調べ、実情を知る。 ・実際の環境に必要な安全対策について考えることができる。	①グループで学校近辺の安全対策が取られている場所を探し、どのような効果が期待できるかをスプレッドシートにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	20	3	12	交通における安全	64～65	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を３つに分けて説明できる。	①教員が交通事故の事例を共有し、その事例について運転者はどんな責任を負う必要があるかグループで考え、3つの責任に分けてスライドにまとめ、クラス内で共有する。（協働学習）	○	○	◎
	21	3	12	交通における安全	64～65	・運転者にはどのような資質が求められるか理解できる。	①自分が交通社会の一員となる際に、運転者としてどのような資質が必要かスライドを用いてグループで意見を共有する。（協働学習）	○	◎	○
	22	3	12	防災・避難計画	66	・災害を想定した準備・計画ができる。	①災害時用に自宅に備えられている準備をグループで共有する。 ②学校で水害や地震が発生した際の避難方法をグループで考え、具体的な方法をスライドにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	23	3	12	応急手当の意義とその基本	68～69	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	①グループで学校付近の地域を設定し、どこにAEDが設置されているか実際の地図を用いてAEDマップを作成し、校内に掲示する。（協働学習）	○	○	◎
	24	3	12	応急手当の意義とその基本	70～71	・実際に傷病者を発見したときに適切な確認・観察ができる力を身に付ける。 ・応急手当の手順を身に付ける。	①複数の場面を設定し、4人1組で傷病者に遭遇した時の対応をロールプレイングで実施する。 ②ロールプレイングを実施した感想をクラス内で共有する。	○	◎	○
	25	3	12	日常的な応急手当	70～71	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	①日常的なけがや熱中症について複数の場面を設定し、適切な応急手当の方法をスプレッドシートにまとめ、グループで共有する。（個別→協働）	○	◎	○
	26	3	12	日常的な応急手当	70～71	・脱臼や骨折が疑われる場合に適切な固定ができる力を身に付ける。	①2人1組で骨折・脱臼に対して副木、雑誌、三角巾などを用いて実際に固定の練習をする。 （教員は事前に固定方法の資料を準備し、Classroomで共有する）	○	◎	○
	27	3	12	日常的な応急手当	70～71	・RICE法による応急手当が適切にできる力を身に付ける。	①捻挫・打撲・肉離れについて、テーピングなどを用いたRICE法による応急手当の手順を2人1組で実践する。	○	◎	○
	28	3	12	心肺蘇生法	72～73	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・AEDによる除細動の重要性を理解する。	①傷病者に出くわした際の心肺蘇生の方法と手順を4人1組でロールプレイングを実施する。 ②ロールプレイングを実施した感想をクラス内で共有する。	○	○	◎
	29	3	12	心肺蘇生法	72～73	・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。 ・AEDを適切に使用することができる。	①CPR練習用マネキンや練習用AEDを用いて心肺蘇生を実践する。 ②心肺蘇生を実施した感想をクラス内で共有する。	○	○	◎
	30	―	―	QOLの高め方	6～74	・現代社会と健康、安全な社会生活について学んだ知識をもとに自身のQOLを高める具体的な方法を考えることができる。	①現在の日常生活を振返り、今まで学んだ知識をもとにQOLを高める具体的な方法をグループで考え、クラスで共有する。（協働学習）	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	保健②	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期・5週、年間30週 前期：4月～8月　後期：・0月～・月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：・0・・・・・・月の第・金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：・月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	・．個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	・．健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3．生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標を伝達。Classroomを作成して今後の資料などを共有する。	－	－	－
	2	1	6	ライフステージと健康	76,77	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげて説明できる。	ライフステージごとの健康課題と社会からの支援をスプレッドシートにまとめることで学習内容を定着させる。（個別学習） 個別学習で作成した内容をGoogleスライドを用いてグループで共有をし、互いに意見交換をしながら理解を深めると尚良い。（協働学習）	○	◎	○
	3	1	6	思春期と健康	78,79	・思春期における体の変化を，女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげて説明できる。	P79の資料3を参考に自分の心理状態をペアもしくはグループで共有し合う。また、不安定な心理状態になった時にその解決方法や周囲のサポートについて調べてGoogleスライドにまとめる。（協働学習）	◎	○	○
	4	1	6	性意識と性行動の選択	80,81	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす要因について説明できる。	性意識について理解した上で、教科書P8・資料3&4の情報源について正確性・具体性・双方向性の観点でグループで評価をし、Googleスライドを用いて発表する。（協働学習）	◎	○	○
	5	1	6	妊娠・出産と健康	82,83	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて例をあげて説明できる。	・キャンパスがある市区町村の母子保健サービスと他都道府県市区町村の母子保健サービスにどのような違いがあるかグループで調べ、MetaMojiにまとめる。（協働学習）	○	◎	○
	6	1	6	避妊法と人工妊娠中絶	84,85	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	・人工妊娠中絶の原因を考える為に、教科書P85資料を参考にしてグラフから読み取れることをMetaMojiを用いて共有する。（協働学習）	○	◎	○
	7	1	6	結婚生活と健康	88,89	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	・家族の健康への責任には何があるかグループで考えを共有する。（協働学習） ・家庭や育児の不安・悩みを相談できる専門機関ではどんな支援が受けられるのかをグ調べて共有できると良い。（協働学習）	○	◎	○
	8	1	6	中高年期と健康	90,91	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	・高齢者が健やかに過ごすために、キャンパスがある市区町村と他都道府県市区町村のサービスにどのような違いがるかグループで調べ、Googleスライドにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	9	2	7	働くことと健康	92,93	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	・教科書P93の事例を一読して感想を共有し、自分が社長になったらどんな働き方ができる会社にしたいかをグループで考え、意見を共有する。（協働学習）	○	○	◎
	10	2	7	労働災害と健康	94,95	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。	・教科書P95の考えてみようにあがっている事例を読み、どうすれば事故を防止できたか安全管理、健康管理の面から原因と改善策を考え、スプレッドシートにまとめる。（協働学習）	○	◎	○
	11	2	7	健康的な職業生活	96,97	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	・教科書P97資料・を参考に、どうすれば有給休暇の取得率を向上させる事ができるのかグループで具体的な例をあげ、Googleスライドを用いて共有する。（協働学習）	○	◎	○
	12	2	7	大気汚染と健康	100,101	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	・について現在、健康への影響がある問題についてスプレッドシートにまとめる。 ・は地球温暖化が及ぼす健康問題について、改善できる具体的な方法をグループで考える。（協働学習）	◎	○	○
	13	2	7	水質汚濁、土壌汚染と健康	102,103	・水質汚濁，土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気，水，土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	・日常生活のなかで水質汚染や土壌汚染を防ぐ為にすぐにできる事を考え、グループ内で共有する。（個別→協働学習）	○	○	◎
	14	2	7	環境と健康にかかわる対策	104,105	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。	・理解を更に深めるために、環境基本法では04資料・以外にどんな基準が設けられているかをグループで調べMetaMojiにまとめて発表する。（協働学習）	○	◎	○
	15	2	7	ごみの処理と上下水道の整備	106,107	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	・MetaMojiで課題を配布し、安全でおいしい水を飲み続ける為に普段の生活で改善できる事を考える。（個別学習）	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	12	食品の安全性	110, 111	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	・健康食品のポスターを何例か取り上げ、おかしな点や誤解を与える点がないかグループで意見を共有し、Googleスライドにまとめる。（協働学習）	○	◎	○
	17	3	12	食品衛生にかかわる活動	112, 113	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。	・MetaMojiで課題を配布し、製造者の立場で消費者に安全性が伝わるパッケージデザインを考え、共有する。（個別→協働学習）	○	◎	○
	18	3	12	保健サービスとその活用	116, 117	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげることができる。	・についてはキャンパスがある市区町村と他都道府県市区町村の健康診査・健康教育・がん検診にどのような違いがあるかグループで調べ、MetaMojiで配布した課題にまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	19	3	12	医療サービスとその活用	118, 119	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	・は今まで医療機関にかかった際に困ったことをあげて、その際の対応方法についてグループで考える。（協働学習）	○	◎	○
	20	3	12	医療品の制度とその活用	120, 121	・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	・について医薬品の副作用と薬害の違いについて調べて具体的な違いをMetaMojiで配布した課題にまとめる。（個別学習） ・はどうすれば薬害を防ぐことができるのかをグループで考える。（協働学習）	◎	○	○
	21	3	12	さまざまな保健活動や社会的対策	124, 125	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。	・では実際に日常生活で目にする保健活動がどこでどのように行われているかをグループで調べて、Googleスライドにまとめてクラスで共有する。（協働学習）	○	◎	○
	22	3	12	健康に関する環境づくりと社会参加	126, 127	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	・についてはP・・6の事例を読んで、自分が住んでいる地域でも同じようなまちづくりができる方法をグループで考え、Googleスライドにまとめる。（協働学習）	○	○	◎
	23	復習	ー	性意識と性行動の選択	86	・諸外国の性教育について説明できる。 ・現在の性教育について他者と意見交換ができる。	・では現在の性教育について、グループで意見交換をしながら課題をGoogleスライドにまとめ、課題解決の方法を考える。（協働学習）	○	○	◎
	24	復習	ー	避妊法と人工妊娠中絶	87	・現在多く使用されている避妊法について説明できる。 ・失敗している避妊法が多く使用されている原因について意見交換ができる。	・についてP87資料・を参考に、なぜその方法が多く使用されているかそれぞれの考えを共有し、正しい避妊法を理解する。（協働学習）	○	◎	○
	25	復習	ー	結婚生活と健康	88	・不妊治療の方法を説明できる。 ・不妊治療の経済的負担や心理的な負担について正しく理解し、他者の考えを受け入れることができる。	・はグループで不妊治療の方法や費用などを調べ、Googleスライドにまとめ、クラスで共有することで不妊治療をすると心身にどんな影響があるか気づくことができると良い。（協働学習）	○	○	◎
	26	復習	ー	健康的な職業生活	98	・福利厚生について説明できる。 ・福利厚生の実情について正しく理解することができる。	・についてはいくつかの企業を取り上げ、MetaMojiで業代を配布し、実際に行っている福利厚生の内容についてグループで調べ、クラスで発表する。（協働学習）	○	◎	○
	27	復習	ー	ごみの処理と上下水道の整備	109	・海洋プラスチックごみについて説明できる。 ・海洋プラスチックごみの対策についての国や自治体の取り組みを正しく理解する。	・は海洋プラスチックごみについて日常生活でできる対策をグループで考えGoogleスライドにまとめてクラスで発表する。（協働学習）	○	◎	○
	28	復習	ー	食品衛生にかかわる活動	115	・フードファディズムについて説明できる。 ・フードファディズムの消費者側の課題について例をあげて説明できる。	・では実際に起こっているフードファディズムを取り上げGoogleスライドにまとめ、消費者としての課題を発見して解決策を考えられると良い。（協働学習）	○	○	◎
	29	復習	ー	医療サービスとその活用	122	・医療機関を選ぶ条件について正しく理解する。 ・医療機関を選ぶ際に参考にできる方法を知る。	・はMetaMojiで課題を配布し、病院を選ぶ条件を書き出す。それをグループ内で共有し、他者の考えと比較することで改めて自身の考えを整理する。（協働学習）	○	◎	○
	30	復習	ー	健康に関する環境づくりと社会参加	128	・健康情報を正しく判断するための情報の見方を知る。 ・健康方法が正しく活用されるための取り組みについて意見交換ができる。	・ではP・・8の架空の例と可能性を読み、例のような情報が世の中にでることについて意見交換をする。 ・では健康情報が正しく活用されるためにはどんな取り組みが必要か考えGoogleスライドにまとめる。（協働学習）	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	音楽Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。						
	音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。						
	音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。						
	中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。						
	音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
使用教科書・副教材等	教育出版「音楽Ⅰ Tutti＋」（17教出 音Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Google ClassroomやMetaMoJiで共有する。	－	－	－
	2	1	5	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	146～147	①音楽の楽典について理解する。 ②大譜表と音名について理解する。	参考資料やプリントがあれば、MetaMoJiで共有する。	◎	○	○
	3	1		楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	108～113	西洋音楽史について理解する。	各世紀の時代背景や音楽以外の代表的な物などを紹介することでより理解を深めたい。	○	◎	○
	4	1		楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	14～15 149	①日本歌曲「この道」を通して、日本語の語感や言葉のリズムを感じる。 ②用いられている記号表現を理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	○	◎
	5	－	－	鑑賞	－	①自分の興味のある日本歌曲を探し、鑑賞する。 ②歌曲を通して感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い） 他者の感想共有のために協働学習用の入力シートを準備しても良い。	○	◎	○
	6	2	6+E24:G41	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	149	強弱記号について理解する。	強弱記号が使われている曲を聴くことで、実際どのように聴こえるか確かめられるとよい。	◎	○	○
	7	2		楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	114～117	各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	8	2		楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	28～29	ドイツ歌曲「野ばら」を通して、旋律の動きやテンポの変化を感じる。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	○	◎
	9	－	－	鑑賞	－	①シューベルトの「魔王」を聴く。 ②歌曲を通して感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い） 他者の感想共有のために協働学習用の入力シートを準備しても良い。	○	◎	○
	10	3	7	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	12	①発声の仕組みについて理解する。 ②姿勢や声道と音色について理解する。	参考資料やプリントがあれば、MetaMoJiで共有する。	◎	○	○
	11	3		声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	106～107	世界の様々な音楽の魅力や特徴を理解する。	一部でもよいので楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	12	3		声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	22～23 147～149	カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」に使われている楽典を理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	○	◎
	13	3		声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	22～23 147～149	①カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」を聴き、雰囲気を感じる。 ②自分が歌うことを想定し、自分なりの表現を考える。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	14	－	－	探究	－	①ハバネラなどのこれまで学んだ曲で使用されているリズムや表現方法について調べまとめる。 ②まとめたことを他者に発表することで表現する。	Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、まとめたものが他者に見てもらえる環境を作るとよい。 まとめたデータは集約し、参考資料として生徒に紹介できる良い。	○	○	◎
	15	－	－	鑑賞	－	①これまで学んだ世界の音楽のうち興味のあるものを鑑賞する。 ②感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	曲の特徴だけでなく、国や地域についても調べることでより理解が深まる。 他者の感想共有のために協働学習用の入力シートを準備しても良い。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	楽典・「Danny boy」 （アイルランド民謡）	146～148	①音程について理解する。 ②音程を楽譜を見て表現できる。	参考資料やプリントがあれば、MetaMoJiで共有する。	◎	○	○
	17	4		楽典・「Danny boy」 （アイルランド民謡）	148	アイルランド民謡「Danny boy」に用いられている和音について理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	18	4		楽典・「Danny boy」 （アイルランド民謡）	38	①アイルランド民謡「Danny boy」を聴き、アイルランド民謡を感じる。 ②ほかのアイルランド民謡について調べる。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い） 白紙の楽譜などをMetaMoJi上で準備をして記入させても良い	○	○	◎
	19	―	―	探究	―	①自分の好きな曲について調べまとめる。 ②他者への発表のための表現方法を検討する。	ジャンルを問わず、自分が好きな曲を選択させること。Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、まとめたものが他者に見てもらえる環境を作るとよい。 まとめたデータは集約し、参考資料として生徒に紹介できる良い。	○	○	◎
	20	―	―	鑑賞	―	①自分の好きな曲について他者に発表する。 ②曲の鑑賞を通して、感じたことをお互いに共有し感性を磨く。	発表の際は、魅力と感じる点や作詞・作曲をしているアーティストについてなど、項目を設けると良い。	○	◎	○
	21	5	11	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」（福島民謡）	46～47	日本の民謡と芸能について理解する。	自分の住んでいる地域や、親の出身地など、ゆかりのある地域の民謡を調べてもよい。	◎	○	○
	22	5		日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」（福島民謡）	96～99	日本の音楽史について理解する。	楽器の画像などを見せることでより理解を深めたい。	○	◎	○
	23	5		日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」（福島民謡）	49	福島県民謡「会津磐梯山」を聴き、コブシや囃子言葉などの民謡らしい表現を理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	24	―	―	鑑賞	―	自分が興味のある日本の民謡を調べ聞き、感想を文章で表現する。	ゆかりのあるなしに関わらず幅広く調べられるとよい。もしくはグループやペアで分担して調べてもよい。Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、まとめたものが他者に見てもらえる環境を作るとよい。	○	◎	○
	25	―	―	探究	―	雅楽の管弦と舞楽の違いについて調べまとめる。	Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、まとめたものが他者に見てもらえる環境を作るとよい。	○	○	◎
	26	6	12	楽典・L’inverno「冬」	118～119	ピアノの進化と作品について理解する。	ピアノの種類や構造について調べることでより理解を深めたい。	◎	○	○
	27	6		楽典・L’inverno「冬」	124～125 148	「交響曲第9番」などで使われている、ソナタ形式について理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	28	6		楽典・L’inverno「冬」	83 110 149～152	①「L`inverno（冬）」を聴き、リコーダーやギターの合奏を感じる。 ②作曲されたバロック時代などの時代背景を理解する。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い）	○	◎	○
	29	―	―	探究	―	①協奏曲について調べまとめる ②まとめた特長や、楽曲などを発表し表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、まとめたものが他者に見てもらえる環境を作るとよい。 まとめたデータは集約し、参考資料として生徒に紹介できる良い。	○	○	◎
	30	―	―	鑑賞	―	①学園歌を聴き、特長や感想を表現する。 ②他校の校歌などを鑑賞し共通点を見つける。 ②自分が学園歌を作成するとしたら、どんな歌詞を入れるか考える。	楽曲の音源を準備し実際に流すこと。（権利上問題が無ければデータやURLを共有しても良い） Google classroomやMetaMoJiなどを活用し、それぞれの感想を他者に見てもらえる環境を作るとよい。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美術Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	美術Ⅰは美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本文教出版「高校生の美術1」（美Ⅰ-702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	—	-	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・絵画、彫刻、造形作品はもちろんのこと、身近なものすべてが「美術」なのであることを気づかせるような働きかけをする。 ・Googleformなどを利用して、美術に対する興味関心度のアンケートを実施するなどし、参加型授業を試みてみてもよい。	—	—	—
	2	1	5	「視点と表し方」 絵画の魅力を考える	12・13、22・23、46-52、53-55	複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。	・Googleスライドなどを利用し、視点ごとの画面に対してそれぞれどのような意図や工夫があるか、意見交換をしてみてもよい。 ・意見交換の際に、他者の価値観に触れ、さまざまなものの見方、考え方を受容し合う。	◎	○	○
	3			「想像を形に」 想像の世界を表そう	24・25、12・13、18-21、130、131、132-135、136・137、138・139、140・141、 142・143	想像や空想したイメージなどを基に、形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして、空想や夢などから、心の中の世界を表す。	・教科書P24～25に掲載された現実にはあり得ない世界を表現した作品をよく観察し、作者の世界観を読み取る。 ・心の中の世界を共有する体験を通し、価値観の多様性に触れ、他者の価値観を受容する気持ちを高めるとよい。	○	◎	○
	4			「人物を描く」 自分を見つめて描こう	18-21、12・13、24・25、130・131、132-135、136・137、138・139、140・141、 142・143	自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。	・水彩絵の具もしくはアクリル絵の具を基本に、自由に自画像を描いてみる。 ・時間数に余裕があれば鑑賞会を実施し、構図、表情、色彩の効果、絵の具のタッチ等について言葉で表現する機会を設けるとよい。 ・鑑賞会の際には、相手の表現を受け入れ、認め合う雰囲気づくりを大切にするとよい。	○	○	◎
	5									
	6	2	6	「身近なものを描く」 作品を鑑賞しよう	6-9、130・131、132-135	教科書内の作品を見比べ、身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。	・教科書P6～7に掲載された作品を鑑賞し、形や色彩、質感などの効果について考える。 ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	◎	○	○
	7			「身近なものを描く」 文房具を描こう	6-9、130・131、132-135	身近なものの特徴や美しさなどの全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵の具などの特性を生かして表す。	・生徒が好きな文房具を選択し、描く。 ・鉛筆、水彩絵具、油絵具等などの使用教材については教員から指示をする。 ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	○	○	◎
	8			「私の見付けた風景」 図法を学び、作品を鑑賞しよう	14-17、22・23、136・137、138・139、140・141、142・143	一点透視図法、二点透視図法などを学び、実際にレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」などの作品を鑑賞する。	・図法について学んだうえで、消失点について考える。 ・鑑賞活動を通して、自身が感じたことだけでなく他者の感じたことについて比較をし、多様な価値観を理解する協働学習の機会を設ける。	○	◎	○
	9			「私の見付けた風景」 身近な風景を描こう	14-17、22・23、136・137、138・139、140・141、142・143	身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、風景から感じ取ったよさや美しさなどを絵の具などの特性を生かして表す。	・学校周辺、教室、家など、身近な場所の風景画を制作する。 ・身近な場所の風景を制作する中で、学校、教室、家などへの愛着が持てるようになるとよい。 ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	○	○	◎
	10									
	11	3	7	「墨表現の可能性」 墨の濃淡で、イメージを表現しよう	40・41、26-31	墨による表現の特性やイメージを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、墨の濃淡、にじみやかすれなどの効果を理解し、墨によりつくりだされるイメージを捉え、意図に応じて墨の特性を生かして、積墨法や破墨法、筋目描きなどの技法を体験しながら発想を広げ、いろいろなモチーフのイメージを水墨画で表現する。	・水墨画の技法について学んだうえで、墨の濃淡やにじみ、かすれなどの効果を実際に体験する。	○	◎	○
	12			「立体表現の魅力」 立体表現のよさや特性について考える	56・57、46-52、58・59、60・61、62・63、64・65、66・67	作品がつくられた時代や場所、材料や技法、つくった人の思いや願いへの理解を深め、立体作品の質感や量感、重心など、また、立体作品が 置かれた空間の印象などのイメージを捉えて、立体表現のよさや特性について考える。	・立体表現の技法について学んだうえで、実際の作品を鑑賞し、それぞれの作品のよさや特性について考えさせる。 ・適宜Googleスライド等を利用して共有し、さまざまな作者の価値観に触れ、それぞれの作品のよさを認め合う。	○	◎	○
	13			「日本美術」 日本の美術のよさや特質を味わおう	26-31、32-37、38・39、40・41、42・43、66・67、103・104、105-108、109-115、116-122	屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。	・MetaMoJi等のツールやプリントを使用し、確認テストを実施するなど、知識の確認と定着を図るとよい。	○	◎	○
	14			「抽象彫刻で表す」 動きを感じる抽象彫刻をつくろう	62・63、46-52、56・57、58・59、60・61、64・65、66・67	自然物や人工物などからイメージしたり、楽しい、悲しいなどの感情から形を考えたりしながら、主題を生成し、造形的なよさや美しさを考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、重心やバランス、動きなどを生かして、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、存在感や美しさなどが感じられる抽象彫刻に表す。	・発泡スチロールや消しゴムなどの材料を利用し、彫刻を手軽に身近なものとして感じられるような働きかけをする。 ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をする。	○	○	◎
	15									

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	68・69、70・71、72-75、76・77、78・79、80・81、82・83、84・85、86・87、88・89、90・91、123・124	「飾る」「伝える」「使う」「環境」などの幅広いデザインの世界や役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。	・MetaMoJi等のツールやプリントを使用し、確認テストを実施するなど、知識の確認と定着を図るとよい。	◎	○	○
	17			「ポスターで伝える」 メッセージを伝えるポスターをつくろう	72-75、68・69、70・71、78・79、80・81、130、131、142・143、145、149、150・151、152-154	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起等を目的としたポスターを構想する。	・デジタルで制作する場合はGoogleスライドやPowerPointを使用する。 ・教員が大枠のテーマ設定をし（環境問題、校舎清掃、挨拶等）、テーマに応じたメッセージを伝えられるようなポスターを制作する。 ・制作したポスターを鑑賞し、ポスターから感じられるメッセージ性について等、共有する。 ・共有する中で、他者の作品に対し受容感をもって鑑賞し、相手のメッセージを読み取ろうとする経験をできるとよい。	○	○	◎
	18									
	19			「サインのデザイン」 分かりやすい校内案内を デザインしよう	76・77、68・69、70・71、78・79、80・81、130、131、142・143、145、149、 150・151、152-154	伝達する内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、伝達の目的や意図に基づいて、マークやピクトグラムをデザインする。	・GoogleスライドやPowerPointを使用して、教員が大枠のテーマ設定をし（スポーツ、職業、地図記号等）、テーマに応じたメッセージを伝えられるようなマークやピクトグラムを制作する。 ・制作したマークやピクトグラムを鑑賞し、感想を共有する。 ・共有する中で、他者の作品に対し受容感をもって鑑賞し、他者の制作したマークやピクトグラムの意図を読み取ろうとする経験をできるとよい。	○	◎	○
	20									
	21	5	11	色彩、美の秩序、文字の基本などについて学ぼう	149、150・151、152-154	「キャラクター」・「サイン」・「生活を彩る模様」のデザインを構想・表現するために、色彩、造形の秩序、構成の要素、構図、文字の基本などについて学び、理解を深める。	・MetaMoJi等のツールやプリントを使用し、確認テストを実施するなど、知識の確認と定着を図るとよい。	◎	○	○
	22			「キャラクターのデザイン」 マスコットキャラクターを デザインしよう	80・81、68・69、70・71、76・77、78・79、130、131、142・143、145、149、150・151、152-154	伝えたい情報や使われる場面などを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝達したい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。	・教員が大枠のテーマ設定をし、テーマに沿ったキャラクターを制作する。 ・材料は生徒の特性に合わせて決定する ・デザインしたキャラクターを共有し、他者の価値観に触れる機会を設ける。 ・共有する際には、GoogleスライドやMetaMoJi等のツールを使用してもよい。 ・お互いのキャラクターを鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	○	◎	○
	23									
	24			「パッケージのデザイン」 卵やカップのパッケージを デザインしよう	84・85、68・69、70・71、86・87	目的や条件、美しさや使いやすさ、入れるもののイメージなどを基に、形や色彩などの効果などを考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、包むものの形やイメージ、用いる場面などに着目し、包むものの形状や強度、パッケージの目的を考え、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして、美しく機能的なパッケージをデザインする。	・卵やカップのデザインを描き、クラス内で発表する。 ・共有する際には、GoogleスライドやMetaMoJi等のツールを使用してもよい。 ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる。 ・お互いのデザインを鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	○	○	◎
	25									
	26	6	12	「映像に包まれて」 人を包み込む映像表現の よさを鑑賞しよう	100・101、96・97、98・99、125・126、147、148	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉え、機器の特性を生かした投影の工夫に着目し、人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する。	・映像表現作品を鑑賞したうえで感想を共有し、他者の多様な価値観に触れる経験をするとよい。	○	○	◎
	27			「アニメーションの手法」 切り紙アニメをつくろう	96・97、98・99、100・101、125・126、147、148	テーマを基に、絵コンテを描くなどして画面の変化のさせ方や速度などを検討し、表現効果や伝達効果を工夫して、映像メディア機器の機能や効果を生かし、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの効果を考え、映像メディア機器等の特性を生かした表現方法などを創意工夫してアニメーションを制作する。	・テーマ設定をし、切り絵アニメを制作する。 ・生徒の特性に合わせ、切り絵アニメの制作が難しい場合はパラパラ漫画等でも可とする。	○	◎	○
	28									
	29			「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	92-95、146	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。	・スマートフォンを準備させ、カメラ機能を利用して情景を撮影する。 ・撮影した作品を鑑賞する機会を設け感想を共有する中で、他者の作品のよいところを感じとる経験する。 ・生徒同士で感想や意見を交わす機会を設けるとよい。	○	○	◎
	30									

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	書道Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。						
	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。						
	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅰ」（書Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、Classroomで共有する。	－	－	－
	2	1	5	書写から書道へ	2～4	①楷書の基本について理解する。 ②行書の基本について理解する。	教科書の表を活用するとよい。 それぞれの書体を比較するとよい。	◎	○	○
	3	1		書写から書道へ	6～7	①用具・用材の種類を理解する。 ②筆・墨の種類や特徴をとらえる。	可能であれば実物を準備するとよい。	◎	○	○
	4	1		書写から書道へ	6～7	①用具・用材の種類を理解する。 ②硯・紙の種類や特徴をとらえる。	可能であれば実物を準備するとよい。	◎	○	○
	5	1		書写から書道へ	8～9	①基本の姿勢について理解する。 ②執筆法の種類や特徴をとらえる。	姿勢・執筆法を実践し、正しい姿勢でできているかをペアでチェックするとよい。	◎	○	○
	6	1		作品創作	－	①2週～5週で学んだ知識を用いて、実際に作品を作成する。（楷書・行書作品）	楷書・行書それぞれの違いをとらえて作品を2種類作成するとよい。 材料があれば、用具や用材などが選択できるとよい。 姿勢や執筆法にも改めて注意して作品を作成するとよい。 作品例 楷書：清泉、大道 行書：永和、風信雲書 生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。	○	◎	○
	7	2	6	漢字の書（楷書、行書）	12～14	①漢字の成立と変遷について理解する。 ②古典に基づく学習の流れについて理解する。	教科書の表を活用するとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	8	2		漢字の書（楷書、行書）	16～25	①楷書の特長について理解する。 ②各作品の表現を比較し、特長を理解する。	作品を模写する時間をとるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	9	2		漢字の書（楷書、行書）	26～37	①楷書の作品と作者について理解する。 ②作品を生み出した作者の人物像を理解する。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	10	2		拓本の採り方	15	実際に拓本をとることで、学んだことを実践する。	教科書のコラムを参考にして実施。 班ごとにどういったものから拓本をとるかなどを検討させたうえで実施してもよい。	○	◎	○
	11	2		表現を比べよう	18 156	①楷書で描かれた作品を鑑賞し、言葉を用いて特長を表現する。 ②個人のとらえ方の違いなどを感じる。	個人で作品を表現する言葉を選択した後、グループやクラスルームを活用して、ほかの生徒がどのような表現をしているかなどを知ることができるとよい。	○	○	◎
	12	3	7	漢字の書（行書）	38～39	①行書の特長について理解する。 ②王羲之について理解する。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	13	3		漢字の書（行書）	40～48	①行書の作品を知る。 ②蘭亭序について知り、使われている表現を理解する。	作品を模写する時間をとるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
	14	3		漢字の書（行書）	50～51	争坐位文稿について知り表現の特長を理解する。 ②蘭亭序と比較しそれぞれの特長をより理解する。	作品を模写する時間をとるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	15	3		漢字の書（行書）	52～58	①風信帖ついて知り表現の特長を理解する。	作品を模写する時間をとるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	4	10	作品創作	–	行書を用いて作品を書くことで、学んだことを実際に表現する。	以前取り組んだ楷書作品と比較し、表現の違いなどを感じられるとよい。 生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。	○	◎	○
	17	4		漢字の書（草書、隷書、篆書）	59～61	①草書の特長について理解する。 ②草書の作品を知る。	教科書以外の作品などを調べられるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	18	4		漢字の書（草書、隷書、篆書）	62～65	①隷書の特長について理解する。 ②隷書の作品を知る。	教科書以外の作品などを調べられるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	19	4		漢字の書（草書、隷書、篆書）	66～69	①篆書の特長について理解する。 ②篆書の作品について知る。	教科書以外の作品などを調べられるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	20	4		漢字の書（草書、隷書、篆書）	70～73	①創作の手順を理解する。 ②古典を生かした創作を行う。	教科書の創作カードを活用するとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
	21	4		漢字の書（草書、隷書、篆書）	72～73	①創作を行う。 ②他者の作品を鑑賞して、評価する。	20コマ目で捜索したものと別の作品を創作する。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	○	◎
	22	5	11	仮名の書	76～81	①仮名の成立について理解する。 ②仮名を書く準備について理解する。	万葉集について調べたり、例が見られるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	23	5		仮名の書	86～93	①仮名の表現の特長を理解する。 ②仮名で書かれた作品を知る。	解読が難しいものは、クイズなどにして出題し、興味を引くことができるとよい。 Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	24	5		仮名の書	96～103	①平安時代の手本について理解する。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	25	5		作品創作	98	①教科書P98～99を参考にし、仮名作品を創作する。	料紙（継紙）の作成を行うことで、個性を表現できる作品を作るとよい。 生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。	○	◎	○
	26	6	12	漢字仮名交じりの書	112～115	①線による表現の広がりを天の川の作品を通して理解する。 ②自分が表現することを想像し、適切な方法を選択できる。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
	27	6		漢字仮名交じりの書	114～119	①用具・用材による表現の違いを理解する。 ②紙面構成などによる表現の違いを理解する。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	28	6		漢字仮名交じりの書	124～129	①書を生活に広げて考え、場面や目的に沿った表現を理解する。 ②街や自分の身の回りに生かされている書を知る。	身の回りや、自分が利用したことのあるお店、会社のロゴなど書が活用されているものを探求することができるとよい。	○	○	◎
	29	6		漢字仮名交じりの書	132～138	①篆刻と落款について理解する。 ②落款印の作成方法を理解する。	Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
	30	6		創作	133～138	消しゴム印を29週目で学んだことを生かして作成できる。	自分の名前の印を作成するだけでなく、今まで創作した作品に押印することで、学習の繋がりを感じられるとよい。 生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	英語コミュニケーションⅠ	スクーリング回数	12	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠは、日常生活や旅行の場面、電話・メールでの表現など、様々なシーンを題材として、英語でのコミュニケーションにおける「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」という5つの領域を基礎から総合的に学習する。						
学習の到達目標	1．英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2．必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3．基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。	－	－	－
	1	－	－	・Warm-Up①アルファベット ・Warm-Up②教室で使う表現 ・Warm-Up③辞書の使い方/疑問詞	8～13	・身近な日常生活の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。 ・英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音も理解する。 ・授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習する。 ・授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を理解し、実際に使ってみる。 ・辞書の使い方と役に立つ用語について学習する。辞書を使って単語を調べてみる。 ・疑問詞のある疑問文と答え方を理解し、活用できるようになる。	・学生の習熟度を把握し、適宜反復演習を行う。 ・ペア、グループで表現演習を行うよと良い。	○	○	◎
	2	－	－	・Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko オレの名前は伊藤ネコだ ・Pre-Lesson 2 I Like Junk Food! オレはジャンクフードが好きだ！ ・Communication 1 自己紹介 英文のしくみ 1	14～18	・be動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・be動詞を用いた肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。 ・一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・一般動詞を用いた肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。 ・自己紹介の仕方を理解する。		◎	○	○
	3	1	5	Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん	20～27	・過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・be動詞／一般動詞を用いた過去形の肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから発音音声を聞き発音練習をするように促す。端末の録音機能を使用して、自分の発音を聞き返して練習すると尚良い。	◎	○	○
						・世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ・動詞の過去形を用いた文の形・意味を理解する。 ・好きな食べ物について、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな食べ物について、相手の意見を聞き理解する。		◎	○	○
				Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物	28～35	・進行形：〈be動詞＋動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・現在／過去進行形を用いた肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。		◎	○	○
	4					・オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ・進行形〈be動詞＋動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・好きな動物について、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな動物について、相手の意見を聞き理解する。		○	○	◎
		－	－	文法のまとめ 1	36～37	・be動詞と一般動詞／否定文と疑問文／過去形／進行形の用法の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。 ・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。	・P8～出題されている文法を順に復習し、演習を行うと良い。	◎	○	○
	5	2	5	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	38～45	・助動詞：can、 willを用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・助動詞：can／canを用いた過去形の肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから発音音声を聞き発音練習をするように促す。端末の録音機能を使用して、自分の発音を聞き返して練習すると尚良い。	◎	○	○
						・被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 ・助動詞can、 willを用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
	6					・助動詞：can、 willを含む文章を読解し、理解することができる。		◎	○	○
						・ある場所への行き方とそこでできることについて、情報や考えを話したり書いたりして伝え合ったある場所への行き方とそこでできること、自分ができること・できないことについて、相手の意見を聞き理解し、実際に使ってみる。		○	○	◎
	7	－	－	Communication 2 道案内 Let's Listen 1 デートの約束	46～47	・道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語での道案内の仕方や、道順の尋ね方を理解し、実際に使ってみる。 ・相手を何かに誘う文の形・意味を理解する。 ・相手を何かに誘う状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理する。	・適宜プリント、MetaMoJi等を活用し、表現を蓄積していくと良い。	○	◎	○
	8	3	6	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	48～57	・to不定詞：〈to＋動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから発音音声を聞き発音練習をするように促す。端末の録音機能を使用して、自分の発音を聞き返して練習すると尚良い。	◎	○	○
						・海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 ・to不定詞〈to＋動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・ウユニ塩原に行くと想像して、話したり書いたりして伝え合う。		◎	○	○
						・行ってみたい場所ややりたいことについて、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合う。 ・行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を聞き、理解する。		◎	○	○
	9	－	－	英文Eメールの書き方 Extra Target 1 人物当てクイズ	58～59	・英語でのEメールの書き方を理解し、実際に使ってみる。 ・「接続詞」を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。 ・クイズにしたい人物の情報を整理し、「接続詞」を用いて、人物のプロフィールを的確に伝え合う。	・学生の習熟度を把握し、適宜反復演習を行う。 ・ペア、グループで表現演習を行うよと良い。	○	○	◎
	10	4	6	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	60～69	・動名詞：〈動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。 ・動名詞〈動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
						・動名詞を含む文章を読解し、理解することができる。		◎	○	○
	11					・部活動に関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・将来の夢や先週末に楽しんだことについて、自分の考えや気持ち、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・将来の夢や先週末に楽しんだことについて、相手の意見を聞き、理解する。	・学生の習熟度を把握し、適宜反復演習を行う。 ・ペア、グループで表現演習を行うよと良い。	○	○	◎
		－	－	Let's Listen 2 フリーマーケットで買い物 英文のしくみ 2	70～71	・フリーマーケットで買い物をする場面における対話を聞き、概要を理解し、よく使われる表現を聞き取る。 ・主語＋動詞＋目的語＋目的語を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから発音音声を聞き発音練習をするように促す。端末の録音機能を使用して、自分の発音を聞き返して練習すると尚良い。	○	◎	○
	12	－	－	Reading 1 Short Stories in English 英語でこばなし Extra Target 2 ○○が･･･するのを見た	74～77	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ・本文の単語や熟語、この単元で学ぶ文法事項（受け身）に留意しながら本文を理解する。		○	◎	○
	13	5	7	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	78～85	・受け身：〈be動詞＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。		◎	○	○
						・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。		◎	○	○
						・受け身〈be動詞＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	14					・歌川国芳の絵に関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな絵について、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな絵について、相手の意見を聞き、理解する。	・前期中に修得した文法が理解できているか適宜確認し、文章を正しく読解できるか確認を行うと良い。	○	○	◎
				Target 受け身	86～87	・演習問題を通し、文法の理解を深める ・受身表現を用いて文章を作る練習をする。	・前期中の学習内容の理解度を図る為、小テスト等を行うと良い。	○	◎	○
	15	－	－	文法のまとめ 2	72～73	・「助動詞」「to不定詞」「動名詞」「接続詞」の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。		○	◎	○
		－	－			・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。		○	◎	○
後期	16	6	10	Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク	88～97	・比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文章作成を理解し、実際に使ってみる。	・学習に入る前に前期中の復習を行うと良い。	◎	○	○
						・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから発音音声を聞き発音練習をするように促す。端末の録音機能を使用して、自分の発音を聞き返して練習すると尚良い。	◎	○	○
	17					・比較表現〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
						・比較表現を含む文章を読解し、理解することができる。		◎	○	○
	18					・アンネ・フランクに関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・関心のある人物について、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・関心のある人物について、相手の意見を聞き、理解する。	・時代背景を理解し、関連する史実に触れてみると良い。	○	○	◎
	19	7	11	Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ	98～107	・現在完了形：〈have[has]＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・現在完了形の用法の違いに注意し、正しく理解することができる。		◎	○	○
						・ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 ・現在完了形〈have[has]＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
	20					・ロボットカフェに関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・人の生活を豊かにするロボットのアイディアについて、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合う。	・本文を読解したうえで、未来の暮らしについて自分の意見を述べ、クラスメイトの意見を聞くことで知見を広めると良い。	◎	○	○
						・人の生活を豊かにするロボットのアイディアについて、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
	21	－	－	Communication 3 乗り換え案内 英文のしくみ 3	108～109	・電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語での道案内の仕方や、道順の尋ね方を理解し、実際に使ってみる。 ・主語＋動詞＋目的語＋補語を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。	・ペア、グループ演習を行うと良い。	○	◎	○
		－	－	文法のまとめ 3	110～111	・「受け身」「比較表現」「完了形」の形・用法の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解くことができるようになる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	22	－	－			・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。		◎	○	○
		8	11	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	112～121	・名詞を後ろから説明する分詞（現在分詞・過去分詞）を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・名詞を後ろから説明する分詞（現在分詞・過去分詞）の文章作成を理解し、実際に使ってみる。		◎	○	○
	23					・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 ・「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
						・分詞を含む文章を正しく訳すことができる。	・本文を正しく理解し、関連する環境問題について調べてみると良い。	◎	○	○
	24					・分詞を含む文章を正しく訳すことができる。		◎	○	○
						・プラスチック製品に関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・プラスチックごみの問題について、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・プラスチックごみの問題について、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
	25	9	12	Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	122～131	・関係代名詞：who、 whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・関係代名詞：who、 whicを用いた過去形の肯定文・否定文・疑問文の文章作成を理解し、実際に使ってみる。		◎	○	○
	26					・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ・関係代名詞who、 whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。		◎	○	○
						・本文中の時代背景などを理解し、自分の意見を述べることができるようになる。	・本文を正しく理解し、当時の時代背景や、戦争・平和について考えさせると良い。	◎	○	○
	27					・沖縄とハワイに関して、話したり書いたりして伝え合う。 ・海外の文化や社会を理解するためにできることについて、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合う。		○	○	◎
						・海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
	28	－	－	Reading 2 The Wizard of Oz オズの魔法使い Extra Target 3 もし私が○○なら…	132～139	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
		－	－			・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ・本文の単語や熟語、この単元で学ぶ文法事項（受け身）に留意しながら本文を理解する。		◎	○	○
	29	－	－			・仮定法過去：〈If＋過去形の文、I would ….〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。		◎	○	○
		－	－			・文章を読解し、物語の内容を正しく理解することができる。	・これまで学んだ表現、文法を確実に復習ながら読解を勧めると良い。	◎	○	○
	30	－	－	文法のまとめ 4	140～141	・「名詞を後ろから説明する分詞」「関係詞」「句読法」の形・用法の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解くことができるようになる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
		－	－			・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。		◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	英語コミュニケーションⅡ	スクーリング回数	12	レポート回数	12	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠの学習内容を活用しながら、英語力のさらなる定着と向上を図る。日常生活や社会的な問題に関する対話やスピーチ、新聞記事や広告、論証文や報告文を題材として学ぶ。						
学習の到達目標	1．英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2．必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3．基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅱ 」（CⅡ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・適宜学習の習熟度を測ると良い。	－	－	－
	1	1	4	Lesson 1 A Colorful Island プラーノ島	10～17	・関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い	◎	○	○
	2					・関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。 ・子供のころなりたかったことについて関係代名詞を用いて表現し、自分の意見を伝えたり、相手と意見を交換し合ったりする。		○	◎	○
						・イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について理解する。 ・関係代名詞：whatを用いた文の形・意味を理解する。	・海外への思考を膨らませる為、必要に応じて海外について調べ、意見を交換させると良い。	◎	○	○
	3					・海外の観光地や行ってみたい場所やそこでやりたいことについて調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・海外の観光地について、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
		－	－	Let’s Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察	18～19	・ホテルにチェックインする場面においてよく使われる表現を理解し、実際に使ってみる。 ・病院で診察を受ける場面においてよく使われる表現を理解し、実際に使ってみる。		○	◎	○
	4	2	5	Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト	20～27	・比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。 ・可愛いTシャツデザインについて比較表現を用いて自分の意見を伝えたり、相手と意見を交換し合ったりする。		◎	○	○
	5					・曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のある音楽バンドについて学習する。 ・比較表現：more、 the mostを用いた文の形・意味を理解する。		◎	○	○
						・世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・世代を超えて人気のある音楽バンドについて、相手の意見を聞き理解する。	・自分の興味、関心のあるカルチャーについて、ペア・グループになって意見を交換させると良い。	○	○	◎
	6	－	－	Word Box 1 Feelings and Emotions	28～29	・感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・自分がどんなときにどんな感情になるのかということについて、その理由を話したり書いたりして伝え合う。		○	◎	○
	7	3	6	Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界	30～39	・itを用いた文〈It is … (for —) to ～〉〈It is … that ～〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・itを用いた文〈It is … (for —) to ～〉〈It is … that ～〉を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。		◎	○	○
						・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」に関するのスピーチを通じ、人間社会と自然について考える。 ・itの用法・文の形・意味を理解する。		◎	○	○
	8					・身近な行事やお祭りについて調べ、その中から好きな行事やお祭りを選び、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな行事やお祭りについて、相手の意見を聞き、理解する。	・自分の興味、関心のあるカルチャーについて、ペア・グループになって意見を交換させると良い。	○	○	◎
		－	－	文法のまとめ 1	40～41	・関係代名詞／比較表現／itの用法の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。 ・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。	・適宜プリント、MetaMoJi等を活用し、表現を蓄積していくと良い。	○	◎	○
	9	4	6	Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく	42～51	・間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・間接疑問文を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・相手の様子や行動について、間接疑問文を用いて表現し、自分の理由を伝えたり、相手の理由を聞いたりする。		◎	○	○
	10					・世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文を用いた文の形・意味を理解する。		◎	○	○
						・自分の好きな物語について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自分の好きな物語について、相手の意見を聞き、理解する。	・自分の意見やクラスメイトの意見を、Google Classroom等を用いて共有し、知見を風呂げると良い。	○	◎	○
	11	－	－	Let’s Listen 2 世界自然遺産 Extra Target 1 ずっと…し続けています	52～53	・日本にある世界自然遺産の話を聞き、その概要や、ある地域の特徴や位置を説明する方法について理解する。 ・現在完了進行形：〈have＋been＋動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。		○	○	◎
		－	－	Word Box 2 A Day in English : Part 1	54～55	・平日の生活でよく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・学校に行く日の朝起きてから寝るまでの出来事について、書いたり、伝え合ったりする。		◎	○	○
	12	5	7	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	56～67	・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・友人にしてもらいたいことについて、to不定詞を含む表現を用いて、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする。		○	◎	○
	13					・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。	・日本の文化、世界の文化を調べ、Google Classroom等で共有すると良い。	◎	○	○
						・日本の伝統文化について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・日本の伝統文化について、相手の意見を聞き理解する。		○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	14	－	－	Word Box 3 The Body and Clothes	68～69	・身体の各部分や衣服・アクセサリーなどを表す語句をや表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・学ふだん着ているものについて、書いたり、伝え合ったりする。	・自分の意見やクラスメイトの意見を、Google Classroom等を用いて共有し、知見を風呂げると良い。	◎	○	○
		6	7	Reading 1 Mujina	70～75	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。		○	○	◎
	15					・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ・本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。		○	○	◎
						・情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。		○	○	◎
後期	16	－	－	文法のまとめ 2	76～77	・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。 ・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。	・適宜プリント、MetaMoJi等を活用し、表現を蓄積していくと良い。	◎	○	○
		7	10	Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	78～89	・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	17					・気になることについて、動詞の目的語になるif節を用いた表現を用いて、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする。		◎	○	○
						・海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 ・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解する。	・同年代の活躍や自分自身の活動を振り返り、ペアやグループで意見を交換させる。	◎	○	○
	18					・地元で有名な場所やものについて、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・地元で有名な場所やものについて、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
		－	－	Word Box 4 Various Jobs	90～91	・仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・将来つきたい職業とその理由について、書いたり、伝え合ったりする。		○	○	◎
	19	8	10	Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	92～103	・関係副詞where、whenを用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・関係副詞where、whenを用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・紹介したい建物について、関係副詞where、whenを含む表現を用いて、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする。		◎	○	○
	20					・世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ・関係副詞：where、whenを用いた文の形・意味を理解する。		◎	○	○
						・世界の人々と交流する方法について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・世界の人々と交流する方法について、相手の意見を聞き、理解する。	・様々なツールを使い、可能であれば世界各国各国の高校生と交流できれば良い。	○	○	◎
	21	－	－	Communication 2 入国審査 Getting the Necessary Information ロンドンの地下鉄	104～105	・海外旅行先の空港での入国審査においてよく使われる表現について理解し、実際に使ってみる。 ・必要な情報を的確に読み取り、目的地への行き方を案内できるように、文の形・意味・用法を理解し、実際に使ってみる。		○	◎	○
		9	11	Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	106～117	・知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・知覚動詞を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	22					・生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・知覚動詞を用いた文の形・意味を理解する。		◎	○	○
						・自然界の動物や植物について、調べた事柄を用いて、素晴らしいと思った情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自然界の動物や植物で素晴らしいと思ったことについて、相手の意見を聞き、理解する。	・身の回りの自然、植物等について調べ、知見を広げる。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
	23					・自然界のデザインをヒントにした製品について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について、相手が調べた情報を聞き、理解する。		○	○	◎
		－	－	文法のまとめ 3	118～119	・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。 ・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。	・適宜プリント、MetaMoJi等を活用し、表現を蓄積していくと良い。	◎	○	○
	24	10	11	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	120～131	・使役動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・使役動詞を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
						・「～させてください」と許可を求めたいことについて、使役動詞を含む表現を用いて、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする。		◎	○	○
	25					・チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ・使役動詞を用いた文の形・意味を理解する。	・世界情勢について調べ、自分の意見をGoogle Classroom等で述べることができれば良い。	◎	○	○
						・社会的な問題について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・社会的な問題について、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
	26	－	－	エッセイライティング Extra Target 2 ○○ならいいのに…	132～133	・仮定法過去：〈I wish＋過去形の文〉の形・用法を理解する。 ・仮定法過去：〈I wish＋過去形の文〉を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
		11	12	Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール	134～145	・分詞構文を含む表現を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・分詞構文を含む表現を用いた文の形・意味・用法に注意し、文章を書いたり、実際に使ってみる。		◎	○	○
	27					・自分が昨晩したことについて、分詞構文を含む表現を用いて、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする。		◎	○	○
						・医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ・分詞構文を用いた文の形・意味を理解する。	・ナイチンゲール以外にも、世界で功績を残した偉人について調べ、知見を広げると良い。	◎	○	○
	28					・人を助ける職業について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・人を助ける職業について、相手の意見を聞き、理解する。		○	○	◎
		－	－	文法のまとめ 4	146～147	・使役動詞／分詞構文の理解度を確認する。 ・各文法の形・用法を理解し、問題を解く。 ・各文法を用いて、相手とコミュニケーションをとることができるようになる。	・適宜プリント、MetaMoJi等を活用し、表現を蓄積していくと良い。	◎	○	○
	29	12	12	Reading 2 Bear’s Pie	148～153	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
						・本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。		○	○	◎
	30					・情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。		○	○	◎
		－	－	Word Box 5 A Day in English :Part 2	154～155	・平日の生活でよく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・自分が何時頃に何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて、書いたり、伝え合ったりする。		○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	論理・表現Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	対話やディスカッション、スピーチ、ライティング等の言語活動を通して、これまで学習したことを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようになることを目指して学ぶ。						
学習の到達目標	1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	―	―	オリエンテーション（学習の進め方）	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	―	―	―
	2	1	5	Unit1 Lesson1 初めての食事 ・褒めることができる。 ・勧めることができる。 ・断ることができる。	14～19	・場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を褒めたり、物事を勧めたりする表現を理解する。 ・勧誘内容を理解し、提案を断ったりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。		◎	○	○
	3					・料理を食べて感想を述べる表現、おかわりを勧められた時の返答についてスキットを完成させる。	・自身で考えたスキットをもとに、ペアワークを行う。	○	◎	○
	4			Unit1 Lesson2 道に迷う ・提案することができる。 ・依頼することができる。 ・道順を説明することができる。	20～23	・相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、物事を提案したり、依頼する表現を理解する。 ・相手にわかりやすく道順を説明する表現を理解する。		◎	○	○
	5			Unit1 Lesson2 道に迷う ・提案することができる。 ・依頼することができる。 ・道順を説明することができる。 Lesson3 人物紹介 ・身近な人を紹介することができる。 ・注意を引くことができる。	24～31	・目的地まで道案内をする表現を練習する。 ・実際の場面を想定してペアワークを行う。 ・身近な人物を紹介する時の表現について理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
	6			Unit1 Lesson3 人物紹介 ・身近な人を紹介することができる。 ・注意を引くことができる。	26～31	・身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意を引くときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・身近な人を紹介する短いスピーチ文を作成する。		○	◎	○
	7	2	6	Unit1 Lesson4 体調が悪い ・体調を伝えることができる。 ・体調を尋ねることができる。 ・指示・アドバイスをすることができる。	32～37	・体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをするときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・相手の立場や状況を理解し、具体的な返答がしやすい形で、体調を尋ねたり、指示・アドバイスを提示したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	・薬局に行った際に自分自身の症状を適切に説明することができるようペアワークで反復練習をする。	◎	○	○
	8			Unit1 Lesson5 買い物 ・描写することができる。 ・相槌を打つことができる。	38～43	・描写する、相づちを打つときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、わかりやすく物事を描写する。 ・現在形と現在進行形、現在完了形と過去形の違いを理解する。	・文脈に応じて、適切な表現で相づちを打ったりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	◎	○	○
	9			Unit1 Lesson6 行ってみたい場所 ・希望を述べることができる。 ・理由を述べることができる。	44～49	・希望を述べる、理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・行ってみたい場所についてのエッセイを書くためのドラフト作成を行う。	・学んだ知識を用いて、希望を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	○	◎	○
	10					・学んだ知識を用いて、希望を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・前回書いたドラフトをもとに、行ってみたい場所についてのエッセイを完成させる。		○	◎	○
	11	3	7	Unit1 Lesson7 イベントに誘われる ・誘うことができる。 ・誘いを受けることができる。 ・誘いを断ることができる。	50～55	・誘う、誘いを受ける、誘いを断るときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・未来表現について理解する。	・学んだ知識を用いて、友達をイベントに誘うスキットを作成し、ペアワークを行う。	◎	○	○
	12			Unit1 Lesson8 スクールカウンセラーに相談 ・状況を説明することができる。 ・手助けを申し出ることができる。 ・助言・提案することができる。 ・お礼や感謝を伝えることができる。	56～61	・状況を説明する、手助けを申し出る、助言・提案をする、お礼や感謝を伝えるなどの表現の形・意味・用法を理解する。 ・howやwhyを用いた文の用法を理解する。	・悩みを相談する、相談されるシーンのスキットを作成し、ペアワークを行う。	◎	○	○
	13			Unit1 Lesson9 お気に入りを紹介 ・映画やや本のあらすじを要約したり登場人物を紹介したりすることができる。 ・感想や批評を述べることができる。	62～67	・映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・前置修飾や後置修飾を効果的に使用する。 ・自分のお気に入りを紹介するスピーチの題材となるものを探す。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	14					・教科書をもとに、自身が選んだ本や映画をクラスに紹介するためのスピーチ原稿を作成する。 ・学んだ知識を用いて、映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。		○	◎	○
	15					小グループまたはクラス全体でスピーチを行う。	・Google Classroom等を用いてクラスメイトに自分の意見を共有する。	○	○	◎
	16	4	10	Unit1 Lesson10 待ち合わせに遅刻 ・相手に謝ることができる。 ・相手を許すことができる。 ・相手を励ますことができる。	68～73	・謝る、許す、励ますときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・使役動詞の用法を理解する。 ・待ち合わせに遅れた時のスキットを作成し、ペアワークを行う。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	17			Unit1 Lesson11 家庭でのディスカッション ・共感を述べることができる。 ・残念な気持ちを述べることができる。 ・解決策を提案することができる。	74～79	・共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案するときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・仮定法の用法を理解する。		◎	○	○
	18					・相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	・教科書のブレーンストーミングを参考にし、共感・反論・提案の会話の流れを考える。	○	◎	○
	19			Unit1 Lesson12 英字新聞に投稿 ・要望や主張を述べることができる。 ・理由を述べることができる。	80～85	・学んだ知識を用いて、要望や主張を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・英字新聞記事を作成するにあたり、学校に対する要望を考え、その理由および補足を書く。	・教科書を参考にし、要望をtopic sentenceとして、英字新聞の記事を完成させる。	○	◎	○
	20			Unit2 Lesson1 クラスでディベート① ・理由を述べることができる。 ・例を挙げることができる。	88～93	・理由を述べる、例を挙げるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・to不定詞と動名詞の用法を理解する。	・場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を説得するために自説を補強する理由を述べたり、自説に合った例を挙げたりする。	○	○	◎
	21					・学んだ知識を用いて、理由を述べる、例を挙げるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	・簡単なテーマでチョークディベートを実施する。	○	◎	○
	22			Unit2 Lesson2 クラスでディベート② ・相手の意見に反駁することができる。 ・相手の意見を引用することができる。	94～99	・相手の意見に反駁する、相手の意見を引用するときの表現の形・意味・用法を理解する。	・学んだ知識を用いて、相手の意見に反駁する、相手の意見を引用するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	23	5	11	Unit2 Lesson3 経験談のスピーチ ・できごとを生き生きと描写することができる。 ・経験からアドバイスをすることができる。	100～105	・できごとを生き生きと描写する、経験からアドバイスをするときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・後置修飾、受動態の用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	24					・学んだ知識を用いて、できごとを生き生きと描写する、経験からアドバイスをするときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・自分の経験とそこから学んだことのスピーチ原稿を作成する。（悔しかったこと、失敗したこと）		○	◎	○
	25			Unit2 Lesson4 遊びやスポーツを紹介 ・ルールや手順を順序立てて説明することができる。 ・聞き手の知識に合わせて説明することができる。	106～111	・ルールや手順を順序立てて説明する、聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・現在完了形と過去形の用法を理解する。 ・スポーツを選び、そのルールについて説明する英文を作成する。		○	◎	○
	26	6	12	Unit2 Lesson5 日本をPR ・事実と意見を区別して述べることができる。 ・文化や習慣を説明することができる。	112～117	・事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明するときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・接続詞の適切な用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
	27					・学んだ知識を用いて、事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・世界にPRしたい日本の文化や習慣について、事実と意見を区別して表現する。		○	◎	○
	28			Unit2 Lesson6 物事の両面を伝える ・利点と欠点を述べることができる。 ・話題を発展させることができる。 ・話題を変えることができる。	118～123	・利点と欠点を述べる、話題を発展させる、話題を変えるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・名詞と無生物主語の用法を理解する。		◎	○	○
	29			Unit2 Lesson7 読み手を納得させる ・自分の主張について理由を説明することができる。 ・理由を要約してまとめることができる。	124～129	・自分の主張の理由・根拠を説明する、理由を要約して述べるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・学んだ知識を用いて、 映画をみるなら「自宅派」か「映画館派」を適切な表現を用いて書く。		○	◎	○
	30			Unit2 Lesson8 読み手を説得する ・人の発言を直接引用することができる。 ・条件を出して意見を述べることができる。 ・説得することができる。	130～135	・人の発言を直接引用する、条件を出して意見を述べる、説得するときの表現の形・意味・用法を理解する。	・学んだ知識を用いて、人の発言を直接引用する、条件を出して意見を述べる、説得するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	家庭基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期:4月～8月　後期:10月～1月	レポート提出日	前期:5・6・7月　後期:10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期:9月上旬　後期:2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	人の一生と家族・家庭及び、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けることを目指す。家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策の構想から実践、評価など生涯を通して課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、地域の生活を創造することについて学ぶ。						
学習の到達目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて知る。						
	家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むための知識を得る。						
	生活を営むために必要な技能を身に付けるようとする姿勢を育む。						
	地域社会及び、家庭生活に参画するためのコミュニケーション能力を育む。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「家庭基礎　自立・共生・創造」2東書｜家基701						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格(60点以上)を条件に単位認定試験を受験し、合格(30点以上)した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	17	・1年間の家庭科授業の受け方を理解する ・自身の生活力を振り返り、自分が伸ばすべき力を理解することで、これから学ぶ家庭科の授業に対して前向きな姿勢を促す	・②では生活力の向上を図る指導(学びを終えたときに成長していると感じさせることを意識) ※自立の項目ごとに、チェックリスト(P.17)を基に自身の生活を振り返りを行うと良い。 ※チェックリストはclassroom等で配布すると良い	－	－	－
	2	1	5	第1章　生涯を見通す	12～21	・生涯発達の視点から、自身のステージの課題を知る ・自身の長所、短所を考えることで自己概念を理解する ・10年後のなりたい姿を考え上記2点も参考にしながら、必要な資源やこれからやることを考える	・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 ・②では長所・短所の一覧を例で提示すると良い ・③においては、共通のスライド(1人1スライド)に入力させ、発表できる形にできると良い	○	◎	○
	3			第2章　人生をつくる	22～31	・様々なライフコースを知ることで、人生設計の選択肢を増やす ・家族・家庭の意義とこれらに関する法律を知る ・前回の内容と上記2点を基に、自身の人生設計を考える	・②では婚姻届や離婚届など実際に見てみると良い(疑似体験を通して、学びを深める指導) ・③ではフォーマットを用意し、入力させると良い	◎	○	○
	4				32～37	・ジェンダーについて考え、自身の固定概念に気付く ・性別による固定概念による扱いの違いを防ぐための法律・制度を知る ・ワークライフバランスについて、自身がその立場になった時に何ができるか考える	・①では、イラスト(顔や体系は同じで服装やシチュエーションだけ異なる)を見て男女どちらだと思うか、またその理由を考えグループでシェアするワークを行うと良い ・③ペアワークまたはグループワーク(協働学習)を行うと良い	○	○	◎
	5	2	6	第3章　子どもと共に育つ	38～63	・子どもの発達と特徴を知り、保育者の責任について考える ・家族・社会で協力して家庭を築く重要性を感じる・法律を知る ・社会の一員として、地域で行われている子どもに対する支援を調べる	・調べ学習シートを配布し、取り組ませる ※個人ワークまたはグループワークを通して、様々な地域の取り組みについて相互理解を図る ※子供の人形等を積極的に活用	○	○	◎
	6			第4章　超高齢社会を共に生きる	64～77	・高齢社会の現状と高齢者の心身の変化や特徴を知る ・高齢社会における課題と、支援制度を知る、対策を考える	・①の際に高齢者体験(視力・握力低下等)と介助体験をペアで実施すると良い ・②において、高齢者を含む世帯を複数提示し、それぞれの世帯で考えられる課題と解決策を考えるグループワーク(協働学習)を行うと良い	○	○	◎
	7	3	7	第5章　共に生き、共に支える	78～	・生活する上での様々な社会保障制度を知る ・社会生活を送っていく上で、社会保障制度や社会生活を営む人同士で支えられていることに気付く	・固い表現の用語が頻出するため、身近な生活に即した想像しやすいアプローチを心掛ける必要がある。 例:人生ゲームのようなワークをグループ	◎	○	○
	8				78～	・多様な人々が生活する上での困難と解決策・施策を知る ・日本と、他国での社会保障の違いを知る ・社会生活を送る上で、自身にできる取り組みを考える	・バリアフリーやユニバーサルデザインについてクイズを交えながら事例を紹介すると良い(Googleフォームやカフートを活用すると良い) ・生徒同士のディスカッションも取り入れると良い ・自身の地域で行われているボランティア活動を調べさせると良い	◎	○	○
	9			第6章　食生活をつくる	86～	・食生活の課題を知り、自身の食生活を振り返る ・食品の栄養素を知る	・グループワークで、1グループ1栄養素を担当し、働きや不足した場合の体への影響をスライドにまとめさせて発表させると良い	○	○	◎
	10				86～	・食品の栄養素を知り、食事の参考にする意識を養う	・BMI、1日の必要エネルギーの計算方法を紹介し、自身に当てはめて各自計算させると良い ・グループワークで1日の食事計画を立て、スライドにまとめた上で発表させると良い	◎	○	○
	11				86～	・食中毒や寄生虫病について理解し、安全な食生活の選択ができる ・食品添加物について知る	・食品添加物の知識にとどまらず、実際に着色料・香料等を活用した取り組みを行うと良い 例:果物を実際には使うことなくオレンジジュースを作る	○	◎	○
	12				86～	・調理技術を知る ・自身の地域の郷土料理を知る	・次回調理実習に向けての準備、動機づけ ・授業者の判断でメニューを決めて良い。 例:地産地消に貢献できる食材活用 SDGs観点(食品ロス)を意識した食材活用 ・調理技術の指導として、直接師範またはYoutube動画等を活用することも可能	◎	○	○
	13	－	－		86～	・自身の地域の郷土料理づくりを通し、地元の名産品・栽培している食材について知る	・調理実習を行うと良い ※少人数ずつのグループに分けてワークを行うグループと調理を行うグループのローテにする ※自身の分は自分で作ることを徹底 ※食材の切り分けは教員が事前に行っておく	○	○	◎
	14				86～	・自身の地域の郷土料理づくりを通し、地産地消の考え方を身に付ける		○	○	◎
	15			前期試験対策		前期の範囲について振り返り、理解を深める		◎	○	

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16			第6章 食生活をつくる	86～	・日本の食文化について知る ・食をめぐる問題と、その対策を知る ・SDGsの観点も含めて、自分にできる取り組みを考える	・自分にできるフードロス問題への対策を考えさせ、スライドにまとめclassroomでクラス全体へ共有・発表へと繋げると良い	○	◎	○
	17			第7章 衣生活をつくる	134～	・被服の役割を理解する ・正しい被服の選択ができるようになる	・役割ごとの事例を調べ、スライド等にまとめさせclassroomでクラス全体へ共有・発表へと繋げると良い（グループワーク） ※寒冷地や熱帯地域の民族衣装とその特徴など ・社会慣習への順応において、冠婚葬祭における服装マナーを紹介すると良い（クイズ形式、Youtube動画等を活用することも可）	◎	○	○
	18	4	10		134～	・他国の民族衣装を体験することで、文化や気候への順応を理解する ・被服のデザインについて考え、TPOに合わせた選択ができるようになる	・大きな布を用意し、サリーの着用体験を行うと良い ・様々なシチュエーションを提示し、その場面に合った服装を考え発表させると良い（デジタル上で衣装の着せ替え（アバターの作成）等を行う活動を行うことも可） https://designalikie.com/anichara/	○	◎	○
	19				134～	・被服の素材における特徴を知る ・被服の正しい手入れの方法を知り、生活に活かそうとする気持ちを養う	・自分の服についている洗濯表示記号を調べさせると良い ・染み抜きの方法について、知識にとどまらず実際に試させると良い （https://www.youtube.com/watch?v=BqAC4ttGZnM）	◎	○	○
	20				134～	・ボタン付けや穴を修繕することができるようになる	・裁縫実習を行う ・裁縫技術の指導として、直接師範またはYoutube動画等を活用することも可能 （https://www.youtube.com/channel/UC8rzR6QiEBxOW_vOuc8ClqQ/videos）	○	○	◎
	21	5	11	第8章 住生活をつくる	164～	・住居の機能と造りの移り変わりを家族形態やライフステージの視点から知る ・平面図について理解し、適切な住居の選択に活かす知識を学ぶ	・ライフステージに合わせた住居の形について、考察をすると良い。（生徒同士を模擬家族としてシミュレーションを行うことによる、創造型の学習も可） ・居住空間のシミュレーションサイトにて、理想の住空間を作る展開も可能 https://myhome-cloud.net/ ・気候風土に合わせた伝統的な住居の造りの理解を深めるためにペーパークラフトに取り組む展開も可能（共有フォルダ内に格納）	○	◎	○
	22				164～	・健康で安全な住まいのための施策を知る	・住居内でできる、災害時への備えについて考えさせると良い（グループワーク） 例：①なぜ備える必要があるのか（目的） ②どのような対策を行うか（対応） （http://q-spc.net/?yclid=YSS.EAIaIQobChMI2qa_4qKX9gIVR0NgCh0zQwA8EAAYAiAAEgKukfD_BwE）	○	◎	○
	23	6	12	第9章 経済生活を営む	184～	・消費者としての注意点を知り、消費活動に役立てることができる ・購入・支払い方法の特徴を知り、留意して消費活動ができる	・悪徳商法の事例を見ながら、気をつけるべきことを考えさせる（グループワーク） 参考：消費者庁 HP（https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/material_007/）	○	◎	○
	24				184～	・お金の管理と運用について知り、自分のお金の管理に役立てられる	・給与明細を見てみると良い ・投資のシュミレーション・疑似体験を行うと良い 全国銀行協会HP https://www.zenginkyo.or.jp/education/	◎	○	○
	25			第10章 持続可能な生活を営む	200～	・今現在の消費社会における課題と施策について知る ・自身の生活を振り返り、環境・社会に与える影響に気付く	・P201TRYの例を用いて、グループごとに情報を収集し、クラス内で共有すると良い ※次の26・27時間目への展開とリンクするように進めていく	○	◎	○
	26				200～	・SDGsの目標を知り、自分にできることを考える	・参考HP https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/teacher.html 上記サイトを参考にし、グループで、SDGsの目標について1つ選択し、今現在の抱える課題と、解決のために何が行われているのか、一人ひとりが意識できることは何かを生徒に考えさせる展開が望ましい。 ※手法 ①スライドにまとめてclassroomにて共有させる ②PDF資料をMetaMoJiで配布し、書き込みをさせる（個人学習モード、クラス学習モードなど）	○	◎	○
	27				200～	・SDGsの目標を知り、生活の中で意識することができる		○	◎	○
	28	-	-	第11章 これからの生活を創造する	208～	・自分の将来について向き合う姿勢を持つ	・将来像と、その過程で身につけたいこと、どのような社会であれば実現ができるのか、等を一人ひとりスライドを作成し、発表できる機会があると良い	○	◎	○
	29					・自分のキャリアプランを描くことができる		○	◎	○
	30			後期試験対策		後期の範囲について振り返り、理解を深める		◎	○	
備 考				・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。						

《通信教育実施計画》

科目名	情報Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	情報技術を適切に活用することを通して，情報を正しく理解すること，様々な情報を組み合わせて適切に活用すること，問題の発見・解決に繋げることについての知識を学ぶ。また，情報社会を生きる上で大切なコミュニケーションやプログラミングについても理解を深める。						
学習の到達目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする						
	(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う						
	(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編情報Ⅰ」（情Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	―	―	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・授業者は，学習内容や到達目標，学習の進め方をまとめた資料（Googleスライド等）を作成し，Classroomで生徒へ共有するとよい。	―	―	―
	2	1	5月	【1章】（理論編） 1 情報とメディアの特性	6～7	・情報の特性から，情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。	・「情報」とは何か，どんな特性があるかをしっかりと理解させるために，グループワーク等を通して，生徒同士で対話をする機会を設けるとよい。	◎	○	
	3			【1章】（理論編） 2 問題解決の流れ 3 発想法	8～11	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	・問題解決を行う際に，プロセスを意識すること，情報技術を活用することを紹介し，よりよい問題解決を行う力を育成ために，生徒に身近な事例を共有させ，それについてディスカッション等をさせるとよい。	○	◎	○
	4			【1章】（理論編） 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために	12～17	・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。	・知的財産や個人情報の扱いを含む，情報モラルについて，生徒に身近な事例を共有させ，主体的に学習に取り組ませるとよい。	◎	○	○
	5			【1章】（理論編） 7 著作権	18～19	・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	・知的財産や個人情報の扱いを含む，情報モラルについて，生徒に身近な事例を共有させ，主体的に学習に取り組ませるとよい。	◎	○	○
	6			【1章】（理論編） 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ	20～25	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	・情報技術の発展に伴う生活や社会の変化，新しく生まれた問題などを生徒に考えさせるとよい。	◎	○	○
	7			【1章】（理論編） 章末問題	30～32	・練習問題の実践を通して，1章の学習内容の理解度を測る。	・練習問題を通して，理解度を測り，必要に応じて学習の補足をするとよい。	◎	○	○
	8	6	12月	【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作①〈実習〉	150～151	・文書処理ソフトウェアについて，書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図，表，画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの基本的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
	9			【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作②〈実習〉	150～151	・文書処理ソフトウェアについて，書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図，表，画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの実践的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
	10	2	6月	【2章】（理論編） 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特徴	34～37	・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ・メディアの特性について学習する。 ・近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する。 ・ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性について学習する。	・適切な情報発信をしたり受け取った情報の信頼性を適切に判断したりする力を養うために，インターネット上でのコミュニケーションの特徴を，情報社会における問題と併せて考えさせるとよい。	○	◎	
	11			【2章】（理論編） 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	38～41	・デジタルデータとは何か学習する。 ・デジタルデータのメリットとデメリットを理解する。 ・2進法と情報の単位について学習する。 ・文字のデジタル表現について学習する。	・情報をデジタル化することによって生まれる利点や，デジタル化する方法を，身近な事例をもとに体系的に学ばせるとよい。	◎	○	
	12			【2章】（理論編） 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化	42～47	・音，画像，動画のデジタル化について学習する。 ・デジタルでの色の原理を理解する。 ・デジタル情報の品質の違いについて学習する。 ・データの圧縮について学習する。	・情報をデジタル化することによって生まれる利点や，デジタル化する方法を，身近な事例をもとに体系的に学ばせるとよい。	◎	○	
	13			【2章】（理論編） 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	48～53	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化，可視化，構造化を理解する。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	・ユニバーサルデザインを含む情報デザインについて，具体的な事例を交えて学ばせるとよい。 ・コンテンツを企画する力，評価や改善の方法を考える力を育成するために，プロセスを意識させながらコンテンツの制作を行うとよい。	○	◎	○
	14			【2章】（理論編） 章末問題	58～60	・練習問題の実践を通して，2章の学習内容の理解度を測る。	・練習問題を通して，理解度を測り，必要に応じて学習の補足をするとよい。	◎	○	○
	15	6	12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作①〈実習〉	152～153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの基本的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	6	12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作②〈実習〉	152～153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの実践的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
	17	3	7月	【3章】（理論編） 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み	62～65	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。	・コンピュータの構成と処理の仕組みについて，実際に機器を操作しながら学習を進めるとよい。	◎	○	○
	18			【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	66～69	・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方について学習する。 ・コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。 ・アルゴリズムの必要性を理解する。 ・アルゴリズムの表現方法について学習する。	・アルゴリズムをコンピュータが処理できるプログラムとして表現し，問題解決に役立つ技能が身に付くよう，実際にプログラミングソフトやゲームを使用しながら，プロセスやリカバリーを体験させるとよい。	○	◎	○
	19			【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	66～69	・プログラムの作り方について学習する。 ・プログラムの制御構造について学習する。	・アルゴリズムをコンピュータが処理できるプログラムとして表現し，問題解決に役立つ技能が身に付くよう，実際にプログラミングソフトやゲームを使用しながら，プロセスやリカバリーを体験させるとよい。	○	◎	○
	20			【3章】（理論編） 25 プログラムの基本構造1 26 プログラムの基本構造2 【巻末】 Scratch	70～73 186～187	・プログラムで制御構造を組み合わせる方法を学習する。 ・プログラムの配列とリストについて学習する。 ・簡易な対話プログラムを開発する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。	・アルゴリズムをコンピュータが処理できるプログラムとして表現し，問題解決に役立つ技能が身に付くよう，実際にプログラミングソフトやゲームを使用しながら，プロセスやリカバリーを体験させるとよい。	○	◎	○
	21			【3章】（理論編） 27 発展的なプログラム1 28 発展的なプログラム2 【巻末】 Python	74～77 176～177	・モデル化の考え方と，モデルの分類について学習する。 ・シミュレーションによるモデルの評価について学習する。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を学習する。 ・テーマを決めて，表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。	・シミュレーションでは，地球環境の変化のなど，モデル化とシミュレーションが有効活用されている例を取り上げ，グループワーク等を通して学習を進めるとよい。	○	◎	○
	22			【3章】（理論編） 章末問題	86～88	・練習問題の実践を通して，3章の学習内容の理解度を図る。	・練習問題を通して，理解度を測り，必要に応じて学習の補足をするとよい。	◎	○	○
	23	6	12月	【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作① 〈実習〉	154～155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの基本的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
	24			【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作② 〈実習〉	154～155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの実践的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
	25	4	10月	【4章】（理論編） 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント	90～95	・情報通信ネットワークとは何か学習する。 ・LANとWANの違いを学習する。 ・プロトコルと，その1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・ネットワークを構成するハードウェアについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。 ・インターネットでのIPアドレスとDNSの役割を学習する。 ・認証後に使えるようになるサービスには，どのようなものがあるか調べる。	・インターネットの構成，データをやりとりする仕組み，さまざまなサーバの働きなどを，身近な事例を取り上げ，体系化して学ばせるとよい。	◎	○	○
	26			【4章】（理論編） 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ	96～99	・WWWについて理解する。 ・電子メールについて学習する。 ・情報セキュリティの機密性，完全性，可用性を理解する。 ・情報セキュリティを確保するための方法・技術について学習する。	・インターネットの構成，データをやりとりする仕組み，さまざまなサーバの働きなどを，身近な事例を取り上げ，体系化して学ばせるとよい。	○	◎	○
	27			【4章】（理論編） 36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル	100～105	・データとは何か学習する。 ・データの尺度とは何か学習する。 ・データベースの役割がどのようなものか理解する。 ・社会でのデータベースの活用例を学習する。 ・データベースで使用するデータモデルについて学習する。 ・関係データベースを分析して，解釈する。	・データの種類や，データを収集，蓄積，分析，活用する方法を学び，社会のどのような場面で有効的に活用しているか，または活用することができるかを話し合わせると良い。	◎	○	○
	28			【4章】（理論編） 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用	106～109	・データ分析の流れと方法を学習する。 ・分析の目的に合わせたデータの利用方法を学習する。 ・適切なデータの解釈方法を学習する。	・データの種類や，データを収集，蓄積，分析，活用する方法を学び，社会のどのような場面で有効的に活用しているか，または活用することができるかを話し合わせると良い。	○	◎	○
	29			【4章】（理論編） 章末問題	114～116	・練習問題の実践を通して，4章の学習内容の理解度を図る。	・練習問題を通して，理解度を測り，必要に応じて学習の補足をするとよい。	◎	○	○
	30	5	11月	【5章】（実習編） クラスの実態調査	144～148	・クラスの実態調査をアンケートで行い，分析結果を発表する。	・総括として，これまで学んだ知識やスキルを活かして科目の内容をまとめるとよい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	医療事務IA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	・医療業界がおかれている現状や、医療に携わる各職種・仕事内容について理解を深める。 ・医療スタッフの基本的なマナーや考え方についても学ぶ。また、医療事務の職種ごとの仕事内容の違いや、一日の仕事の流れを知り、職業イメージを掴む。						
学習の到達目標	1.医療業界がおかれている現状を理解し、時代変化に対応できる思考力・判断力を身に付ける。						
	2.医療機関で働く方々の職種を十分に理解し、その業務内容について学び、社会的な見方や考え方を培う。						
	3.医療現場で必要とされる基本的マナーを理解することで、相手の立場に立って考え行動できる人間力を磨く。						
使用教科書・副教材等	日本医療事務協会「医療事務」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	1	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する ・学習の進め方を理解する	－	－	－	－
	2		5	1.医療業界を理解しよう ・医療業界の現状 ・日本の保険医療制度とは ・変化する医療業界	5-7	・医療保険制度について興味関心を高める ・日本と海外の医療保険制度について比較し、日本の国民皆保険制度の理解と興味関心を高める ・医療業界の変化について学ぶ ・「医師中心の医療」から「患者中心の医療」への変化について、様々な病院の取り組みや事例を調べる ・手術の方法の変化について、最新ロボット手術や最新医療技術について学ぶ ・自分の住んでいる地域の医療機におけるロボット手術の件数の推移や事例を調べ、理解を深める	・医療業界の変化については、ニュースや動画、ドキュメンタリー等生徒がより具体的にイメージができるよう、視覚で体感できると良い ・GoogleスライドやMetamojiclassroomを使って、各自の既存知識をアウトプットしながら進めても良い	◎		
	3			1.医療業界を理解しよう ・医療業界の現状 ・日本の保険医療制度とは ・変化する医療業界	8-9	・「医薬分業」について学ぶ ・電子カルテと紙カルテの違いや、電子カルテの利点について学ぶ ・マイナ保険証について理解を深める ・病院のICT活用例を調べ、デジタル化推進について学ぶ ・高齢社会の実態について自分が住んでいる地域の取り組みなどを調べる	・病院のデジタル化の一例として、実際に医療アプリ等を見せたり操作させてみても良い ・在宅医療も日々進化している。映像を見せると理解しやすい	◎	○	
	4			1.医療業界を理解しよう ・医療従事者に求められる資質 ・医療従事者のやりがい	10-14	・医療従事者に求められる資質について考える ・業界や職種によって求められる資質が異なることを学ぶ ・医療従事者のやりがいを知る	・各職業の特徴と求められる資質についいて、まず自由に考えさせてアウトプットしてから進めると良い ・実際に医療現場で働いている人の声が聞けると良い。医療事務教員自身や、専門学校の生徒・教職員のインタビュー（動画）などが見せられると良い	◎	○	○
	5	2		2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場とは	15-17	・診療所・病院・歯科医院・薬局等、様々な医療現場があることを理解する ・診療所と病院の違いや特徴を知る	・クリニックと病院の違いや、どんなときに利用するかをまずは生徒自身に考えさせ、協働作業で付箋等に書き出していってもよい（模造紙を使用しても良いし、Metamojiclassroom等でも可）	◎	○	○
	6		6	2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の特徴 （①診療所　②病院）	18－19	・診療所と病院について復習し、より詳しく学ぶ ・一般病院や地域医療支援病院、特定機能病院など、病院にもその役割と機能が分化されていることを学び、違いを理解する ・自分の住んでいる身近な病院が、どのような種類でどのような機能を担っているか調べまとめる	※病院の種類や特徴については、7月により深く学び理解を深める	◎	○	
	7			2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の特徴 （③歯科医院　④調剤薬局　⑤その他）	20－21	・診療所や病院以外にも医療や福祉の現場が多く存在することを理解する ・調剤薬局とドラッグストアの違いについて、理解を深める	・写真や映像等を見せるとより理解しやすい	◎	○	
	8			2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の職種と医療に携わる仕事	22-26	・医療現場の様々な職種と仕事内容を学ぶ ・多岐にわたるメディカルスタッフの職種と業務を学ぶ ・「治療やリハビリに関わる職種」「ケアに関わる職種」「検査に関わる職種」の特徴を学び、理解を深める	・職種理解は、映像を見せたほうが分かりやすい ・医療事務教員自身が医療機関での勤務経験がある場合は、体験談を盛り込みながら話す	◎	○	
	9			2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の職種と医療に携わる仕事	26-30	・医療事務を含む事務スタッフ、「その他職種」も多数あることを理解する ・調剤、介護保険施設のスタッフの職種について学ぶ	※職種について調べて深堀するのは第6回目のレポート内容のテーマの一つでもあるので、ここで生徒自身に深堀させなくてもよい	◎	○	
	10	5	7	学習のおさらい（第2章）・アウトプット	16-30	【学習のおさらい（第2章）・アウトプット】 医療現場とは（主な医療現場・医療現場の特徴） ・自分が住んでいる地域の医療現場について調べることで、診療所・病院の特徴を具体的に理解する ・自分の地域の医療体制・病診連携等を理解することで、より身近に医療事務を感じ教科としての学びを現実と結び付けて捉えられるようにする	※レポート第6回目のテーマの1つとして設定しているが、3DAY/5DAYについては前期の授業内容をより深く理解させるために取り扱ってもよい ・インターネットで自分の地域の医療機関の数や種類、それぞれの役割等を2章と紐づけながら調べる。各医療機関のホームページ等を参考にしてもよい ・実際に近隣を散策し、写真等を組み込みながらまとめたり、グーグルマップやストリートビューなどを使って調べても良い ※1・2章に関連する内容で、医療事務教員が深く学ばせたいテーマがあれば、担当教員判断で内容は変更しても構わない	○	○	◎
	11			学習のおさらい（第2章）・アウトプット	16-30	・前回の授業で調べた、地域の医療機関の特徴についてまとめ作業を行う ・発表や共有などのアウトプットを行い、自分自身の理解を深める		○	◎	○
	12			学習のおさらい（第1章）・アウトプット	1-14	【学習のおさらい（第1章）・アウトプット】 自分やグループで考えて主体的に取り組む ・以下から興味関心のあるテーマを個人・グループで選択する ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める テーマ例 ①「国民皆保険制度」日本と海外の医療保険制度の違い ②患者中心の医療 ③チーム医療 ④手術・技術の進化 ⑤医薬分業 ⑥病院のデジタル化推進（電子カルテ・オンライン診療） ⑦マイナ保険証 ⑧高齢化社会と医療	・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める ※第1章学習時に、生徒の興味関心を高めておくこと ・MetamojiclassroomやGoogleスライド等を使用し、写真や動画等も交えながら自由に探究活動が行えるようにサポートする ・時間に余裕があれば一人ずつ発表や、生徒同士でお互いの発表資料を見て質問しあえるような環境を設定するとより良い	○	○	◎
	13			学習のおさらい（第1章）・アウトプット	1-14	・前回の授業で選択したテーマについて、個人・グループで調べ学習を進める ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める ・発表用の資料をまとめる		○	◎	○
	14	－		学習のおさらい（第1章）・アウトプット	1-14	・前々回の授業で各自、各グループで選択したテーマについて、まとめと発表を行う ・他者の調べた内容を聞くことで、自分自身の他テーマへの興味関心や理解を深める ・発表者はアウトプットすることで、より自分の理解を深める		○	◎	○
	15	－	－	前期のまとめ （レポート1・2回の復習）	－	・レポート1・2回分の復習をすることで知識の定着を図る	教科書を前からさらいながら、復習を行う。ただ単にレポートを解き直させるのではなく、スライドや補助プリント等を使い重要用語等を思いださせながら進めると良い。スライドや補助プリントは各医療事務教員で必要に応じて準備をする。	◎	○	

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	－	－	後期オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する ・学習の進め方を理解する ・前期の復習	前期復習については、スライド等を使い重要用語等を思いださせながら進めると良い。スライドは各医療事務教員で必要に応じて準備をする。後期学習の概要や進め方についても生徒が理解しやすいように、教科書やスライド等を使用し説明する。各医療事務教員で必要に応じて準備をする。	◎		
	17	3	10	3, 医療現場で必要なマナー ・マナーの5つのポイント	31－33	・一般マナーと医療スタッフに求められるマナーの違いを理解する ・医療現場での5つのマナーのポイントを理解する ・清潔感のある身だしなみについて考える ・医療現場における挨拶で注意すべき点を理解する	・見出しなみや挨拶、表情などは教科書を参考に実際に実演してみると良い（ペアワークを推奨） ・一般的な飲食店や生徒自身のアルバイト先での接客と、医療機関で求められる接遇の違いを比較しながら考えさせると良い	○	◎	○
	18			3, 医療現場で必要なマナー ・マナーの5つのポイント	34－35	・患者の立場、医療従事者、両者の立場で接遇（主に言葉遣い）について考える ・「馴れ馴れしさ」と「親しみやすさ」の違いについて考える ・患者に安心される聴く姿勢について考える		○	○	◎
	19			4, 医療事務の仕事の概要を知ろう 病院で働く医療事務スタッフの仕事	36－43	・医療事務のスタッフが働く場所を理解する ・医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ・病院イラストをもとに、各職種の配置や病院での全体像を掴む	※4章後半で医療事務スタッフの各職種の詳細について説明があるので、前半では病院での全体像を掴ませると良い	◎	○	
	20			4, 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （初診受付・再診受付）	36－43	・初診受付業務、再診受付業務の流れを理解する ・「保険証」「問診票」について理解、関心を深める ・自動受付機について知る		◎	○	
	21	4	11	4, 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （会計業務・案内業務・レセプト業務）	44－47	・医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ・会計・案内・レセプト業務の概要を理解する ・診療報酬明細書（レセプト）について知識を深める	受付・案内・会計以外の業務の場合、生徒自身が見る機会が少ないものも多いため、イメージがつくように写真や動画等を使って職種説明ができると良い	◎	○	
	22			4, 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （クラーク業務・秘書業務・ 医師事務作業補助者・診療情報管理士）	48－52	・クラーク業務・秘書業務・医師事務作業補助者・診療情報管理士の職業を理解する ・外来クラーク・病棟クラークの役割の違いを理解する ・秘書業務の種類や役割の違いを理解する ・医師事務作業補助者ができた経緯や、仕事内容について学ぶ		◎	○	
	23			4, 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （調剤薬局事務・歯科医院事務）	53－54	・調剤薬局事務の仕事内容を理解する ・歯科医院の医療事務の仕事内容、病院事務との違いを理解する		◎	○	
	24			4, 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務員の一日の流れ	55－60	・医療事務員の仕事の1日の流れのイメージを掴み、職業理解を深める ・勤務先や職種によって1日の仕事内容が大きく異なることを理解する	・1日の仕事内容は写真や映像があるとよりイメージが掴みやすい	◎	○	
	25	6	12	学習のおさらい（第4章）・アウトプット	38－60	・医療現場の職種と仕事内容について、学習のおさらい（第4章）を行う ・教科書に記載のある職種から１つ選び、職業についてより深く調べる（医療事務に限らず、1章の医療に関連する職種含む） ・仕事内容や資格等を調べることで、将来の選択肢を広げ社会に興味関心を持つ	・インターネットで該当職業を一つ選び、仕事内容ややりがい、どうすればその職業に就けるか等を調べる ・身近な知り合いで医療現場従事者がいれば、実際にインタビューをさせることも効果的 ・近くに姉妹校の医療系専門学校がある場合は、連携することも一つの手段 ・同じ興味関心を持っている生徒同士でペアやグループを組ませ協働学習を進めても良い ・最終的に発表させることで、医療業界の多職種についてより深く気づきを得られる時間となるように教員はサポートを行う	○	◎	○
	26			学習のおさらい（第4章）・アウトプット	38－60	・前回の授業で選択した職種と仕事内容について更に詳しく、調べ学習を行う		○	◎	○
	27			学習のおさらい（第4章）・アウトプット	38－60	・前々回の授業で選択した職種について、まとめ作業を行い職種理解を深める		○	○	◎
	28			学習のおさらい（第4章）・アウトプット	38－60	・各自が調べた職種について発表する ・医療機関の各職種の役割や配置場所など、医療機関全体での職種の動きを総合的に理解する		○	○	◎
	29	－	－	後期のまとめ （レポート3・4回の復習）	－	・レポート3・4回分の復習をすることで知識の定着を図る	教科書該当ページの復習を行う。ただ単にレポートを解き直させるのではなく、スライドや補助プリント等を使い重要用語等を思いださせながら進めると良い。スライドや補助プリントは各医療事務教員で必要に応じて準備をする。	◎	○	
	30	－	－	1年間のまとめ	－	・1年間の復習・学びを整理する	１年間の総復習・まとめとして、全体の振り返りを行う。まとめかたは自由だが、前半医療事務教員が今まで使用した動画やスライドをもとに復習を行い、後半に各生徒がアウトプットできるようなプリント等を使用すると良い。	◎	○	

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	福祉IA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	みんながより良い暮らしができるように活動することすべてが「福祉」であり、「福祉」とは何か、基本となる考え方から人々の暮らしを守る社会保障制度や「福祉」に関連する職業について学びます。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	福祉（日本教育クリエイト）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。□	福祉の学習では何を学ぶのか、明確にする。	◎	○	○
	2	1	5月	福祉とは何か	10～11	福祉という言葉の意味、考え方について知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	3	1		バリアフリーについて	84～88	バリアフリーについて触れ、福祉の意識を高める。		◎	○	○
	4	1		社会保障制度とは	14	社会保障とは何か知識の習得をする。		◎	○	○
	5	2	6月	社会保険について	15～16	社会保険について知識の習得をする。		◎	○	○
	6	2		社会福祉について	16～18	社会福祉について知識の習得をする。		◎	○	○
	7	2		公的扶助について	18～19	公的扶助について知識の習得をする。		◎	○	○
	8	2		保健医療・公衆衛生について	19	保健医療・公衆衛生について知識の習得をする。		◎	○	○
	9	5	7月	【課題研究】 個人探究①	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「日常生活の中で、どんな工夫があるとより暮らしやすくなるのか」 例）探究・発表「福祉に携わる職業についてより具体的に学ぶ」 例）探究・発表「私が考える新しい社会保険制度」	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	10	5		【課題研究】 個人探究②	－			○	○	◎
	11	5		【課題研究】 個人探究③	－			○	○	◎
	12	5		【課題研究】 個人探究④	－			○	○	◎
	13	－	－	前期学習内容のふり返り①	－	Metamojiなどデジタルを使用しての小テストを配布したり、それぞれのレポートに沿った調べ学習などを生徒に配布しその場で答え合わせを行う。	MetaMoJi上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。	○	○	◎
	14	－	－	前期学習内容のふり返り②	－			○	○	◎
	15	－	－	レポート復習プリント	－	学習内容を整理する。	MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる。	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	16	3		社会保障制度をめぐる環境の変化	22～23	少子高齢化、人口減少の進行、家族の役割の変化など、社会保障制度をめぐる環境の変化について知識の習得をする。		◎	○	○
	17	3	10月	社会保障制度の課題	24	社会保障制度の課題について知識の習得をする。		◎	○	○
	18	3		みんなでつくる地域福祉	24～25	みんなでつくる地域福祉とはどのようなものか理解する。		◎	○	○
	19	4		生活を支える専門職	28～29	生活を支える専門職についてどのような職があり、どのような役割があるのか理解する。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	20	4		療養を支える専門職	30～31	療養を支える専門職についてどのような職があり、どのような役割があるのか理解する。		◎	○	○
	21	4	11月	機能訓練に携わる専門職	32～33	機能訓練に携わる専門職についてどのような職があり、どのような役割があるのか理解する。		◎	○	○
	22	4		相談、アドバイス、支援の提案を行う専門職	33～35	相談、アドバイス、支援の提案を行う専門職についてどのような職があり、どのような役割があるのか理解する。		◎	○	○
後期	23	6		【課題研究】 個人探究①	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「日常生活の中で、どんな工夫があるとより暮らしやすくなるのか」 例）探究・発表「福祉に携わる職業についてより具体的に学ぶ」 例）探究・発表「私が考える新しい社会保険制度」	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	24	6		【課題研究】 個人探究②	－			○	○	◎
	25	6	12月	【課題研究】 個人探究③	－			○	○	◎
	26	6		【課題研究】 個人探究④	－			○	○	◎
	27	－	－	後期学習内容のふり返り①	－	Metamojiなどデジタルを使用しての小テストを配布したり、それぞれのレポートに沿った調べ学習などを生徒に配布しその場で答え合わせを行う。	MetaMoJi上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。	○	○	◎
	28	－	－	後期学習内容のふり返り②	－			○	○	◎
	29	－	－	レポート復習プリント	－	学習内容を整理する。	MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる。	◎	○	○
	30	－	－	後期授業全体のふり返り	－	後期の学習内容をふり返り、重要なポイントを復習（実践）する。	各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。GoogleClassroomによる協働資料の配布等。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	福祉IB	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	高齢者、障害について理解を深め、支援や介護について知り、私たちの身の回りにある「福祉」を広く学ぶことで、制度やサービスだけではなく、自分にもできることを考えるきっかけになります。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	福祉（日本教育クリエイト）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。	福祉の学習では何を学ぶのか、明確にする。	◎	○	○
	2	1	5月	高齢者の心身の変化と特徴	38～39	高齢者の心身の変化と特徴について知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	3	5		【課題研究】 個人探究①	－	例 高齢者に多い目の病気について調べてみよう。	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	4	1		高齢者に多い疾患	39～44	高齢者に多い疾患について知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	○	◎	○
	5	5		【課題研究】 個人探究②	－	例 高齢者に多い疾患の疑似体験をしてみよう。	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	◎	○	○
	6	1		高齢者支援に大切なこと	45～46	高齢者について学んだことから自分達でどのような支援ができるか考える。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	7	5		【課題研究】 個人探究③	－	例 健康寿命を延ばすためにできることを考えよう。	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	◎	○	○
	8	2	6月	障害の種類	48～61	様々な障害の種類について知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	9	2		障害の種類				◎	○	○
	10	5		【課題研究】 個人探究④	－	例 難病指定されている病気を調べてみよう。 障がいのある方と接する際の介助方法を学ぼう。	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	11	2		障害のある方の支援で大切なこと	61～62	障害のある方について学んだことから自分達でどのような支援ができるか考える。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	12	－	－	前期学習内容のふり返り①	－	Metamojiなどデジタルを使用しての小テストを配布したり、それぞれのレポートに沿った調べ学習などを生徒に配布しその場で答え合わせを行う。	MetaMoJi上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。	○	◎	○
	13	－	－	前期学習内容のふり返り②	－			○	◎	○
	14	－	－	レポート復習プリント	－	学習内容を整理する。	MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる。	◎	○	○
	15	－	－	前期授業全体のふり返り	－	前期の学習内容をふり返り、重要なポイントを復習（実践）する。	各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。GoogleClassroomによる協働資料の配布等。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10月	セラピーに目を向けてみよう	81～84	セラピーとは何か、どのような種類があるのか知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	17	3		自立支援とは何か	64～65	自立支援とは何か知識の習得をする。		◎	○	○
	18	4	11月	介護の三原則	68～69	介護の三原則について知識の習得をする。		◎	○	○
	19	4		人生が楽しくなる暮らしの介護	69～75	人生が楽しくなる暮らしの介護について知識の習得をする。		◎	○	○
	20	6		【課題研究】 個人探究①	－	例 食事介助や自助具について調べてみよう	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	◎	○	○
	21	4		ボランティアに目を向けてみよう	78～79	ボランティアについて知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	22	6		【課題研究】 個人探究②	－	例 身近にどのようなボランティアがあるのか調べてみよう	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	◎	○	○
	23	4		AI/ロボットに目を向けてみよう	79～81	AI/ロボットについて知識の習得をする。	必要に応じてMetaMoJiや調べ学習を行い、自分の身近なものに置き換えて学習を進める。 福祉に関わる、新聞記事やニュースなどの資料を用いてグループワークをする等、協働的に学べるように工夫をする。	◎	○	○
	24	4		街の中のバリアフリーに目を向けてみよう	84～88	街の中のバリアフリーについて知識の習得をする。		◎	○	○
	25	6		【課題研究】 個人探究③	－	例 自分の周りのバリアフリーを調べてみよう。	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	26	6		【課題研究】 個人探究④	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例）探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例）探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」		○	○	◎
	27	－	－	後期学習内容のふり返り①	－	Metamojiなどデジタルを使用しての小テストを配布したり、それぞれのレポートに沿った調べ学習などを生徒に配布しその場で答え合わせを行う。	MetaMoJi上で問題を配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。	○	◎	○
	28	－	－	後期学習内容のふり返り②	－			○	◎	○
	29	－	－	レポート復習プリント	－	学習内容を整理する。	MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる。	◎	○	○
	30	－	－	後期授業全体のふり返り	－	後期の学習内容をふり返り、重要なポイントを復習（実践）する。	各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。GoogleClassroomによる協働資料の配布等。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	健康スポーツⅠA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	「健康とは?」　「スポーツとは?」　「スポーツ業界とは何か?」ということを、健康スポーツという学問を入口から広く学ぶ。さらに「スポーツ業界の仕事（プロスポーツ、スポーツメーカー、ショップ、メディア、イベント、トレーナーなど）」についても紹介しており、スポーツ業界への興味関心を広げる内容である。						
学習の到達目標	健康の定義について理解し、関連する健康づくりについて幅広い知識と教養を身に付ける。						
	プロスポーツチーム、スポーツメーカー、スポーツショップの仕事や職種について学び、将来に対する理解を深める。						
	スポーツイベント（オリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、甲子園）の歴史的背景や影響力、スポーツ業界への効果を学ぶ。						
使用教科書・副教材等	株式会社日本教育クリエイト「健康スポーツ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。		－	－	－
	2	1	4	健康とスポーツについて知ろう①	12～15	健康の定義、健康がどんなものか説明することができる。	運動はアスリートだけではなく、子どもから高齢者まで体力を維持・増進し、活力ある日常生活を送る上で大切であることが理解できるといい。 ※自身の体験談など踏まえ、具体例を出すとより興味関心を惹きやすい。	○	◎	○
	3	1	4	健康とスポーツについて知ろう②－1 グループワーク（調べ学習編）	12～15	健康づくりの三要素（運動、休養、栄養）について調べ、三要素がもたらすいい影響や不足したときに生じる様々な問題を調べる。	・P13を参考に三要素の1つを選択する。 ・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 例）栄養　高校生の平均摂取量 　　エナジードリンクの糖分摂取量	○	○	◎
	4	1	5	健康とスポーツについて知ろう②－2 グループワーク（発表編）	12～15	健康づくりの三要素（運動、休養、栄養）について調べ、三要素がもたらすいい影響や不足したときに生じる様々な問題を調べる。	発表の際は互いに質問をし合うなど、意見交流ができるとよい	○	○	◎
	5	1	5	スポーツ業界について知ろう①	18～20	・オリンピック・パラリンピックの歴史 オリンピック・パラリンピックの歴史的な意義や、日本で開催された大会がどのようにスポーツ文化や国際交流に貢献してきたのかを理解する。	日本で行われたオリンピック・パラリンピックについて解説し、それぞれの大会がどのような特徴を持っていたか紹介する。特に、1964年、2020年の大会の違い、そして日本社会や文化に与えた影響についても解説。 ※ソフト面レガシー（トイレのピクトグラム） 　ハード面レガシー（新幹線や高速道路の整備）	○	◎	○
	6	1	5	スポーツ業界について知ろう③-1 調べ学習（個人）	18～20	・オリンピック以外の世界大会や競技会を調べる。 ・スポーツの多様性と inclusivity（包摂性）を理解する。 ・異なるニーズや特技を持つ人々が共に競い合う場であることを理解し、学ぶことで、スポーツがどのように多様な人々をつなぎ、全員に機会を提供しているのかを知る。	参考：デフリンピック（聴覚障害者のためのオリンピック）、スペシャルオリンピック（知的障害者のためのスポーツイベント）、ワールドゲームズ（障害者のための非オリンピック競技の大会）、エックスゲームズ（エクストリームスポーツの大会）など	◎	○	○
	7	1	5	スポーツ業界について知ろう③-2 グループワーク（発表編）	18～20	・オリンピック以外の世界大会や競技会を発表する。 ・スポーツの多様性と inclusivity（包摂性）を理解する。 ・異なるニーズや特技を持つ人々が共に競い合う場であることを理解し、学ぶことで、スポーツがどのように多様な人々をつなぎ、全員に機会を提供しているのかを知る。	・発表の際は互いに質問をし合うなど、意見交流ができるとよい	○	○	◎
	8	2	6	プロスポーツチームについて知ろう①-1 グループワーク（調べ学習編）	22～25	・プロスポーツチームの運営と役割を学ぶ プロスポーツチームの組織運営やチーム作りについて理解し、さまざまな職業や役割がどうチームの成功に貢献しているかを知る	プロスポーツチームの「強化部門」と「運営部門」に分かれて、どのような仕事が行われているかを調べる。具体的には、特定のチームや競技をモデルに監督や選手の役割、スポンサー企業、広報活動、グッズ販売など、プロスポーツチームの仕事を調べ、チーム運営における重要な要素を発表する。	○	○	◎
	9	2	6	プロスポーツチームについて知ろう①-2 グループワーク（発表編）	22～25	・プロスポーツチームの運営と役割を学ぶ プロスポーツチームの組織運営やチーム作りについて理解し、さまざまな職業や役割がどうチームの成功に貢献しているかを知る	・発表の際は互いに質問をし合うなど、意見交流ができるとよい	○	○	◎
	10	2	6	プロスポーツチームについて知ろう②	22～25	・プロスポーツのマーケティング戦略 マーケティングやスポンサーシップがスポーツ業界に与える影響を学び、現代のプロスポーツ運営がどれほど商業的な側面を持っているのかを理解する。	ステークホルダーや広報活動（テレビ、SNS、雑誌などを活用した情報発信）やスポンサーシップ、グッズ販売の重要性について解説。これらの活動がどのようにファンを引きつけ、チームの財政基盤を支えるかを具体例を通じて解説。	○	◎	○
	11	2	6	スポーツメーカーについて知ろう①	28～32	・スポーツメーカーの仕事・売上について学ぶ スポーツメーカーの競争や企業を理解し、スポーツ業界がどのように世界的な市場で影響力を持っているかを学ぶ。	ナイキやアディダス、アシックスなどの主要なスポーツメーカーがどのように成長し、世界市場で競争しているのか。また、2020年の新型コロナウィルスの影響を受けたスポーツ業界やメーカーの売上の変動についても掘り下げると変化がよりわかりやすい。日本のスポーツメーカー（アシックスやミズノ）が世界市場でどのような位置にいるのかも重要である。	○	◎	○
	12	2	7	スポーツメーカーについて知ろう②	28～32	・スポーツブランドの文化と社会的影響 スポーツブランドが広告、製品、文化の発展にどのように関わり、社会的な影響を与えているのかを学ぶ	ナイキ、アディダス、アシックスなどの有名なスポーツブランドがどのように世界中で影響力を持っているのか。それぞれのブランドが掲げている価値観（例：ナイキの「Just Do It」、アディダスの「Impossible is Nothing」など）や、どのようにスポーツやライフスタイル文化に関連しているのかを分析する。	○	◎	○
	13	2	7	スポーツメーカーについて知ろう③-1 グループワーク（調べ学習）	28～32	特定のスポーツメーカーについて調べる。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。	◎	○	○
	14	2	7	スポーツメーカーについて知ろう③-2 グループワーク（発表）	28～32	特定のスポーツメーカーについて発表する。	・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。	○	○	◎
	15	5	7	前期の振り返り	－	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	レポート5枚目の内容の実施	◎	○	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	スポーツショップについて知ろう①	34～37	・スポーツ用品の市場調査とトレンド分析 現代のスポーツ用品市場におけるトレンドや消費者のニーズについて調査し、どのような商品がどの客層に人気なのかを分析	各競技やファッションにおいてどのスポーツ用品が最も人気があるか？ また、消費者がどのような要素（デザイン、価格、機能、ブランドなど）に注目しているのか？インターネットを用いてオンラインレビュー分析、販売データの収集などを行う。	○	◎	○
	17	3	10	スポーツショップについて知ろう②	34～37	・スポーツ用品と企業の取り組み スポーツ用品の製造においてリサイクル素材やバイオベース素材を積極的に取り入れ、環境負荷を減らすための取り組みを行っている事例を紹介。	参考 ・ナイキ（Nike）の「Recycling」および「Move to Zero」取り組み ・ アディダス（Adidas）の「Parley for the Oceans」プロジェクト パタゴニア（Patagonia）の「Worn Wear」プログラム	○	○	◎
	18	3	10	スポーツショップについて知ろう③-1 調べ学習	34～37	・新しいスポーツ用品をデザインしてみる。 既存ブランドまたは新規でコンセプト・ターゲットを決めて新しい商品を考え、市場のニーズや発想力を育む。	・靴のカスタマイズ（Nike By You） https://www.nike.com/jp/how-to-nike-by-you	○	○	◎
	19	3	10	スポーツショップについて知ろう③-2 発表編	34～37	・新しいスポーツ用品をデザインしてみる。 既存ブランドまたは新規でコンセプト・ターゲットを決めて新しい商品を考え、市場のニーズや発想力を育む。	・発表の際は互いに質問をし合うなど、意見交流ができるとよい	○	◎	○
	20	3	11	スポーツメディアについて知ろう①	40～43	・スポーツメディアとその種類について調べる。 スポーツに関連する情報を伝えるメディアの種類や、それぞれの特徴、利用方法について学ぶことを目的とする。	スポーツメディアの種類：映像、画像、試合結果の情報がどのメディアを通じて提供されているか。テレビ、ラジオ、インターネット配信、書籍、雑誌、CD/DVDなど、各メディアの特徴を調べる。 スポーツメディアの役割：各メディアがどのようにスポーツ情報を提供し、視聴者に伝えているか。リアルタイム中継や録画放送、ハイライト映像など、各メディアの強みを学ぶ。	◎	○	○
	21	3	11	スポーツメディアについて知ろう②	40～43	・放送ビジネスとは 日本の放送制度や有料・無料放送の違い、コンテンツの種類や諸外国の公共放送について学ぶことでスポーツメディアにおける収益構造を理解する。	参考　総務省 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.soumu.go.jp/main_content/000586011.pdf chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.soumu.go.jp/main_content/000697727.pdf	○	○	◎
	22	3	11	スポーツメディアについて知ろう③	40～43	・テレビスポーツ視聴ランキング p42の視聴率ランキングトップ10やビデオリサーチをもとにどの競技が人気なのか理解する。映像学習として各場面の映像を流すことでどんなイベントが人気なのか知る。	参考：ビデオリサーチ スポーツ部門で様々な指標の視聴率を調べる。 過去の野球の視聴率や番外編でドラマなども見てみると時代の変化など学ぶことができる。	○	○	◎
	23	3	11	スポーツイベントについて知ろう①	46～49	・FIFAワールドカップについてイベントの発祥と発展について説明ができる。	参考 ・FIFA公式サイト ・動画学習（サッカーの歴史） https://www.youtube.com/watch?v=o8qBUmbB6uA&t=470s	○	○	◎
	24	4	12	スポーツイベントについて知ろう②	46～49	・ラグビーワールドカップ イベントの発祥と発展について説明ができる。	参考 ・ラグビーワールドカップ公式サイト https://www.world.rugby/news/637788/crecimiento-del-torneo ・オールブラックス　ハカ（映像学習用） https://www.youtube.com/watch?v=zUuTPZn8bZs	○	◎	○
	25	4	12	スポーツイベントについて知ろう③	46～49	・夏の甲子園 イベントの発祥と発展について説明ができる。	参考 ・日本高校野球連盟　公式サイト ・夏の甲子園歴史う（映像学習用） https://www.youtube.com/watch?v=6YoP7oJWJLU	○	◎	○
	26	4	12	最新のスポーツ施設について知ろう①	52～54	・スポーツ施設における官民連携の推進 官民連携における様々なモデルケースとスポーツ施設を知る。	参考 ・スポーツ庁 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001461976.pdf	○	◎	○
	27	4	1	最新のスポーツ施設について知ろう②	52～54	・エスコンフィールド　HOKKAIDO 最新のトレンドのスポーツ施設について学ぶ。 また経営目線からの創業の過程について知る。	参考 ・開業ドキュメント　北海道日本ハムファイターズ公式 https://www.youtube.com/watch?v=GWgjkZbyQG0 ・Number エスコンフィールドを創った男 https://www.youtube.com/watch?v=AhtB_dgJjbI	○	○	◎
	28	4	1	最新のスポーツ施設について知ろう③	52～54	・IoT（Internet of Things） デバイスやセンサーがインターネットを介してデータを収集・共有し、リアルタイムで分析を行う技術を実際の導入事例から学ぶ。	参考 ・IoTスポーツテクノロジー徹底比較【2024年版】 https://sports-tech.jp/iot-sports-service/	◎	○	○
	29	6	1	後期授業の振り返り	–	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。		◎	○	○
	30	–	–	テスト対策	–	学習内容を整理し、レポート復習プリントを中心に学習を行う。		◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	健康スポーツＩＢ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	スポーツ業界でメジャーである職種の「スポーツトレーナー」「スポーツインストラクター」について理解を深める。またスポーツ業界のやりがいやスポーツ従事者に求める資質などより具体的に将来像をイメージする。						
学習の到達目標	スポーツトレーナー・インストラクター・コーチの職種の理解を深め、スポーツ業界での就業意欲を高める。						
	リラクゼーション（もみほぐし・ストレッチ）について理解をし、概要やスキルについて伝達することができる。						
	普段の生活で使えるスポーツの知識を理解し、日常生活に活用ができるようになる。						
使用教科書・副教材等	株式会社日本教育クリエイト「健康スポーツ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。		－	－	－
	2	1	4	その他のスポーツビジネスの創出について知ろう①	56～60	・コンピューターとIT技術 コンピューターとIT技術の基礎を理解し、スポーツにおける活用例を調べる。	・IT技術がスポーツにどのように利用されているのか調べる。 ・コンピューターを用いたデータ処理や情報管理の具体例を挙げる。 参考：スポーツテック関連のニュースサイト	○	◎	○
	3	1	4	その他のスポーツビジネスの創出について知ろう②	56～60	・ウェアラブルコンピューター Apple Watchやその他のウェアラブルデバイスがどのように健康管理やパフォーマンス向上に役立っているかを学ぶ。	・Apple Watchなどのウェアラブルコンピューターがどのようなデータを収集するか。 ・そのデータがどのように利用されるか(例:心拍 数、ランニングペースなど)	○	○	◎
	4	1	5	その他のスポーツビジネスの創出について知ろう③	56～60	・VAR（ビデオ・アシスタント・レフェリー)について サッカーにおけるVAR技術を理解し、試合でどのように活用されているかを学ぶ。	・VARとは何か、 どのようにサッカーの審判をサポートしているのかを調べる。 実際の試合でのVARの使用例を探し、その効果について学ぶ。 ※導入時期:2018年のロシアワールドカップ	○	○	◎
	5	1	5	その他のスポーツビジネスの創出について知ろう④	56～60	・スポーツツーリズムについて理解する。 ・eスポーツについて理解する。	・スポーツツーリズムが観光産業に与える影響を理解し、日本におけるスポーツ観光の現状と可能性について学ぶ。 ・eスポーツの成り立ちや現状を理解し、世界と日本での違いや今後の展望を学ぶ。	○	◎	○
	6	1	5	スポーツトレーナーについて知ろう①	62～69	・アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナーとは アスレティックトレーナーの役割や仕事内容について理解を深め、スポーツにおける健康管理やケガの予防について学ぶ。 パーソナルトレーナーの仕事内容を理解し、 健康維持やダイエット、 体力づくりにおけるトレーニング方法を学ぶ。	・アスレティックトレーナーとパーソナルトレーナーの違いを理解し、それぞれの仕事の特性を比較して学ぶ。 ・どちらの職業がどのような場面で求められているのか、具体的な事例を調べる。	◎	○	○
	7	1	5	スポーツトレーナーについて知ろう②	62～69	・栄養トレーナー、 高齢者運動指導員とは 栄養トレーナーの役割や仕事内容、健康維持やスポーツパフォーマンス向上のために必要な栄養管理について学ぶ。 ・高齢者運動指導員の役割や仕事内容、高齢者に向けた運動指導の重要性について理解を深め、健康維持にどのように寄与できるかを学ぶ。	・栄養トレーナー、 高齢者運動指導員の違いを理解し、それぞれの仕事の特性を比較して学ぶ。 ・どちらの職業がどのような場面で求められているのか、具体的な事例を調べる。	○	○	◎
	8	2	6	スポーツインストラクターについて知ろう①	62～69	・エアロビクスインストラクターとは エアロビクスインストラクターの仕事内容、指導法、対象者に応じたプログラムの調整について学ぶ。 ・ヨガインストラクターとは ヨガインストラクターの指導法や心身への効果、リラックスや集中力向上のための技術を学ぶ。	・エアロビクスインストラクター、ヨガインストラクターの違いを理解し、 それぞれの仕事の特性を比較して学ぶ。 ・どちらの職業がどのような場面で求められているのか、具体的な事例を調べる。	○	○	◎
	9	2	6	スポーツインストラクターについて知ろう②	62～69	・ダンスインストラクターとは ダンスインストラクターの仕事、指導法、最新のトレンドやジャンルについて学ぶ。 ・ダイビングインストラクターとは ダイビングインストラクターの役割や必要な技術、指導方法、特に安全面での指導を学ぶ。	・ダンスインストラクター、ダイビングインストラクターの違いを理解し、それぞれの仕事の特性を比較して学ぶ。 ・どちらの職業がどのような場面で求められているのか、具体的な事例を調べる。	○	○	◎
	10	2	6	スポーツインストラクターについて知ろう③	62～69	・スポーツインストラクターの国家資格とは フィットネスクラブ・マネジメント技能検定について学び、 フィットネスクラブ運営に関する知識やマネジメントスキルを理解する。	参考 FCM技能検定 フィットネスクラブ・マネジメント技能検定 https://fcm-test.jp/	○	◎	○
	11	2	6	コーチについて知ろう①	80～85	・コーチとは 誰を対象にどんな職業なのか理解する。	参考 語源：ハンガリーの「コチ（kocsi)」 → 馬車 → 目的地に導く役割 コーチングとティーチングの違い	○	◎	○
	12	2	7	コーチについて知ろう① グループワーク　調べ学習編	80～85	・ サッカーコーチとは ・テニスコーチとは ・スイミングコーチとは コーチの役割やスキルについて理解を深め、実際のコーチ業務における必要な知識や技術、マネジメント力を学ぶこと	グループに分け、サッカー、テニス、 スイミングの各コーチの役割や資格について調べる。	○	◎	○
	13	2	7	コーチについて知ろう① 発表編	80～85	・ サッカーコーチとは ・テニスコーチとは ・スイミングコーチとは コーチの役割やスキルについて理解を深め、実際のコーチ業務における必要な知識や技術、マネジメント力を学ぶこと	グループに分け、サッカー、テニス、 スイミングの各コーチの役割や資格について発表する。	○	○	◎
	14	2	7	コーチについて知ろう④ 実践的なロールプレイ編	80～85	・学校にあるスポーツ物品を使用してコーチングをする。 指導方法やコミュニケーション技術を実践的に学ぶ。	生徒にコーチ役と選手役を演じてもらい、実際の指導場面を想定したロールプレイを行う。	◎	○	○
	15	5	7	前期の振り返り	－	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	レポート5枚目の内容の実施	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	幼児体育指導員について知ろう①	88～89	・幼児体育指導員の役割と求められる能力 幼児体育指導員の重要な役割を理解し、その職務内容を深く学ぶこと。	・幼児体育指導員の仕事の概要（運動の楽しさを教える、発育・発達を促す）。 ・幼児教育における体育の役割や目的。	○	○	◎
	17	3	10	幼児体育指導員について知ろう②	88～89	・発育・発達に関する基本知識 幼児体育指導員がどのように子どもたちの発育・発達を促進し、安全な運動環境を作り出しているかを探ること。	・幼児期の身体的および心理的な発達段階（運動能力や社会性の発達）。 ・どのような運動が発育・発達に有益か。	○	○	◎
	18	3	10	幼児体育指導員について知ろう③	88～89	・資格とキャリアパス 幼児体育指導員に必要なスキルや資格について調査し、今後のキャリア形成に役立てる。	・幼児体育指導員に関連する資格（保育士や幼稚園教諭など）。 ・資格取得後のキャリアの選択肢や活躍の場（教育者としての役割）。	○	◎	○
	19	3	10	ボディリラクゼーションについて知ろう①	92～95	・ボディリラクゼーションについて知ろう もみほぐしの基本的な概念を学ぶ	・ボディリラクゼーションの定義、種類について理解する。 ※俗に言うマッサージは国家資格のため別のものということを理解する。	◎	○	○
	20	3	11	ボディリラクゼーションについて知ろう②	92～95	・ボディリラクゼーションについて知ろう ストレッチの基本的な概念を学ぶ	・静的ストレッチと動的ストレッチの違い ・椅子の上でもできる簡易的なストレッチを実施。起始停止や機能解剖学の知識も盛り込めるとなお良し。	○	○	◎
	21	3	11	ボディリラクゼーションについて知ろう③	92～95	・ボディリラクゼーションについて知ろう ストレッチの効果について学ぶ	・ストレッチが体調整えやケガのリスクを軽減する方法。 ・ストレッチが運動の前後でどのように役立つか（柔軟性向上、パフォーマンスの向上）。 ・ストレッチが身体的な効果を得るためのポイント（適切なタイミングや方法）。	○	○	◎
	22	3	11	普段の生活で使えるスポーツの知識①	98～99	・ウォーミングアップ ウォーミングアップの重要性について理解する	・ウォーミングアップの目的（筋肉を温めてケガの予防）。 ・効果的なウォーミングアップ方法（ストレッチ、ジョギング、スクワットなど）。 ・ウォーミングアップに適した時間（5～10分）。	○	○	◎
	23	3	11	普段の生活で使えるスポーツの知識②	99～100	・アイシング アイシングの効果と方法を理解する	・アイシングの目的（運動後の筋肉の回復を促進） ・アイシングの方法（氷やアイスパックを15～20分当てる、休憩後に再度行う） ・アイシングの冷却時間の重要性と過度な冷却のリスク（凍傷） ・実践推奨　アイスパックや氷嚢を使用し、バンテージや布があれば圧迫も実践してみる。	○	◎	○
	24	4	12	普段の生活で使えるスポーツの知識③	100～101	・テーピング テーピングの実践と重要性を学ぶ	・テーピングの用途（外傷予防、応急処置）。 ・適切なテープ選びと使用方法 ・テーピングがケガ予防にどのように役立つか。 ・実践推奨　足関節が症例として多いが、簡易的な手首や突き指のテーピングなどを実施。	○	◎	○
	25	4	12	普段の生活で使えるスポーツの知識④	101～102	・メンタルトレーニング メンタルトレーニングの効果について学ぶ	・メンタルトレーニングの目的（プレッシャーに強くなり、行動力や問題解決力を高める）。 ・ポジティブな言葉を使い、挑戦し続けることで精神的な強さを養う方法＝お互いにいいところを褒め合うなどゲームを通しながら実感を得る。	○	◎	○
	26	4	12	普段の生活で使えるスポーツの知識⑤	102～103	・睡眠 睡眠の重要性とスポーツパフォーマンスへの影響について学ぶ	・睡眠が身体と精神の回復に与える影響。 ・アスリートにとって理想的な睡眠時間（8～10時間）と質の良い睡眠の重要性。 ・睡眠がパフォーマンス向上にどう寄与するか。	○	○	◎
	27	4	1	普段の生活で使えるスポーツの知識⑥	104	・栄養 栄養とパフォーマンスに関連性について理解する	・三大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質）と・五大栄養素（ビタミン、ミネラル）の役割。 適切な栄養摂取がスポーツパフォーマンスに与える影響（エネルギー補給、筋肉の回復）。 ・ダイエットや嗜好品の摂取制限が健康的なパフォーマンスにどう関係するか。	◎	○	○
	28	4	1	普段の生活で使えるスポーツの知識⑦	104～105	・トレーニング 有酸素性運動と無酸素性運動の違い・効果を学ぶ	・有酸素性運動（ジョギング、自転車など）の特徴と効果（心肺機能向上、脂肪燃焼）。 ・無酸素性運動（筋トレ、短距離走など）の特徴と効果（筋力向上、爆発的なパワー向上）。 ・両者の違いと実際のトレーニングでどのように使い分けるか。	◎	○	○
	29	6	1	後期授業の振り返り	–	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	–	◎	○	○
	30	–	–	テスト対策	–	学習内容を整理し、レポート復習プリントを中心に学習を行う。	–	◎	○	○

0

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美容ＩA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	・ヘア・メイク分野に関する教養を身につける。						
学習の到達目標	・ヘア・メイクに関する知識を身につける。						
	・身に着けた知識を実技に活かすことができる。						
	・状況に応じた施術ができるようにする。						
使用教科書・副教材等	高橋書店「あなたの美を引き出す正しいヘア＆メイク事典」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	―	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）	－	－	－
	2	1	5	【基礎】 ベースメイクについて①	12-84	・ベースメイクの基本を正しく理解する。 ・工夫のポイントを整理する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	3			【基礎】 ベースメイクについて②	12-84	・仕上がりの違いや印象について考察する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	○	◎	
	4			【基礎】 目元のメイクについて	12-84	・仕上がりの違いや印象について考察する。 ・必要な道具を想像し、再現をする方法を理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	○	◎	
	5			実技・実習活動	12-84	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解する。	・自身で実践した後、可能であればペアで実践も行う。	○	○	◎
	6	2	6	【考察】 眉と目元メイクの考察	85-153	・仕上がりの違いや印象について考察する。	・アイテムによる仕上がりの違い、メリット・デメリットを表にしてまとめると良い。	○	◎	
	7			【基礎】 メイクを直す際の注意点とポイント	85-153	・メイクを修正するためのポイントを理解し、他者に説明が出来る力を身につける。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	8			【基礎】 リップメイクについて	85-153	・リップメイクの特徴を正しく理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	9			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	85-153	・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	10			実技・実習活動	85-153	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・自身で実践した後、可能であればペアで実践も行う。	○	○	◎
	11	5	7	【課題探究】 個人探究①	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「メイクが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したメイク作品とその理由」 例）探究・発表「メイク創作活動（個人作品）」	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	12			【課題探究】 個人探究② 発表の資料作成	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 ・個人別探究で得た内容を発表するための資料作成を行う。 例）模造紙 例）Googleスライド	・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。	○	○	◎
	13			【個人探究発表会】	－	・探究活動の発表を通して、自己への評価を得たり、他者を評価する。 ・発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。	・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。			◎
	14	1,2	－	前期授業内容の振り返り	－	・学習内容を整理する。	・MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる	◎		
	15	1、2、5	－	前期振り返り	－	・前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	・各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。 GoogleClassroomによる協働資料の配布等。			◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	－	－	【オリエンテーション】 後期・学習の進め方 前期の復習	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）			◎
	17	3	10	【考察】 自身のヘアスタイルや 過去のアレンジ経験を振り返る	154-200	・イメージを具体化し、アレンジに対する理解を深める。	・イベントごとのヘアスタイル、流行りのヘアスタイルなどを写真から振り返りできると良い。	○	◎	
	18	3		【基礎】 ヘアの変化やダメージについて	154-200	・ヘアの変化やダメージに関する正しい理解を行う。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	19	3		【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	154-200	・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	20	3		実技・実習活動	154-200	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・ヘアアレンジをマネキンや、ペアで行う。	○	○	◎
	21	4	11	【基礎】 シャンプーの意味について	154-200	・シャンプーの効果や方法について理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	22	4		【基礎】 トリートメントの意味について	154-200	・トリートメントの効果や方法について理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	23	4		【基礎】 ヘアの変化による印象の違い①	154-200	・仕上がりの違いや印象について考察する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	24	4		【基礎】 ヘアの変化による印象の違い②	154-200	・ヘアに関する知識を用いて、相談に対して適切なアドバイスが出来るようにする。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	25	4		実技・実習活動	154-200	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・マネキンで実施する。数に限りがある場合は、グループで対応。	○	○	◎
	26	6	12	【課題探究】 グループ探究①	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすメイク作品を考えよう」 例）探究・発表「メイクの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「メイク創作活動（グループ作品）」	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	27	6		【課題探究】 グループ探究② 発表の資料作成	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 ・グループ別探究（協働学習）で得た内容を発表するための資料作成を行う。 例）模造紙 例）Googleスライド	・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。	○	○	◎
	28	6		【グループ探究発表会】	－	・探究活動の発表を通して、自グループへの評価を得たり、他グループを評価する。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。	・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。			◎
	29	3、4	－	後期授業内容の振り返り	－	・学習内容を整理する。	・MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる。	◎		
	30	3、4、6	－	後期振り返り	－	・後期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	・各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。 GoogleClassroomによる協働資料の配布等。			◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美容ＩＣ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	・ネイルに関する基礎的な教養を身につける。						
学習の到達目標	・ネイルの正しい知識を知り、自己や他者の生活に「潤い」や「彩り」を与えることができる力を身につける。 ・探究的な視点を持ち、適切なアドバイスが出来るようになる。 ・実技を通して、器具や薬品の安全な取り扱いについて理解を深める。						
使用教科書・副教材等	ソーテック「『セルフジェルネイル教室』nailstepsリップ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）	－	－	－
	2	1	5	【基礎】 ネイルアレンジ 自分の爪をよく見てみよう	5-12、77	・自身の爪を観察し、特徴を理解する。 ・ケアやアレンジ関して興味を持つ。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。		◎	○
	3	1		【基礎】 ジェルネイルについて	5-12、77	・ジェルネイルに対する正しい知識を身に付ける。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	4	1		【基礎】 ファイル、ウッドスティックについて	5-12、77	・ファイル、ウッドスティックに対する正しい理解をする。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	5	1		実技・実習活動	5-12、77	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・ネイルチップもしくは、ペアで実践する。	○	○	◎
	6	2	6	【基礎】 ネイルケアについて	13-22	・ネイルケアがもたらす効果を理解する。 ・他者に与える印象について考察をする。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。		◎	○
	7	2		【基礎】 ウェットステリライザーの作り方 キューティクルニッパーのお手入れ	13-22	・ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する正し	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	8	2		【基礎】 ネイルの形状と構造について	13-22	・形状を比較し、特徴を理解する。 ・爪の各構造を理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	9	2		実技・実習活動	13-22	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通し	・ネイルチップもしくは、ペアで実践する。	○	○	◎
	10	5	7	【課題探究】 個人探究①	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「ネイルが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したネイル作品とその理由」 例）探究・発表「ネイル創作活動（個人作品）」	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	11	5		【課題探究】 個人探究②		・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 ・個人別探究で得た内容を発表するための資料作成を行う。 例）模造紙 例）Googleスライド	・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。	○	○	◎
	12	5		【課題探究】 個人探究③		・個人別探究で得た内容を発表するための資料作成を行う。 ・発表のリハーサルを行う。 例）模造紙 例）Googleスライド	・適宜フィードバックを行い、本番に向けて数回リハーサルを行う。	○	○	◎
	13	5		【個人探究発表会】	－	・探究活動の発表を通して、自己への評価を得たり、他者を評価する。 ・発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。	・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。			◎
	14	1、2	－	前期授業内容の振り返り	－	・学習内容を整理する。	・MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる	◎		
	15	1、2、5	－	前期授業内容の振り返り	－	・前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	・各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。 GoogleClassroomによる協働資料の配布等。			◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	－	－	【オリエンテーション】 後期・学習の進め方 前期の復習	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）			◎
	17	3	10	【基礎・探究】 ドライケアについて ウォーターケアについて	23-38	・ドライケアとウォーターケアの違いを理解する。 ・それぞれの特徴を基に、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	18			【基礎】 ジェルネイルの道具・工程について 筆の活用とお手入れについて	23-38	・道具に対する理解を深め、場面に応じた適切な活用が重要であることを理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	19			実技・実習活動	23-38	・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通してこれまでの内容を理解する。	・ネイルチップもしくは、ペアで実践する。	○	○	◎
	20			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	23-38	・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	21	4	11	【考察】 ジェルネイル作成上の注意点	40-79	・想像力を働かせながら、ネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。	・作成手順に沿って注意点を考察する。	○	◎	
	22			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	40-79	・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	23			【基礎】 ネイルオフについて	40-79	・安全に施術を行うための知識を理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	
	24			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言③」	40-79	・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	25			【考察】 作品分析	40-79	・想像力を働かせながらネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。	・さまざまな種類の作品を提示して、特徴をまとめる。		◎	○
	26	6	12	【課題探究】 グループ探究①	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすネイル作品を考えよう」 例）探究・発表「ネイルの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「ネイル創作活動（グループ作品）」	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
	27			【課題探究】 グループ探究②	－	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 ・グループ別探究（協働学習）で得た内容を発表するための資料作成を行う。 例）模造紙 例）Googleスライド	・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。	○	○	◎
	28			【グループ探究発表会】	－	・探究活動の発表を通して、自グループへの評価を得たり、他グループを評価する。 ・発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。	・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。			◎
	29	3、4	－	後期授業内容の振り返り	－	・学習内容を整理する。	・MetaMoJi内の復習プリントに取り組ませる	◎		
	30	3、4、6	－	後期授業内容の振り返り	－	・後期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。	・各生徒の感想や学びの成果を共有（アウトプット）する取り組みを推奨する。 GoogleClassroomによる協働資料の配布等。			◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	こどもＩA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保育士、幼稚園教諭になる方法や幼児教育に関わる仕事内容を理解し、また資格取得方法について学ぶ。						
学習の到達目標	保育所と幼稚園の違いを理解し、幼保一元化の背景と今後について考察出来る力をつける。 保育士・幼稚園教諭の資格取得方法とその流れについて理解し、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。 保育士・幼稚園教諭・福祉施設職員の役割や仕事内容について知り、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
使用教科書・副教材等	日本実業出版社「保育の仕事がわかる本」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方をまとめた資料を作成し、GoogleClassroomで共有する。	－	－	－
	2	1	5	保育職の活動場所	8～17	・保育所の仕事について理解する。 ・保育園と幼稚園の違いについて理解する。 (a) ・保育士と幼稚園教諭の違いについて理解する。 (b) ・保育職の活躍について理解する。 ・保育職のやりがいについて理解する。 (c)	・グループで出身園について共有する。 ・園での生活について振り返り覚えていることをグループごとに発表させる。 ・担当教諭の実体験を織り交ぜて現場での様子をレクチャーする。	◎	○	○
	3				18～34	・認定こども園について理解する。 (a) ・認定こども園での生活について理解する。 ・保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を取得するメリットについて理解する。 (b) ・保育職を目指す学生の戸惑いについて理解する。 ・仕事と家庭の両立について理解する。 (c) ・離職率の高さについて理解する。 ・園長・主任の仕事について理解する。	・各自で認定こども園について調べさせる。どのような生活をしているのか、学習したことを教科担当からクラスルームで配布した資料に記入させGoogleClassroomに提出させる。 ・担当教諭の実体験をもとにレクチャーする。 ・グループで話し合い、グループごとに発表させる。	◎	○	○
	4				8～34	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて 各グループに分けてまとめ学習を行う。 2回目授業ポイント：abc 3回目授業ポイント：abc	・前回、前々回の復習として覚えているか教員から発問を行う。 ・生徒をグループに分け、それぞれでポイントをまとめさせる。 (Googleスライド、MetaMoJiClassroom等活用) ・まとめたものを発表し相互に確認を行う	○	○	◎
	5	2	6	保育士の役割	35～45	・保育士について理解する。 ・保育士40万人の役割について理解する。 ・保育士資格を取得する方法について理解する。(a) ・保育士になるための進学先について理解する。(b)	・保育の現場でのエピソードを伝える。 ・各自調べ学習をし、教科担当からGoogleClassroomで配布した資料に記入させGoogleClassroomに提出させる。	◎	○	○
	6				46～56	・保育士になるためのカリキュラムを理解する。 ・保育原理を理解する。 ・保育実習を理解する。(a) ・国家試験で保育士になることについて理解する。 ・保育士が守るべき倫理について理解する。(b)	・教科書に沿って保育士になるためのカリキュラムの説明をする。 ・どのような学びがあるのか専門学校での様子などを説明する。専門学校での授業の様子など動画で見せてもよい。 ・グループで話し合いグループごとに発表させる。	◎	○	○
	7				35～56	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて 各グループに分けてまとめ学習を行う。 5回目授業ポイント：ab 6回目授業ポイント：ab	・前回、前々回の復習として覚えているか教員から発問を行う。 ・生徒をグループに分け、それぞれでポイントをまとめさせる。 (Googleスライド、MetaMoJiClassroom等活用) ・まとめたものを発表し相互に確認を行う。	○	○	◎
	8	5	7	幼児期の教育	70	・幼児期のケアと教育について理解する。 ・折り紙について調べ学習をして理解する。	・講義する。 ・なぜ折り紙をさせるのか調べ学習をする。	○	◎	○
	9					・折り紙製作指導について理解したものをもとにレポートをまとめる。	・折り紙製作の必要性について前回の調べ学習をもとに感想も踏まえてGoogleClassroomに提出させる。	◎	○	○
	10			保育所の年間行事スケジュール	80	・七夕について理解する。 ・短冊について理解する。 ・七夕飾りについて調べ学習をして理解する。	・園で行事を経験させる大切さについて実体験をもとに説明する。 ・七夕という行事について詳しく講義して、短冊・七夕飾りの所以についても調べ学習させる。	◎	○	○
	11					・七夕飾り折り紙製作について理解する。 ・レポート5を実施する。	前回の授業内容の復習・季節行事「七夕」で使用される「七夕飾り」について説明し、１つ選び、折り紙を使用して製作させる。 ・作成した作品の名前を答えさせる。 ・完成作品をレポートの大問1の部分に画像添付させる。Googleスライドにて提出。 ・製作した七夕飾りの意味について講義する。	○	◎	○
	12	－	－	先生の講話	－	・担当の先生の現場体験の体験談講話を聞き、現場を理解する。	①から③について説明し、感想を教科担当からGoogleClassroomで配布した資料に記入させクラスルームに提出させる。	◎	○	○
	13	－	－	制作活動	－	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・ 事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・ 完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	◎	○	○
	14	－	－	制作活動	－	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・ 事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで2工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・ 完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	◎	○
	15	－	－	テスト対策	－	レポート復習プリント実施 テスト対策	・復習プリントの項目において重要箇所を説明し、各問題においてつまずきそうな部分を重点的に解説する。 ・実際に生徒に問題を解かせる時間に机間巡視を行い個々での質問に回答していく。	○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	保育士の仕事	57～73	・児童福祉施設について理解する。 ・保育士の勤務形態について理解する。 ・保育所における保育士の配置基準について理解する。 ・認可保育所と認可外保育所の特徴について理解する。 ・乳児期ケアと教育について理解する。	・施設についての調べ学習。どんなところに存在するのか確認する。 ・グループで予想を立て勤務形態についてグループごとに発表させる。実際のところはどうなのか教員が説明する。現場の様子を踏まえて説明する。 ・どのようなケアを望むのかグループで話し合いグループごとに発表させる。	◎	○	○
	17				74～89	・子育てのパートナーについて理解する。 ・生活リズム・シフト組について理解する。 ・保育計画について理解する。 ・専門職との連携について理解する。 ・小学校との連携について理解する。 ・延長保育・夜間保育・休日保育について理解する。	・パートナーにどのような期待があるか、子育てに対する不安についてMetaMoJi上で生徒が書き込める課題を配布し、タイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・現状の理解を深めるために要録の共有なども含めて伝える。	◎	○	○
	18				57～94	・病児・病後児保育について理解する。 ・子育て短期支援事業について理解する。	・子育て支援について教科書を中心に講義し理解させる。 ・身近な地域でどう行われているか調べて発表させる。	○	○	◎
	19	4	11	幼稚園教諭の役割	119～129	・幼稚園教諭について理解する。(a) ・10万人の幼稚園教諭について理解する。 ・幼稚園教諭の役割について理解する。(b) ・幼稚園教諭になるためのルートと特徴について理解する。c	・幼稚園現場の様子、実習のための授業など専門学校の生徒の雰囲気を講義する。動画等用意できたらなおよい。	○	◎	○
	20				130～138	・幼稚園教諭になるための進学先について理解する。(a) ・幼稚園教諭になるためのカリキュラムについて理解する。(b) ・教育実習の内容について理解する。(c)	・大学・短大・専門学校について講義し違いを理解させる。	○	◎	○
	21				119～138	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて 各グループに分けてまとめ学習を行う 19回目授業ポイント：abc 20回目授業ポイント：abc	・前回、前々回の復習として覚えているか教員から発問を行う。 ・生徒をグループに分け、それぞれでポイントをまとめさせる。（Googleスライド、MetaMoJiClassroom等活用） ・まとめたものを発表し相互に確認を行う。	○	◎	○
	22	6	12	幼稚園教諭の仕事	140～145	・公立幼稚園と私立幼稚園について理解する。 ・幼稚園の仕組みについて理解する。 ・幼稚園の一日の活動計画について理解する。 ・一日の計画を立ててみる。	・公立と私立の違い、費用や、先生になるための試験の違いなども講義する。 ・調べ学習をさせ、実際に計画を立てさせクラスルームに提出させる。	○	◎	○
	23				146～153	・保育時間帯以外の仕事について理解する。 ・保育中の仕事について理解する。 ・保育環境の整備について理解する。 ・指導計画を立てることについて理解する。 ・年間スケジュールについて理解する。	・担当教諭の経験をもとに現場での様子を踏まえて理解させる。 ・実際の指導計画を投影して見せる。	◎	○	○
	24					・幼児の遊びの重要性について理解する。 ・レポート6を実施する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・ 事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで2工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・ 完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	◎	○	○
	25				156～164	・預かり保育について理解する。 ・保護者を支援することについて理解する。 ・幼稚園と小学校の連携について理解する。 ・保育所との連携や交流について理解する。	・教科書を中心に講義し、様々な機関との連携の大切さについてグループで話し合って発表させる。	○	○	◎
	26	－	－	保育所以外での保育士の仕事	96～101	・子育て支援と中高生支援について理解する。 ・遊びについて理解する。 ・乳児院での保育士の仕事について理解する。	・支援について、どんなものがあるのか調べさせる。MetaMoJi上でタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・子どものころどのような遊びに夢中だったかMetaMoJi上で生徒が書き込める課題を配布し書き込ませて確認する。遊びの大切さについて講義する。 ・乳児院について講義する	◎	○	○
	27				102～107	・児童養護施設での保育士の仕事について理解する。 ・児童自立支援施設での保育士の仕事について理解する。 ・母子生活支援施設での保育士の仕事について理解する。	・教科書を中心に講義し、各児童福祉施設について理解させる。 ・実在する児童福祉施設について調べ発表させる。	◎	○	○
	28				108～113	・障害児入所施設での保育士の仕事について理解する。 ・児童発達支援センターでの保育士の仕事について理解する。 ・児童家庭支援センターでの保育士の仕事について理解する。	・教科書を中心に講義し、各児童福祉施設について理解させる。 ・実在する児童福祉施設について調べ発表させる。	◎	○	○
	29				114～118	・学童保育での保育士の仕事について理解する。 ・放課後等デイサービスでの保育士の仕事について理解する。	・教科書を中心に講義し、各児童福祉施設について理解させる。 ・実在する児童福祉施設について調べ発表させる。	◎	○	○
	30	－	－	テスト対策	－	レポート復習プリント実施 テスト対策	・復習プリントの項目において重要箇所を説明し、各問題においてつまずきそうな部分を重点的に解説する。 ・実際に生徒に問題を解かせる時間に机間巡視を行い個々での質問に回答していく。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	こどもＩＢ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	年齢ごとの発達と保育のポイントについて理解し、年齢に応じた遊びや応答について学ぶ。						
学習の到達目標	乳児期の発達の様子と保育のポイントについて理解し、子ども達が次の年齢に円滑に移行出来るよう未来の姿を見通せる力をつける。 幼児期の発達の様子と保育のポイントについて理解し、子ども達が次の年齢に円滑に移行出来るよう未来の姿を見通せる力をつける。 発達に適した環境や関わり方について理解し、子どもの様子に合わせて臨機応変に判断・対応出来る力を身につける。						
使用教科書・副教材等	学研「0歳～6歳　子どもの発達と保育の本」第2版						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	学習内容や到達目標、学習の進め方をまとめた資料を作成し、教科担当がGoogleClassroomに配布する。	－	－	－
	2	1	5	乳児	5～14	・0～5か月ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能・姿勢運動について理解する。(b) ・手指の操作・社会性・感覚系について理解する。(c)	(a)の発達の様子について調べ学習をする。 MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布して共有させる。 (b)(c)について講義をする。	◎	○	○
	3	1	5	乳児	15～24	・6～11か月ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能・姿勢運動について理解する。(b) ・手指の操作・感覚系について理解する。(c) ・自我・社会性について理解する。(d)	(a)の発達の様子について調べ学習をする。 MetaMoJi上で共有させる。 (b)(c)について講義をする。生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布して (d)についての講義をもとに感想を教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	◎	○	○
	4	2	6	1歳ころ	25～34	・1歳ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能について理解する。(b) ・全身運動について理解する。(c) ・手指の操作について理解する。(d) ・言語・認識について理解する。(e) ・自我・社会性について理解する。(f)	(a)の発達の様子について調べ学習をする。 MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布して共有させる。 (b)から(e)について講義をする。 (f)についての講義をもとに感想を教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	◎	○	○
	5	1・2	5・6	乳児 1歳ころ	6～34	※これまでの授業の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて各グループに分けてまとめ学習を行う。 2回目授業ポイント：(a,b,c) 3回目授業ポイント：(a,b) 4回目授業ポイント：(a,b,c)	・これまでの授業の復習として覚えているか教員から発問を行う。 ・生徒をグループに分け、それぞれでポイントをまとめさせる。（Googleスライド、MetaMoJiClassroom等活用） ・まとめたものを発表し相互に確認を行う。	○	◎	○
	6	5	7	おむつの特徴 発達に合わせた製作活動	12・32	・快適な午睡環境について理解する。 ・おむつ交換の仕方について理解する。 ・トイレトレーニングの進め方について理解する。	・午睡にはどのような環境が適しているかを調べ学習させる。MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布し共有させる。 ・ゆうたん人形等で実際におむつ交換の様子を見せられるとよいが人形がない場合には専門学校での授業などの動画を見せられたら良い。 ・トイレトレーニングについて担当教諭が講義する。	○	○	◎
	7	－	－	発達に合わせた活動	－	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	○	◎
	8	－	－		－	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	○	◎
	9	－	－	先生の講話	－	担当の先生の現場体験の体験談講話を聞き、現場を理解する。 制作やゲームなど取り入れる。	担当教諭の経験や専門学校での実習の様子などを講義する。パワポや動画など視覚的な授業準備ができるとよい。	○	◎	○
	10	－	－	ルール・マナーについて	－	ルールやマナーについて絵や図で伝えられるよう製作し、生活の中で必要なことを理解する。	・ルールやマナーがある必要についてグループで話し合い、グループごとに発表させる。 教諭からルール・マナーの必要性について講義し、園児に伝える方法を教える。その中に絵や図を見せるとよいこと、現場では絵を黒板に貼ってこれを守ろうとわかりやすく指導していることも紹介する。	◎	○	○
	11	－	－		－			○	◎	○
	12	－	－	先生の講話	－	担当の先生の現場体験の体験談講話を聞き、現場を理解する。 制作やゲームなど取り入れる。	担当教諭の経験や専門学校での実習の様子などを講義する。パワポや動画など視覚的な授業準備ができるとよい。	○	◎	○
	13	－	－	好き嫌いへの対応	－	・こどもの好きなもの・嫌いなものを調べ学習し理解する。 ・好きなもののレシピ・嫌いなものを食べられるように工夫したレシピをそれぞれ考え作成する。	・自分のこどものころの好きだったもの・嫌いだったものをMetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布し共有させる。なぜ、好まれるのか？嫌われるのか？グループで考えさせ、発表させる。どうしたら嫌いな食べ物を克服できるのかグループで考えさせる。担当教諭が好き嫌いのメカニズム・成長に左右されることについて講義する。 ・学んだことを踏まえて、好きなものをよりおいしく楽しく食せるようなレシピを考えてGoogleClassroomに提出させる。嫌いなものを克服できるようなメニューを考えて教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	○	◎	○
	14	－	－		－			◎	○	○
	15	－	－	テスト対策	－	レポート復習プリント実施・解説 テスト対策	復習プリントの項目において重要箇所を説明し、各問題においてつまずきそうな部分を重点的に解説する。 実際に生徒に問題を解かせる時間に机間巡視を行い個々での質問に回答していく。	○	◎	○

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	2歳頃～3歳頃	35～56	・2歳ころ～3歳ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能について理解する。(b) ・全身運動について理解する。(c) ・手指の操作について理解する。(d) ・言語・認識について理解する。(e) ・自我・社会性について理解する。(f)	(a)について調べ学習をさせ、MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布し共有させる。 (b)から(e)について教科書をもとに講義する。 (f)についてグループで考えさせグループごとに発表させる。	○	○	◎
	17							◎	○	○
	18							◎	○	○
	19					※前回の授業の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて各グループに分けてまとめ学習を行う。 授業ポイント：(a,b,c,d) 授業ポイント：(a,e,f)	・前回までの授業の復習として覚えているか教員から発問を行う。 ・生徒をグループに分け、それぞれでポイントをまとめさせる。（Googleスライド、MetaMoJiClassroom等活用） ・まとめたものを発表し相互に確認を行う。	◎	○	○
	20	4	11	4歳ころ	57～66	・4歳ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能について理解する。(b) ・全身運動について理解する。(c) ・手指の操作について理解する。(d) ・言語・認識について理解する。(e) ・自我・社会性について理解する。(f)	(a)から(e)についてグループで話し合いグループごとに発表させる。 (f)について講義し、感想を教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	◎	○	○
	21			5歳ころ	67～69	・5歳ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能について理解する。(b) ・全身運動について理解する。(c) ・手指の操作について理解する。(d) ・言語・認識について理解する。(e) ・自我・社会性について理解する。(f)	(a)から(e)についてグループで話し合いグループごとに発表させる。 (f)について講義し、感想を教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	○	◎	○
	22				74～76	5歳児の保育のポイントについて理解する。	調べ学習をさせ、MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布し共有させる。担当教諭が教科書をもとに講義する。	◎	○	○
	23			6歳ころ	77～79	・6歳ころの発達の様子について理解する。(a) ・生理的機能について理解する。(b) ・全身運動について理解する。(c) ・手指の操作について理解する。(d) ・言語・認識について理解する。(e) ・自我・社会性について理解する。(f)	(a)から(e)についてグループで話し合いグループごとに発表させる。 (f)について講義し、感想を教科担当がGoogleClassroomに配布した資料に提出させる。	○	○	◎
	24				80～86	6歳児の保育のポイントについて理解する。	調べ学習をさせ、MetaMoJi上で生徒が書き込めるような課題を教科担当が配布し共有させる。担当教諭が教科書をもとに講義する。	○	○	◎
	25	6	12	発達に合わせた活動	61 30 39 40	・はさみを使った製作について理解する。 ・はさみ練習を取り入れた製作活動について理解する。 ・作品見本を作成する。	・はさみを幼児に使わせる意味についてグループで考えさせグループごとに発表させる。 ・担当教諭がはさみ指導について講義し、練習方法や制作活動について教える。 ・折り紙や画用紙を使ってはさみの使い方教え方を考える。作品を作り作品の写真を教科担当がクラスルームに配布した資料に提出させる。	○	○	◎
	26					・乳児期の発達に応じた遊びを理解し実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	乳児期の子どもたちが出来る遊びでどんなものがあるか、また各種の遊びが子どもたちのどのような体験、学びに繋がるか投げかけながら進めていく。 （感触遊び、絵を描く、作品作り、モビール等） 実際に各キャンパスで用意出来るもので体験する。 ・スライム製作遊び ・小麦粉粘土遊び ・シール貼り ・指スタンプ製作（絵具） ・モビール製作　等 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実	○	○	◎
	27					・乳児期の発達に応じた遊びを理解し実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	乳児期の子どもたちが出来る遊びでどんなものがあるか、また各種の遊びが子どもたちのどのような体験、学びに繋がるか投げかけながら進めていく。 （感触遊び、絵を描く、作品作り、モビール等） 実際に各キャンパスで用意出来るもので体験する。 ・スライム製作遊び ・小麦粉粘土遊び ・シール貼り ・指スタンプ製作（絵具） ・モビール製作　等 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えてい	○	○	◎
	28	－	－	0歳～6歳保育室環境	87～94	・0～2歳児保育室環境について理解する。 ・3～5歳児保育室環境について理解する。	担当教諭の経験をもとに保育室の様子を講義し、気を付けている部分や掃除の方法なども詳しく伝える。	◎	○	○
	29	－	－			保育環境や保育観を今まで学んだことを踏まえ表現する。	『自身が理想とする保育室』をイラストや図にまとめグループで共有する。 MetaMoJiclessroomにて作成・発表する。	○	◎	○
	30	－	－	テスト対策	－	レポート復習プリント実施・解説 テスト対策	復習プリントの項目において重要箇所を説明し、各問題においてつまずきそうな部分を重点的に解説する。 実際に生徒に問題を解かせる時間に机間巡視を行い個々での質問に回答していく。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	スイーツⅠA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	ケーキに使用する材料や製法を知り、お菓子の基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	お菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。 実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1			オリエンテーション		・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・自分が知っているお菓子についてPadletを使用し、共有。世界には沢山のお菓子があるということを知る。	－	－	－
	2	1	5	お菓子作りの道具	12～21	・お菓子作りに使用する、道具の名称と使い方について理解する。	・道具は実際に見せながら説明する。	◎		
	3	1	5	お菓子作りの下準備	22～28	・お菓子作りにおける、計量の重要性について理解する。 ・様々な計量の仕方について理解する。 ・オーブンの扱い方について理解する。 ・お菓子作りに使う型について理解する。	・軽量については、実演もしくは動画での説明を交える。 ・型は実際に見せながら説明する。	◎		
	4	2	6	ふるう	30～31	・お菓子作りの基本動作である、「ふるう」について理解する。	・基本動作は実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	5	2	6	混ぜる	32～33	・お菓子作りの基本動作である、「混ぜる」について理解する。	・基本動作は実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	6	2	6	泡立てる	34～35	・お菓子作りの基本動作である、「泡立てる」について理解する。	・基本動作は実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	7	2	6	ぬる	36～37	・お菓子作りの基本動作である、「ぬる」について理解する。	・基本動作は実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	8	2	6	のばす	40～41	・お菓子作りの基本動作である、「のばす」について理解する。	・基本動作は実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	9	5	7	実習		◆2～8回目で学んだことの実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ	**※レポートは、13・14週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** **【レポート】** **課題1（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。** **①必要な材料、物品等を書き出そう** **②作り方のポイントをまとめましょう** **③（実習後）良かった点をまとめましょう** **④反省点と改善策をまとめましょう** **⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）** **【実習の内容（案）】** **・スポンジケーキ** **・パウンドケーキ** **・シフォンケーキ** **※実習室がS校ではない場合※** **・スポンジを事前に購入しクリームを塗る** **・パウンドケーキ**			◎
	10	5	7	実習		◆2～8回目で学んだことの実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ					◎
	11	－	－	デザイン案・レシピ作成①		◆13～14回目の実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、レシピ考案からデザインまで共同で作業で進める。		◎	○
	12	－	－	デザイン案・レシピ作成②		◆13～14回目の実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		◎	○
	13	5	7	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ	**※レポートは、9・10週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** **【レポート】** **課題1（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。** **①必要な材料、物品等を書き出そう** **②作り方のポイントをまとめましょう** **③（実習後）良かった点をまとめましょう** **④反省点と改善策をまとめましょう** **⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）** **【実習の内容（案）】** **・スポンジケーキ** **・パウンドケーキ** **・シフォンケーキ** **※実習室がS校ではない場合※** **・スポンジを事前に購入しクリームを塗る** **・パウンドケーキ**			◎
	14	5	7	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。 ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ					◎
	15	－	－	実習振り返り 前期まとめ		・2回の実習について振り返り、良かった点と課題を整理し、後期に繋げる。	・Googleスライドを使用し、発表を実施		○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	世界のお菓子	2～5	・普段何気なく食べているお菓子の発祥地を知る。	・Padletを使用し、世界の知っているお菓子の名前を入力し、共有する ・実際にお菓子を見る、食すなどの体験を入れる。	◎		
	17	3	10	生地の種類	50～70	・お菓子の土台となる、生地の種類について理解する。	・動画を視聴しながら説明をする。	◎		
	18	－	－	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、生地の違いについて理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ	【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ			◎
	19	－	－	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、生地の違いについて理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ				◎
	20	4	11	牛乳・生クリーム	140～143	・牛乳と生クリームの違いについて理解する。 ・生クリームの種類について理解する。 ・牛乳の効果について理解する。	・牛乳と生クリームの違いについてPadleを使用し、自分の考えを共有 ・生クリームの種類については、可能な範囲で実演をしながら生徒に体験活動をさせる。体験が難しい場合には、動画を視聴しながら説明する。	◎		
	21	4	11	ケーキのデコレーション〔基本の組み立て方〕	82～85	・ケーキのデコレーションの手法について理解する。	・実演もしくは動画を交えながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	22	4	11	ケーキのデコレーション〔クリームのぬり方・絞り方〕	86～87	・クリームのぬり方について理解する。 ・クリームの絞り方について理解する。	・実演もしくは動画を交えながら説明する。 ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。	◎		
	23	4	11	お気に入りのデコレーションケーキについて考える	－	◆第4回レポート2.(6)を調べ学習として実施する。 ・個人ワーク ・グループ発表 ・全体共有	・グループを作り、デコレーションを考案する。全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。			◎
	24	6	12	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、ショートケーキの組み立て方について理解を深める。 ・実習を通して、クリームの塗り方について理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ	**※レポートは、28・29週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** **【レポート】** **課題1（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。** **①必要な材料、物品等を書き出そう** **②作り方のポイントをまとめましょう** **③（実習後）良かった点をまとめましょう** **④反省点と改善策をまとめましょう** **⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）** **【実習の内容（案）】** **・スポンジケーキ** **・パウンドケーキ** **・シフォンケーキ** **※実習室がS校ではない場合※** **・スポンジを事前に購入しクリームを塗る** **・パウンドケーキ**			◎
	25	6	12	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、クリームの絞り方について理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ				◎
	26	－	－	デザイン案・レシピ作成①	－	・前期の振り返りを踏まえ、デザイン案・レシピを作成する。 ・ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて再確認する。	・グループで実施し、全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、共同編集で準備をする		○	◎
	27	－	－	デザイン案・レシピ作成②	－	・前期の振り返りを踏まえ、デザイン案・レシピを作成する。 ・ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて再確認する。	・グループで実施し、全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、共同編集で準備をする		○	◎
	28	6	12	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、ケーキのデコレーション方法への理解をさらに深める。 ・実習を通して、クリームのぬり方についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ	**※レポートは、24・25週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** **課題1（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。** **①必要な材料、物品等を書き出そう** **②作り方のポイントをまとめましょう** **③（実習後）良かった点をまとめましょう** **④反省点と改善策をまとめましょう** **⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）** **【実習の内容（案）】** **・スポンジケーキ** **・パウンドケーキ** **・シフォンケーキ** **※実習室がS校ではない場合※** **・スポンジを事前に購入しクリームを塗る** **・パウンドケーキ**			◎
	29	6	12	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、クリームの絞り方についての理解をさらに深める。 ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ				◎
	30	－	－	実習振り返り 後期まとめ	－	・3回の実習について振り返り、良かった点と課題を整理し、今後に繋げる。	・Googleスライドを使用し、発表を実施		○	◎
備　考		・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。								

《通信教育実施計画》

科目名	スイーツＩＢ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	焼き菓子に使用する材料や製法を知ると共に、ラッピングの方法についても学ぶ。						
学習の到達目標	焼き菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。 実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1			オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・自分が知っているクッキーの種類について、Padletを使用して共有する	－	－	－
	2	1	5	型抜きクッキー生地	71	・型抜きクッキー生地に必要な材料について理解する。 ・型抜きクッキー生地の作り方について理解する。	・実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・メンチメーターを使用し、自分が知るクッキーについて入力し、共有しあう ・可能な範囲で生徒にも体験をさせる。 ・どんな材料が必要になるかを考えさせる。グループワークなどを取り入れ、Googleスライドで共同編集し、発表する	◎		
	3			アイスボックスクッキー生地	72	・アイスボックスクッキー生地に必要な材料について理解する。 ・アイスボックスクッキー生地の作り方について理解する。		◎		
	4			絞り出しクッキー生地	73	・絞り出しクッキー生地に必要な材料について理解する。 ・絞り出しクッキー生地の作り方について理解する。		◎		
	5	5	7	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、クッキーの作り方への理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング	**※レポートは、12・13週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** 【レポート】 課題１（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点） 【実習の内容（案）】 ・クッキー ・カップケーキ ・マドレーヌ ・フィナンシェ ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー ・カップケーキ ・ラッピング			◎
	6			実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、クッキーの作り方への理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング				◎
	7	1	5	バター	144～147	・バターの基本について理解する。 ・バターの形状変化について理解する。 ・お菓子作りに使う油脂について理解する。	・実物を見せたり、動画を視聴したりしながら説明する。	◎		
	8	2	6	小麦粉１	128～131	・小麦粉の性質について理解する。 ・小麦粉の種類について理解する。 ・糊化についてい理解する。	・実物を見せたり、動画を視聴したりしながら説明する。	◎		
	9			小麦粉２	128～131	・グルテンについて理解する。 ・グルテンの働きについて理解する。	・動画を視聴しながら説明する。	◎		
	10	－	－	デザイン案・レシピ作成１	－	◆実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・焼き菓子のデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・焼き菓子作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、共同で編集し作業を進める		○	◎
	11	－	－	デザイン案・レシピ作成２	－	◆実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・焼き菓子のデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・焼き菓子作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、共同で編集し作業を進める		○	◎
	12	5	7	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、小麦粉の性質についての理解をさらに深める。 ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※・クッキー・カップケーキ・ラッピング	**※レポートは、5・6週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** 【レポート】 課題１（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点） 【実習の内容（案）】 ・クッキー ・カップケーキ ・マドレーヌ ・フィナンシェ ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー ・カップケーキ ・ラッピング			◎
	13			実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、焼き菓子の作り方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、バターの性質についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※・クッキー・カップケーキ・ラッピング				◎
	14	－	－	実習振り返り	－	・前期の実習について振り返り、グループで良かった点と課題を整理する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用し、共同で編集し作業を進める		○	◎
	15	－	－	実習振り返り発表 前期まとめ	－	・グループでまとめた振り返りを発表することで、クラス全体の理解度を深める。	・Googleスライドを使用し、全体に向けて発表する。		○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3	10	砂糖	132～135	・砂糖の種類について理解する。 ・砂糖の特徴について理解する。 ・砂糖の効果について理解する。 ・砂糖の分量について理解する。 ・砂糖のはたらきについて理解する。 ・砂糖の吸湿性について理解する。	・砂糖についてグループで調べ学習を行い、Googleスライドを活用し全体で共有する。 ・動画を視聴しながら説明する。	◎		
	17	4	11	卵	136～139	・卵の基本について理解する。 ・卵の効果について理解する。 ・卵白の特性について理解する。 ・卵黄の特性について理解する。	・卵についてグループで調べ学習を行い、Googleスライドを活用し全体で共有する。 ・動画を視聴しながら説明する。全体で共有する。	◎		
	18	－	－	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、焼き菓子の作り方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、砂糖の性質についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング	【実習の内容（案）】 ・クッキー ・カップケーキ ・マドレーヌ ・フィナンシェ ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー ・カップケーキ			◎
	19	－	－	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、卵の性質についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング				◎
	20	4	11	ラッピング	118～126	・ラッピングの手法について理解する。	・実演もしくは動画を視聴しながら説明する。 ・基本動作の体験をさせ、次週からのオリジナルラッピング製作に繋げる。	◎		
	21			ラッピングデザイン①	－	・第4回レポート2.(5)の設問の通り、お気に入りのラッピングについて考える。 ・オリジナルラッピングのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		○	◎
	22	－	－	ラッピングデザイン②	－	・オリジナルラッピングのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・グループ発表 ・全体発表	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		○	◎
	23	6	12	ラッピング実習①	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、ラッピングの理解をさらに深める。	**※レポートは、27・28週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** 【レポート】 課題１（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点） 【実習の内容（案）】 ・クッキー ・カップケーキ ・マドレーヌ ・フィナンシェ ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー ・カップケーキ ・ラッピング			◎
	24			ラッピング実習②	－	◆実践（２コマ連続が望ましい） ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。				◎
	25	－	－	デザイン案・レシピ作成①	－	◆実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・焼き菓子のデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・焼き菓子作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		○	◎
	26	－	－	デザイン案・レシピ作成②	－	◆実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ・焼き菓子のデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ・チームで１つのものを作り上げる楽しさを知る。 ・焼き菓子作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		○	◎
	27	6	12	実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、焼き菓子の作り方への理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング	**※レポートは、23・24週目でも可** **※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。** 【レポート】 課題１（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点） 【実習の内容（案）】 ・クッキー ・カップケーキ ・マドレーヌ ・フィナンシェ ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー ・カップケーキ ・ラッピング			◎
	28			実習	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング				◎
	29	－	－	実習振り返り	－	・後期の実習について振り返り、グループで良かった点と課題を整理する。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。 反省点を踏まえ、改善策も付け加えたうえでスライドを作成する。		◎	○
	30	－	－	実習振り返り発表 後期まとめ	－	・グループでまとめた振り返りを発表することで、クラス全体の理解度を深める。	・全体で発表できるよう、Googleスライドを活用する。		○	◎
備　考		・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。								

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究①	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	探究学習のプロセスや手法を理解する。						
	簡単な探究に取り組み、主に情報収集とまとめ・表現を体験する。						
使用教科書・副教材等	リクルート「興味研究型　探究講座」「課題発見型　探究講座」						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・3年間の学習の見通しを持たせる。 ・次回以降の総合探究の授業において、MetaMoJiなどICTの活用ができるように、オリエンテーションで確認を行う。	－	－	－
	2	1	－	・「自分らしい問い」の意義 ・「問いをつくる」体験をする ・「自分らしい問い」の見つけ方	－	・「自分らしい問い」をもつことが、生きていく上や、仕事する上で、楽しさややりがいに繋がることを学び、理解する。 ・事例から「問いをつくる」体験をし、問いをつくる考え方のヒントを学び、理解する。 ・「自分らしい問い」は、自分が好きなものから考えることもできるということを、事例をもとに学び、理解する。 ・「自分らしい問い」を実際につくり、他者と共有することで、様々な視点から考えられるということに、気づき、学習する。	レポートの他に、付属のワークシートを使用し、自己理解を深める時間を設定し、自分らしい問いを見つけられるようにすると良い。	◎	○	○
	3		－					◎	○	○
	4	2	－	・「課題を発見する力」について ・「課題を発見する」体験をする ・探究活動について理解する	－	・「課題」とは何かを学び、理解する。 ・「課題を発見する」体験をし、課題を発見する考え方のヒントを学び、理解する。 ・これからの社会を生きていく上で「課題を発見する力」の重要性を学び、理解する。 ・様々な視点で物事を考えることや、多くの体験や経験が。、全て課題の発見に繋がっているということ理解する。 ・「『課題』を動かす＝探究」であり、探究活動（探究サイクル）のポイントを理解する。	・レポートの他に、付属のワークシートに取り組み、課題の見つけ方を実践的に学べるようにすると良い。 ・グループで取り組み、想像力を養わせる。	◎	○	○
	5		－					◎	○	○
	6		－					○	○	◎
	7		－					○	○	◎
	8		－					○	○	◎
	9		－					○	○	◎
	10		－					○	○	◎
	11		－					○	○	◎
	12		－					○	○	◎
	13		－					○	○	◎
	14		－					○	○	◎
	15		－					○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	3・4	－	・簡単な探究の実践 ・その他探究につながる学習	－	・2～5コマ目で学習したことを踏まえて簡単な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・主に情報収集とまとめ・表現を体験し、調べたことを自分なりに整理し、アウトプットする力を身につける。 ・参考文献の書き方など、情報を収集する際のスキルを身につける。 ・探究につながるあらゆる学習に取り組み、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。 《探究テーマ例》 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在住・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い　等	・ICTや図書、インタビューなど様々な手法を活用し、情報収集を行わせる。 ・情報収集やまとめ方について、様々な手法を紹介し、挑戦させ、課題設定からまとめまでの一連の探究活動を習慣化させる。	○	○	◎
	17		－					○	○	◎
	18		－					○	○	◎
	19		－					○	○	◎
	20		－					○	○	◎
	21		－					○	○	◎
	22		－					○	○	◎
	23		－					○	○	◎
	24		－					○	○	◎
	25		－					○	○	◎
	26		－					○	○	◎
	27		－					○	○	◎
	28		－					○	○	◎
	29		－					○	○	◎
	30		－					○	○	◎

備　考	・各キャンパスの状況に応じて、2～5コマ目の内容を実施するタイミング（週）は調整して良い。 ・6コマ目以降の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。 ※年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究②	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	課題を見つける視点を持つ。						
	他者との共有に挑戦する。						
使用教科書・副教材等	飛鳥未来・飛鳥未来きずな・飛鳥未来きぼう高等学校 オリジナル教材						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・総合探究①の振り返りを行い、課題設定からまとめまでの探究の流れについて改めて理解させる。 ・残り2年間の学習の見通しを持たせる。	－	－	－
	2	1	－	探究課題の設定	－	・探究課題を見つけるためのポイントや考え方を学び、探究課題を考える。 ・与えられたテーマに基づき、探究課題を設定した理由について考え、自分の言葉で表現する。	個人で課題設定ができるように、全体指導と合わせて、つまずきそうな生徒に対しては、机間指導中に、「自分の興味があることや、疑問に思ったことはなにか？」、「仮にどんな姿が理想と考えるのか」、「考えてみたいことは何か」など教員から個別に声をかける。	◎	◎	○
	3	2	－	・探究課題の共有 ・情報収集	－	・情報収集の目的や手段、ポイントについて学び、理解する。 ・設定した探究課題に基づき、ポイントを押さえながら情報収集を実践する。	ICTや本などを活用し、正確な情報収集を行うことができるように促す。情報収集の方法は１つではないということをしっかりと理解させる。	◎	○	◎
	4	3	－	・情報収集結果の共有 ・整理・分析	－	・整理・分析の方法や、ポイントについて学び、理解する。 ・収集した情報を整理・分析し、そこから自分なりの考察を導き出す。	・つまずいている生徒に対しては、「時系列ごとにまとめてみよう」や、「同じような内容は１つにまとめよう」などの声掛けを行い、情報の整理方法について具体的に示す。 ・今後探究活動や進路活動において情報収集を行う際も、生徒が自分の力で効果的に整理できるようにする。	◎	◎	○
	5	4	－	・これまでの成果の共有 ・探究のまとめ ・共有・発表	－	・様々なまとめ方や表現方法について学び、理解する。 ・発表の素案をつくり、探究活動のまとめを行う。 ・探究活動全体を通しての学びや変化を振り返り、今後探究したい新たな問いや課題を見出す。 ・実際に発表の準備を行い、お互いに発表し合い、他者からのフィードバックを受け、新たな気づきを得る。	仮に今回の発表方法の指定があったとしても、様々な発表方法があるということを学ばせ、理解させる。できるだけ多くの生徒の発表を見聞きさせ、気づきを与えられるよう、時間配分や発表環境に配慮する。	◎	○	◎
	6	－	－					○	○	◎
	7	－	－					○	○	◎
	8	－	－					○	○	◎
	9	－	－					○	○	◎
	10	－	－					○	○	◎
	11	－	－					○	○	◎
	12	－	－					○	○	◎
	13	－	－					○	○	◎
	14	－	－					○	○	◎
	15	－	－					○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	16	－	－	・探究プロセスの実践 ・その他探究につながる学習	－	・2～5コマ目で学習したことを踏まえて探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・自らの興味・関心に基づき自分で問いを立てるところから本格的に探究のサイクルを一周回し、他者との共有にも挑戦する。 ・他者との共有や発表を実践することで、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究につながるあらゆる学習に取り組み、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。 《探究テーマ例》 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在住・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い　等	探究のサイクルに慣れたら、グループ活動も実践させてみると良い。	○	○	◎
	17	－	－					○	○	◎
	18	－	－					○	○	◎
	19	－	－					○	○	◎
	20	－	－					○	○	◎
	21	－	－					○	○	◎
	22	－	－					○	○	◎
	23	－	－					○	○	◎
	24	－	－					○	○	◎
	25	－	－					○	○	◎
	26	－	－					○	○	◎
	27	－	－					○	○	◎
	28	－	－					○	○	◎
	29	－	－					○	○	◎
	30	－	－					○	○	◎

備　考	・各キャンパスの状況に応じて、2～5コマ目の内容を実施するタイミング（週）は調整したり、各フェーズに時間をかけて6コマ以上で実施をしても良い。 ・6コマ目以降の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。 ※年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究③	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組む。						
	主体的に探究のプロセスを実践する。						
	探究の最後にプレゼンテーションに挑戦する。						
使用教科書・副教材等	各種提携プログラム もしくは 各校オリジナルプログラム より選択						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	・これまでの探究活動を振り返る。 ・残り1年間の学習の見通しを持てるようにする。	－	－	－
	2	－	－	・探究の意義について ・プログラムゴールの理解 ・テーマ理解 ・探究課題検討（個人で実施） ・アイスブレイク	－	・探究の意義について改めて理解する。 ・使用するプログラムのゴールについて理解する。 ・扱うテーマに関する知識や基本的な情報をインプットし、探究するにあたって理解を深める。 ・グループの活動に入る前に、個人での探究課題を検討する。 ・グループでの探究活動に向け、グループを編成し、アイスブレイクを実施してグループでの探究がしやすい雰囲気づくりをする。	アイスブレイクの際は、時間配分を意識し、話しやすい雰囲気づくりを意識する。 探究の課題を設定する際、扱う大テーマに関して理解を深めた上で、まずは、個人が興味や関心、疑問に思ったことを言語化し、課題の検討をする。	◎	○	
	3	－	－	・個人で検討した探究課題の共有 ・グループの探究課題設定 ・情報収集準備 ・情報収集	－	・個人で検討した探究課題を共有し、グループでの探究課題を設定する。 ・探究するために不足している情報や必要な情報をグループで洗い出し、情報収集の準備をする（インタビュー準備含む）。 ・適宜グループ内で共有しながら情報収集を行い、探究に必要な情報を蓄積する。	ICTや本などを活用し、正確な情報収集を行えるように注意する。	○	○	◎
	4	－	－	・インタビューの動機づけ ・インタビュー	－	・インタビューを実施する意義について学び、理解する。 ・テーマ関係者に実際にインタビューを実施し、さらに深い情報を収集する。	・ICTを活用しインタビューを行う際は、MetaMojiの付箋機能を活用し得た情報のグループ分けを行ったり、Canvaのホワイトボード機能を活用し、同時に同シートにメモを行ったりしながら、グループで役割を決め、インタビュー内容のメモをしっかり残せるようにする。 ・インタビューの終わりには、相手へ感謝の気持ちしっかり伝える。	○	○	◎
	5	－	－	・情報の整理・分析・まとめ ・考察や提案の検討 ・グループ発表 ・探究活動全体のまとめ	－	・情報収集やインタビューで得た情報を元に、グループで整理・分析を実施し、考察や提案を検討する準備をする。 ・整理・分析した情報を元にグループなりの考察・提案を検討する。 ・設定した探究課題・得られた情報・情報からの考察や結論（解決策や提案）を簡潔にグループごとに発表をする。 ・お互いのグループの発表を聞き、感じたことや学んだことを記する。 ・適宜フィードバックや質疑応答等を実施し、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究活動の各フェーズにおいて重要だと感じたことや意識したこと、活動全体を通して学んだことや感じたことについて、自分の言葉でアウトプットする。	正解のない問いに対して取り組む楽しさを感じられるような声掛けでまとめを行う。	○	○	◎
	6	－	－					○	○	◎
	7	－	－					○	○	◎
	8	－	－					○	○	◎
	9	－	－					○	○	◎
	10	－	－					○	○	◎
	11	－	－					○	○	◎
	12	－	－					○	○	◎
	13	－	－					○	○	◎
	14	－	－					○	○	◎
	15	－	－					○	○	◎
	16	－	－					○	○	◎

面接指導実施日		レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
学期	週							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	17	－	－	・学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究プロセスの実践 ・その他探究につながる学習	－	・2～5コマ目で学習したことを踏まえて繰り返し学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・プレゼンテーションにも挑戦し、他者との共有を通して、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究につながるあらゆる学習に取り組み、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。 《探究テーマ例》 ・地方創生関連 ・国際理解関連 ・企業課題解決 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在住・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い　等	グループでいくつかの課題に取り組む際は、なるべく色々な人とグループを組めるように工夫し、様々な視点から学びを深められるように配慮する。	○	○	◎
	18	－	－					○	○	◎
	19	－	－					○	○	◎
	20	－	－					○	○	◎
	21	－	－					○	○	◎
	22	－	－					○	○	◎
	23	－	－					○	○	◎
	24	－	－					○	○	◎
	25	－	－					○	○	◎
	26	－	－					○	○	◎
	27	－	－					○	○	◎
	28	－	－					○	○	◎
	29	－	－					○	○	◎
	30	－	－					○	○	◎

備　考	・探究プログラムの選択は各キャンパスにて行う（選択するプログラムによってレポートの形式が異なるため、選択したプログラムに即したレポートに取り組む）。 ・各キャンパスの状況に応じて、2～5コマ目の内容を実施するタイミング（週）は調整したり、各フェーズに時間をかけて6コマ以上で実施をしても良い。 ※年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

通信教育実施計画

ベーシックスタイル・スタンダードスタイル・ネットスタイル

※キャンパスごとに開講科目が異なります。詳細は各キャンパスにお問い合わせください。

学校法人 三幸学園
飛鳥未来高等学校

《通信教育実施計画》

科目名	現代の国語	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を用いて、実社会における国語によるあらゆる活動に必要な資質・能力を身につけることを目標とする。言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、日本の言語文化に関する事項を話す・聞く、書く、読むといった言語活動を通して学ぶ。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1．実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 2．論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3．言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編現代の国語」（現国701）						
評価方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						
単位認定方法							

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	・こそそめスープ ・ルリボシカミキリの青	6～16	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 ・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・漢字の読み書き、語句・語彙の意味を調べる際の辞書の活用方法を確認する。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・指示語の役割・読み取り方について確認する。（レポート第1回目一〔三〕）	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	・未来をつくる想像力 ・水の東西	24～38	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・鹿おどしや日本文化についてなどインターネットを活用し、調べる活動を行ってもよい。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・接続語の役割、読み取り方について確認する。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	・スキマが育む都市と生命のつながり ・無彩の色	68～86	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 ・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・接続語の役割、読み取り方について確認する。 ・「色」について自分自身の好きな色・嫌いな色と理由を発表する機会を設ける。 発言しやすいようにPadletを用いた匿名の投稿でも良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	・鍋洗いの日々 ・森で染める人 ・真夏のひしこ漁	94～121	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 ・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。	・レポート内の慣用句「場数を踏む」「息をのむ」といった文章を作らせ、全体に共有する活動を行う。（※匿名での共有も可とする。） ・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	・美しさの発見 ・りんごのほっぺ	142～158	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・季語・季節の知識について確認する。（レポート第5回目一〔一〕） ・戦時下の人々の状況について理解を深めるため、調べてまとめるとよい。（Google Classroomの活用も可） ・レポート第5回目四〔一〕や〔四〕の問題を題材にGoogle classroom等で意見を共有する。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	・不思議な拍手 ・真の自立とは	166～187	・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。 ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はGoogleフォームなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・レポートの第6回目四〔三〕〔四〕の問題を題材に意見を共有するとよい。（Google Classroomの活用も可）	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	言語文化	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	昔から近現代に受け継がれてきたわが国の言語文化への理解を深めることを目標とする。古典だけでなく、日本の伝統と文化や古典に関する近代以降の文章などを扱い、日本の言語文化への理解を深めていく。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編言語文化」（言文701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	読む さくらさくらさくら 読む とんかつ	10～15 24～35	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 ・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有するとよい。 ・言語活動においては古語辞典や国語辞典アプリを活用するとよい。 ・作者については教科書デジタルコンテンツがDマイスター内にあるため適時、活用するとよい。 ・「桜」についてどのように感じているかを各自で考え、グループ内で共有してもよい。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	読む 柳あをめる【短歌】 読む 雪の深さを【俳句】 読む 冬が来た	50～53 54～57 58～59	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 ・比喩とリフレーンの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 ・筆者自作の短歌三首について、それぞれの歌の内容と詠まれた心情を考え、鑑賞文を共有するとよい。（Google Classroom等活用） ・言語活動においては古語辞典や国語辞典アプリを活用するとよい。 ・五・七・五の定型・季語・切れ（切れ字）・取り合わせなど俳句の基礎知識、概念を確認する。 ・短歌や俳句の読解・鑑賞をして共有し合う際にGoogle classroomを活用してもよい。（レポート第2回目一〔五〕・〔六〕）	○	○	◎
3	前期：6月 後期：11月	読む 羅生門 読む 夢十夜	72～92 94～106	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。	・時代背景や作者に関する補足資料などはGoogle Classroomで共有するとよい。 ・『羅生門』を取り上げる場合、「下人の行方は、誰も知らない。」という終わりを踏まえて、「下人」がこの後、どうなったのかを想像し、話し合う。（Google Classroom等で共有してもよい。）	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	徒然草 枕草子 折々のうた	138～145 146～147 154～163	・歴史的仮名遣いについて理解し、歴史的仮名遣いで書かれた文章を読むことができる。 ・文語の品詞について理解し、文節ごとに区切り品詞を教科書を見ながら識別ができる。古語辞典を引くことができる。 ・文語の活用について理解し、品詞・活用の種類を教科書を見ながら識別ができる。 ・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有するとよい。 ・関連するデジタルコンテンツがDマイスター内に用意されているので、適宜利用するとよい。 ・歴史的仮名遣いについて、文語の品詞、品詞の活用の種類などは早見表や資料をGoogle Classroomで共有するとよい。 ・教科書P124～P136古文学習のしるべ1（古文の言葉と仮名遣い）、古文学習のしるべ2（古語を調べるために）、古文学習のしるべ3（用言の活用／係り結び／仮定条件と確定条件）、教科書P154～P168 古文学習のしるべ5（和歌）を有効に活用するとよい。	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	伊勢物語 平家物語 奥の細道	170～177 179～188 190～195	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・軍記物語特有の表現に注意しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 ・構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	・各作品と作者について、概略、現代語訳などをまとめたものをGoogle Classroomで共有すると良い。 ・様々な日本の歌の中から、後世に伝えたいと思う作品を1つ選び、紹介文を書いてみる。（グループ内で共有してもよい）	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	読む 訓読の基本 読む 故事成語－三編〔言語〕 読む 絶句と律詩－七首【春望】 読む 論語－八章	210～219 220～226 228～233 238～246	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 ・漢詩の詩形ときまりを理解し、漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有するとよい。 ・関連するデジタルコンテンツがDマイスター内に用意されているので、適宜利用するとよい。 ・漢和辞典を用いて漢字の読みと意味を調べる。（漢和辞典または漢和辞典アプリを用いる） ・訓点に従って正確に読み、それぞれの故事成語の意味を確認する。「五十歩百歩」「虎の威を借る（狐）」という故事成語を用いた短文を作成し、共有する。（Google classroomを活用してもよい）（レポート第6回目四〔一〕〔二〕）	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	文学国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を伸ばす科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を養う。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2　深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「文学国語」（文国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	・光の窓 ・雨月物語	8～14 15～18	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・自分の好きな絵を選び、その絵の魅力を自分自身の感覚と関連付けながら他者に向けて発表する。 ・「物語」に対する自分の考えをまとめ、他者と共有する。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	・窓 ・言葉を生きる	34～38 44～49	・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・自分自身の記憶の風景を思い出し、文章を書く。 ・「悲しみの経験」について筆者の捉え方を理解し、グループで話し合う。	○	◎	○
3	前期：5月 後期：10月	・山椒魚 ・沖縄の手記から	58～70 71～91	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・この作品に込められた寓意について考え、他者と意見交換をしながら、理解を深める。 ・感想を交換し、主題について話し合いを行い、考えを深める。	○	◎	○
4	前期：5月 後期：10月	・永訣の朝 ・硝子の駒 ・モードの変遷	98～103 104～107 108～113	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・妹の詩を扱った他の作品と読み比べたり、妹の死を境として、その体験以前と以後の作品を読み比べたりする。 ・レポートに出題されている短歌を一首ずつ、それぞれの歌の表現に着目し、リズムを味わいながら音読する。 ・「モードの変遷」において、筆者が、近代以降に関して、短歌のモードはどのような変化をしてきたと捉えているかを読み取る。	◎	○	○
5	前期：6月 後期：11月	こころ	116～148	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・この小説の主題（例えばエゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。	○	◎	○
6	前期：6月 後期：11月	・文学のふるさと ・文学の未来 ・鞄	150～160 161～170 172～179	・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。 ・寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・「文学のふるさと」において、具体例の三作品（赤頭巾、狂言、伊勢物語）とそこから導かれている筆者の考えを読み取る。 ・「文学の未来」において文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取る。 ・鞄の象徴するものを手がかりに、作品の主題について考える。	◎	○	○
7	前期：6月 後期：11月	・国語から旅立って ・棒縞	190～198 206～216	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「棒縞」の持つ意味について考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・筆者が「国語から旅立って」というタイトルを付けた理由を考えまとめ、近くの人と考えを共有する。 ・作中の棒縞の役割（の変化）を捉える。	○	◎	○
8	前期：6月 後期：11月	・コンビニの母 ・小諸なる古城のほとり	217～222 230～231	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・年齢や立場の違うさまざまな状況にある人々を想定し、「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めるか考えをまとめ、グループで話し合う。（ペアでも可） ・文語の響きや五七調のリズムに注意しながら音読し、この詩の形式や表現の特徴をまとめる。	○	○	◎
9	前期：7月 後期：12月	・空っぽの瓶 ・クレールという女	248～254 255～264	・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・長い時間をかけて深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・人称について筆者の考えをもとに、言葉と存在の関わりについて、自分の考えをまとめ、他者と共有する。 ・筆者の『人間のしるし』についての考えから、人間の生き方について自分の考えをまとめ、共有する。	○	◎	○
10	前期：7月 後期：12月	舞姫	292～264	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。 ・作者や作品が発表された時代について確認する。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・太田豊太郎の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。	○	◎	○
11	前期：7月 後期：12月	演技する「私」	330～334	・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・取り上げられている作品と作者について、確認する。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・本文の内容を踏まえて、これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて「私」と「作者その人」の関係を考え、文章にまとめる。	○	◎	○
12	前期：7月 後期：12月	・葉桜と魔笛 ・蠅	348～361 362～371	・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。	・重要な点は資料にまとめて事前にClassroomに共有しておくと良い。 ・漢字の読み書き、語句、語彙の意味を調べる際は辞書の活用方法やタブレットでの検索方法などを確認する。国語辞典アプリを事前ダウンロードさせる。 ・グループ内で意見交換・感想共有の際はgoogle formやMetamoJi,googleスライドなどを用いて実施し、匿名で実施しても構わない。 ・登場人物である「私」、妹、父の三者が、「魔笛」を巡ってそれぞれのような思いを抱いたかについて考える。 ・馬車が転落し、「蠅」が飛び去る結末から読み取れることを考える。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	論理国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるため、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる力を養う。						
学習の到達目標	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編論理国語」（論国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	対話とは何か 世界を作り替えるために	8～22	・対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ・学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	・普段の生活の中でどんなときに「おしゃべり」をし、どんなときに「対話」をしているかを振り返り、話し合い全体共有するとよい。 ・自分の中にある、学ぶことに関する「種」について、個人で考えグループで話し合い、全体共有するとよい。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	少女たちの「ひろしま」 「ふしぎ」ということ	26～43	・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ・挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。	・筆者の認識の変化が最もよく示されている部分を捉え、MetaMoJiにまとめさせ全体共有してもよい。 ・本文を通読し、子供の頃「ふしぎ」に思ったことについてMetaMoji等にまとめ全体発表してもよい。	○	◎	○
3	前期：5月 後期：10月	学ぶことと人間の知恵 ラップトップを抱えた「石器人」	56～72	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。	・「コンピューター」と「人間」の違いについて、考えたことを話し合い全体共有するとよい。 ・「学ぶことと人間の知恵」と「ラップトップを抱えた『石器人』」を読み比べ、「人間の脳の特性」について自分の知識や体験などと関連づけながら、考えたことを話し合い全体共有するとよい。	◎	○	○
4	前期：5月 後期：10月	思考の肺活量 安心について	76～91	・比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。	・本文の主張について「例示」の役割を持っている段落がどこかをグループで話し合い、MetaMoJi等にまとめ、全体共有できるとよい。 ・子供にとっての「安心」とは何かを各自で考え、グループで話し合い、MetaMoJi等にまとめ、全体共有するとよい。	◎	○	○
5	前期：5月 後期：10月	弱肉強食は自然の摂理か 複数のわたし	102～121	・筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ・文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	・ハフェーカーの実験結果のグラフから、どのようなことが読み取れるか、ペアやグループで話し合うとよい。 「ブタを飼育した女性の労働に目を向けてこなかった」という批判に対して、ストラザーンはどのように反論しているか、「根拠」の接続表現を用いてMetaMoJi等に記載してまとめグループ内共有してもよい。	◎	○	○
6	前期：6月 後期：11月	はじめに「言葉」がある 楽に働くこと、楽しく働くこと	124～137	・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	・読み取ったことを手がかりに、「働くこと」と「言葉」の関わりについて考えたことを話し合い、全体共有するとよい。 ・本文を読んで、「働くよろこび」について考えたことを話し合い、全体共有するとよい。	◎	○	○
7	前期：6月 後期：11月	最初のペンギン 豊かさと生物多様性	168～184	・タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	・本文について、「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考え、まとめ、グループ内で発表できるとよい。 ・現代という時代に、何に価値があると思うか、MetaMoJi等に個人で考えを記載し、グループや全体で共有するとよい。	◎	○	○
8	前期：6月 後期：11月	物語の外から カフェの開店準備	186～199	・二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。	・本文について、「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考え、MetaMoJi等にまとめ全体共有するとよい。 ・日常生活の在り方について考え、四百字程度の文章にまとめる。（MetaMoJi等に記載させると全体共有ができてよい）	○	◎	○
9	前期：6月 後期：11月	鏡としてのアンドロイド ロボットが隣人になるとき	210～227	・アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。	・筆者の考えを参考にしながら、「何かを作ること」とは、どのようなことであると考えられるか話し合い、全体共有するとよい。 ・筆者が考えるような「自分の意志で自由に行動するロボット」が生まれることは望ましいと考えるかどうか、話し合い全体共有できるとよい。	○	○	◎
10	前期：7月 後期：12月	言葉は「ものの名前」ではない 科学的「発見」とは	232～248	・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ・本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。	・日本語と英語の場合について、筆者の考えを表す具体例を本文以外の例で考え、話し合い全体共有するとよい。 ・「要約する力」（P158～161）を参考にしながら、本文の中心的な「問い」と「主張」をMetaMoJi等にまとめる。	◎	○	○
11	前期：7月 後期：12月	知識における作者性と構造性 もう一つの知性	262～279	・インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。	・インターネット上の情報を、他の情報や知識との関係性の中で捉え直すためにはどうすればよいか、具体的な方法を話し合い全体共有するとよい。 ・筆者の提案する「ブリコラージュ」の力知の可能性を、自分たちの生活にどう生かせるか話し合い、全体共有するとよい。	○	◎	○
12	前期：7月 後期：12月	ホンモノのおカネの作り方 未来のありか	282～301	・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。	・経済の仕組みについて他教科で学習したことを整理してまとめ、本文の内容との関連について話し合う。 ・本文の内容を踏まえて、「未来」について考えたことを自由に話し合いまとめ、全体発表するとよい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	地理総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	世界の生活文化の多様性や、自然環境と防災、地域や地球的課題（地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題など）について学ぶ。また地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する情報をまとめて多面的に考察・表現することで、諸課題を主体的に解決しようとする姿勢と、国土に対する愛情、世界の多様な文化を尊重する態度を養う。						
学習の到達目標	①題理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						
	②題理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	③題理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「地理総合」（地総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	第1編第2章 地図や地理情報システムの役割 7　地理情報システムと地図 【地図の可能性は、まだまだ広がる。】	28～31	・地形図から読み取れることについて理解する。 ・地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察する。 ・主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。 ・地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解する。 ・GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考える。	・レポート1回目大問３を題材にして、地形図やWebGISを利用する。教科書P28～31で「今昔マップon the web」「地理院地図」「RESAS」にアクセスをして例題と手順に従って操作をする。例題をワークシートかMetaMojiで作成をして共有してもよい。 ・例題を自分の住んでいる地域に置き換えて設定してもよい。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	9　情報通信の発達 【世界中が、ネットでつながりはしたけれど。】	42～43	・通信情報技術（ICT）の発達について理解する。 ・通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。	・情報通信技術（ICT）の普及状況の推移や地域的な傾向を読み取ったうえで，情報通信技術の普及にともなう利点と課題を考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	22　亜寒帯・寒帯の人々の暮らし 【長い冬を過ごすための食料や、町の工夫とは。】	86～87	・亜寒帯・寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ・亜寒帯・寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	・雨温図を読み取り，気候区ごとの特徴を理解する。 ・ICT機器を用いるなど写真を用いて，自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握する。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	30　化石燃料から再生可能エネルギーへ 【地球を、「電池切れ」にさせないために。】	132～133	・エネルギー資源の種類について理解する。 ・再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。	・ICT機器を用いるなど写真やグラフを用いて，地球社会の持続可能性という観点から望ましいエネルギー政策について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	41　地震災害・津波災害(2) 【くり返す地震を、災害史から学ぶ。】	184～185	・過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解する。 ・ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取る。	・主題図やICT機器を用いるなど写真を用いて，地震や津波の発生頻度とその周期性について考察します。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・地震災害の軽減へ向けた取り組みについて具体例をあげながら考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・自宅もしくは学校周辺地域のハザードマップを用いながら災害時に取るべき避難行動について考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	45　都市と自然災害 【都市を襲う災害、危険はどこにある？】	192～193	・都市型災害にはどのようなものがあるかを理解する。 ・そのうえで，都市型災害の要因・影響を考え，都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考える。	・都市における各種災害の発生要因について，ICT機器を用いるなど写真や地理院地図を用いて多面的に考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・都市における各種災害がもたらす被害の状況について，ICT機器を用いるなど写真や地理院地図を用いて多面的に考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。 ・都市における各種災害がもたらす被害の軽減に向けた対応策について，ハザードマップやICT機器を用いるなど写真を用いて考察する。資料にまとめてClassroomで共有することも可。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	歴史総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	現代の諸課題に関わる近現代の歴史について、世界と日本の相互的な視点から学ぶ。近現代の歴史の変化（歴史的出来事の意味や意義、特色など）や現代とのつながりに注目することで、よりよい社会の実現に向けて課題を解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する感情や、他国・他国の文化を尊重することの大切さについて学ぶ。						
学習の到達目標	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、ICT機器を用いるなど、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新選歴史総合」（歴総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1、2	前期：5月 後期：10月	第1章歴史の扉「歴史と私たち」	7、42～43	・諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	・教科書P7の「写真４枚について気づいたこと」をワークシートに記入する。Metamojiで発表内容を共有してもよい。 ・教科書P7の中学校のふり返りで「学んだことを思い出してみよう」のQRコードを読む。この『Dマーク』を活用していく。Dマークのシュミレーションの中にある問いを元にワークシートを作成して配布してもよいし、Metamojiで共有してもよい。 ・Dマーク P7「時期や年代の表し方」Dマーク P12「資料の種類」Dマーク P16「年表」Dマーク P20「年表」Dマーク P22「問いの立て方のヒント」のいずれかをふれるとよい。 ・Dマーク P22「問いの立て方のヒント」の実践例としてレポート第１回目 大問4を題材にして、教科書P42の「よみとり」の問いを考察する。	◎	○	○
2、3		第2章4節「近代化と現代的な諸課題」	78～83	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	・教科書P78～83にある自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調の観点から１つ選んで、「考えてみよう・調べてみよう」の問いに答えていく、調べるのはICT機器を用いて行ってもよい。発表はMetamojiを使用して、内容を共有できればよい。ワークシートでも可能。 ・レポート第2回目 大問5を題材にして、対立・協調の観点を採用し、帝国主義について考察する。	◎	○	○
3、4	前期：6月 後期：11月	第3章2節　「第一次世界大戦と大衆社会」 2　第一次世界大戦の展開	84～121	・第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。 ・第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。	・教科書P85の中学校のふり返りで「学んだことを思い出してみよう」のチェック項目を確認していく。そしてQRコードを読み、Dマークを活用していく。 ・Dマーク P94の動画を見て、第一次世界大戦の「塹壕戦」について理解する。 ・レポート第3回目 大問1を題材に「第一次世界大戦は、なぜ世界大戦といわれるのだろうか」の問いを元にワークシートを作成して配布してもよいし、Metamojiで共有してもよい。	○	◎	○
4、5		第3章4節「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」	136～141	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	・教科書P136～141にある自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調の観点から１つ選んで、「考えてみよう・調べてみよう」の問いに答えていく。調べるのはICT機器を用いて行ってもよい。発表はMetamojiを使用して、内容を共有できればよい。ワークシートでも可能。 ・レポート第4回目 大問4を題材にして、対立・協調の観点を採用し、アメリカと日本の関係について考察させてもよい。	○	◎	○
5、6	前期：7月 後期：12月	第4章3節　「世界秩序の変容と日本」 5　拡散する地域紛争	180～183	・冷戦終結後に世界各地で起きた地域紛争や、それらに対する国際社会の動きについて理解する。 ・冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。 ・グローバル化や地域統合、民主主義が抱えた問題点について理解する。	・レポート第6回目 大問2を題材にして、「冷戦終結後も民族紛争が絶えないのはなぜだろうか」について、考察する。 ・教科書P5にあるDマークのQRコードを読み、Dマーク180ページ動画資料「9.11事件」」を見て、アメリカ同時多発テロが起こった経緯について考察する。 ・教科書P183にある「資料をよみとる」の「よみとってみよう」の問いをワークシートにして、考察させる。またMetamojiで共有してもよい。	○	○	◎
5、6		第4章4節　「現代的な諸課題の形成と展望」	192～195	・グローバル化の負の側面をどのように解消し、持続可能な社会を作っていくのかを、これまで学んできたことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・人と自分の考えを共有する。	・MetamojiやICTを活用し、持続可能な社会の実現のための考えをまとめ発表する。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	日本史探究	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	原始・古代～近現代までの日本史について、地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら深く学習する。日本の歴史の流れや歴史的事象のみならず、文化や伝統についても理解し、歴史と現代とのつながりに着目しながら学ぶ。						
学習の到達目標	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「日本史探究」（日探701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	第1章　先史社会の生活と文化 1　旧石器時代の日本 1　縄文文化 3　弥生文化と小国家の形成 第2章　歴史資料と先史・古代の展望 1　先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 3　木簡が語る律令国家の実態 第3章　古代社会の形成と展開 1節　律令国家の形成と古代文化の展開 1　大和王権と古墳文化 2　飛鳥の朝廷と文化	8～33	・人類の出現と旧石器時代の日本列島について学ぶ。 ・縄文文化の特徴や日本人の起源を理解する。 ・弥生文化の特徴と小国家形成について理解する。 ・先史社会から古代への転換を多角的に考察し、歴史の全体像を掴む。 ・歴史資料や木簡から情報を収集・解析する技能を習得する。 ・大和王権と古墳文化について資料を用いて多面的に考察し理解する。 ・飛鳥時代の政治と文化について資料を基に考察し理解する。	・人類の出現や旧石器時代の日本列島に暮らす人々の生活に関する資料を基に、「旧石器時代の日本列島の人々は、いつごろから、どのような環境のもとで、どのような生活を送っていたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、旧石器時代の日本について考察し、表現する。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・縄文時代の人々の生活に関する資料を基に、「土器や道具など縄文文化を特徴づけるものはどのように生まれ、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、縄文文化について考察し、表現する。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・弥生時代の人々の生活に関する資料を基に、「日本列島において、水稲耕作はどのように広まり、その後の社会にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、弥生文化の特色と小国家の形成の関係について考察し、表現する。ICT機器を用いて、資料を検索してみてもよい。 ・木簡から、古代国家の特色を示す情報を読み取る。 ・1項「大和王権と古墳文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、中国の史書や遺物などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『日本書紀』や現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	3　律令国家の形成と白鳳文化 4　平城京と天平文化 2節　摂関政治と貴族文化 1　平安遷都と唐風文化 2　貴族社会と摂関政治 3　国風文化 第2編　中世の日本と世界 第1章　中世社会の成立 1　朝廷政治の変容 2　武士の政治進出 第2章　歴史資料と中世の展望 1　武家権力による日本社会の変容 2　厳しい自然環境での人々の生存戦略 3　中世日本の国際交流 第3章　中世社会の展開 1節　武家政権の成立と朝廷 1　鎌倉幕府の誕生 2　執権による政治 3　モンゴル襲来と社会の変貌 4　鎌倉の仏教と文化	34～96	・律令国家の形成過程や律令制の特徴を理解する。 ・奈良時代の政治と文化を多面的に考察し理解する。 ・先史から古代の政治・社会や文化の特色を掴み取り学ぶ。 ・平安時代前期の政治と唐風文化を理解する。 ・貴族社会、摂関政治、藤原氏の台頭と武士の出現を理解する。 ・国風文化の特色を考察し理解する。 ・律令体制の再編、古代社会と文化の変容を学ぶ。 ・院政、土地支配の変質について理解する。 ・武士の台頭と平氏政権の政治・文化を理解する。 ・古代から中世への時代転換と中世の特色を考察する。 ・武家権力による社会変容について資料を収集し解析する技能を習得する。 ・鎌倉幕府の支配構造を多面的に考察し理解する。 ・執権政治の特色を理解する。 ・モンゴル襲来による社会変化を理解する。 ・鎌倉時代の仏教と文化を考察し理解する。 ・武家政権の発展、社会や文化の特色を掴み取り学ぶ。 ・中世日本の国際交流や自然環境での生存戦略について学び、資料解析技能を向上させる。	・3項「律令国家の形成と白鳳文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『日本書紀』や現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。 ・4項「平城京と天平文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『続日本紀』や絵図、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。 ・2節「摂関政治と貴族文化」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・3項「国風文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の日記や編纂物、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・院政の特色や荘園公領制の成立に関する資料を基に、「朝廷のもとでの政治や土地支配のしくみは、どのように変化していったのだろうか」などの課題（問い）を設定し、朝廷政治や土地支配の変容について考察し、表現する。 ・武家権力による日本社会の変容に関する資料から、中世の特色を示す情報を読み取る。 ・中世日本の国際交流に関する資料から、中世の特色を示す情報を読み取る。 ・1項「鎌倉幕府の誕生」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の書状や日記などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2項「執権による政治」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、『吾妻鏡』や絵図などの資料から読み取る。 ・3項「モンゴル襲来と社会の変貌」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、絵巻物などの絵画資料から読み取る。 ・4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の書物や絵画、現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。	◎	○	○
3	前期：5月 後期：10月	2節　武家支配のたがりと国際交流 1　南北朝の動乱と室町幕府の成立 2　倭寇と東アジア国際交流 3　室町時代の社会と経済活動 4　自立する戦国大名 5　室町文化 第3編　近世の日本と世界 第1章　近世社会の形成 1節　地域的世界の形成と日本 2　織豊政権による全国統一 3　桃山文化 第2章　歴史資料と近世の展望 1　参勤交代と幕藩体制	98～143	・時代を通観する問いや仮説を立て、「武家支配のたがりと国際交流」の学習を見通す。 ・鎌倉幕府滅亡から室町幕府成立までの幕府と朝廷の動きを理解する。 ・室町時代の経済や東アジア国際交流について考察し理解する。 ・室町時代の社会や経済活動を多面的に理解する。 ・戦国大名の分国支配や都市の発達について学ぶ。 ・室町文化の特色を考察し理解する。 ・地域権力の成長や台・文化の変容を振り返る。 ・アジアやヨーロッパとの交流が日本に与えた影響を理解する。 ・織豊政権による全国統一の政策やその意義を学ぶ。 ・桃山文化の特色について理解する。 ・中世から近世への時代転換と近世の特色を多角的に考察する。 ・参勤交代や幕藩体制に関する資料から情報を収集し解析する技能を習得する。	・2節「武家支配のたがりと国際交流」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の書物などの資料から読み取る。 ・2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、絵画や遺物などの資料から読み取る。 ・3項「室町時代の社会と経済活動」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、絵画や遺物などの資料から読み取る。 ・4項「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の記録や分国法などの資料から読み取る。 ・5項「室町文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の記録や現在に伝わる文化財などの資料から読み取る。 ・アジア各地やヨーロッパ諸国と日本の交流に関する資料を基に、「鉄砲やキリスト教が日本に伝わることで、どのような変化が生じたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の社会の変容について考察し、表現する。 ・織豊政権に関する資料を基に、「織田信長・豊臣秀吉は、どのような政策によって全国統一をなしとげたのだろうか」などの課題（問い）を設定し、織豊政権による諸政策の目的や意義について考察し、表現する。 ・桃山文化に関する資料を基に、「桃山文化の新しさには、どのようなものがみられるだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の文化の変容について考察し、表現する。 ・参勤交代と幕藩体制に関する資料から、近世の特色を示す情報を読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	2　百姓たちの生活世界 3　江戸時代の対外関係 第3章　近世社会の展開 1節　幕藩体制の確立 1　江戸幕府と大名・朝廷 2　近世の身分と人々の暮らし 3　アジアのなかの幕藩体制 4　武断政治から文治政治へ 5　幕藩体制下の社会の発展 2節　近世社会の成熟と変容 1　幕藩体制の動揺 2　近世社会の成熟と危機の始まり 3　幕藩体制の立て直し 4　幕藩体制の動揺	145～185	・百姓たちの生活世界や江戸時代の対外関係に関する資料から情報を収集し、読み取る技能を習得する。 ・幕藩体制の確立について仮説を立て学習の見通しを持つ。 ・江戸幕府の支配構造や対外政策を多面的に考察し理解する。 ・近世の身分制度と村・町での生活について学ぶ。 ・武断政治から文治政治への転換を理解する。 ・幕藩体制下での産業発達や文化の興隆を考察する。 ・幕藩体制の確立と近世社会・文化の特色を掴み取る。 ・享保の改革と経済発展の意義を理解する。 ・18世紀中後期の政治・社会・文化の成熟について考察する。 ・18世紀および19世紀前期の幕藩体制の立て直しを理解する。 ・19世紀前半の政治・社会・文化の動揺を考察する。 ・幕藩体制の変容や近世成熟社会・文化の特色を掴み取る。 ・近世日本の特色や近代へのつながりを多角的に考察し表現する。 ・「近世の日本と世界」の学習を通して、次の学習テーマに繋げる。	・百姓たちの生活世界に関する資料から、近世の特色を示す情報を読み取る。 ・江戸時代の対外関係に関する資料から、近世の特色を示す情報を読み取る。 ・1節「幕藩体制の確立」に関する主題を設定し、どのようなことが明らかにできるかについて見通しを持つ。 ・1項「江戸幕府と大名・朝廷」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、各種法度などの資料から読み取る。 ・2項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の人々を描いた絵画などの資料から読み取る。 ・3項「アジアのなかの幕藩体制」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、貿易に関する絵画や法令などの資料から読み取る。 ・4項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の幕府の政策に関する資料などから読み取る。 ・5項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の絵画や出版物、現存する文化財などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
5	前期：6月 後期：11月	第4編　近現代の地域・日本と世界 第1章　近代社会の幕開け 1節　開国と開港 2　幕府の崩壊と明治維新 第2章　歴史資料と近現代の展望 1　富と産業の発展と生活 2　国民国家と政治参加 3　世界のなかの近現代日本 第3章　近現代社会の展開 1節　近代的制度の導入と新しい国際関係 1　制度改革と殖産興業政策 2　文明開化と教育制度の整備 3　東アジア世界のなかの明治政府 4　政府専制への批判	188～217	・開国と開港による日本社会、経済、文化の変化を多面的に理解する。 ・江戸幕府の崩壊から明治維新に至る歴史的過程を整理し、把握する。 ・近世から近代への時代の転換を通観し、近代日本の特色を考察する。 ・資本主義の発展が人々の生活に及ぼした影響を資料を用いて分析する。 ・国民国家の形成と政治参加の進展について資料を活用して理解を深める。 ・世界との関わりを背景に、近現代日本の位置づけを考える段差を身に付ける。 ・制度改革と殖産興業政策に関する課題を設定し、明治初期の政策とその意義を多角的に考察する。 ・文明開化と教育制度の整備について課題を設定し、文化や教育の進展を分析する。 ・自由民権運動の展開とその社会的影響を多面的に考察する。 ・「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習を振り返り、国際関係や制度改革の意義を理解する。	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化に関する資料を基に、「どのような経緯で、日本は世界の経済のなかに組み込まれていったのだろうか」などの課題（問い）を設定し、外交政策の転換とその影響について考察し、表現する。 ・幕府の崩壊から明治維新に関する資料を基に、「どのように江戸幕府は倒れ、新政府が成立したのだろうか」などの課題（問い）を設定し、国内の政治の変容について考察し、表現する。 ・資本主義の発展と生活に関する資料から、近現代の特色を示す情報を読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・国民国家と政治参加に関する資料から、近現代の特色を示す情報を読み取る。 ・世界のなかの近現代日本に関する資料から、近現代の特色を示す情報を読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・1項「制度改革と殖産興業政策」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、絵画や写真などの資料から読み取る。 ・2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の出版物や絵画などの資料から読み取る。 ・3項「東アジア世界のなかの明治政府」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、条約の条文や写真などの資料から読み取る。 ・4項「政府専制への批判」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、法令の条文や風刺画などの資料から読み取る。	○	◎	○
6	前期：6月 後期：11月	2節　国民国家と資本主義の成立 1　立憲政治の成立 2　対外関係の変容と日清戦争 3　産業革命と資本主義の定着 4　教育制度の整備と新しい文化 5　日露戦争と帝国日本 6　日露戦争後の社会と政治	218～239	・立憲政治の成立に関する課題を設定し、資料を用いて多面的に分析することで、日本における立憲制確立の意義を理解する。 ・対外関係の変容と日清戦争をテーマに、条約改正交渉や戦争の経緯を資料から考察し、近代日本の外交の動きを把握する。 ・産業革命と資本主義の定着を背景に、明治期の産業発展の具体的事例を通じて、資本主義社会形成の過程を理解する。 ・教育制度の整備と新しい文化をテーマに、教育普及や文化の進展を資料から読み解き、その社会的意義を考察する。 ・日露戦争と帝国日本に関する課題を設定し、戦争の経過や日本の帝国主義進展を多角的に理解する。 ・日露戦争後の社会と政治について、20世紀初頭の国内外の動きを資料から分析し、当時の政治や社会の特色を把握する。 ・「日露戦争と資本主義の成立」に関する学習の振り返りを通じ、立憲体制の形成、国民国家の成立、産業の発展、文化の特色を総合的に理解する。	・1項「立憲政治の成立」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、大日本帝国憲法や諸法典の条文などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、結ばれた条約などの資料から読み取る。 ・3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真やグラフなどの資料から読み取る。 ・4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、出版物や絵画などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	◎	○
7	前期：7月 後期：12月	3節　両大戦間期の日本 1　都市化・重工業化と生活の変化 2　政党政治とデモクラシー 3　国際社会の中の日本 4節　第二次世界大戦と日本 1　昭和恐慌と立憲政治の動揺 2　中国侵略と戦時体制への移行 3　戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開	240～268	・都市化・重工業化と生活の変化に関する課題を設定し、第一次世界大戦期の産業や文化の発展を資料から多角的に分析することで、近代日本の生活と社会構造の変化を理解する。 ・政党政治とデモクラシーをテーマに、大正期における政治改革や社会運動の高まりを資料を用いて考察し、日本社会における民主主義の展開を把握する。 ・国際社会からの視点と対米関係をテーマに、大正期の日本の対外政策を資料から読み解き、アジアや欧米諸国との関係の変化を理解する。 ・両大戦間期の日本の学習を振り返り、大衆社会の形成や国際関係の変容を総合的に検討し、時代の特質を表現する。 ・昭和恐慌と立憲政治の動揺に関する課題を設定し、経済政策と政治の変化を多面的に検討することで、昭和初期の日本の課題を把握する。 ・中国侵略と戦時体制への移行をテーマに、満洲事変や日中戦争の背景と展開を資料から考察し、当時の日本の国際的動向を理解する。 ・戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開に関する課題を設定し、大戦の経過やその影響を資料から多角的に検討し、戦争が日本の政治・社会・国民生活に与えた影響を把握する。 ・第二次世界大戦と日本の学習を振り返り、大戦に至る過程とその中での政治・社会・文化の変容を総合的に理解する。	・1項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、出版物や写真などの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・2項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、法令や出版物、写真などの資料から読み取る。 ・3項「国際社会の中の日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、条約や新聞記事などの資料などから読み取る。 ・1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事や写真などの資料から読み取る。 ・2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事や写真などの資料から読み取る。 ・3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の国際関係や政策などに関する資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎
8	前期：7月 後期：12月	5節　占領と改革 1　占領と日本国憲法の成立 2　冷戦の開始と経済復興 6節　国際社会への復帰と高度経済成長 1　国際社会への復帰と対米協調 2　高度経済成長	270～289	・占領と日本国憲法の成立に関する課題を設定し、占領下の政治改革や日本国憲法の意義を資料を用いて多面的に考察し、戦後日本の再出発について理解する。 ・冷戦の開始と経済復興をテーマに、冷戦体制の影響と戦後日本の復興過程を資料から分析し、国内外の状況との関係性を明確にする。 ・占領と改革の学習を振り返り、再出発した日本の政治・経済・対外関係を総合的に考察し、時代の画期を表現する。 ・国際社会への復帰と対米協調をテーマに、日本の主権回復とその後の政治的な動きを資料から考察し、戦後日本の国際的立場を理解する。 ・高度経済成長に焦点を当て、その背景や影響を多角的に分析し、経済成長が社会や国民生活に与えた変化を把握する。 ・国際社会への復帰と高度経済成長の学習を振り返り、戦後日本の政治・経済・国際関係の発展を総合的に考察し、歴史の流れを捉える力を養う。	・1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や憲法などの資料から読み取る。 ・2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、当時の写真や政策に関する資料などから読み取る。 ・1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、さまざまな条約の条文などの資料から読み取る。 ・2項「高度経済成長」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真やグラフなどの資料から読み取る。	○	○	◎
9	前期：7月 後期：12月	7節　アジア情勢の変化と経済大国日本 1　1970年代の国際社会と日本 2　安定成長への転換 8節　新しい国際秩序と日本の課題 1　激変する世界と日本 2　21世紀の日本 4章　現代の日本の課題の探究 1　社会や集団と個人 2　世界のなかの日本 3　伝統や文化の継承と創造	292～313	・アジア情勢の変化と経済大国日本をテーマに、1970年代から現代までの日本と世界の変化を捉え、資料を基にその背景と影響を考察することで、現代社会の特徴を理解する。 ・1970年代の国際社会と日本について、冷戦期の政治的動向や経済的関係性を探究し、日本が国際社会で果たした役割を分析する。 ・高度経済成長から安定成長への転換に焦点を当て、その背景にある社会的・経済的要因を多角的に分析し、日本の政治経済の変化を考察する。 ・20世紀末の世界と日本を振り返り、冷戦の終結や国際秩序の変容における日本の対応を資料を用いて分析する。 ・21世紀の日本をテーマに、グローバル化や持続可能な社会への転換が政治・経済・国民生活に与えた影響を考察し、現代社会の課題を理解する。 ・「社会や集団と個人」をテーマに、地域社会や身の回りの事象に着目し、現代日本の社会構造や課題について、多角的に検討する。 ・「世界のなかの日本」をテーマに、グローバル化や国際的課題への対応について、日本の歴史的背景と現代的展望を探究し、持続可能な未来像を構想する。 ・「伝統や文化の継承と創造」に関する探究を通して、日本の文化的アイデンティティを再考し、地域文化と現代社会のつながりについて分析・表現する。 ・近現代の学習を総括し、現代日本の課題を多面的に考察することで、次の学習への発展的視点を見出し、歴史を通して持続可能な社会の実現を模索する。	・1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、対外政策に関する写真などの資料から読み取る。 ・2項「安定成長への転換」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、新聞記事やグラフなどの資料から読み取る。 ・1項「激変する世界と日本」に関わる課題（問い）を設定し、その課題（問い）を解決するために必要な情報を、写真やグラフなどの資料から読み取る。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。 ・「世界のなかの日本」をテーマに、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「日本の国際協力はどうあるべきだろうか」などの主題を設定し、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。 ・「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、持続可能な社会の実現を視野に入れ、「伝統文化とは今ばえ切なのか」などの主題を設定し、自分なりの仮説を立て、諸資料を活用して探究する。その結果をICT機器を用いり、metamoji上で活用してワークシート等に取り組み、Classroomで提出させる。提出後、教員は添削・FBすることが望ましい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	公共	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	法律や消費者の権利、社会参画等について学習する。現代に起きている様々な問題を解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きるために必要な資質・能力を学ぶ。						
学習の到達目標	1、現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる 技能を身に付ける。						
	2、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを 議論する力を養う。						
	3、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての 在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの 大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2　東書　公共」(701　公共)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	現代社会における青年期と自己形成／進路 三大世界宗教／功利主義と義務論 先哲の思想	7～35	・青年期の特徴や発達課題の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について調べて考える。 ・行為選択の理由づけについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	『青年期』に関しては、自身の経験や特徴・捉え方とも重ね合わせながら、自己理解にも繋がるように考えさせられると良い。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	民主主義・立憲主義・人権保障や日本国憲法 民主政治 政治の仕組み	36～83	・公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。 ・政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について調べて考える。	『政治の働き』に関しては、実際の政治運営の現状と課題について調べ、MetamojiやGoogleスライド等を使用して、まとめさせると良い。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	法のはたらき 市民生活と法 司法	84～111	・法の性格や役割、法の分類、法がその成立の歴史や対象などによって区分されることについて調べて考える。 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ・司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解する。	『法の性格や役割』に関しては、法の分類や歴史・対象等に関して調べ、ICTツールを使用してまとめ、発表させると良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	現代の経済と市場 市場経済における金融の働き 財政の役割と持続可能な社会保障制度	112～145	・経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・少子高齢化の進展の中で、今後の社会保障制度をどのように展望するか諸外国の例も参考に考える。	『少子高齢化』に関しては、現在の社会保障制度を踏まえ、今後どのような対策が必要か？自分ならどうするか？等を考え、発表や全体議論ができると良い。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	労働 国際社会のルールとしくみ 国際社会と平和主義	146～173	・雇用環境の変化、現代のさまざまな労働問題、働きやすい労働環境について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ・核軍縮が進まない理由を、多面的・多角的に考察し議論する。	『雇用環境の変化』に関しては、現代のさまざまな労働問題を理解するのみならず、その上でどのような取り組みができるかを、様々な視点（自己・企業・行政等）で考えさせられると良い。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	国際平和への課題 グローバル化する国際社会 今日の国際経済とその課題	174～212	・平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論する。 ・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも 関連させながら理解する。 ・構造的な問題としての南北問題、人口・食料問題の解決には、どのような取り組みが考えられるか考察し議論する。	『平和憲法』・『自由貿易と保護貿易』に関しては、国際的な問題・課題において、今後どのような取り組みができるか、どのような対策ができるかを考え、発表や全体議論ができると良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	政治・経済	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	政治や経済活動、税金の意義等を学習する。正解が一つではない社会課題を把握し、解決するための学習態度を身に付けながら、自立し主体的に生きる力や他者の意見をまとめる力を学ぶ。						
学習の到達目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得する。						
	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論を活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握する力や説明する力、身に付けた判断基準を根拠に構想する力、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。						
	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 政経」（701 政治経済）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	民主主義の基本原理 日本国憲法の制定と基本原理 基本的人権の保障	4～47	・政治の役割や、民主政治において権力分立がなぜ重要か理解する。 ・大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解する。 ・基本的人権と自分の生活との関係、新しい人権の確立が求められている背景について理解する。	・『大日本帝国憲法』においては、大日本帝国憲法および日本国憲法のそれぞれの特徴を理解すると同時に、その特徴をICTツールを活用し、まとめ・共有・発表等の活動に繋げられると良い。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	立法と行政 裁判所と司法 地方自治と現代社会の特質と課題	48～79	・国会の権限や組織・運営、また内閣の権限、内閣と国会の関係について理解する。 ・司法権の独立の必要性、裁判のしくみ、裁判員裁判について理解する。 ・地方自治の規定や住民の権利について理解する。	・『国会の権限』・『司法権の独立』においては、国会・内閣・裁判所のそれぞれの役割や機能、またそれらの関係性（権力分立・三権分立）について理解し、まとめられると良い。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	現代の資本主義経済 現代経済のしくみ 国民所得と経済成長／金融・財政のしくみと課題	80～118	・資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解し、資本主義経済の課題について考える。 ・企業の活動や、株式会社の特徴について理解し、現代の企業に求められているものとは何か考える。 ・インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるかを考える。	・『インフレデフレ』においては、物価変動と私たちの暮らしで、損をする場合、得をする場合を考えさせると実生活に結びついた学びとなる。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	日本経済の発展と現状 福祉社会と日本経済の課題 労働問題と社会保障	119～155	・戦後復興から高度経済成長の終焉までの変遷と産業構造の変化について理解し、バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考える。 ・戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解し、日本の農業と食料はどうあるべきか考える。 ・労働問題の発生理由や憲法や法律が保障する労働者の権利について理解し、これからの日本の雇用のあり方について考える。	・『労働問題』においては、雇用・労働問題を取り巻く状況を理解し、どのような対策が考えられるかをICTツールを使用してまとめ、これからの労働・雇用のあり方についてグループ討論等ができると尚良い。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	現代日本の課題 国際政治 現代国際政治と日本の諸課題	156～203	・日本の子育て支援の現状について理解し、どうあるべきかについて考え、表現する。 ・集団安全保障のしくみが必要とされた背景を理解し、国際連合の取り組みや課題について考える。 ・国境を超えたテロリズムが多発している理由について理解し、地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、日本は難民問題についてどのように向き合うべきかを考える。	・『国境を越えたテロリズム』においては、日本の難民受け入れはどうあるべきか、各自治体の取り組み等を調べ、自身の考えをまとめられると良い。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	貿易・国際収支・国際経済体制 世界経済の現状と課題 国際社会の諸課題	204～254	・貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取引について理解し、為替レートがどのような要因によって変動するか考える。 ・経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解し、どのような課題を抱えているか考える。 ・SDGs達成にむけた取り組みについて理解し、達成にむけて自分たちに何ができるか考え、表現する。	・『SDGｓ達成』においては、SDGsより自身の興味のあるテーマを選択し、そのテーマについて調べながらICTツールを使用してまとめ、発表・表現ができると尚良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	数学Ⅰ	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。						
	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題についてデータの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。						
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「数学Ⅰ」(704)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	文字と式	32～47	数を実数まで拡張する意義に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、１次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	・参考資料のDマイスターPPTを活用も可 ・Dマイスターの10分テストで復習を行う。 ・（MetaMoJiでの配布を積極的に活用） ・グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
2	5 10	実数	48～57	数を実数まで拡張する意義に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、１次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	・参考資料のDマイスターPPTを活用も可 ・Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） ・グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
3	5 10	方程式と不等式	58～71	不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、１次不等式の解を求めたり１次不等式を事象の考察に活用したりすることができるようにする。	Dマイスターを活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
4	6 11	2次関数 ～2次関数とそのグラフ～	74～91	２次関数とそのグラフについて理解し、２次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	○	○	◎
5	6 11	2次関数の値の変化	92～101	２次関数の値の変化について、グラフを用いて考察し、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。また、２次関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	Dマイスター、GRAPES（グラフ作成ソフト）を活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
6	6 11	三角比 ～鈍角の三角比～	104～116	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	Dマイスターを活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	◎	○	○
7	7 12	三角比の応用	117～127	正弦定理や余弦定理、三角比の相互関係を利用して、三角形の面積や辺の長さ、角の大きさなどを求めることができる。図形の計量の際に有効に活用することができる。また，三角比を空間図形の計量に活用することができる。	実生活（教室）の中で三角比を利用し、物の大きさや高さを調査し、調査報告等をGoogleclassroomで行う。（対話的な活動） 生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。	○	○	◎
8	7 12	データ分析	130～147	データや階級，度数，階級値，度数分布表，ヒストグラム，相対度数，定義や意味を理解し，目的やデータに応じて，度数分布表，ヒストグラムなどに表すことができる。 データの散らばり具合を表す四分位数，四分位範囲の定義や意味を理解する。また，それを箱ひげ図に表すことができる。	Dマイスターを活用する。 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	○	◎	○
9	7 12	集合と論証	150～160	集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。 図などを用いて、集合に関する基本的な事項を理解する。また、集合の考え方を用いて必要条件、十分条件、対偶などを学習し、論理的な思考力を伸ばす。さらに、事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身につけ、いろいろな事象や数学的諸概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができるようにする。	Dマイスター、KAHOOTを活用し、学習の定着を図る Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分かれ、Googleclassroomを活用し、相互作間シェアなどを授業で行う。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	数学Ⅱ	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する						
学習の到達目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「数学Ⅱ」(717)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	方程式・式と証明 ～式の計算～	4～11	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分数式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
2	5 10	方程式・式と証明 ～2次方程式～	12～19	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分数式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
3	5 10	方程式・式と証明 ～高次方程式・式と証明～	20～32	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分数式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
4	5 10	図形と方程式 ～座標と直線の方程式～	33～51	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表し、直線や円を方程式で表すことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、方程式を活用するグループワークを行う。	○	◎	○
5	6 11	図形と方程式 ～円の方程式・軌跡と領域～	52～64	軌跡について理解し、不等式の表す領域を不等式で表すことができるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、方程式を活用するグループワークを行う。	○	◎	○
6	6 11	三角関数	65～77 82～83	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。三角関数の値の変化や特徴、性質を理解する。	実生活（時計の針や観覧車）の中で三角比を利用し、物の大きさや高さを調査し、調査報告等をGoogleclassroomで行う。（対話的な活動） 生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。	○	○	◎
7	6 11	三角関数	78～84	加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解し活用できるようにする。	実生活（時計の針や観覧車）の中で三角比を利用し、物の大きさや高さを調査し、調査報告等をGoogleclassroomで行う。（対話的な活動） 生徒の興味がありそうなデータをGoogleclassroomで回収し、実際の数値を利用してデータの分析を行う。	○	○	◎
8	6 11	指数関数と対数関数 ～指数関数～	85～95	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をできるようにする。指数関数の値の変化やグラフの特徴、対数の意味と性質を理解する。	指数と対数を相互に関連図けて考察する。日常の事象や社会の事象を数学的に捉え問題を解決したり、解決の過程を振返って事象の数学的な特徴や他の事象の関係を考察する。	◎	○	○
9	7 12	指数関数と対数関数 ～対数関数～	96～104	指数関数の値の変化やグラフの特徴、対数の意味と性質を理解する。対数関数の値の変化や特徴について理解する。	指数と対数を相互に関連図けて考察する。日常の事象や社会の事象を数学的に捉え問題を解決したり、解決の過程を振返って事象の数学的な特徴や他の事象の関係を考察する。	○	◎	○
10	7 12	微分と積分 ～微分係数と導関数～	106～115	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求められるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
11	7 12	微分と積分 ～導関数の応用～	116～123	導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○
12	7 12	微分と積分 ～積分～	124～133	不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められるようにする。	参考資料のDマイスターPPTを活用も可 Dマイスターの10分テストで復習を行う。 （MetaMoJiでの配布を積極的に活用） グループに分け作問を相互に行い、スライド等の機能を使いシェア。（相互に解き合う）	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	数学A	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「数学A」(704)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	場合の数	4～21	・部分集合，全体集合，補集合，共通部分，和集合などの集合の表し方，用語，記号を，図を用いて理解し，記号を使って表すことができる。 ・補集合，和集合について，集合の要素の個数を求めることができる。 ・具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。 ・和の法則や積の法則など数え上げの原則について具体例を用いて理解し，場合の数を効率よく求めることができる。 ・樹形図を利用して順列の意味を理解し，その総数を求めることができる。 ・順列の考え方をいろいろな場面に利用して，条件のついた順列の総数を求めることができる ・重複順列，円順列の意味を理解し，その総数を求めることができる。 ・組合せの意味や性質を理解し，その総数を求めることができる。 ・組合せの考え方をいろいろな場面に利用して，組合せの総数を求めることができる	metamojiやformで身近な例を題材に、協働学習できるシート等を使用して、場合の数について理解する	◎	○	○
2	5 10	確率① ・事象と確率 ・確率の計算 ・排反事象の確率 ・余事象の確率	22～29	・試行と事象，事象の確率について学び，確率の意味を知り，基本的な確率を求めることができる。 ・場合の数をもとに，確率を求めることができる。 ・確率の加法定理を理解し，排反事象の確率を求めることができる。 ・余事象の確率を求めることができる。	身近な例を使用して、確率のざまざま事象について、グループワークを行い、違いについて理解する	○	◎	○
3	6 11	確率② ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件つきの確率 ・期待値	30～37	・独立な試行の意味を理解し，簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 ・反復試行について理解し，簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 ・条件つき確率の意味を理解する。また，確率の乗法定理を理解し，活用できる。 ・期待値を求めることができる。また，期待値を意思決定に活用することができる。	身近な例を使用して、確率のざまざま事象について、Metamojiの共同学習モードを使用し、グループワークを行い、違いについて理解する	○	◎	○
4	6 11	図形の性質	40～75	・平行線と角の関係を理解し，これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ・多角形の内角，外角の性質を理解し，これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ・三角形の合同条件，相似条件を理解し，これらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・垂直二等分線，垂線，角の二等分線の作図方法を理解し，その作図ができる ・図形の性質を利用した平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し，目的に合った図形を作図することができる。 ・三角形と比の性質や中点連結定理を理解し，それを用いて線分の長さを求めることができる。 ・三角形の重心の性質を利用して，線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角形の外心，内心の性質を利用して，線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し，それらを用いて線分の長さを求めることができる。 ・円の接線の性質，接線の長さについて理解し，それらを利用して，接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 ・円周角の定理を理解し，それを利用して角の大きさを求めることができる。また，円周角の定理の逆を理解し，・点が同一円周上にあるかどうか判断することができる。 ・円に内接する四角形の性質を理解し，それを利用して角の大きさを求めることができる。また，四角形が円に内接する条件を利用して，四角形が円に内接するかどうか判断することができる。 ・接線と弦のつくる角の定理を理解し，それを利用して，角の大きさを求めることができる。 ・円と・本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し，方べきの定理が成り立つことを理解し，長さを求めることができる。 ・つの円の位置関係を考察できる。 ・直線、・平面、直線と平面の位置関係を理解する。 ・多面体、正多面体を理解し、オイラーの多面体定理に触れ、空間図形に対する見方を豊かにする。	Dマイスターを利用し、視覚的に図形の性質について理解する。また、実際に作図等をし、実体験で学ばせる。	◎	○	○
5	7 12	数学と人間の活動	78～87	・古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解する。 ・・0進法，・進法の数の表し方のしくみを調べ，法則を見つけることができる。 ・・進法と・0進法の変換を行うことや・進法と・0進法を対比してみることで，記数法に対する理解を深めることができる。また，・進法で表された数の計算ができる。 ・平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。また，その考えを空間内の座標へ拡張し，空間内の点の位置を表すことができる。 ・約数，倍数，素数，素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し，約数，倍数を求めたり，素因数分解したりすることができる。	Dマイスターや身近な例を利用し、数学の不思議や仕組みについて理解する。また、バラエティー番組等で行っているクイズ等から出題し、生徒の興味の引く内容で理解を深めていく。	○	○	◎
6	7 12	数学と人間の活動	88～97	・素因数分解を利用して最大公約数，最小公倍数を求めることができる。 ・ユークリッドの互除法を理解し，これを用いて・つの正の整数の最大公約数を求めることができる。 ・長さや面積の単位を調べることできる。また，タレスのピラミッドの高さの測量を通して，図形の性質や三角比を用いた測量の方法について考察することできる。 ・体積や重さの単位を調べることできる。 ・古代の人々の時計や，暦（うるう年）について理解する。また，うるう年を決めた理由を考えることができる。	Dマイスターや身近な例を利用し、数学の不思議や仕組みについて理解する。また、バラエティー番組等で行っているクイズ等から出題し、生徒の興味の引く内容で理解を深めていく。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	科学と人間生活	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに影響を与え、どのような役割を果たしてきたかについて学ぶ。「生物」「化学」「物理」「地学」を総合的に学ぶ。						
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。						
	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。						
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「科学と人間生活」（科人701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	１編　生命の科学 １章　微生物とその利用	14～37	・カビは微生物であることを知り、微生物とはどのような生物かに問題を見いだす。 ・微生物を利用して、環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。 ・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ・ふだんの食事のメニューを想起し、エネルギー源である炭水化物は体内でどのように利用されているかについて問題を見いだす。	・各現象においてデジタル教材の活用やその他推奨できる現象の視覚化が容易になるサイトの紹介などはまとめておき、生徒に提示できるようにする。 ・問題を解きながら起きている事象や法則がどのようなものか映像教材とリンクすることで理解を深める。 ・デジタル顕微鏡を使用して観察などを取り入れるとなお良い。 製品情報： https://www.amazon.co.jp/dp/B07FD7DTKX/ref=cm_sw_r_tw_dp_d1_YGMDGQDBWSD4VC8Z7VY9?_encoding=UTF8&psc=1 @amazonJPより	○		◎
2	前期：5月 後期：10月	１編　生命の科学 ２章　ヒトの生命現象	38～65	・ヒトの眼の構造を理解する。 ・近くを見るときと遠くを見るときの調節の仕組みを理解する ・血糖濃度とそれを維持するための体内でのグルコースの流れについて理解する。 ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・食事の前後の血糖濃度、インスリン濃度、グルカゴン濃度のデータから、それらのはたらきについて考察する。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・抗原抗体反応の仕組みと特徴について理解する。 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。	・身近でありながらも目視できない現象が多いので、デジタル教材などを活用しイメージを捉えることができるよう促す。 ・プラスチックや繊維などは実在するもので、直接手に触れながら違いを意識したりもできるので、生徒がその違いを感じながら学習を進められるよう教材準備を進めておくとよい。 ・金属に関しては実験アプリを活用し、自身が試行錯誤しながら問題に取り組めると尚良い。 ・アプリ「BEAKER」を使用して金属の種類の違いにより反応の違いについて観察してもなお良い。	○	◎	
3	前期：6月 後期：11月	２編　物質の科学 １章　材料とその再利用	66～93	・金属と非金属の性質の違いを比較して、金属の構造について問題を見いだす。 ・金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べる。 ・プラスチックと金属を比較して、プラスチックの性質や種類について問題を見いだす。 ・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。	・身近でありながらも目視できない現象が多いので、デジタル教材などを活用しイメージを捉えることができるよう促す。 ・プラスチックや繊維などは実在するもので、直接手に触れながら違いを意識したりもできるので、生徒がその違いを感じながら学習を進められるよう教材準備を進めておくとよい。 ・金属に関しては実験アプリを活用し、自身が試行錯誤しながら問題に取り組めると尚良い。 ・アプリ「BEAKER」を使用して金属の種類の違いにより反応の違いについて観察してもなお良い。	○	○	◎
4	前期：6月 後期：11月	２章　衣料と食品	95～115	・繊維の種類とそれぞれの用途について理解する。 ・合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。また、さまざまな合成繊維のモノマーとポリマー、性質と用途について知る。 ・油脂の構造と性質について理解する。 ・エステルの加水分解と油脂のけん化について理解する。 デンプンは多数のグルコースが連なった高分子化合物であること、ヨウ素デンプン反応で検出されることを理解する。 ・デンプンの消化の進行を、ヨウ素デンプン反応やフェーリング液の還元反応で確かめる。	・問題に連動しているアプリを紹介し、問題や教科書上に提示される現象を視覚的に捉えることのできるようあらかじめまとめておくと良い。 ・環境保全など、今まで得た知識を活かしながら問題を提起し、そこから解決策を見出すことができるような自ら探究できる課題を準備するとなお良い。 ・アプリケーション「潮位ナビ」や「windy」などを活用し視覚的に変化を捉えられるようにするとなお良い。	◎		○
5	前期：7月 後期：12月	３編　光や熱の科学	138～157	・温度による水の状態変化を基に、温度による物質の状態変化と原子や分子の動きとの関係について問題を見いだす。 ・原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 ・温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。 ・熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 ・水の比熱が大きいことと人間生活とのかかわりについての理解を深める。 ・熱量の保存について理解する。 ・熱量の保存について理解する。 ・計算演習を何度か実施し、熱量の計算式を身に着ける。また、概念を理解する ・地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について調べ、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	・計算演習が多く必要な単元であるので、公式を使用した別課題などを用意し、理解を深め考え方を身に着けられるようにできると良い。 ・原子の運動などに関しては視覚的に捉えずらいので、アプリやデジタル教材を使用し、イメージを具体化できると良い。	○		◎
6	前期：7月 後期：12月	４編　宇宙や地球の科学	158～179	・同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するのかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 ・潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する ・既習の内容や生活経験などを基に、太陽が暖かく感じる理由に問題を見いだす。 ・太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る ・熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。	・問題に連動しているアプリを紹介し、問題や教科書上に提示される現象を視覚的に捉えることのできるようあらかじめまとめておくと良い。 ・授業内で得た知識を活かしながら疑問をあげ、そこから実習を行い、結果より推測するような見出すことを自ら探究できる課題を準備するとなお良い。 ・アプリケーション「潮位ナビ」や「windy」などを活用し視覚的に変化を捉えられるようにするとなお良い。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	化学基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を学ぶ。当科目は「化学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の3つの大項目から構成されている。						
学習の到達目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。						
	(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（東書702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	1編　化学と人間生活 2章　物質の成分と構成元素	12～33	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・炎色反応の例として花火を上げて。動画を確認すると尚良い。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	2編　物質の構成 1章　原子の構造と元素の周期表	34～47	・原子の大きさや構造について知る。また、原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めさせると尚良い。 ・単位に関して理解が難しい生徒には、数学の教科書やプリント等も参考にしながら、問題解決に繋がる支援を行うと良い。 ・教科書の付録のエレメントカードを活用し、元素の性質の規則性について考察する時間をとる	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	2編　物質の構成 2章　化学結合	48～79	・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書p.42図10などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。 ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・MetaMoJiとで組成式の問題を取り組ませ、様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	3編　物質の変化 1章　物質量と化学反応式	80～105	・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・計算が難しい生徒には、数学の教科書やプリント等も参考にしながら、問題解決に繋がる支援を行うと良い。 ・P90の「物質量を中心とした量的関係」では、ClassroomやMetaMoJiなどのアプリを活用して、例題を出し、一旦「物質量」を求める重要性を認識させると良い。 ・p93の「質量パーセント濃度とモル濃度の違いを実感しよう」という実験を行い理解を深めると良い。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	3編　物質の変化 2章　酸と塩基	105～135	・アレーニウスやブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、ｐHでも表せることを理解する。 ・ｐH指示薬と変色域により、水溶液のｐHが測定できることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・中和の条件は、酸から生じるH+の物質量と塩基から生じるOH－の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・計算が難しい生徒には、数学の教科書やプリント等も参考にしながら、問題解決に繋がる支援を行うと良い。 ・酸と塩基の定義の説明を行う際にイメージを膨らませるため、教科書のQRコードからアニメーションを確認するように促すと良い。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	3編　物質の変化 3章　酸化還元反応	136～167	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池や身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	・重要な点は資料にまとめてGoogleClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画や資料を確認するように促す。 ・観察、実習、実験などを通して用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・計算が難しい生徒には、数学の教科書やプリント等も参考にしながら、問題解決に繋がる支援を行うと良い。 ・P149の図をMetaMoJiに用意して、正しく分類できるように問題に取り組ませると良い。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	生物基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行って、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「生物基礎」（生基702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	1編　生物の特徴 1章　生物の多様性と共通性 2章　生物とエネルギー 実習1 脊椎動物の特徴の比較 実習2 さまざまな生物の顕微鏡観察とDNAの抽出	10～36	・脊椎動物の四肢の有無、呼吸の仕方、殖え方などの特徴について考え、表aにまとめる。 ・図aの系統樹上でそれらの特徴が現れた位置を推測し、進化との関係性を見いだす。 ・顕微鏡を用いてヒト口腔内上皮、タマネギの表皮、ヨーグルトの乳酸菌を観察し、スケッチを行う。 ・それぞれの細胞の大きさを測定してスケッチに記録する。 ・観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。 ・ヒト口腔内上皮、タマネギ、乳酸菌のDNAを抽出し、生物がDNAをもつという共通性があることについて考察する。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い理解を深めると尚良い。 ・顕微鏡などの器具の名称を理解し、正しく利用できるように実物を利用して観察ができると尚良い。 ・理科実験の流れ（仮説→実験→考察）を理解することができると尚良い。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	2編　遺伝子とそのはたらき 1章　遺伝情報とDNA 2章　遺伝情報とタンパク質 実習3 酵素のはたらき 実習4 DNA模型の作製 実習5 DNAが2倍になるしくみ 実習6 アミノ酸とDNAの対応	42～70	・ゼラチンでつくった生のパイナップルのゼリーが固まらないことから、酵素の存在に気づく。 ・生のパイナップルを用いて、寒天のゼリーとゼラチンのゼリーがどのように変化するかを観察し、ゼラチンと寒天の主成分の違いから、パイナップルに含まれる酵素の性質を考察する。 ・DNAの分子モデルの写真から、DNAがどのような形をしているか、またDNAの構造にある規則性や特徴に気づく。 ・DNA模型の作製を通して、遺伝情報の担う物質としてのDNAの形状や塩基の結合のしかたの規則性を見いだす。 ・DNAの2本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料から、塩基の相補性がDNAの複製のしくみに関わっていることを見いだす。 ・DNAの塩基配列と、それに対応するタンパク質のアミノ酸配列に関する資料から、DNAの塩基配列とアミノ酸配列の間にある関係性を見いだす。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い理解を深めると尚良い。 ・触媒の影響力が解るよう、映像や実験を通して理解を深めると尚良い。	○	○	◎
3	前期：6月 後期：11月	3編　ヒトの体の調節 1章　体内環境と情報伝達	76～94	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関係について理解する。 ・糖尿病の患者数の変化を食事や移送手段の変化など生活と関連したデータをもとに考える。 ・体温の調節機構について、関係する器官と支配のしくみを知る。 ・人体の構造や各器官の役割について考える。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い理解を深めると尚良い。 ・複数人で実験することにより、協働しながら実証していく体験ができると尚良い。	○	○	◎
4	前期：6月 後期：11月	2章　免疫のはたらき 実習7 運動の前後の体の変化 実習8 血糖濃度の調節 実習9 体内の抗体量の変化	100～114	・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する ・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気付く。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・アレルギーについて考える。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・AIDSを例に免疫機能の低下による疾患について理解する。 ・免疫について整理する。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い、理解を深めると尚良い。 ・複数人で実験することにより、協働しながら実証していく体験ができると尚良い。	○	○	◎
5	前期：7月 後期：12月	4編　生物の多様性と生態系 1章　植生と遷移	122～139	・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い理解を深めると尚良い。 ・各地域における植生の特色に触れるなどし、地域の気候と植生の多様性を理解できると尚良い。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	2章　生態系と生物の多様性 実習10 身近な植生と環境の観察 実習11 植生の遷移の要因 実習12 森林・草原・砂漠と遷移の関係 実習13 地表を歩きまわる生物の観察 実習14 生態系から特定の生物を除去したときの影響 実習15 生活排水の流入による河川への影響 実習16 高速道路の建設に伴う環境アセスメント	144～163	・ピットフォールトラップから、生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・環境アセスメントの具体的な事例をもとに、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。	・重要な用語は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・実習をとして用語と実際に起きている事象を連動させ、理解を深めると尚良い。 ・時間に余裕がある場合、または自宅にて教科書のQRコードから動画の視聴、起きている事象のアニメーションの視聴を行い、理解を深めると尚良い。 ・身近な例をあげ、教科書で学んだ内容を基に実習授業が展開できると尚良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育①	スクーリング回数	15	レポート回数	3	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	現代社会における政治や経済、文化などの側面においてスポーツが及ぼす影響は大きくなってきています。そこで体育①では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴、現代スポーツを取り巻く様々な問題について学習します。						
学習の到達目標	スポーツの文化的価値を理解し、幅広い知識と教養を身に付け、心理に求める態度を養い、豊かな情勢と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う。						
	アンチ・ドーピング運動、スポーツにおける環境破壊・環境保護について理解し、生命の尊び、自然に対し環境の保全に寄与する態度を身に付ける。						
	日本生まれのスポーツ、オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることについて理解し、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付ける。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5 後期：10	スポーツの始まりと発展 近代スポーツから国際スポーツへ 世界の民族スポーツについて調べてみよう スポーツを文化としてとらえること スポーツ文化への多様なかかわり 日本生まれのスポーツ 競技スポーツにおける競争の意味	136～143	・スポーツがどのように始まったのか説明ができる。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明ができる。 ・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・多様なかかわり方によるスポーツの文化の変容について例をあげて説明できる。 ・日本生まれのスポーツについて理解する。 ・競技スポーツにおける競争の意味を理解する。	・新年度がスタートし、今後、出席した生徒同士にて活動する機会があることを意識し、生徒と教員・生徒同士コミュニケーションが取れる場として工夫すると良い。 ・様々な視点から理解が深まるようclassroomやパドレットを使用し、共有(発表・意見交換)すると良い。	◎	○	○
2	前期：6 後期：11	オリンピックの意義 パラリンピックの意味 オリンピックの課題 パラリンピックの課題 スポーツと経済 スポーツ産業の拡大 スポーツの高潔さを守ること	144～150	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。 ・オリンピックの課題について理解する。 ・パラリンピックの課題について理解する。 ・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・班ごとに民族スポーツをおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。	パターン① ・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・P144～150を参考に調べ学習をし、発表会を行い知識を深める。 パターン② ・教科書の内容に即して調査・研究課題を設定し、Googleスライド等に情報をまとめさせる。教員は生徒のスライドを基に、全体解説を行う形をとることも可能。	◎	○	○
3	前期：7 後期：12	スポーツにおけるドーピング スポーツの価値について考えてみよう なぜドーピングは許されないのか考えてみよう スポーツと環境問題 これからのスポーツと環境保護 スポーツとまちづくり	151～156	・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。 ・スポーツの価値と理念を理解し、体現する。 ・ドーピングの定義を理解する。 ・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 ・スポーツは、環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。 ・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。	パターン① ・班編成を行い、自己紹介等を行ったあと調べ活動を行うと良い。 ・P151～156を参考に調べ学習を行い、発表会を行い知識を深める。 パターン② ・教科書の内容に即して調査・研究課題を設定し、Googleスライド等に情報をまとめさせる。教員は生徒のスライドを基に、全体解説を行う形をとることも可能。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育②	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	私たちは運動やスポーツを行うことで、大きな達成感や喜びを味わい心や体を健康にすることができます。そこで体育②では、合理的な動きを理解することや運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	トレーニングの原理を理解し、より効果的なトレーニング方法を学ぶことで、効率よく技能や体力を向上させることが出来るようになる。						
	健康的な体力作りをするためのトレーニング計画・実施・確認・改善までが出来るようになり、目的に応じたメニューを立案し、実践できるようになる。						
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5 後期：10	・運動・スポーツにおける技能と体力の関係 ・練習とトレーニングの原理と原則 ・技術と技能の違い ・技能の型に応じた練習 ・戦術・作戦・戦略 ・技能の上達過程における３つの段階 ・効果的な練習方法	158～165	・技能と体力の関係について説明できる。 ・技能や体力を高めるときに気を付けるべき点をあげることができる。 ・技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。 ・技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる。 ・練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・トレーニングの３原理５原則を理解し、自身の体験から当てはまる経験を考えさせることで理解度を深める。 ・技能の上達過程をテニス以外の競技より図や写真などを用いて分かりやすく説明すると良い。 ・練習問題をClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・考えてみようはグループを編成し、発表まで実施。発表時は、Googleスライド等でグループで共同編集をする。グループ編成が難しい場合は、個人で調べ学習としても良い。 発表時には作成したスライドをスクリーンに投影すると良い。	◎	○	○
2	前期：7 後期：12	・動きの開始と持続 ・動きのコントロール ・体力トレーニングを支える基礎理論 ・体力トレーニングの進め方 ・筋力トレーニング	168～173	・体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。 ・よい動きを支える調整力について例をあげて説明できる。 ・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 ・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・練習問題をClassroomまたはMetaMojiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・班編成を行い、目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を班ごとに調べ学習を行うと良い。 ・発表内容を発表時は、Googleスライド等でグループで共同編集をする。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	体育③	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	生涯にわたって健康で豊かな生活を送るには、スポーツと継続的にかかわることが必要であり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計することが重要であるため、生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて学習をする。						
学習の到達目標	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのか、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を理解し、説明することができる。						
	豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解し、現在のスポーツライフの諸条件を整理して、自分にあったスポーツライフを設計することができる。						
	国や自治体が行っているスポーツ推進の施策、企業や地域におけるスポーツの関り方について把握し、これからの豊かなスポーツライフにおける課題について考える力を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5 後期：10	・社会の変化とスポーツの役割 ・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 ・スポーツ科学について ・スポーツにかかわる職業について ・いろいろなスポーツライフスタイル ・豊かなスポーツライフの設計	182～187	・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 ・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。 ・スポーツ科学の学問分野について調べ、スポーツへの理解を深める。 ・スポーツにかかわる多様な職業は、互いに関連しながら文化としてのスポーツの質を高めていることを理解する。 ・「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 ・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	①はMetaMojiで課題を配布し、生徒がレジャー社会におけるスポーツの役割について調べる。（個別学習） ②についてP182の資料2を参考に生徒が自分の経験したライフステージの楽しみ方ををGoogleスライドに書き込み、他者の意見と比較できると良い。（協働学習） ③教員がスポーツ科学についてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて共有し、どのような学問なのか生徒が調べ、Googleスライドに書き込み、他者の意見と比較できると良い。（協働学習） ④スポーツに関わる職業についてGoogleｽﾗｲﾄﾞを用いて共有し、どのような学問なのか生徒が調べGoogleスライドに書き込み、他者の意見と比較できると良い。（協働学習） ⑤ではMetaMojiで課題を配布し、P188を参考に生徒各自スポーツライフについて調べ、何名かにｲﾝﾀﾋﾞｭｰを行う。（個別学習→協働学習） ⑥ではP189を参考に自分でスポーツライフを設計しペアでGoogleスライドにまとめる。（個別学習→協働学習）	◎	○	○
2	前期：7 後期：12	・日本のスポーツ推進の歩み ・地域とスポーツクラブ ・諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう ・日本のスポーツライフの特徴 ・豊かなスポーツライフの創造のために	190～195	・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 ・自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげ、理解する。 ・欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史を調べ、理解する。 ・これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解する。。 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について、例をあげて説明ができる。	①では、生徒が日本の推進施策についてグループでGoogleスライドにまとめる。（協働学習） ②ではMetaMojiで課題を配布し、資料２を参考に地域が支えるスポーツ推進について考える。（個別学習） ③についてグループごとに調べる国を選び、スポーツをp推進する取り組みの歴史をGoogleスライドにまとめる。（協働学習） ④ではMetaMojiで課題を配布し、学校運動部についてどのようなものがあるか考える。また、Googleスライドに学校運動部をまとめ、共有する。（個別学習→協働学習） ⑤についてはMetaMojiで課題を配布し、豊かなスポーツライフの課題を考える。（個別学習）	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	保健①	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1．個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2．健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3．生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	現代社会と健康①	6～33	・さまざまな健康の考え方や健康を成り立たせている要因、わが国の健康水準の変化や健康問題について理解することができる。 ・生活習慣病の種類と要因について正しく理解した上で、適切な判断ができる。 ・がんの種類や原因、一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。 ・健康と運動の関係、運動の意義について理解することができる。 ・健康と休養の関係を理解した上で、適切な休養のとり方について正しい判断ができる。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害、喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解することができる。	・健康について各々の考えをclassroomやGoogleチャットを使用して共有すると良い。 ・ワークシートを用いて日常生活を振返り、具体的な改善策を考えられると良い。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の法律についての資料をclassroomを使用して共有する。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用について、誘われた時の断り方を考え、classroomやGoogleチャットを使用して共有すると良い。	◎	○	○
2	6 11	現代社会と健康②	36～55	・精神疾患を予防する方法、精神疾患の治療、精神疾患の適切な治療や回復のために、どのような社会環境が必要か説明できる。 ・感染症の予防対策、感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点、性感染症・エイズの予防とその対策について理解することができる。 ・意思決定・行動選択に影響を与える要因、健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 ・社会環境の健康への影響、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解することができる。	・ストレスチェックで自身の精神状態を確認する。 ・ストレス発散方法について、classroomやGoogleチャットを使用して共有すると良い。 ・近年流行した感染症について調べ、classroomやGoogleチャットを使用して共有すると良い。 ・意思決定・行動選択の場面を設定し、自身の意思決定・行動選択について振返る。 ・望ましくない習慣をやめる方法について考え、classroomを使用して共有すると良い。	◎	○	○
3	7 12	安全な社会生活	60～73	・事故の実態と被害の実態、事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて理解することができる。 ・安全のために必要な個人の行動、すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解することができる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備、交通事故における責任について説明できる。 ・応急手当の意義、傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解した上で、実際に日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。	・実際の交通事故事例をもとに、どんな対策ができるか考え、classroomやGoogleチャットを使用して共有すると良い。 ・テーピングや三角巾などを用いて応急手当を実践できると良い。 ・CPR練習用マネキンを用いて心肺蘇生の練習ができると良い。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	保健②	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1．個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2．健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3．生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	生涯を通じる健康①	76～91	・各ライフステージで活用できる社会からの支援について理解することができる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について正しく理解し、判断することができる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす要因について説明できる。 ・妊娠・出産期と健康について正しく理解し、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	classroomで課題を配布し、ライフステージごとの健康課題と社会からの支援を表にまとめられると良い。 P79の資料3を参考に自分の心理状態をGoogleスライドに書き込み、他者の意見と比較できると良い。 では2つ以上の都道府県で行われている母子健康サービスを調べてclassroomにまとめて、違いが共有できると良い。 家族の健康への責任にはどんな事があるかGoogleチャットで意見を共有できると良い。	◎	○	○
2	6 11	生涯を通じる健康② 健康を支える環境づくり①	92～107	・働き方の多様化や、健康問題の変化について説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 ・健康的な職業生活に必要な要素を理解することができる。 ・大気，水，土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解することができる。 ・産業廃棄物の処理や、上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	Googleスライドで自分が社長になったらどんな働き方ができる会社にしたいかをまとめ、授業で共有できると良い。 P95の考えてみようにあがっている事例を読み、安全管理、健康管理の面から改善策を考えられると良い。 P97資料2を参考に、どうすれば有給休暇の取得率を向上させる事ができるのかGoogleスライドを用いて具体的な例があげられると良い。 MetaMojiで課題を配布し、地球温暖化の問題について調べ、改善できる具体的な方法を考えられると良い。 安全でおいしい水を飲み続ける為に普段の生活で改善できる事を考え、Googleスライドにまとめられると良い。	◎	○	○
3	7 12	健康を支える環境づくり②	110～127	・食品の安全性を確保するための個人の役割について理解し、食物アレルギーについて説明できる。 ・食品衛生にかかわる活動について理解することができる。 ・さまざまな医療機関の役割や保健サービスについて説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。 ・さまざまな保健活動や行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。 ・健康に関する環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解することができる。	健康食品のポスターを取り上げ、誤解を与える点がないか意見を共有すると良い。 MetaMojiで課題を配布し、製造者の立場で消費者に安全性が伝わるパッケージデザインを考えると良い。 MetaMojiで課題を配布し、今まで医療機関にかかった際に困ったことをあげて、その際の対応方法について考えると良い。 MetaMojiで課題を配布し、医薬品の副作用と薬害の違いについて調べ、具体的な違いを記入すると良い。 健康日本21の目標を達成する為に、自身の住んでいる地域の取り組みをGoogleスライドにまとめ、共有できると良い。 MetaMojiで課題を配布し、膨大な健康情報のなかから実際に必要と思われる情報を収集してまとめると良い。	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	音楽Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。						
	音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。						
	音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。						
	中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。						
	音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
使用教科書・副教材等	教育出版「音楽Ⅰ　Tutti＋」（17教出　音Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	14～15 108～113 146 149	①音楽の楽典について理解する。 ②大譜表と音名について理解する。 ③西洋音楽史について理解する。 ④日本歌曲「この道」を通して、日本語の語感や言葉のリズムを感じる。 ⑤強弱記号について理解する。 ⑥各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	28～29 114～117 148～149	①音楽の楽典について理解する。。 ②西洋音楽史について理解する。言葉のリズムを　感じる。 ③強弱記号について理解する。 ④ドイツ歌曲「野ばら」を通して、旋律の動きやテンポの変化を感じる。 ⑤各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	12 22～23 106～107 147 149	①発声の仕組みについて理解する。 ②姿勢や声道と音色について理解する。 ③世界の様々な音楽の魅力や特徴を理解する。 ④カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」に使われている楽典を理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	楽典・「Danny boy」 （アイルランド民謡）	38 146～148	①音程について理解する。 ②音程を楽譜を見て表現できる。 ③アイルランド民謡「Danny boy」に用いられている和音について理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」（福島民謡）	46～47 49 96～99	①日本の民謡と芸能について理解する。 ②日本の音楽史について理解する。 ③福島県民謡「会津磐梯山」を聴き、コブシや囃子言葉などの民謡らしい表現を理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	6+E24:G41	83 110 118～119 149 151～152	①ピアノの進化と作品について理解する。 ②「交響曲第9番」などで使われている、ソナタ形式について理解する。 ③「L`inverno（冬）」を聴き、リコーダーやギターの合奏を感じる。 ④作曲されたバロック時代などの時代背景を理解する。	重要な点は資料にまとめてClassroomで共有するとよい。 楽曲の音源を準備し実際に聞けるように準備すること。 Google classroomを利用して、 ①アンケートの実施・グラフ化、 ②意見・感想共有などを実施できると良い。 感想共有はMetaMoJiを利用しても良い。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美術Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	美術Ⅰは美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。						
	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。						
	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本文教出版「高校生の美術1」（美Ⅰ-702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	「人物を描く」 自分を見つめて描こう	18-21、12・13、 24・25、130・131、 132-135、136・137、 138・139、140・ 141、 142・143	自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。	・水彩絵の具もしくはアクリル絵の具を基本に、自画像を描く。 ・時間数に余裕があれば鑑賞会を実施し、構図、表情、色彩の効果、絵の具のタッチ等について言葉で表現する機会を設ける。 ・直接対話＋Googleスライドやgoogleformを活用し、生徒の言葉を集め、本時または次時の授業にて共有する＝多様な価値観に触れあう指導をする。 ・相手の表現を受け入れ、認め合う雰囲気づくりを大切にする。 ※個別授業の場合は、自己を見つめる内省的な時間として対応する。	○	○	◎
2		「私の見付けた風景」 身近な風景を描こう	14-17、22・23、 136・137、 138・139、 140・141、142・143	身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、風景から感じ取ったよさや美しさなどを絵の具などの特性を生かして表す。	・学校周辺、教室、家など、身近な場所の風景画を制作する ・お互いの作品を鑑賞し感想を伝え合う経験を通して、他者の多様な価値観に触れる ・Googleチャット等を用いて、出席した生徒の意見を一気に集め、様々な他者の考えや価値観に触れ合う機会を多く持たせる。 ※個別授業の場合は、身近な風景を描き、その中で感じたよさや美しさを文章等にして表現させる。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	「ポスターで伝える」 メッセージを伝えるポスターをつくろう	72-75、68・69、 70・71、78・79、 80・81、130、131、 142・143、145、 149、150・151、 152-154	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起等を目的としたポスターを構想する。	・デジタルで制作する場合はGoogleスライドやPowerPointを使用する。 ・教員が大枠のテーマ設定をし（環境問題、校舎清掃、挨拶等）、テーマに応じたメッセージを伝えられるようなポスターを制作する。 ・制作したポスターを鑑賞し、ポスターから感じられるメッセージ性について等、対話や意見の書き込み機能を用いて共有する。 ※個別授業の場合は、構想したポスターにおけるメッセージについて文章などで表現する機会を設ける。	○	◎	◎
4		「サインのデザイン」 分かりやすい校内案内を デザインしよう	76・77、68・69、 70・71、78・79、 80・81、130、131、 142・143、145、 149、 150・151、152-154	伝達する内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、伝達の目的や意図に基づいて、マークやピクトグラムをデザインする。	・GoogleスライドやPowerPointを使用して、教員が大枠のテーマ設定をし（スポーツ、職業、地図記号等）、テーマに応じたメッセージを伝えられるようなマークやピクトグラムを制作する。 ・制作したマークやピクトグラムを鑑賞し、感想を共有する。 ・共有する中で、他者の作品に対し受容感をもって鑑賞し、他者の制作したマークやピクトグラムの意図を読み取ろうとする経験をできるとよい。 ※個別授業の場合は、マークやピクトグラムの目的や意図について記載させる。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	「キャラクターのデザイン」 マスコットキャラクターを デザインしよう	80・81、68・69、 70・71、76・77、 78・79、130、131、 142・143、145、 149、150・151、 152-154	伝えたい情報や使われる場面などを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝達したい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。	・教員が大枠のテーマ設定をし、テーマに沿ったキャラクターを制作する。 ・材料は生徒の特性に合わせて決定する。 ・デザインしたキャラクターをさまざまな媒体も用いて共有し、他者の価値観に触れる機会を設ける。 ※個別授業の場合は、デザインしたキャラクターの効果等について、文章等で表現する機会を設ける。	○	◎	○
6		「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	92-95、146	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。	・スマートフォンを準備させ、カメラ機能を利用して情景を撮影する。 ・撮影した画像をGoogleClassroomやGoogleドライブ、スライド等で集約し作品のデータベースを作成する（本時のみならず次時の授業教材としても活用する）。 ・撮影した作品を鑑賞する機会を設け感想を共有する中で、他者の作品のよいところを感じとる経験する。 ※個別授業の場合は、撮影した写真から自身が表現をしたかったイメージを文章等で記載させる。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	書道Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。						
	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。						
	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅰ」（書Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	書写から書道へ	2～9	①楷書の基本について理解する。 ②行書の基本について理解する。 ③筆・墨の種類や特徴をとらえる。 ④硯・紙の種類や特徴をとらえる。 ⑤基本の姿勢について理解する。 ⑥執筆法の種類や特徴をとらえる。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	漢字の書（楷書、行書）	12～37	①漢字の成立と変遷について理解する。 ②古典に基づく学習の流れについて理解する。 ③楷書の特長について理解する。 ④楷書の作品と作者について理解する。 ⑤作品を生み出した作者の人物像を理解する。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	漢字の書（行書）	38～58	①行書の特長について理解する。 ②王羲之について理解する。 ③行書の作品を知る。 ④蘭亭序について知り、使われている表現を理解する。 ⑤争坐位文稿について知り表現の特長を理解する。 ⑥風信帖ついて知り表現の特長を理解する。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	漢字の書（草書、隷書、篆書）	59～73	①草書の特長について理解する。 ②草書の作品を知る。 ③隷書の特長について理解する。 ④隷書の作品を知る。 ⑤篆書の特長について理解する。 ⑥篆書の作品について知る。 ⑦創作の手順を理解する。 ⑧古典を生かした創作を行う。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	○	◎
5	前期：7月 後期：12月	仮名の書	76～103	①仮名の成立について理解する。 ②仮名を書く準備について理解する。 ③仮名の表現の特長を理解する。 ④仮名で書かれた作品を知る。 ⑤平安時代の手本について理解する。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	漢字仮名交じりの書	112～138	①線による表現の広がりを天の川の作品を通して理解する。 ②自分が表現することを想像し、適切な方法を選択できる。 ③用具・用材による表現の違いを理解する。 ④紙面構成などによる表現の違いを理解する。 ⑤書を生活に広げて考え、場面や目的に沿った表現を理解する。 ⑥街や自分の身の回りに生かされている書を知る。 ⑦篆刻と落款について理解する。 ⑧落款印の作成方法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてClassroomで共有すると良い。 ・時間に余裕がある場合、学んだことを生かした創作を行えるとよい。 ・生徒の作品はデータベースのように回収し、他の生徒の作品例として見せることができると良い。 ・Dマイスター上の映像や学習用手本を参考に見せられるとよい。映像はグーグルドライブに保存し生徒に共有することでいつでも確認できるようにするとよい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	英語コミュニケーションⅠ	スクーリング回数	12	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠは、日常生活や旅行の場面、電話・メールでの表現など、様々なシーンを題材として、英語でのコミュニケーションにおける「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」という5つの領域を基礎から総合的に学習する。						
学習の到達目標	1．英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。						
	2．必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	3．基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物	20～35	・世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ・過去形の用法を理解する。 ・好きな食べ物について、英語で述べることができるようになる。 ・オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ・進行形：〈be動詞＋動詞の-ing形〉の用法を理解する。 ・好きな動物について、英語で述べることができるようになる。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	38～45	・被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 ・ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べることができるようになる。 ・助動詞can、 willを用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・本文に関連する災害について調べ、自分自身がどのように行動し、何ができるのか等、考えてみると良い。	○	○	◎
3	前期：5月 後期：10月	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	48～57	・海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 ・行ってみたい場所について、英語で述べることができる。 ・to不定詞〈to＋動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・様々なツールを活用し、日本以外の気になる国・地域について調べてみると良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	60～69	・高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。 ・将来の夢について、英語で述べることができる。 ・動名詞〈動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
5	前期：6月 後期：11月	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	78～87	・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチ。を通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ・好きな絵について、英語で述べることができるようになる。 ・受け身〈be動詞＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・浮世絵以外にも日本の文化、世界の文化を調べることで多角的に物事を考えさせると良い。	◎	○	○
6	前期：6月 後期：11月	Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク	88～97	・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。 ・関心のある人物について、英語で説明することができる。 ・比較表現〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・当時の時代背景を学び、自分なりの知見を広げさせると良い。	◎	○	○
7	前期：７月 後期：12月	Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ	98～107	・ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 ・人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。 ・現在完了形〈have[has]＋過去分詞〉の用法を理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
8	前期：７月 後期：12月	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	112～121	・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 ・環境を守るためにできることについて、英語で述べることができるようになる。 ・「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。	・環境問題にとどまらず、SDGsについて調べ、まとめてみると良い。	○	◎	○
9	前期：７月 後期：12月	Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	122～131	・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ・海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べることができるようになる。 ・関係代名詞who、 whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。	・当時の世界情勢などについて調べ、学習用端末にまとめる。まとめた記事はGoogle Classroom等でクラスメイトに共有、発表を行う。	○	◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	英語コミュニケーションⅡ	スクーリング回数	12	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠの学習内容を活用しながら、英語力のさらなる定着と向上を図る。日常生活や社会的な問題に関する対話やスピーチ、新聞記事や広告、論証文や報告文を題材として学ぶ。						
学習の到達目標	1．英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。						
	2．必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	3．基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅱ」（CⅡ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島	8～19	・イタリアのブラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について理解する。 ・関係代名詞：whatを用いた文の形・意味を理解する。 ・海外の観光地や行ってみたい場所やそこでやりたいことについて調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・海外の観光地について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。 ・国内、海外について調べ、国際的な視点を養うと良い。	◎	○	○
2		Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト	20～27	・曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のある音楽バンドについて学習する。 ・比較表現：more、the mostを用いた文の形・意味を理解する。 ・世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・世代を超えて人気のある音楽バンドについて、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
3		Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界	30～39	・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ・itの用法・文の形・意味を理解する。 ・身近な行事やお祭りについて調べ、その中から好きな行事やお祭りを選び、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ・好きな行事やお祭りについて、相手の意見を聞き理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
4		Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく	42～55	・世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文を用いた文の形・意味を理解する。 ・自分の好きな物語について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自分の好きな物語について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
5	前期：6月 後期：11月	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	56～67	・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 ・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解する。 ・日本の伝統文化について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・日本の伝統文化について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
6		Reading 1 Mujina	70～77	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ・本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。 ・情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
7		Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	78～91	・海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 ・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解する。 ・地元で有名な場所やものについて、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・地元で有名な場所やものについて、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
8	前期：7月 後期：12月	Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	92～105	・世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ・関係副詞：where、 whenを用いた文の形・意味を理解する。 ・世界の人々と交流する方法について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・世界の人々と交流する方法について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
9		Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	106～117	・自然界の動物や植物について、調べた事柄を用いて、素晴らしいと思った情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自然界の動物や植物で素晴らしいと思ったことについて、相手の意見を聞き、理解する。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について、相手が調べた情報を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎
10		Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	120～133	・チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ・使役動詞を用いた文の形・意味を理解する。 ・社会的な問題について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・社会的な問題について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
11		Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール	134～145	・療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ・分詞構文を用いた文の形・意味を理解する。 ・人を助ける職業について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ・人を助ける職業について、相手の意見を聞き、理解する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	◎	○
12		Reading 2	148～155	・本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ・本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ・本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。 ・情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	論理・表現Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	対話やディスカッション、スピーチ、ライティング等の言語活動を通して、これまで学習したことを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようになることを目指して学ぶ。						
学習の到達目標	1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。						
	2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。						
	3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	Unit1 Lesson2 道に迷う ・提案することができる。 ・依頼することができる。 ・道順を説明することができる。	20～23	・相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、物事を提案したり、依頼する表現を理解する。 ・相手にわかりやすく道順を説明する表現を理解する。 ・目的地まで道案内をする表現を練習する。 ・実際の場面を想定してペアワークを行う。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	Unit1 Lesson6 行ってみたい場所 ・希望を述べることができる。 ・理由を述べることができる。	44～49	・希望を述べる、理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・行ってみたい場所についてのエッセイを書く。	・学んだ知識を用いて、希望を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	Unit1 Lesson9 お気に入りを紹介 ・映画や本のあらすじを要約したり登場人物を紹介したりすることができる。 ・感想や批評を述べることができる。	62～67	・教科書をもとに、自身が選んだ本や映画をクラスに紹介するためのスピーチ原稿を作成する。 ・学んだ知識を用いて、映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	Unit1 Lesson12 英字新聞に投稿 ・要望や主張を述べることができる。 ・理由を述べることができる。	80～85	・学んだ知識を用いて、要望や主張を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・英字新聞記事を作成するにあたり、学校に対する要望を考え、その理由および補足を書く。	・教科書を参考にし、要望をtopic sentenceとして、英字新聞の記事を学習用端末上で完成させる。完成した記事をGoogle Classroom等で共有・発表する。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	Unit2 Lesson4 遊びやスポーツを紹介 ・ルールや手順を順序立てて説明することができる。 ・聞き手の知識に合わせて説明することができる。	106～111	・ルールや手順を順序立てて説明する、聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現の形・意味・用法を理解する。 ・現在完了形と過去形の用法を理解する。 ・スポーツを選び、そのルールについて説明する英文を作成する。	・自分自身でスポーツ等について調べ、学習用端末上でまとめる。まとめたないようなGoogle Classroom等でクラスメイトに共有する。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	Unit2 Lesson5 日本をPR ・事実と意見を区別して述べることができる。 ・文化や習慣を説明することができる。	112～117	・学んだ知識を用いて、事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ・世界にPRしたい日本の文化や習慣について、事実と意見を区別して表現する。	・重要な点は資料にまとめてGoogle Classroomで共有すると良い。 ・学んだ文法を使って英文を作成するような練習問題をGoogle ClassroomまたはMetaMoJiで配布し、取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローすると良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	家庭基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	人の一生と家族・家庭及び、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けることを目指す。家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策の構想から実践、評価など生涯を通して課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、地域の生活を創造することについて学ぶ。						
学習の到達目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて知る。						
	家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むための知識を得る。						
	生活を営むために必要な技能を身に付けるようとする姿勢を育む。						
	地域社会及び、家庭生活に参画するためのコミュニケーション能力を育む。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「家庭基礎　自立・共生・創造」2東書｜家基701						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	第1章　生涯を見通す 第2章　人生をつくる	12～37	・生涯発達の視点から、自身のステージの課題を知る ・自身の長所、短所を考えることで自己概念を理解する ・様々なライフコースを知ることで、人生設計の選択肢を増やす ・家族・家庭の意義とこれらに関する法律を知る	【導入】 ・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 【展開】 展開①重要な点をスライド等にまとめさせる。取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。（知識の整理） 展開②グループワークで意見交換を行うなど、学びを深めるためにコミュニケーションの機会を作る。（対話的な学び）	○	◎	○
2	5 10	第3章　子どもと共に育つ 第4章　超高齢社会を共に生きる	38～77	・子どもの発達と特徴を知り、保育者の責任について考える ・家族・社会で協力して家庭を築く重要性を感じる・法律を知る ・高齢社会の現状と高齢者の心身の変化や特徴を知る ・高齢社会における課題と、支援制度を知る、対策を考える	【導入】 ・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 【展開】 展開①重要な点をスライド等にまとめさせる。取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。（知識の整理）	◎	○	○
3	6 11	第5章　共に生き、共に支える 第6章　食生活をつくる	78～133	・多様な人々が生活する上での困難と解決策・施策を知る ・日本と、他国での社会保障の違いを知る ・社会生活を送る上で、自身にできる取り組みを考える ・食生活の課題を知り、自身の食生活を振り返る ・食品の栄養素を知り、食事の参考にする意識を養う ・食中毒や寄生虫病について理解し、安全な食生活の選択ができる ・食品添加物について知る	【導入】 ・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 【展開】 展開①重要な点をスライド等にまとめさせる。取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。（知識の整理） 展開②グループワークで意見交換を行うなど、学びを深めるためにコミュニケーションの機会を作る。（対話的な学び） ※バリアフリーやユニバーサルデザインについてクイズを交えながら事例を紹介すると良い （Googleフォームやカフートを活用すると良い）	○	○	◎
4	6 11	第6章　食生活をつくる 第7章　衣生活をつくる	86～163	・日本の食文化について知る ・食をめぐる問題と、その対策を知る ・SDGsの観点も含めて、自分にできる取り組みを考える ・被服の役割を理解する ・被服のデザインについて考え、TPOに合わせた選択ができるようになる ・被服の素材における特徴を知る ・被服の正しい手入れの方法を知り、生活に活かそうとする気持ちを養う	【導入】 ・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 【展開】 展開①重要な点をスライド等にまとめさせる。取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。（知識の整理） 展開②グループワークで意見交換を行うなど、学びを深めるためにコミュニケーションの機会を作る。（対話的な学び） ※寒冷地や熱帯地域の民族衣装とその特徴など ・社会慣習への順応において、冠婚葬祭における服装マナーを紹介すると良い（クイズ形式、Youtube動画等を活用することも可） ※染み抜きの方法について、知識にとどまらず実際に試させると良い （https://www.youtube.com/watch?v=BqAC4ttGZnM）	○	◎	○
5	7 12	第8章　住生活をつくる	164～182	・住居の機能と造りの移り変わりを家族形態やライフステージの視点から知る ・平面図について理解し、適切な住居の選択に活かす知識を学ぶ ・健康で安全な住まいのための施策を知る	・住居の機能と造りの移り変わりを家族形態やライフステージの視点から知る ・平面図について理解し、適切な住居の選択に活かす知識を学ぶ ・健康で安全な住まいのための施策を知る	◎	○	○
6	7 12	第9章　経済生活を営む 第10章　持続可能な生活を営む	184～213	・消費者としての注意点を知り、消費活動に役立てることができる ・購入・支払い方法の特徴を知り、留意して消費活動ができる ・お金の管理と運用について知り、自分のお金の管理に役立てられる ・今現在の消費社会における課題と施策について知る	【導入】 ・生徒同士の距離感を縮めるための、グループワークやレクリエーションを適宜行うと良い。 【展開】 展開①重要な点をスライド等にまとめさせる。取り組みの様子をタイムリーに確認し必要に応じて個別にフォローする。（知識の整理） 展開②グループワークで意見交換を行うなど、学びを深めるためにコミュニケーションの機会を作る。（対話的な学び） ※投資のシュミレーション・疑似体験を行うと良い 全国銀行協会HP https://www.zenginkyo.or.jp/education/ ※下記サイトを参考にし、グループで、SDGｓの目標について1つ選択し、今現在の抱える課題と、解	◎	○	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	情報Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	情報技術を適切に活用することを通して，情報を正しく理解すること，様々な情報を組み合わせて適切に活用すること，問題の発見・解決に繋げることについての知識を学ぶ。また，情報社会を生きる上で大切なコミュニケーションやプログラミングについても理解を深める。						
学習の到達目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする						
	(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う						
	(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編情報Ⅰ」（情Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	【1章】（理論編） 1 情報とメディアの特性	6～7	・情報の特性から，情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。	・「情報」とは何か，どんな特性があるかをしっかりと理解させるために，グループワーク等を通して，生徒同士で対話をする機会を設けるとよい。	◎	○	
		【1章】（理論編） 2 問題解決の流れ 3 発想法	8～11	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	・問題解決を行う際に，プロセスを意識すること，情報技術を活用することを紹介し，よりよい問題解決を行う力を育成ために，生徒に身近な事例を共有させ，それについてディスカッション等をさせるとよい。	○	◎	○
		【1章】（理論編） 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために	12～17	・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。	・知的財産や個人情報の扱いを含む，情報モラルについて，生徒に身近な事例を共有させ，主体的に学習に取り組ませるとよい。	◎	○	○
		【1章】（理論編） 7 著作権	18～19	・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	・知的財産や個人情報の扱いを含む，情報モラルについて，生徒に身近な事例を共有させ，主体的に学習に取り組ませるとよい。	◎	○	○
		【1章】（理論編） 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ	20～25	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	・情報技術の発展に伴う生活や社会の変化，新しく生まれた問題などを生徒に考えさせるとよい。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	【2章】（理論編） 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特徴	34～37	・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ・メディアの特性について学習する。 ・近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する。 ・ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性について学習する。	・適切な情報発信をしたり受け取った情報の信頼性を適切に判断したりする力を養うために，インターネット上でのコミュニケーションの特徴を，情報社会における問題と併せて考えさせるとよい。	○	◎	○
		【2章】（理論編） 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	38～41	・デジタルデータとは何か学習する。 ・デジタルデータのメリットとデメリットを理解する。 ・2進法と情報の単位について学習する。 ・文字のデジタル表現について学習する。	・情報をデジタル化することによって生まれる利点や，デジタル化する方法を，身近な事例をもとに体系的に学ばせるとよい。	◎	○	○
		【2章】（理論編） 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化	42～47	・音，画像，動画のデジタル化について学習する。 ・デジタルでの色の原理を理解する。 ・デジタル情報の品質の違いについて学習する。 ・データの圧縮について学習する。	・情報をデジタル化することによって生まれる利点や，デジタル化する方法を，身近な事例をもとに体系的に学ばせるとよい。	◎	○	○
		【2章】（理論編） 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	48～53	・情報デザインの基本的な理解を通して，抽象化，可視化，構造化を過程について学ぶ。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセス理解と活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	・ユニバーサルデザインを含む情報デザインについて，具体的な事例を交えて学ばせるとよい。 ・コンテンツを企画する力，評価や改善の方法を考える力を育成するために，プロセスを意識させながらコンテンツの制作を行うとよい。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	【3章】（理論編） 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み	62～65	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。	・コンピュータの構成と処理の仕組みについて，実際に機器を操作しながら学習を進めるとよい。	◎	○	○
		【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	66～69	・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方や処理のための基本的な回路について学習する。 ・アルゴリズムの必要性と表現方法について学習する。	・アルゴリズムをコンピュータが処理できるプログラムとして表現し，問題解決に役立つ技能が身に付くよう，実際にプログラミングソフトやゲームを使用しながら，プロセスやリカバリーを体験させるとよい。	○	◎	○
		【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	66～69	・プログラムの作り方について学習する。 ・プログラムの制御構造について学習する。		○	◎	○
		【3章】（理論編） 25 プログラムの基本構造1 26 プログラムの基本構造2 【巻末】 Scratch	70～73 186～187	・プログラムで制御構造を組み合わせる方法を学習する。 ・プログラムの配列とリストについて学習する。 ・簡易な対話プログラムを開発する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。	・アルゴリズムをコンピュータが処理できるプログラムとして表現し，問題解決に役立つ技能が身に付くよう，実際にプログラミングソフトやゲームを使用しながら，プロセスやリカバリーを体験させるとよい。	○	◎	○
		【3章】（理論編） 27 発展的なプログラム1 28 発展的なプログラム2 【巻末】 Python	74～77 176～177	・モデル化の考え方と，モデルの分類について学習する。 ・シミュレーションによるモデルの評価について学習する。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を学習する。 ・テーマを決めて，表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。	・シミュレーションでは，地球環境の変化のなど，モデル化とシミュレーションが有効活用されている例を取り上げ，グループワーク等を通して学習を進めるとよい。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	【4章】（理論編） 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント	90～95	・情報通信ネットワークとは何か学習する。 ・LANとWANの違いを学習する。 ・プロトコルと，その1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・ネットワークを構成するハードウェアについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。 ・インターネットでのIPアドレスとDNSの役割を学習する。 ・認証後に使えるようになるサービスには，どのようなものがあるか調べる。	・インターネットの構成，データをやりとりする仕組み，さまざまなサーバの働きなどを，身近な事例を取り上げ、体系化して学ばせるとよい。	◎	○	
		【4章】（理論編） 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ	96～99	・WWWについて理解する。 ・電子メールについて学習する。 ・情報セキュリティの機密性，完全性，可用性を理解する。 ・情報セキュリティを確保するための方法・技術について学習する。	・インターネットの構成，データをやりとりする仕組み，さまざまなサーバの働きなどを，身近な事例を取り上げ、体系化して学ばせるとよい。	○	◎	○
		【4章】（理論編） 36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル	100～105	・データとは何かを理解した上で、データの尺度について学習する。 ・データベースの役割がどのようなものか理解する。 ・社会でのデータベースの活用例を学習する。 ・データベースで使用するデータモデルについて学習する。 ・関係データベースを分析して、解釈する。	・データの種類や，データを収集，蓄積，分析，活用する方法を学び，社会のどのような場面で有効的に活用しているか，または活用することができるかを話し合わせると良い。	◎	○	○
		【4章】（理論編） 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用	106～109	・データ分析の流れと方法を学習する。 ・分析の目的に合わせたデータの利用方法を学習する。 ・適切なデータの解釈方法を学習する。	・データの種類や，データを収集，蓄積，分析，活用する方法を学び，社会のどのような場面で有効的に活用しているか，または活用することができるかを話し合わせると良い。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作①〈実習〉	150～151	・文書処理ソフトウェアについて，書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図，表，画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの基本的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
		【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作②〈実習〉	150～151	・文書処理ソフトウェアについて，書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図，表，画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの実践的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作〈実習〉	152～153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式や関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの実践的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎
		【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作〈実習〉	154～155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	・実習を通して，ソフトウェアの基本的な使い方を覚える。 ・生徒間で教え合えるような働きかけをするとよい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	医療事務IA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	・医療業界がおかれている現状や、医療に携わる各職種・仕事内容について理解を深める。 ・医療スタッフの基本的なマナーや考え方についても学ぶ。また、医療事務の職種ごとの仕事内容の違いや、一日の仕事の流れを知り、職業イメージを掴む。						
学習の到達目標	1.医療業界がおかれている現状を理解し、時代変化に対応できる思考力・判断力を身に付ける。						
	2.医療機関で働く方々の職種を十分に理解し、その業務内容について学び、社会的な見方や考え方を培う。						
	3.医療現場で必要とされる基本的マナーを理解することで、相手の立場に立って考え行動できる人間力を磨く。						
使用教科書・副教材等	日本医療事務協会「医療事務」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	1.医療業界を理解しよう ・医療業界の現状 ・医療従事者に求められる資質 ・医療業界のやりがい 2，医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場とは	6-17	・「国民皆保険制度」について知る ・医療業界の変化について理解する・調べる ・医療従事者に求められる資質、やりがいを学ぶ ・診療所と病院の違いを理解する	※第5回目のレポート内容では、医療業界を取り巻く現状について、生徒が一つ興味関心のあるテーマを選択し、探究する →第1回目の授業の中で、テーマの中から最近のニュースを一つ取り上げて問題提起をするとイメージがつきやすい。 ・「医療従事者に求められる資質ややりがい」については、各授業担当教員が、自身の医療現場や専門学校等での経験談をもとに話をするとよい。 ・Googleclassroom等を活用し、医療従事者からのインタビュー映像などを見られるようにするのもよい	◎	○	
2	前期：5月 後期：10月	2.医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の特徴 ・医療現場の職種と医療に携わる仕事	18－30	・様々な医療現場の種類や特徴を学ぶ。 ・自分の近所の医療機関やかかりつけ医が、どのような位置付けの施設なのか等、自分自身の生活と結び付けて理解する。 ・医療現場が様々な職種のスタッフで成り立っていることを理解する ・興味のある職種について更に自分で調べ、職業理解を深める	※第5・6回目のレポート内容での選択テーマで、医療現場の特徴や仕事内容について、詳しく調べ学習を行う	◎	○	
3	前期：5月 後期：10月	3，医療現場で必要なマナー ・マナーの5つのポイント 4，医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （初診受付・再診受付）	31－43	・医療機関におけるマナーと、一般的なマナーの違いを理解する ・自分の通院したことのある医療機関の患者接遇と比較し、患者の立場、医療従事者、両者の立場で接遇について考える ・医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ・初診受付業務、再診受付業務の流れを理解する。 ・病院受診時に見たことがある「保険証」・「問診票」について理解、関心を深める。	・Metamojiclassroom等を使い、医療機関での接遇マナーと一般マナーについて対比シート等で考えさせても良い ・自分の保険証を確認させて、教科書記載内容と照らし合わせてみる	◎	○	
4	前期：6月 後期：11月	4，医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （会計業務・案内業務・レセプト業務 クラーク業務・秘書業務・診療情報管理士 調剤薬局事務・歯科医院事務） ・医療事務員の一日の流れ	44－60	・医療事務の多岐に渡る仕事内容・職種を知り、職業理解を深める ・組織には様々な役割の人がおり、それぞれが連携することで機能することを理解する。多職種の医療事務を通じて社会的視野を広げる ・医療事務について興味関心を深め、自分で職業について更に調べる	※第6回目のレポート内容での選択テーマで、医療事務の仕事内容について取り扱う生徒もいる	◎	○	
5	前期：6月 後期：11月	【医療業界を取り巻く環境や考え方の変化】 第1章で扱った内容を中心に、自分が気になるテーマを1つ決めて探究する。	6－9	【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 ・以下から興味関心のあるテーマを自分で選択する ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める 例 ①「国民皆保険制度」日本と海外の医療保険制度の違い ②患者中心の医療 ③チーム医療 ④手術・技術の進化 ⑤医薬分業 ⑥病院のデジタル化推進（電子カルテ・オンライン診療） ⑦マイナ保険証 ⑧高齢化社会と医療	・授業の冒頭でテーマの中から１つの最新ニュースを見せ、教員から問題提起するとよい ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める		○	◎
6	前期：6月 後期：11月	【医療現場と医療の仕事を知ろう】 第2章で取り扱った内容をもとに、自分の実生活や将来と絡めながら学びを深める ・医療現場とは （主な医療現場・医療現場の特徴） ・医療の現場の職種と仕事内容	16－30	【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 A：医療現場とは（主な医療現場・医療現場の特徴） ・自分が住んでいる地域の医療現場について調べることで、診療所・病院の特徴を具体的に理解する ・自分の地域の医療体制・病診連携等を理解することで、より身近に医療事務を感じ教科としての学びを現実と結び付けて捉えられるようにする B:医療の現場の職種と仕事内容 ・教科書に記載のある職業から1つ選び、職業についてより深く調べまとめる ・仕事内容や資格等を調べることで、将来の選択肢を広げ社会に興味関心を持つ ※医療事務については第4章を参考に探究してもよい	A：医療現場とは ・インターネットで自分の地域にクリニック、病院（各種）がどのくらいあり、最寄り病院が地域でどのような機能を担っているのか調べる。各医療機関のホームページ等を参考にしてもよい ・実際に近所を散策し、写真等を組み込みながらまとめても良い ・グーグルマップやストリートビューなどを使って地域の医療現場を調べても良い ・地域特性があれば担当教員から授業中やGoogleclassroom等で補足する B：医療の現場の職種と仕事内容 ・インターネットで該当職業を一つ選び、仕事内容ややりがい、どうすればその職業に就けるかを調べてさせもよい ・身近な知り合いで医療現場従事者がいれば、実際にインタビューをさせることも効果的 ・近くに姉妹校の医療系専門学校がある場合は、連携することも一つの手段		◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	医療事務IB	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	医療保険の仕組みを理解し、日常生活の医療と結び付けて考えられるようにする。簡単なカルテの見方を理解し、医療費の計算を行う。また、医療現場で想定される患者対応のケースと対処法など医療接遇・マナーについても考える。						
学習の到達目標	1. 医療保険や医療費の仕組みを学び、社会的な見方や考え方を培う。						
	2. 医療費の簡単な計算方法を理解し、思考力・判断力を身に付ける。						
	3. ケースワークを通して医療接遇を学び、相手の立場に立って自分で考え行動できる人間力を磨く。						
使用教科書・副教材等	日本医療事務協会「医療事務」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	5，医療保険の仕組みを知ろう ・診療の流れ、仕組み	62-76	・診療報酬の仕組みを理解する ・医療保険制度の概要と保険の種類を学ぶ ・マイナ保険証について知識を深める ・患者の立場から受付～会計までの医療事務員の仕事を理解する ・診療報酬点数表の基本を学ぶ	・四者の関係を図解等を使って説明しながら、保険制度の仕組みを理解させる。 保険料や受診までの流れがイメージできるよう、矢印やイラストパネルを準備し説明すると理解させやすい。 ・実際に医療機関でもらっている領収書を持参させるか、教員が持参し、医療現場の点数と教科書の内容が一致することを認識させて説明すると良い。	◎	○	
2	前期：5月 後期：10月	6，医療費について知ろう	77-92	・初診料、再診料の違いが理解できる ・カルテを見て略語などの意味が理解できる ・電卓の使い方や理解できる ・五捨五超入を理解し、電卓を使用して簡単な薬価計算ができる	・初診料・再診料の理解については教科書P85・86の例のようにいくつか簡単な事例を提示して板書説明を行うと良い。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	6，医療費について知ろう	73.93-104	・点数表と条件を見て、初診料、再診料の算定ができるようにする ・カルテを読み取り、どんな処方を受けたか理解することができる ・カルテの処方内容から薬価計算を行い、各点数を算定することができる	・初診料・再診料については、P97の点数一覧表の見方や、加算について説明を行ったうえで、複数の事例を出して進める。 ・最初は加算等のないものから、徐々に各加算の問題を出題するとより理解しやすい。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	7，医療事務スタッフの接遇について学ぼう ・尊敬語・謙譲語・丁寧語 ・挨拶と声掛けの言葉 ・よく使う言葉遣いを言い換えてみよう ・電話対応、メモの取り方	105-116	・医療機関でのホスピタリティについて具体的な表現方法を学ぶ ・相手の立場に応じた名前の呼び方（敬語や謙譲語の使い分け）を学ぶ ・尊敬語や謙譲語、丁寧語などを相手ごとに使い分けられる ・日常の言葉遣いから、患者向けの言葉遣いに言い換えができる ・電話対応の基本マナーとメモの取り方などを理解できる ・クッション言葉を学び、相手に不快感を与えない対応を学ぶ	・医療スタッフの接遇については、クイズ形式や教員が実演する等してより具体的に名前の呼び方等をイメージさせると良い。 ・アルバイト等をしている生徒がいれば、普段使用している接客用語と医療機関で使用する接遇用語の違いを比較しながら進めると医療機関の特徴がより理解しやすくなる。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	7，医療事務スタッフの接遇について学ぼう ・こんなときどうする？	113-114	・医療機関で想定される患者対応ケースをイメージできる 【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 ・様々なケースを想定し、自分が患者対応をする際の会話をシミュレーションする	・教科書だけでなく、様々な情報源を活用して進めるように促す。 ・インターネットを使用する場合は、テーマをそのまま検索させるのではなく、高齢者の配慮（特徴）や他業界でのクレーム対応の事例など、多様な角度から情報検索を行い、まとめて自分の言葉で表現するよう指示すると良い。		◎	○
6	前期：7月 後期：12月	【医療事務スタッフの接遇について学ぼう】 第７章で取り扱った内容をもとに、「ホスピタリティ」について調べ、相手の立場に立つことの重要性を考える	115-116	【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 ・今後の社会や時代を想定し、求められる医療機関でのホスピタリティについて考える ・患者第一の取り組みを行っている医療機関と、具体的な取り組み内容、その効果等について調べる。（自分が行ったことのある医療機関や、ニュースやインターネット等で知った医療機関）	・レポートテーマの中で「今までに自分が医療機関で受けた接遇を思い出し、好印象だった事例とそのように感じた理由」については、医療事務を学んだ知識や、自分が調べた内容も踏まえて客観的に記入するよう指示する。（単に思い出を書くだけに留まらないような促しを行う）		○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	福祉IA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	みんながより良い暮らしができるように活動することすべてが「福祉」であり、「福祉」とは何か、基本となる考え方から人々の暮らしを守る社会保障制度や「福祉」に関連する職業について学びます。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	福祉（日本教育クリエイト）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	福祉とは何か	10～11	福祉という言葉の意味や福祉の考え方について知識を習得する。 社会保障について知識を習得する。□	・使用する資料や課題は事前にGoogleClassroomに共有をしておく。 ・学習のねらいに沿って、興味や関心を持った点を深掘りし、探究的学習へ繋げることも可能 ・生徒同士で学んだ内容をシェアするなどの協働的学習も取り入れること （シェアの方法は口頭による発表、Googleスライドへの入力、MetaMoJiのシートへの書き込み等のそれぞれの特性を総合的に鑑み、授業者が判断を行う）	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	バリアフリーについて考える 暮らしを守る社会保障制度	84～88 14	バリアフリーについて知識を深め、福祉の意識を高める。 社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療、公衆衛生について知識を習得する。		◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	社会保障制度の現状と今後	15～25	社会保障制度をめぐる環境の変化、社会保障制度の課題について知識を習得する。 また、自分達の暮らす社会で課題に対応するためにどのようなことが求められているのか知る。		○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	福祉に携わる専門職について	28～35	福祉に携わる職業とはどんなものがあるのか、またどんな仕事内容なのかという知識の習得をする。		◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「日常生活の中で、どんな工夫があるとより暮らしやすくなるのか」 例）探究・発表「福祉に携わる職業についてより具体的に学ぶ」 例）探究・発表「私が考える新しい社会保険制度」	気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。 学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「日常生活の中で、どんな工夫があるとより暮らしやすくなるのか」 例）探究・発表「福祉に携わる職業についてより具体的に学ぶ」 例）探究・発表「私が考える新しい社会保険制度」		○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	福祉IB	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	高齢者、障害について理解を深め、支援や介護について知り、私たちの身の回りにある「福祉」を広く学ぶことで、制度やサービスだけではなく、自分にもできることを考えるきっかけになります。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	福祉（日本教育クリエイト）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	高齢者の理解を深めよう	38～46	高齢者の心身の変化や疾患について学び、高齢者支援に大切なことを考える。	・使用する資料や課題は事前にGoogleClassroomに共有をしておく。 ・学習のねらいに沿って、興味や関心を持った点を深掘りし、探究的学習へ繋げることも可能 ・生徒同士で学んだ内容をシェアするなどの協働的学習も取り入れること （シェアの方法は口頭による発表、Googleスライドへの入力、MetaMoJiのシートへの書き込み等のそれぞれの特性を総合的に鑑み、授業者が判断を行う）	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	障害の理解を深めよう	48～62	障害の種類や特徴を学び、障害のある方の支援で大切なことを考える。		○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	自立支援について セラピーについて	64～65 81～84	自立支援とは何かを学び、なぜ必要なのかを考える。 セラピーについて知識の習得をする。		◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	介護のきほんについて ボランティアについて	68～75 78～79	介護のきほんについて知識の習得をする。 ボランティアについて学び、自分でどんなことができるかを考える。		◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	–	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例）探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例）探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」	気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	–	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例）探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例）探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例）探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	健康スポーツⅠA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	6
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	「健康とは?」「スポーツとは?」「スポーツ業界とは何か?」ということを、健康スポーツという学問を入口から広く学ぶ。さらに「スポーツ業界の仕事（プロスポーツ、スポーツメーカー、ショップ、メディア、イベント、トレーナーなど）」についても紹介しており、スポーツ業界への興味関心を広げる内容である。						
学習の到達目標	健康の定義について理解し、関連する健康づくりについて幅広い知識と教養を身に付ける。						
	プロスポーツチーム、スポーツメーカー、スポーツショップの仕事や職種について学び、将来に対する理解を深める。						
	スポーツイベント（オリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、甲子園）の歴史的背景や影響力、スポーツ業界への効果を学ぶ。						
使用教科書・副教材等	株式会社日本教育クリエイト「健康スポーツ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	健康とスポーツについて知ろう	12～15	健康の定義、健康がどんなものか説明することができる。	・運動はアスリートだけではなく、子どもから高齢者まで体力を維持・増進し、活力ある日常生活を送る上で大切であることが理解できるといい。 ※自身の体験談など踏まえ、具体例を出すとより興味関心を惹きやすい。	○	◎	○
2		プロスポーツチームについて知ろう	22～25	・プロスポーツチームの運営と役割を学ぶ ・プロスポーツチームの組織運営やチーム作りについて理解し、さまざまな職業や役割がどうチームの成功に貢献しているかを知る	プロスポーツチームの「強化部門」と「運営部門」に分かれて、どのような仕事が行われているかを調べる。具体的には、特定のチームや競技をモデルに監督や選手の役割、スポンサー企業、広報活動、グッズ販売など、プロスポーツチームの仕事を調べ、チーム運営における重要な要素を発表する。	○	○	◎
3	6 11	スポーツメーカーについて知ろう	28～32	・スポーツメーカーの仕事・売上について学ぶ ・スポーツメーカーの競争や企業を理解し、スポーツ業界がどのように世界的な市場で影響力を持っているかを学ぶ。	ナイキやアディダス、アシックスなどの主要なスポーツメーカーがどのように成長し、世界市場で競争しているのか。また、2020年の新型コロナウィルスの影響を受けたスポーツ業界やメーカーの売上の変動についても掘り下げると変化がよりわかりやすい。日本のスポーツメーカー（アシックスやミズノ）が世界市場でどのような位置にいるのかも重要である。	○	◎	○
4		スポーツイベントについて知ろう	46～49	・オリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、夏の甲子園について ・イベントの発祥と発展について説明ができる。	参考 ・FIFA公式サイト ・動画学習（サッカーの歴史） https://www.youtube.com/watch?v=o8qBUmbB6uA&t=470s ・ラグビーワールドカップ公式サイト https://www.world.rugby/news/637788/crecimiento-del-torneo ・オールブラックス　ハカ（映像学習用） https://www.youtube.com/watch?v=zUuTPZn8bZs ・日本高校野球連盟　公式サイト ・夏の甲子園歴史う（映像学習用） https://www.youtube.com/watch?v=6YoP7oJWJLU	◎	○	○
5	7 12	【個人探究】	―	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例）新しいスポーツ用品をデザインしてみる。 ・既存ブランドまたは新規でコンセプト・ターゲットを決めて新しい商品を考え、市場のニーズや発想力を育む。	―	○	○	◎
6		【個人探究】	―	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例）新しいスポーツ用品をデザインしてみる。 ・既存ブランドまたは新規でコンセプト・ターゲットを決めて新しい商品を考え、市場のニーズや発想力を育む。	―	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	健康スポーツⅠB	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	スポーツ業界でメジャーである職種の「スポーツトレーナー」「スポーツインストラクター」について理解を深める。またスポーツ業界のやりがいやスポーツ従事者に求める資質などより具体的に将来像をイメージする。						
学習の到達目標	スポーツトレーナー・インストラクター・コーチの職種の理解を深め、スポーツ業界での就業意欲を高める。						
	リラクゼーション（もみほぐし・ストレッチ）について理解をし、概要やスキルについて伝達することができる。						
	普段の生活で使えるスポーツの知識を理解し、日常生活に活用ができるようになる。						
使用教科書・副教材等	株式会社日本教育クリエイト「健康スポーツ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5 10	スポーツトレーナーについて知ろう	62～69	・アスレティックトレーナーの役割や仕事内容について理解を深め、スポーツにおける健康管理やケガの予防について学ぶ。 ・パーソナルトレーナーの仕事内容を理解し、 健康維持やダイエット、 体力づくりにおけるトレーニング方法を学ぶ。 ・栄養トレーナーの役割や仕事内容、健康維持やスポーツパフォーマンス向上のために必要な栄養管理について学ぶ。 ・高齢者運動指導員の役割や仕事内容、高齢者に向けた運動指導の重要性について理解を深め、健康維持にどのように寄与できるかを学ぶ。	・アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、栄養トレーナー、高齢者指導員の違いを理解し、それぞれの仕事の特性を比較して学ぶ。 ・それぞれの職業がどのような場面で求められているのか、具体的な事例を調べる。	◎	○	○
2		コーチについて知ろう	80～85	・コーチとは 誰を対象にどんな職業なのか理解する。 - サッカーコーチとは ・テニスコーチとは ・スイミングコーチとは コーチの役割やスキルについて理解を深め、実際のコーチ業務における必要な知識や技術、マネジメント力を学ぶ。	参考 語源：ハンガリーの「コチ（kocsi）」 → 馬車 → 目的地に導く役割 コーチングとティーチングの違い	○	◎	○
3	6 11	ボディリラクゼーションについて知ろう	92～95	・ボディリラクゼーションについて知ろう もみほぐしの基本的な概念を学ぶ	・ボディリラクゼーションの定義、種類について理解する。 ※俗に言うマッサージは国家資格のため別のものということを理解する。	◎	○	○
4		普段の生活で使えるスポーツの知識	98～105	・ウォーミングアップ ウォーミングアップの重要性について理解する ・アイシング アイシングの効果と方法を理解する ・テーピング テーピングの実践と重要性を学ぶ ・メンタルトレーニング メンタルトレーニングの効果について学ぶ ・睡眠 睡眠の重要性とスポーツパフォーマンスへの影響について学ぶ ・トレーニング 有酸素性運動と無酸素性運動の違い・効果を学ぶ	参考（アイシングの場合）※その他は3DAY版を確認 ・アイシングの目的（運動後の筋肉の回復を促進） ・アイシングの方法（氷やアイスパックを15～20分当てる、休憩後に再度行う） ・アイシングの冷却時間の重要性と過度な冷却のリスク（凍傷） ・実践推奨　アイスパックや氷嚢を使用し、バンテージや布があれば圧迫も実践してみる。	○	○	◎
5	7 12	【個人探究】	—	これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例）・テーピング テーピングの実践と重要性を学ぶ	・テーピングの用途（外傷予防、応急処置）。 ・適切なテープ選びと使用方法 ・テーピングがケガ予防にどのように役立つか。 ・実践推奨　足関節が症例として多いが、簡易的な手首や突き指のテーピングなどを実施。	○	○	◎
6		【個人探究】	—	これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例）テーピング テーピングの実践と重要性を学ぶ	・テーピングの用途（外傷予防、応急処置）。 ・適切なテープ選びと使用方法 ・テーピングがケガ予防にどのように役立つか。 実践推奨　足関節が症例として多いが、簡易的な手首や突き指のテーピングなどを実施。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美容ＩA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	・ヘア・メイク分野に関する教養を身につける。						
学習の到達目標	・ヘア・メイクに関する知識を身につける。						
	・身に着けた知識を実技に活かすことができる。						
	・状況に応じた施術ができるようにする。						
使用教科書・副教材等	高橋書店「あなたの美を引き出す正しいヘア＆メイク事典」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	【基礎】 ・ベースメイク ・目元のメイク	12-84	・ベースメイクの基本を正しく理解する。 ・工夫のポイントを整理する。 ・仕上がりの違いや印象について考察する。 ・必要な道具を想像し、再現をする方法を理解する。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。 ・GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）	◎	○	○
2		【考察】 ・眉と目元メイクの考察 【基礎】 ・メイクを直す際の注意点とポイント ・リップメイク ・実技学習 【探究学習】 ・シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	85-153	・仕上がりの違いや印象について考察する。 ・メイクを修正するためのポイントを理解し、他者に説明が出来る力を身につける。 ・リップメイクの特徴を正しく理解する。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・アイテムによる仕上がりの違い、メリット・デメリットを表にしてまとめると良い。 ・ペアワークを通してシミュレーションを行い、お互いでフィードバックも行えると良い。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	【考察】 ・自身のヘアスタイルや過去のアレンジ経験を振り返る ・ヘアの変化やダメージ 【探究学習】 ・シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	154-200	・イメージを具体化し、アレンジに対する理解を深める。 ・ヘアの変化やダメージに関する正しい理解を行う。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	・イベントごとのヘアスタイル、流行りのヘアスタイルなどを写真から振り返りできると良い。 ・ペアワークを通してシミュレーションを行い、お互いでフィードバックも行えると良い。	○	◎	○
4		【基礎】 ・シャンプーの意味について ・トリートメントの意味について ・ヘアの変化による印象の違い① ・ヘアの変化による印象の違い② ・実技・実習活動	154-200	・シャンプーの効果や方法について理解する。 ・トリートメントの効果や方法について理解する。 ・仕上がりの違いや印象について考察する。 ・ヘアに関する知識を用いて、相談に対して適切なアドバイスが出来るようにする。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。 ・GoogleClassroomやMetaMoJiにて資料等を共有することで、時と場所を選ばず学習内容を確認することが可能（デザイン作成時等、紙配布が必要なケースのみ印刷を行うこと）	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	-	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「メイクが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したメイク作品とその理由」 例）探究・発表「メイク創作活動（個人作品）」	学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨	○	○	◎
6		【課題探究】 グループ探究	-	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすメイク作品を考えよう」 例）探究・発表「メイクの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「メイク創作活動（グループ作品）」	・可能であれば発表まで行う。 ・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。 ・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	美容ＩＣ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	・ネイルに関する基礎的な教養を身につける。						
学習の到達目標	・ネイルの正しい知識を知り、自己や他者の生活に「潤い」や「彩り」を与えることができる力を身につける。						
	・探究的な視点を持ち、適切なアドバイスが出来るようになる。						
	・実技を通して、器具や薬品の安全な取り扱いについて理解を深める。						
使用教科書・副教材等	ソーテック「『セルフジェルネイル教室』nailstepsリップ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	【基礎】 ・ネイルアレンジ、自分の爪をよく見てみよう ・ジェルネイルについて ・ファイル、ウッドスティックについて	5-12、77	・自身の爪を観察し、特徴を理解する。 ・ケアやアレンジ関して興味を持つ。 ・ジェルネイルに対する正しい理解をする。 ・ファイル、ウッドスティックに対する正しい理解をする。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。 ・MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	○
2		【基礎】 ・ネイルケアについて ・ウェットステリライザーの作り方、キューティクルニッパーのお手入れ ・ネイルの形状と構造について	5-12、77	・ネイルケアがもたらす効果を理解する。 ・他者に与える印象について考察する。 ・ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する理解を深める。 ・形状を比較し、特徴を理解する。 ・爪の各構造を理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。 ・MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	【基礎】 ・ネイルケアについて ・ウェットステリライザーの作り方 ・キューティクルニッパーのお手入れ ・ネイルの形状と構造について	13-22	・ネイルケアがもたらす効果を理解する。 ・他者に与える印象について考察する。 ・ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する理解を深める。 ・形状を比較し、特徴を理解する。 ・爪の各構造を理解する。	・気づきやまとめをGoogleスライドやMetaMoJi内にワークシートを格納し、記入させる工夫をする。 ・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ・Googleスライドの場合は、協働編集を行うために、事前にGoogleClassroomから配布をすると良い。 ・MetaMoJiは適宜モードを切り替えて活用する。	◎	○	○
4		【基礎・探究】 ・ドライケアについて ・ウォーターケアについて ・ジェルネイルの道具・工程について ・筆の活用とお手入れについて 【探究学習】 ・シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	23-38	・ドライケアとウォーターケアの違いを理解する。 ・それぞれの特徴を基に、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 ・道具に対する理解を深め、場面に応じた適切な活用ができるようになる。 ・これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨 ・可能であれば発表まで行う。 ・ペアでシミュレーション活動をし、フィードバックまで行う。	○	○	◎
5	前期：7月 後期：12月	【考察】 ・ジェルネイル作成上の注意点 【探究学習】 ・シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」 【基礎】 ・ネイルオフについて	40-79	・想像力を働かせながら、ネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。 ・相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 ・安全に施術を行うための知識を理解する。	・作成手順に沿って注意点を考察する。 ・ペアでシミュレーション活動をし、フィードバックまで行う。	○	◎	○
6		【課題探究】 ・個人探究 ・グループ探究	ー	・これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、探究を行い単元に対する理解を深める。 【個人探究】 例）探究・発表「ネイルが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したネイル作品とその理由」 例）探究・発表「ネイル創作活動（個人作品）」 【グループ探究】 例）探究・発表「他者の心を動かすネイル作品を考えよう」 例）探究・発表「ネイルの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「ネイル創作活動（グループ作品）」	・学びの成果を整理するために、のちの共有（アウトプット）する機会を見越して資料のまとめ方を具体的に提示する。 ※Google系ツールやMetaMoJi活用推奨 ・可能であれば発表まで行う。 ・発表ルール（話し方、聞き方）の説明を行う。 ・発表後の感想や評価をGoogleフォーム等で回収し、分析やフィードバックを行うと良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	こども ＩA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	保育士、幼稚園教諭になる方法や幼児教育に関わる仕事内容を理解し、また資格取得方法について学ぶ。						
学習の到達目標	保育所と幼稚園の違いを理解し、幼保一元化の背景と今後について考察出来る力をつける。						
	保育士・幼稚園教諭の資格取得方法とその流れについて理解し、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
	保育士・幼稚園教諭・福祉施設職員の役割や仕事内容について知り、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
使用教科書・副教材等	日本実業出版社「保育の仕事がわかる本」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1		保育所と幼稚園の違いを知る 認定こども園が出来た背景について考察する	10-11 18-19	・保育所と幼稚園のそれぞれの目的をもとに行われている活動や特徴を理解する ・社会の変遷や人々の暮らしの変化と共に、認定こども園の必要性や制度の新設が行われたことを理解し、自己で考察出来るようになる。	生徒自身がどんな園に通っていたか発問し、グループで共有し各園毎の制度や取り組みやの違いを実感させる。 レポート内容に沿って保育所と幼稚園の違いを説明。管轄や目的が異なるからこそ、活動内容も異なってくることを伝える。 認定こども園の特徴について説明した後に、『なぜ認定こども園が出来たのか』調べ学習をさせる。その際、Googleスライドや𝕄etaMoJiclassroomを使用し、まとめ、完成後発表させる。 ※人々の働き方や出生率、女性の社会進出等様々な変化と共に保育教育業界も変化し続けていくことをおさえる。 ※調べ発表した後にお互いの考えや感じた点などまで共有出来れば尚良い。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	保育士資格取得方法とその流れを理解する	42-45 52-53	・保育士資格を取得する2つのルートと内容、難易度について理解する ・実際の保育士養成校について知る	保育士資格が国家資格であること、資格取得保持者でないと働く場所が限られることを説明。 また、保育士は専門的知識・技術・倫理観を持って子どもの育ちを支える専門職であることを説明。 その上で保育士に求められる資質は何か生徒に発問し、MetaMoJiclassroomにて共同学習を行う。（全員で書き込んでいく方式） 必要な資質を学ぶために進学と一般試験とルートがあることを伝えた上で、それぞれの特徴を伝える。 ・進学すると実践的な授業や実習が必須である ＊一般受験では一次二次と全ての科目を合格しないといけないこと 生徒を下記のグループに分け、特徴や学習内容をGoogleスライドにまとめさせ、その後発表を行う。 ・4年制大学　・短期大学　・専門学校 時間があれば保育士試験過去問を解いてみる。（保育士試験HPよりDL可能）	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	保育士の保護者や関係機関の連携について学ぶ 福祉施設の理解を深める	72-73 84-85 86-117	・保育士は子どもだけでなく、保護者支援が年々必要になってきていることとその理由について考察する ・『小1プロブレム』が起きないよう子どもたちの育ちを連続していくための小学校との連携の大切さを理解する ・各福祉施設について理解を深める	保育士の仕事は子どもの育ちを支援していくことだがその先にいる保護者にフォーカスしていく。 生徒に『保護者の悩みは具体的にどういうものが考えられるか』を発問し、ペアやグループで考え発表する。 その悩みや不安を解消する手助けをする役割も保育士の大きな仕事であることを伝える。また、保護者支援の大切さが昨今特に叫ばれている現実を伝え、それが何故なのか再度考えさせる。 また小学校との連携が必要な背景として問題視されている『小1プロブレム』について𝕄etaMoJiclassroomにて共同学習を行う。（全員で書き込んでいく方式） 多くの家庭や社会の課題を解消する為に様々な福祉施設があることを説明し、実際にある福祉施設を調べGoogleスライドにまとめ発表する。	○	◎	○
4		幼稚園教諭の役割と仕事について知る	144-153	・幼稚園において各園の教育方針がありそれに沿った活動や教育が行われていることを知る。 ・「園児のバス置き去り事故」について考え対策について考察する ・自身の教育観について考察する	幼稚園には各園によってはっきりとした教育理念があることを伝え、いくつか実際の園のHP等を紹介する。 ※仏教やキリストなどの宗教、モンテッソーリ教育やシュタイナー教育、体育や食育、音楽など特色のある園を紹介する。 生徒の通っていた園でも共通点があるか等キャッチボールのように進めていく。 レポート課題でもある「園児のバス置き去り事故」の解決方法について、自己の考えを𝕄etaMoJiclassroomにて書き込み全体で共有する。 その後、実際の園が対策している内容を調べさせ𝕄etaMoJiclassroomに全員で書き込んでいく。 その後、「自分が園長ならどんな教育理念でどんな目的を持ってどんな活動をさせていきたいか」考えさせ、Googleスライドにて意見をまとめさせ発表を行う。	○	◎	○

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5	前期：7月 後期：12月	幼児期の教育 折り紙について調べ学習	70	・幼児の遊びの重要性について学び、季節による製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	遊びのひとつ「折り紙」ではどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「折り紙製作」の指導として、子どもに向けた折り方指導について課題を提示する。 ・「季節」について、テーマをひとつ決めて答えさせる。 ・選んだテーマに沿った折り紙を1作品選び、タイトルを答えさせる。 ・折り方手順を実際に作成、作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ※もしくは校内掲示等出来るように色画用紙などに貼り付け、実際の園のように壁面制作としても良い。個人作品でも共同作品としてまとめても良い。 ※作品選びの参考にインターネットで「おりがみくらぶ」を検索して使用しても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	○	◎
6		幼児期の教育 廃材を使った玩具について学び製作する	70	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・ 事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・ 完成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。 ※事前に好きな廃材を選んで生徒自身に持参させて好きな作品を製作させても良い。 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	こどもＩＢ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	年齢ごとの発達と保育のポイントについて理解し、年齢に応じた遊びや応答について学ぶ。						
学習の到達目標	乳児期の発達の様子と保育のポイントについて理解し、子ども達が次の年齢に円滑に移行出来るよう未来の姿を見通せる力をつける。						
	幼児期の発達の様子と保育のポイントについて理解し、子ども達が次の年齢に円滑に移行出来るよう未来の姿を見通せる力をつける。						
	発達に適した環境や関わり方について理解し、子どもの様子に合わせて臨機応変に判断・対応出来る力を身につける。						
使用教科書・副教材等	学研「0歳～6歳　子どもの発達と保育の本」第2版						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	0歳児の発達と保育のポイントについて 理解を深める	6～21	・0歳児の生理的、運動的発達について理解する。 ・0歳児の社会性や周囲の大人との関わり方の重要性を理解した上で 適切な保育のポイントについて学ぶ。	生徒に0歳児と触れ合った経験や周囲で関わった経験があるか発問する。 産まれたばかりの乳児とはいえ、成長のスピードの早さは最も早く、人との関わりにおいても重要な時期であることを説明。 下記のグループに分かれ調べ学習をしていく。 ・応答的関わりとは ・適切な午睡環境とSIDSについて、またその対策 ・言語への関心を高めさせる手段と発語を促す方法 ・離乳食とアレルギーに関して	◎	○	○
2		1歳児の発達と保育のポイントについて 理解を深める	25～33	・1歳児の生理的、運動的発達について理解する。 ・1歳児の社会性や周囲との関わり方や起きやすいトラブルを理解し適切な保育のポイントについて学ぶ。	生徒に0歳児と1歳児の違いはどんな点があると思うか発問する。 歩行の確立や言語の修得、道具への関心が高まるなど著しく活動が増える時期であることを説明。 その際、事前にワークシートをMetaMoJiclassroomに準備しておく。 全体で確認が終わったらグループに分かれ共同学習を行う。下記のグループに分かれ調べ学習をしていく。 ・歩行の安定の為に取り入れる動きや注意すべき事項 ・描く活動について ・かみつきの事例とその対応 。トイレトレーニング	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	2,3歳児の発達と保育のポイントについて 理解を深める	36～53	・2,3歳児の生理的、運動的発達について理解する。 ・2,3歳児の自我の拡大から自我の充実へ繋げていく工夫や関わり方を理解し適切な保育のポイントについて学ぶ。	生徒に自身のこの頃の記憶があるか発問する。ある場合、何が好きだったか、どういう子どもだと言われていたか等やりとりをする。 遊びが盛んになったり自己主張が強くなったりする時期であるがそれが成長の証であることを説明。 その際、事前にワークシートをMetaMoJiclassroomに準備しておく。 全体で確認が終わったらグループに分かれ共同学習を行う。下記のグループに分かれ調べ学習をしていく。 ・自己主張への対応 ・好き嫌いへの対応と工夫 ・表現力や想像力の伸ばし方 ・ルールやマナーの伝え方や工夫	○	◎	○
4		4,5,6歳児の発達と保育のポイントについて 理解を深める	58～86	・4,5,6歳児の生理的、運動的発達について理解する。 ・4,5,6歳児の協調性の育ちと文字や数への関心をより高める工夫や関わり方を理解し適切な保育のポイントについて学ぶ。	生徒に自身のこの頃の記憶があるか発問する。ある場合、何が好きだったか、どういう子どもだと言われていたか等やりとりをする。 協調性が育ち、ルールのある遊びをしたり、文字や数などへの関心も高まる為、小学校への接続も重要になってくる時期であることを説明。 ・4歳児/5歳児/6歳児のルールのある遊びではどのようなものを取り入れるとよいか ・文字や数への関心を高める工夫や方法	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	乳児期の遊び 手先の動きや感触の発達、発想力を促す 遊びを実践する	30 39 40	・乳児期の発達に応じた遊びを理解し実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	乳児期の子どもたちが出来る遊びでどんなものがあるか、また各種の遊びが子どもたちのどのような体験、学びに繋がるか投げかけながら進めていく。 （感触遊び、絵を描く、作品作り、モビール等） 実際に各キャンパスで用意出来るもので体験する。 ・スライム製作遊び ・小麦粉粘土遊び ・シール貼り ・指スタンプ製作（絵具） ・モビール製作　等 ※今回はそのほんの一部を体感する課題となっており、専門学校等へ進学した際には保育者としての「遊ぶ」ことを「理論的な座学」と「技術の実践」ともに学んでいく科目もあることを伝えていくと課題に取り組む意義が理解しやすい。	○	○	◎
6		幼児期の教育 廃材を使った玩具について学び製作する	61	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	「玩具」はどのような点において子どもの育ちにつながると言えるか説明する。各種用途や知育玩具についても言及出来ると良い。 「幼児教育」は遊びを通して行われ、この遊びの1つとなる「製作」の指導として、子どもに向けた製作や子ども自身でも出来る課題を提示する。 ・「廃材」はどんなものがあるか答えさせる。 ・事前に選び準備をしていた廃材を使用して作成。手順を実際に作成したものを使用し、完成まで1工程ずつ画像をGoogleスライドに提出させ説明を簡潔に記入させる。 ・成した作品は持って帰るか校内展示しても良い。	○	○	◎

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	スイーツⅠA	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	ケーキに使用する材料や製法を知り、お菓子の基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	お菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。						
	実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4 10	・お菓子作りの道具 ・お菓子作りの下準備	12～27	・お菓子作りに使用する、道具の名称と使い方について理解する。 ・お菓子作りにおける、計量の重要性について理解する。 ・様々な計量の仕方について理解する。 ・オーブンの扱い方について理解する。 ・お菓子作りに使う型について理解する。	・実際に道具に触れる、計量してみるなどの体験を入れる。	◎		
2	4 10	・基本動作	30～41	・お菓子作りの基本動作である、「ふるう」「混ぜる」「泡立てる」「ぬる」「のばす」について理解する。	・体験が難しい場合には、動画などを準備し、視聴させることで理解を深める。 （classroomへの配布のみでも可）	◎		
3	5 10	・世界のお菓子 ・生地の種類	2～5 50～59	・普段何気なく食べているお菓子の発祥地を知る。 ・お菓子の土台となる、生地の種類について理解する。	・実際に体験を入れる。 ・体験が難しい場合には、動画などを準備し、視聴させることで理解を深める。 （classroomへの配布のみでも可） ・全体で発表できるよう、グループごとGoogleスライドを共同で編集し、発表スライドを作成する。	◎		
4	6 11	・牛乳・生クリーム ・ケーキのデコレーション	82～87 140～143	◆知識を身につける ・牛乳と生クリームの違いについて理解する。 ・生クリームの種類について理解する。 ・牛乳の効果について理解する。 ・ケーキのデコレーション方法について理解する。 ・クリームのぬり方について理解する。 ・クリームの絞り方について理解する。 ◆表現する 2.(6)の通り、お気に入りのデコレーションケーキについて考える ・個人ワーク・グループワーク・全体発表 ※全体で発表できるよう、グループごとGoogleスライドを共同で編集し、発表スライドを作成する。	・実際に体験を入れる。 ・体験が難しい場合には、動画などを準備し、視聴させることで理解を深める。 （classroomへの配布のみでも可） ・全体で発表できるよう、グループごとGoogleスライドを共同で編集し、発表スライドを作成する。	◎		○
5	6 11	実習1		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 ・実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。 ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ ◆課題 実習で学んだ内容をレポートにまとめる　※実習ができない場合には年間指導計画参照	実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。 課題1（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）		○	◎
6	6 11	実習2		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、ショートケーキの組み立て方について理解を深める。 ・実習を通して、クリームの塗り方について理解を深める。 ・実習を通して、クリームの絞り方について理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ・パウンドケーキ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る・パウンドケーキ ◆課題 実習で学んだ内容をレポートにまとめる　※実習ができない場合には年間指導計画参照	課題2　あなたは、オリジナルのハロウィンケーキを売り出すことになりました。沢山購入してもらうためにどのような工夫をしたら良いか、考えてまとめなさい。 ①ケーキのデザインを考えよう ②どのような特徴を持った商品を売るか考えよう ③価格設定と1ヶ月の売り上げ、その売上額を達成するためにどのような工夫をしていったら良いか考えよう ④商品のキャッチコピーを考えよう ⑤商品の紹介文を考えよう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）		◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	スイーツⅠB	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	焼き菓子に使用する材料や製法を知ると共に、ラッピングの方法についても学びます。						
学習の到達目標	焼き菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。						
	実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4 10	・型抜きクッキー生地 ・アイスボックスクッキー生地 ・絞り出しクッキー生地	71～73	・各種クッキー生地に必要な材料について理解する。 ・各種クッキー生地の作り方について理解する。	・メンチメーターを使用し、自分が知るクッキーについて入力し、共有しあう ・映像を交えて学習できるよう準備する。 ・体験が難しい場合には、動画などを準備し、視聴させることで理解を深める。 （classroomへの配布のみでも可）	◎		
2	4 10	・バター ・小麦粉 ・砂糖 ・卵	144～147 128～131 132～135 136～139	・バターの基本について理解する。 ・お菓子作りに使う油脂について理解する。 ・小麦粉の性質について理解する。 ・小麦粉の種類について理解する。 ・糊化についてい理解する。 ・グルテンについて理解する。 ・砂糖の種類について理解する。 ・砂糖の特徴について理解する。 ・卵の基本について理解する。	・実際の材料に触れながら学習する。 ・体験が難しい場合には、動画などを準備し、視聴させることで理解を深める。（classroomへの配布のみでも可）	◎		
3	5 10	砂糖	132～135	・砂糖の種類について理解する。 ・砂糖の特徴について理解する。 ・砂糖の効果について理解する。 ・砂糖の分量について理解する。 ・砂糖のはたらきについて理解する。 ・砂糖の吸湿性について理解する。	・各グループに分け、全体で発表できるよう共同編集で、Googleスライドを作成する。	◎		
4	6 11	ラッピング	118～127	・ラッピングの手法について理解する。 ・第4回レポート2.(6)の設問の通り、お気に入りのラッピングについて考える。 ・グループ発表　※Googleスライドを使用し、共同で作成 ・全体発表	・各グループに分け、全体で発表できるよう共同編集で、Googleスライドを作成する。	○		◎
5	6 11	実習１	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、ラッピングの理解をさらに深める。 ・アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 レポートには実習の内容をまとめる。 ※実習ができない場合には、年間シラバスの課題参照	※実習が難しい場合には、レポート5・6枚目の解答一覧に記載されている、課題例2～4の内容についての授業でも可。あくまでも例題なので、独自で設定しても良い。 【レポート】 課題１（実習の際はこの課題を使用）本時の実習内容についてまとめなさい。 ①必要な材料、物品等を書き出そう ②作り方のポイントをまとめましょう ③（実習後）良かった点をまとめましょう ④反省点と改善策をまとめましょう ⑤感想を記入しましょう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）		○	◎
6	6 11	実習2	－	◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、焼き菓子の作り方への理解をさらに深める。 ・実習を通して、バター,小麦粉,砂糖,卵の性質についての理解をさらに深める。 【実習の内容（案）】 ・クッキー・カップケーキ・マドレーヌ ・フィナンシェ・ブラウニー ※実習室がS校ではない場合※ ・クッキー・カップケーキ・ラッピング レポートには実習の内容をまとめる。 ※実習ができない場合には、年間シラバスの課題参照	課題2　あなたは、オリジナルの焼き菓子を売り出すことになりました。沢山購入してもらうためにどのような工夫をしたら良いか、考えてまとめなさい。 ①焼き菓子と入れ物のデザインを考えよう ②どのような特徴を持った商品を売るか考えよう ③価格設定と1ヶ月の売り上げ、その売上額を達成するためにどのような工夫をしていったら良いか考えよう ④商品のキャッチコピーを考えよう ⑤商品の紹介文を考えよう（太線まで記入が出来ていなかったら-10点）		◎	○

備　考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究①	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	探究学習のプロセスや手法を理解する。						
	簡単な探究に取り組み、主に情報収集とまとめ・表現を体験する。						
使用教科書・副教材等	リクルート「興味研究型　探究講座」「課題発見型　探究講座」						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	・「自分らしい問い」の意義 ・「問いをつくる」体験をする ・「自分らしい問い」の見つけ方	－	・「自分らしい問い」をもつことが、生きていく上や、仕事する上で、楽しさややりがいに繋がることを学び、理解する。 ・事例から「問いをつくる」体験をし、問いをつくる考え方のヒントを学び、理解する。 ・「自分らしい問い」は、自分が好きなものから考えることもできるということを、事例をもとに学び、理解する。 ・「自分らしい問い」を実際につくり、他者と共有することで、様々な視点から考えられるということに、気づき、学習する。	・レポート内の個人の意見を記載するパートの際は、机間指導を行い、つまずいている生徒に対しては、「驚いたことはあった？」「普段考えていないことを良く考えてみたとき、少しでも疑問に思うことは何か？」など、問いに対して考えやすくなるような声掛けを行うと良い。 ・終わっている生徒に対しては、考えを深めさせるように、「さらにもう１つ考えてみよう」などの声掛けを行うと良い。	◎	○	○
2	－	・「課題を発見する力」について ・「課題を発見する」体験をする ・探究活動について理解する	－	・「課題」とは何かを学び、理解する。 ・「課題を発見する」体験をし、課題を発見する考え方のヒントを学び、理解する。 ・これからの社会を生きていく上で「課題を発見する力」の重要性を学び、理解する。 ・様々な視点で物事を考えることや、多くの体験や経験が。、全て課題の発見に繋がっているということ理解する。 ・「『課題』を動かす＝探究」であり、探究活動（探究サイクル）のポイントを理解する。	・レポート内の個人の意見を記載するパートの際は、机間指導を行い、つまずいている生徒に対しては「今は何が分からなくて止まっている？」や、「今は情報収集までできたから、次は情報を時系列に並び変えてみよう」など、自ら課題を進められるようになるような声掛けを行うと良い。 ・終わっている生徒に対しては、「他にも考えられることはないか？」や、「まとめを見返して、もう少し深く情報を収集できる箇所を見つけて取り組んでみよう」などと、考えを深めさせる声掛けを行うと良い。	◎	○	○
3	－	簡単な探究の実践	－	・1・2コマ目で学習したことを踏まえて簡単な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・主に情報収集とまとめ・表現を体験し、調べたことを自分なりに整理し、アウトプットする力を身につける。 ・参考文献の書き方など、情報を収集する際のスキルを身につける。	随時机間指導を行い、生徒の様子を把握しながら声掛けを行うと良い。	○	○	◎
4	－					○	○	◎

備　考	・3・4コマ目の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究②	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学びます。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学びます。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	課題を見つける視点を持つ。						
	他者との共有に挑戦する。						
使用教科書・副教材等	飛鳥未来・飛鳥未来きずな・飛鳥未来きぼう高等学校 オリジナル教材						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	・オリエンテーション ・探究課題の設定	－	・総合探究②の特徴や授業の進め方、受講のルールについて理解する。 ・探究課題を見つけるためのポイントや考え方を学び、探究課題を考える。 ・与えられたテーマに基づき、探究課題を設定した理由について考え、自分の言葉で表現する。	個人で課題設定ができるように、全体指導と合わせて、つまずきそうな生徒に対しては、机間指導中に、「自分の興味があることや、疑問に思ったことはなにか？」、「仮にどんな姿が理想と考えるのか」、「考えてみたいことは何か」など教員から個別に声をかける。	◎	◎	○
2	－	・探究課題の共有 ・情報収集	－	・情報収集の目的や手段、ポイントについて学び、理解する。 ・設定した探究課題に基づき、ポイントを押さえながら情報収集を実践する。	ICTや本などを活用し、正確な情報収集を行うことができるように促す。情報収集の方法は１つではないということをしっかりと理解させる。	◎	○	◎
3	－	・情報収集結果の共有 ・整理・分析	－	・整理・分析の方法や、ポイントについて学び、理解する。 ・収集した情報を整理・分析し、そこから自分なりの考察を導き出す。	・つまずいている生徒に対しては、「時系列ごとにまとめてみよう」や、「同じような内容は１つにまとめよう」などの声掛けを行い、情報の整理方法について具体的に示す。 ・今後探究活動や進路活動において情報収集を行う際も、生徒が自分の力で効果的に整理できるようにする。	◎	◎	○
4	－	・これまでの成果の共有 ・探究のまとめ ・発表	－	・様々なまとめ方や表現方法について学び、理解する。 ・発表の素案をつくり、探究活動のまとめを行う。 ・探究活動全体を通しての学びや変化を振り返り、今後探究したい新たな問いや課題を見出す。 ・実際に発表の準備を行い、お互いに発表し合い、他者からのフィードバックを受け、新たな気づきを得る。	仮に今回の発表方法の指定があったとしても、様々な発表方法があるということを学ばせ、理解させる。できるだけ多くの生徒の発表を見聞きさせ、気づきを与えられるよう、時間配分や発表環境に配慮する。	◎	○	◎

備　考	・探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。

《通信教育実施計画》

科目名	総合探究③	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月　後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月　後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬　後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組む。						
	主体的に探究のプロセスを実践する。						
	探究の最後にプレゼンテーションに挑戦する。						
使用教科書・副教材等	各種提携プログラム もしくは 各校オリジナルプログラム より選択						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

レポート該当回	レポート提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	備考	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	・探究の意義について ・プログラムゴールの理解 ・テーマ理解 ・探究課題検討（個人で実施） ・アイスブレイク	－	・探究の意義について改めて理解する。 ・使用するプログラムのゴールについて理解する。 ・扱うテーマに関する知識や基本的な情報をインプットし、探究するにあたって理解を深める。 ・グループの活動に入る前に、個人での探究課題を検討する。 ・グループでの探究活動に向け、グループを編成し、アイスブレイクを実施してグループでの探究がしやすい雰囲気づくりをする。	・これまでの総合探究の振り返りを行う。 ・アイスブレイクの際は、時間配分を意識し、話しやすい雰囲気づくりを意識する。 ・探究の課題を設定する際、扱う大テーマに関して理解を深めた上で、まずは、個人が興味や関心、疑問に思ったことを言語化し、課題の検討をする。	◎	○	
2	－	・個人で検討した探究課題の共有 ・グループの探究課題設定 ・情報収集準備 ・情報収集	－	・個人で検討した探究課題を共有し、グループでの探究課題を設定する。 ・探究するために不足している情報や必要な情報をグループで洗い出し、情報収集の準備をする（インタビュー準備含む）。 ・適宜グループ内で共有しながら情報収集を行い、探究に必要な情報を蓄積する。	ICTや本などを活用し、正確な情報収取を行えるように注意する。	○	○	◎
3	－	・インタビューの動機づけ ・インタビュー	－	・インタビューを実施する意義について学び、理解する。 ・テーマ関係者に実際にインタビューを実施し、さらに深い情報を収集する。	・ICTを活用しインタビューを行う際は、MetaMojiの付箋機能を活用し得た情報のグループ分けを行ったり、Canvaのホワイトボード機能を活用し、同時に同シートにメモを行ったりしながら、グループで役割を決め、インタビュー内容のメモをしっかり残せるようにする。 ・インタビューの終わりには、相手へ感謝の気持ちしっかり伝える。	○	○	◎
4	－	・情報の整理・分析・まとめ ・考察や提案の検討 ・グループ発表 ・探究活動全体のまとめ	－	・情報収集やインタビューで得た情報を元に、グループで整理・分析を実施し、考察や提案を検討する準備をする。 ・整理・分析した情報を元にグループなりの考察・提案を検討する。 ・設定した探究課題・得られた情報・情報からの考察や結論（解決策や提案）を簡潔にグループごとに発表をする。 ・お互いのグループの発表を聞き、感じたことや学んだことを記する。 ・適宜フィードバックや質疑応答等を実施し、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究活動の各フェーズにおいて重要だと感じたことや意識したこと、活動全体を通して学んだことや感じたことについて、自分の言葉でアウトプットする。 ・改めて探究活動の意義を理解する。	正解のない問いに対して取り組む楽しさを感じられるような声掛けでまとめを行う。	○	○	◎

備　考	・探究プログラムの選択は各キャンパスにて行う（選択するプログラムによってレポートの形式が異なるため、選択したプログラムに即したレポートに取り組む）。